

令和4年度
授業概要
(シラバス)

美術学部 美術表現学科



東北生活文化大学

シラバス使用の手引き

シラバスは本年度開講されている科目の授業内容や年間授業計画などを、担当者ごとに説明しているものです。履修登録する科目を決める際や、受講に際しての準備や確認のために役立ててください。

【記載例】

① 科目名	⑦ 【科目ナンバリング】
② 単位（総授業時間＋自習時間）：	
③ 対象学科：	
④ 授業形態：	学期： 必・選：
⑤ 履修科目：	
⑥ 担当者：	
◆ 授業の概要 ◆ 授業の到達目票 ◆ 学位授与の方針との関連 ◆ 授業計画の内容 ◆ 自習（事前・事後学修の内容） ◆ 履修上の注意 ◆ 成績評価方法・基準 ◆ 教科書 ◆ 参考書 ◆ 備考	

【科目情報の見かた】

- ① 科目名：授業科目名を記載しています。
- ② 単位（総授業時間＋自習時間）：単位数，授業で学ぶ時間数と授業外で自習が求められる時間数を記載しています。

※大学設置基準第 21 条に「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とあります。

形態	単位数	標準 学修時間	授業回数	1コマ当たりの 授業時間	総授業 時間	自習時間
演習	1 単位	45 時間	15 回	2 時間	30 時間	15 時間（授業 1 回あたり 1 時間）
講義	2 単位	90 時間	15 回	2 時間	30 時間	60 時間（授業 1 回あたり 4 時間）
実験・ 実習	1 単位	45 時間	15 回	3 時間	45 時間	教員の設定する時間

- ③ 対象学科：対象の学科・専攻，学年を記載しています。
- ④ 授業形態／学期／必・選：授業科目の形態を演習，講義，実験，実習，実技，集中で区分／授業科目の開講期間を前期，後期，通年で区分／必修科目，選択科目で区分し記載しています。
- ⑤ 履修科目：大学共通教養科目，基幹科目，学科専攻科目，教職に関する科目，博物館に関する科目で区分し記載しています。

⑥ 担当者：科目担当者の氏名を記載しています。

⑦ 科目ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。

大分類 中分類 小分類 科目番号 レベル 学年

A — 1 — a — 01 — 1 — 1

大分類：学科・専攻の区分

A・・・服飾文化専攻
B・・・健康栄養学専攻
D・・・美術表現学科
K・・・大学共通

中分類：科目の区分

1・・・大学共通教養科目
2・・・基幹科目
3・・・学科専攻科目
4・・・教職に関する科目
5・・・博物館に関する科目

小分類：科目群

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 ※学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習（事前・事後学習）	事前：授業時間外の予習について記載しています。 事後：授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修した方がよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3を超えて欠席した場合は、その時点で不合格となりますので注意してください。
教科書および参考書	授業で使用するため、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合、記載しています。

学位授与の方針との関連

美術学部美術表現学科

<知識・理解>

1. 基本的な知識・学習能力を身につけること。
2. 美術の基本的な体系を理解すること。
3. 美術，工芸，デザイン，メディア芸術（マンガ・イラスト・アニメ・ゲーム）分野において，それぞれの専門知識と技能を身につけ，その知識や技能体系を，産業，文化，自然に関連付けて理解できること。

<汎用的技能>

4. 美術，工芸，デザイン，メディア芸術分野，製造，教育，行政に関する職業や創造及び地域貢献活動において，社会の問題に柔軟に対応することができる。
5. 地域社会の問題を解決するコミュニケーション能力・論理的思考力・創造力・表現力を身につける。

<態度・志向性>

6. 自律的・主体的に他と協働して地域社会の一員としての責任を果たすことができる。
7. 持続的な文化創造に寄与することができる意欲と倫理観・生涯学習力を身につける。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・技能・態度及び「地域創生演習」「卒業研究」等によって培った創造的思考力を総合的に活用することができる。
9. 自らが立てた新たな課題に，創造的思考力を適用し，主体的に解決する能力を身につける。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈美術学部美術表現学科〉

科目名	担当者	科目名	担当者
人形Ⅰ	福田 一実	卒業研究Ⅰ	山口 綾子
人形Ⅱ	福田 一実	卒業研究Ⅱ	山口 綾子
人形Ⅲ	福田 一実	マンガ・イラストⅠ	安孫子 三和
人形Ⅳ	福田 一実	マンガ・イラストⅡ	安孫子 三和
卒業研究Ⅰ	福田 一実	マンガ・イラストⅢ	安孫子 三和
卒業研究Ⅱ	福田 一実	マンガ・イラストⅣ	安孫子 三和
工芸基礎Ⅰ (プロダクト制作を含む。)	長谷部 嘉勝	製図Ⅰ	湯目 俊彦
工芸基礎Ⅱ	長谷部 嘉勝	製図Ⅱ	湯目 俊彦
漆芸Ⅰ	長谷部 嘉勝	図学Ⅰ	湯目 俊彦
漆芸Ⅱ	長谷部 嘉勝	図学Ⅱ	湯目 俊彦
漆芸Ⅲ	長谷部 嘉勝	インテリアデザインⅠ	湯目 俊彦
漆芸Ⅳ	長谷部 嘉勝	インテリアデザインⅡ	湯目 俊彦
卒業研究Ⅰ	長谷部 嘉勝	美術特別講義Ⅲ	横川 耕二
卒業研究Ⅱ	長谷部 嘉勝	美術特別講義Ⅳ	森岡 淳
工芸基礎Ⅰ (プロダクト制作を含む。)	山口 綾子	美術特別講義Ⅴ	三浦 誠
工芸基礎Ⅱ	山口 綾子	地域創生演習Ⅲ	三浦 忠士
ガラスアートⅠ	山口 綾子	地域創生演習Ⅳ	三浦 忠士
ガラスアートⅡ	山口 綾子	地域創生演習Ⅴ	三浦 忠士
ガラスアートⅢ	山口 綾子	地域創生演習Ⅵ	三浦 忠士
ガラスアートⅣ	山口 綾子	写真Ⅰ	飯沢 耕太郎
		写真Ⅱ	飯沢 耕太郎

2022年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	美表1	菅 野 修 一	講義	1	2	12001
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	美表1	堀 江 佐知子	講義	1	2	12002
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	美表3	堀 江 佐知子	講義	3	2	12003
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	美表2	庄 司 一 平	講義	2	2	12004
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	美表1	栗 原 伸一郎	講義	1	2	12005
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	美表1	栗 原 伸一郎	講義	1	2	12006
K-1-b-06-1	日本国憲法 必修	前期	美表2	横 田 尚 昌	講義	2	2	12007
K-1-b-07-2	法学概説	後期	美表1	横 田 尚 昌	講義	1	2	12008
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	美表1	徳 田 幸 雄	講義	1	2	12009
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	美表1	徳 田 幸 雄	講義	1	2	12010
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	美表2	植 松 公 威	講義	2	2	12011
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	美表2	植 松 公 威	講義	2	2	12012
K-1-c-06-1	生活文化論	前期	美表1	今 林 直 樹	講義	1	2	12013
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	美表1	上之原 博 子	演習	1	1	12014
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	美表1	村 山 茂	演習	1	1	12015
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	美表1	村 山 茂	演習	1	1	12016
K-1-d-07-1	中国語	前期	美表1	清 水 浩一郎	演習	1	1	12017
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	美表1	菅 原 秀	講義	1	2	12018
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	美表1	菅 原 秀	講義	1	2	12019
K-1-d-10-1	情報基礎学	後期	美表2	松 尾 広	講義	2	2	12020
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	美表1	松 尾 広	講義	1	2	12032
K-1-e-01-1	スポーツ	通年	美表1	池 田 信 文	実技	1	2	12021
				酒 井 正 彦				
K-1-e-02-1	武道	前期	美表3・美表2	佐 藤 淳 一	演習	3・2	1	12022
K-1-f-01-1	スタディスキルズ 必修	前期	美表1	鈴 木 専	演習	1	1	12023
				鶴 巻 史 子				
				教職員				
K-1-f-02-2	ライフデザイン 必修	後期	美表1	佐々木 晃	演習	1	1	12024
D-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	美表2	瀬 戸 典 彦	演習	2	1	12025
				鈴 木 専				
D-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	通年	美表3	瀬 戸 典 彦	演習	3	1	12031
				鈴 木 専				
D-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	美表3	行 貞 公 博	演習	3	1	12026
D-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	美表3	森 岡 淳	演習	3	1	12027
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	美表3	瀬 戸 典 彦	演習	3	1	12028
				教職員				
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	美表4	瀬 戸 典 彦	演習	4	1	12030
				教職員				

2022年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-a-01-1-1	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。） 必修	前期	美表1	北 折 整	実技	1	2	12101
				鈴 木 専				
				伊 勢 周 平				
D-3-a-02-1-1	絵画基礎Ⅱ	後期	美表1	北 折 整	実技	1	2	12102
				伊 勢 周 平				
D-3-a-03-1-1	彫刻基礎Ⅰ 必修	前期	美表1	佐 藤 淳 一	実技	1	2	12103
D-3-a-04-1-1	彫刻基礎Ⅱ	後期	美表1	佐 藤 淳 一	実技	1	2	12104
D-3-a-05-1-1	工芸基礎Ⅰ（プロダクト制作を含む。） 必修	前期	美表1	立 花 布美子	実技	1	2	12105
				佐々木 輝 子				
				山 口 綾 子				
				長谷部 嘉 勝				
D-3-a-06-1-1	工芸基礎Ⅱ	後期	美表1	立 花 布美子	実技	1	2	12106
D-3-a-06-1-1	工芸基礎Ⅱ	後期	美表1	佐々木 輝 子	実技	1	2	12107
D-3-a-06-1-1	工芸基礎Ⅱ	後期	美表1	山 口 綾 子	実技	1	2	12108
D-3-a-06-1-1	工芸基礎Ⅱ	後期	美表1	長谷部 嘉 勝	実技	1	2	12245
D-3-a-07-1-1	デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。） 必修	前期	美表1	三 上 秀 夫	実技	1	2	12109
				落 合 里 麻				
				伊 勢 周 平				
D-3-a-08-1-1	デザイン基礎Ⅱ	後期	美表1	三 上 秀 夫	実技	1	2	12110
				落 合 里 麻				
D-3-a-09-1-1	メディア芸術基礎Ⅰ 必修	前期	美表1	鈴 木 専	実技	1	2	12111
				鶴 巻 史 子				
D-3-a-10-1-1	メディア芸術基礎Ⅱ	後期	美表1	鈴 木 専	実技	1	2	12112
				鶴 巻 史 子				
D-3-b-01-2-2	洋画Ⅰ	前期	美表2	北 折 整	実技	2	2	12113
D-3-b-02-2-2	洋画Ⅱ	後期	美表2	北 折 整	実技	2	2	12114
D-3-b-03-3-3	洋画Ⅲ	前期	美表3	北 折 整	実技	3	2	12115
D-3-b-04-4-3	洋画Ⅳ	後期	美表3	北 折 整	実技	3	2	12116
D-3-b-05-2-2	日本画Ⅰ	前期	美表2	安 住 英 之	実技	2	2	12117
D-3-b-06-2-2	日本画Ⅱ	後期	美表2	安 住 英 之	実技	2	2	12118
D-3-b-07-3-3	日本画Ⅲ	前期	美表3	安 住 英 之	実技	3	2	12119
D-3-b-08-4-3	日本画Ⅳ	後期	美表3	安 住 英 之	実技	3	2	12120
D-3-b-09-2-2	版画Ⅰ	前期	美表2	伊 勢 周 平	実技	2	2	12121
D-3-b-10-2-2	版画Ⅱ	後期	美表2	伊 勢 周 平	実技	2	2	12122
D-3-b-11-3-3	版画Ⅲ	前期	美表3	大 堀 恵 子	実技	3	2	12123
D-3-b-12-4-3	版画Ⅳ	後期	美表3	大 堀 恵 子	実技	3	2	12124
D-3-b-13-2-2	壁画Ⅰ	前期	美表2	森 敏 美	実技	2	2	12125
D-3-b-14-2-2	壁画Ⅱ	後期	美表2	森 敏 美	実技	2	2	12126
D-3-b-15-3-3	壁画Ⅲ	前期	美表3	森 敏 美	実技	3	2	12127
D-3-b-16-4-3	壁画Ⅳ	後期	美表3	森 敏 美	実技	3	2	12128
D-3-b-17-2-2	彫刻Ⅰ	前期	美表2	佐 藤 淳 一	実技	2	2	12129
D-3-b-18-2-2	彫刻Ⅱ	後期	美表2	佐 藤 淳 一	実技	2	2	12130
D-3-b-19-3-3	彫刻Ⅲ	前期	美表3	佐 藤 淳 一	実技	3	2	12131
D-3-b-20-4-3	彫刻Ⅳ	後期	美表3	佐 藤 淳 一	実技	3	2	12132
D-3-b-21-1-2	人形Ⅰ	前期	美表2	福 田 一 実	実技	2	2	12133
D-3-b-22-2-2	人形Ⅱ	後期	美表2	福 田 一 実	実技	2	2	12134
D-3-b-23-3-3	人形Ⅲ	前期	美表3	福 田 一 実	実技	3	2	12135
D-3-b-24-4-3	人形Ⅳ	後期	美表3	福 田 一 実	実技	3	2	12136
D-3-c-01-2-2	陶芸Ⅰ	前期	美表2	立 花 布美子	実技	2	2	12137
D-3-c-02-2-2	陶芸Ⅱ	後期	美表2	立 花 布美子	実技	2	2	12138

2022年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専攻科目

ナンバリング*	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-c-03-3-3	陶芸Ⅲ	前期	美表3	立 花 布美子	実技	3	2	12139
D-3-c-04-4-3	陶芸Ⅳ	後期	美表3	立 花 布美子	実技	3	2	12140
D-3-c-05-2-2	漆芸Ⅰ	前期	美表2	長谷部 嘉 勝	実技	2	2	12141
D-3-c-06-2-2	漆芸Ⅱ	後期	美表2	長谷部 嘉 勝	実技	2	2	12142
D-3-c-07-3-3	漆芸Ⅲ	前期	美表3	長谷部 嘉 勝	実技	3	2	12143
D-3-c-08-4-3	漆芸Ⅳ	後期	美表3	長谷部 嘉 勝	実技	3	2	12144
D-3-c-09-2-2	染織Ⅰ	前期	美表2	佐々木 輝 子	実技	2	2	12145
D-3-c-10-2-2	染織Ⅱ	後期	美表2	佐々木 輝 子	実技	2	2	12146
D-3-c-11-3-3	染織Ⅲ	前期	美表3	佐々木 輝 子	実技	3	2	12147
D-3-c-12-4-3	染織Ⅳ	後期	美表3	佐々木 輝 子	実技	3	2	12148
D-3-c-13-2-2	ガラスアートⅠ	前期	美表2	山 口 綾 子	実技	2	2	12149
D-3-c-14-2-2	ガラスアートⅡ	後期	美表2	山 口 綾 子	実技	2	2	12150
D-3-c-15-3-3	ガラスアートⅢ	前期	美表3	山 口 綾 子	実技	3	2	12151
D-3-c-16-4-3	ガラスアートⅣ	後期	美表3	山 口 綾 子	実技	3	2	12152
D-3-d-01-2-2	視覚デザインⅠ	前期	美表2	三 上 秀 夫	実技	2	2	12153
D-3-d-02-2-2	視覚デザインⅡ	後期	美表2	三 上 秀 夫	実技	2	2	12154
D-3-d-03-3-3	視覚デザインⅢ	前期	美表3	三 上 秀 夫	実技	3	2	12155
D-3-d-04-4-3	視覚デザインⅣ	後期	美表3	三 上 秀 夫	実技	3	2	12156
D-3-d-05-2-2	情報デザインⅠ	前期	美表2	鶴 巻 史 子	実技	2	2	12157
D-3-d-06-2-2	情報デザインⅡ	後期	美表2	鶴 巻 史 子	実技	2	2	12158
D-3-d-07-3-3	情報デザインⅢ	前期	美表3	鶴 巻 史 子	実技	3	2	12159
D-3-d-08-4-3	情報デザインⅣ	後期	美表3	鶴 巻 史 子	実技	3	2	12160
D-3-d-09-2-2	プロダクトデザインⅠ	前期	美表2	落 合 里 麻	実技	2	2	12161
D-3-d-10-2-2	プロダクトデザインⅡ	後期	美表2	落 合 里 麻	実技	2	2	12162
D-3-d-11-3-3	プロダクトデザインⅢ	前期	美表3	落 合 里 麻	実技	3	2	12163
D-3-d-12-4-3	プロダクトデザインⅣ	後期	美表3	落 合 里 麻	実技	3	2	12164
D-3-e-01-2-2	マンガ・イラストⅠ	前期	美表2	鹿 野 明 子	実技	2	2	12165
				安孫子 三 和				
D-3-e-02-2-2	マンガ・イラストⅡ	後期	美表2	鹿 野 明 子	実技	2	2	12166
				安孫子 三 和				
D-3-e-03-3-3	マンガ・イラストⅢ	前期	美表3	鹿 野 明 子	実技	3	2	12167
				安孫子 三 和				
D-3-e-04-4-3	マンガ・イラストⅣ	後期	美表3	鹿 野 明 子	実技	3	2	12168
				安孫子 三 和				
D-3-e-05-2-2	アニメ・ゲームⅠ	前期	美表2	鈴 木 専	実技	2	2	12169
				伊 勢 周 平				
D-3-e-06-2-2	アニメ・ゲームⅡ	後期	美表2	鈴 木 専	実技	2	2	12170
				伊 勢 周 平				
D-3-e-07-3-3	アニメ・ゲームⅢ	前期	美表3	鈴 木 専	実技	3	2	12171
				伊 勢 周 平				
D-3-e-08-4-3	アニメ・ゲームⅣ	後期	美表3	鈴 木 専	実技	3	2	12172
				伊 勢 周 平				
D-3-f-01-1-1	色彩学	前期	美表1	鹿 野 明 子	講義	1	2	12173
D-3-f-02-1-1	美術史Ⅰ	前期	美表1	瀬 戸 典 彦	講義	1	2	12174
D-3-f-03-2-1	美術史Ⅱ	後期	美表1	瀬 戸 典 彦	講義	1	2	12175
D-3-f-04-1-2	デザイン概論	後期	美表2	三 上 秀 夫	講義	2	2	12176
D-3-f-05-1-2	美学Ⅰ	前期	美表2	森 田 優 子	講義	2	2	12177
D-3-f-06-2-2	美学Ⅱ	後期	美表2	森 田 優 子	講義	2	2	12178
D-3-f-07-1-2	美術鑑賞Ⅰ	後期	美表2	瀬 戸 典 彦	講義	2	2	12179
D-3-f-08-2-4	美術鑑賞Ⅱ	通年	美表4	瀬 戸 典 彦	講義	4	4	12180

2022年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専攻科目								
ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-f-09-2-3	メディア芸術論 必修	前期	美表3	伊 勢 周 平	講義	3	2	12181
D-3-f-10-2-3	地域工芸論 必修	後期	美表3	今 林 直 樹	講義	3	2	12182
D-3-f-11-1-2	論文演習Ⅰ	前期	美表2	瀬 戸 典 彦	演習	2	1	12183
D-3-f-12-2-2	論文演習Ⅱ	後期	美表2	瀬 戸 典 彦	演習	2	1	12184
D-3-f-13-3-3	論文演習Ⅲ	前期	美表3	瀬 戸 典 彦	演習	3	1	12185
D-3-f-14-4-3	論文演習Ⅳ	後期	美表3	瀬 戸 典 彦	演習	3	1	12186
D-3-g-01-1-2	製図Ⅰ	前期	美表2	湯 目 俊 彦	演習	2	1	12187
D-3-g-02-1-2	製図Ⅱ	後期	美表2	湯 目 俊 彦	演習	2	1	12188
D-3-g-03-2-3	図学Ⅰ	前期	美表3	湯 目 俊 彦	演習	3	1	12189
D-3-g-04-2-3	図学Ⅱ	後期	美表3	湯 目 俊 彦	演習	3	1	12190
D-3-g-05-1-4	インテリアデザインⅠ	前期	美表4	湯 目 俊 彦	演習	4	1	12191
D-3-g-06-1-4	インテリアデザインⅡ	後期	美表4	湯 目 俊 彦	演習	4	1	12192
D-3-g-07-1-4	写真Ⅰ	前期	美表4	飯 沢 耕太郎	演習	4	1	12193
D-3-g-08-1-4	写真Ⅱ	後期	美表4	飯 沢 耕太郎	演習	4	1	12194
D-3-g-09-1-1	美術特別講義Ⅰ	前期	美表1	鈴 木 専	講義	1	1	12195
				鶴 巻 史 子				
D-3-g-09-1-2	美術特別講義Ⅰ	前期	美表2	立 花 布美子	講義	2	1	12196
				落 合 里 麻				
D-3-g-09-1-3	美術特別講義Ⅰ	前期	美表3	瀬 戸 典 彦	講義	3	1	12197
				伊 勢 周 平				
D-3-g-10-1-1	美術特別講義Ⅱ	前期	美表1	伊 藤 恵 夫	講義	1	1	12198
D-3-g-11-1-2	美術特別講義Ⅲ	前期	美表2	横 川 耕 二	講義	2	1	12199
D-3-g-11-1-2	美術特別講義Ⅲ	前期	美表2	森 岡 淳	講義	2	1	12200
D-3-g-12-1-2	美術特別講義Ⅳ	後期	美表2	小野寺 良 枝	講義	2	1	12203
D-3-g-12-1-2	美術特別講義Ⅳ	後期	美表2	佐 藤 一 郎	講義	2	1	12204
D-3-g-12-1-2	美術特別講義Ⅳ	後期	美表2	行 貞 公 博	講義	2	1	12252
D-3-g-13-1-4	美術特別講義Ⅴ	前期	美表4	三 浦 誠	講義	4	1	12205
D-3-g-14-1-4	美術特別講義Ⅵ	後期	美表4	中 村 真	講義	4	1	12206
D-3-g-15-1-3	美術教諭試験対策講座Ⅰ	後期	美表3	佐々木 晃	講義	3	2	12207
D-3-g-16-2-4	美術教諭試験対策講座Ⅱ	前期	美表4	佐々木 晃	講義	4	2	12208
D-3-h-01-1-1	地域創生演習Ⅰ 必修	前期	美表1	伊 勢 周 平	演習	1	1	12209
D-3-h-02-1-1	地域創生演習Ⅱ 必修	後期	美表1	伊 勢 周 平	演習	1	1	12210
D-3-h-03-2-2	地域創生演習Ⅲ	前期	美表2	三 浦 忠 士	演習	2	1	12211
D-3-h-04-2-2	地域創生演習Ⅳ	後期	美表2	三 浦 忠 士	演習	2	1	12212
D-3-h-05-3-3	地域創生演習Ⅴ	前期	美表3	三 浦 忠 士	演習	3	1	12213
D-3-h-06-3-3	地域創生演習Ⅵ	後期	美表3	三 浦 忠 士	演習	3	1	12214
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	北 折 整	演習	4	6	12215
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	佐 藤 淳 一	演習	4	6	12216
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	三 上 秀 夫	演習	4	6	12218
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	鶴 巻 史 子	演習	4	6	12246
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	鈴 木 専	演習	4	6	12247
				伊 勢 周 平				
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	大 堀 恵 子	演習	4	6	12221
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	佐々木 輝 子	演習	4	6	12222
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	立 花 布美子	演習	4	6	12223
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	落 合 里 麻	演習	4	6	12224
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	長谷部 嘉 勝	演習	4	6	12248
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	山 口 綾 子	演習	4	6	12227
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	福 田 一 実	演習	4	6	12228
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	鹿 野 明 子	演習	4	6	12229

2022年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	北 折 整	演習	4	6	12230
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	佐 藤 淳 一	演習	4	6	12231
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	三 上 秀 夫	演習	4	6	12233
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	鶴 巻 史 子	演習	4	6	12249
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	鈴 木 専	演習	4	6	12250
				伊 勢 周 平				
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	大 堀 恵 子	演習	4	6	12236
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	佐々木 輝 子	演習	4	6	12237
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	立 花 布美子	演習	4	6	12238
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	落 合 里 麻	演習	4	6	12239
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	長谷部 嘉 勝	演習	4	6	12251
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	山 口 綾 子	演習	4	6	12242
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	福 田 一 実	演習	4	6	12243
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	鹿 野 明 子	演習	4	6	12244

2022年度 シラバス科目情報一覧

教職に関する科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
K-4-a-01-2	教育原理	前期	服専2・健専2・美表2	山 沢 智 樹	講義	2	2	19801
K-4-a-02-1	教職概論	後期	服専1・健専1・美表1	大 迫 章 史	講義	1	2	19802
K-4-a-03-3	教育制度論	後期	服専3・健専3・美表3	宮 澤 孝 子	講義	3	2	19803
K-4-a-04-2	教育心理学	前期	服専2・健専2・美表2	宮 前 理	講義	2	2	19804
K-4-a-05-2	特別支援教育	後期	服専3・健専3・美表3	三 浦 主 博	講義	3	1	19805
K-4-a-06-2	教育課程論	後期	服専2・健専2・美表2	中 島 夏 子	講義	2	2	19806
				山 沢 智 樹				
K-4-b-01-2	道德教育の指導法	前期	服専3・健専3・美表3	後 藤 篤	講義	3	2	19807
K-4-b-02-2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	前期	服専2・健専2・美表2	須 藤 由 子	講義	2	2	19808
K-4-b-03-3	教育方法論	後期	服専2・健専2・美表2	清 水 禎 文	講義	2	2	19809
				松 尾 広				
K-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法A（進路指導の理論及び方法を含む。）	後期	服専3・健専3・美表3	福 島 朋 子	講義	3	2	19810
				佐々木 晃				
K-4-b-05-2	教育相談	後期	服専3・健専3・美表3	宮 前 理	講義	3	2	19811
K-4-c-03-5	教職実践演習（中・高）	後期	服専4・健専4・美表4	宮 前 理	講義	4	2	19812
				山 沢 智 樹				
B-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健専3	福 島 朋 子	講義	3	2	19813
				佐々木 晃				
B-4-c-03-5	教職実践演習（栄養教諭）	後期	健専4	宮 前 理	講義	4	2	19814
				山 沢 智 樹				
A-4-d-01-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	服専3・健専3	佐 藤 郷 美	講義	3	4	19815
A-4-d-02-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	服専4・健専4	石 川 り か	講義	4	4	19816
D-4-d-01-3	美術科教育法Ⅰ	通年	美表3	横 山 美喜子	講義	3	4	19817
D-4-d-02-4	美術科教育法Ⅱ	通年	美表4	横 山 美喜子	講義	4	4	19818
D-4-d-03-3	工芸科教育法	通年	美表3	瀬 戸 典 彦	講義	3	4	19819

2022年度 シラバス科目情報一覧

博物館に関する科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服専1・美表1	伊 藤 優	講義	1	2	19901
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服専1・美表1	伊 藤 優	講義	1	2	19902
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服専3・美表3	笠 原 信 男	講義	3	2	19903
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服専2・美表2	菊 地 逸 夫	講義	2	2	19904
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服専2・美表2	及 川 規	講義	2	2	19905
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服専3・美表3	笠 原 信 男	講義	3	2	19906
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服専2・美表2	佐 藤 泰 美	講義	2	2	19907
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服専1・美表1	伊 藤 優	講義	1	2	19908
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）	通年（前）	服専3・美表3	菊 地 逸 夫	演習	3	2	19909
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）	通年（後）	服専3・美表3	落 合 里 麻	演習	3		19910

大学共通教養科目

有機化学 I

(12001)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表1年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

菅 野 修 一

■ 授業の概要

有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の sp ・ sp^2 ・ sp^3 の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・原子と電子配置について理解。

①②④

・有機化合物の分子レベルでの理解。

①②③⑨

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 日常生活における有機化学の重要性の認識について

教科書指定ページの熟読。

第2回 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素

教科書指定ページの熟読。

第3回 アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス

教科書指定ページの熟読。

第4回 分子模型を用いた立体化学、炭素の結合手

教科書指定ページの熟読。

第5回 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習

講義ノートの総まとめ (1回目)。

第6回 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利

教科書指定ページの熟読。

第7回 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体

教科書指定ページの熟読。

第8回 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造

教科書指定ページの熟読。

第9回 炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式

教科書指定ページの熟読。

第10回 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質

講義ノートの総まとめ (2回目)。

第11回 不飽和炭化水素、共有結合 (電子対結合)、電子対

教科書指定ページの熟読。

第12回 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子

教科書指定ページの熟読。

第13回 メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合

課題を指定。

第14回 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基

教科書指定ページの熟読。

第15回 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基

講義ノートの総まとめ (3回目)。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。

■ 教科書

[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2, 700円]

■ 参考書

必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

生物学Ⅰ

(12002)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

堀 江 佐知子

■ 授業の概要

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。

地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。

①

・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。

⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明

生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。

第2回 原始地球の誕生

地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第3回 地球と生命の誕生と進化

生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第4回 魚の進化

魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第5回 植物の進化（植物の誕生）

植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第6回 植物の進化（裸子植物の進化）

裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第7回 植物の進化（被子植物の進化）

被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第8回 哺乳類の誕生

哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第9回 哺乳類の進化

哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第10回 鳥の進化

鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第11回 昆虫の進化（昆虫の誕生）

昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第12回 昆虫の進化（昆虫の情報戦略）

昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第13回 昆虫の進化（昆虫の共進化）

昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第14回 人類の進化

人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第15回 講義のまとめ

講義内容をまとめる。

第16回 試験

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

生物学Ⅱ

(12003)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 美表3年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

堀 江 佐知子

■ 授業の概要

生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。

①

・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。

⑥⑧

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明

生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。

第2回 生命の誕生

生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第3回 ヒトの設計図、遺伝子

遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第4回 骨・筋肉

骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第5回 肝臓

肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第6回 胃・腸

胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第7回 心臓・血管

心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第8回 免疫

免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第9回 脳と心 (知覚)

脳 (知覚) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第10回 脳と心 (記憶)

脳 (記憶) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第11回 脳と心 (こころの進化)

脳 (こころの進化) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第12回 遺伝子 (日本人のルーツ)

遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第13回 遺伝子 (精神の設計図)

遺伝子 (精神の設計図) について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第14回 生物多様性と保全

生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。

第15回 講義のまとめ

講義内容をまとめる。

第16回 試験

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験 (50%)、受講態度 (50% : 講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する) により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

社会学Ⅰ

(12004)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・社会に関する幅広い教養を身につける
- ・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける
- ・社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を身につける

①②

④

⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 イントロダクション

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

「社会」という言葉

第2回 自己と他者の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

アイデンティティと役割理論

第3回 常識の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

制度・規範・統制・階層

第4回 自殺の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

社会的自殺率、アノミーとむなしさ

第5回 経済の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

社会階層と文化資本、資本主義の起源

第6回 政治の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

政治的公正、支配、ナショナリズム

第7回 教育の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

学校化、遊びと学び、教育と近代国家

第8回 家族の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

日本のイエ制度、近代家族論

第9回 つながりの社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

コミュニケーション論、社会関係資本論

第10回 倫理の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

宗教と倫理、共同体と倫理

第11回 宗教の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

神・教典・宗教集団、近代と宗教

第12回 不安の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す
事後恐怖と不安、不安の構造、不安への対処学修

第13回 対立の社会学

事前学修：次のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

連帯と分断、イデオロギーと文化戦争

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1、200円＋税。

ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2、900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

歴史Ⅰ

(12005)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表1年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイント、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------------|------|
| ・①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。 | ①②⑥⑧ |
| ・②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。 | ①②⑥⑧ |
| ・③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。 | ①②⑥⑧ |

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回 歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①	配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。
第3回 歴史資料に親しむ②伊達政宗の編纂記録	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
第4回 歴史資料に親しむ③地図①	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第5回 歴史資料に親しむ④地図②	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第6回 歴史資料に親しむ⑤新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
第7回 歴史資料を読み解く①公文書	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
第8回 歴史資料を読み解く②石碑	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
第9回 歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
第10回 歴史資料を読み解く④日記	配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴について理解を深める。
第11回 歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
第12回 歴史資料と人物像②伊達政宗と位	これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。
第13回 歴史資料と人物像③伊達政宗と祭	これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。
第14回 歴史資料と人物像④伊達政宗と現代	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
第15回 補論と総括～歴史資料を考える～	これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の留意点を考えてみる。
第16回 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

■ 履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%

期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70%

ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

歴史Ⅱ

(12006)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 美表1年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新时期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかについて説明する。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージ、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。
- ・②歴史像が形成される過程や背景を理解する。
- ・③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。

①②⑥⑧

①②⑥⑧

①③⑥⑧

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	1. ガイダンス～講義の内容～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回	2. 幕末維新の歴史イメージ①時代劇	配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。
第3回	3. 幕末維新の歴史イメージ②教科書(1)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第4回	4. 幕末維新の歴史イメージ③教科書(2)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第5回	5. 幕末維新の歴史イメージ④一般書	配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。
第6回	6. 歴史像の形成①明治時代	配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。
第7回	7. 歴史像の形成②昭和戦前戦後	配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。
第8回	8. 歴史像の形成③近代の東北地方	配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。
第9回	9. 幕末維新の人物像①白虎隊	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。
第10回	10. 幕末維新の人物像②新選組	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。
第11回	11. 幕末維新の人物像③坂本龍馬	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。
第12回	12. 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。
第13回	13. 東北地方と幕末維新②戊辰戦争	配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。
第14回	14. 東北地方と幕末維新③戦場の人々	配布プリントを再読し、戦争の実態などについて理解を深める。
第15回	15. 補論と総括～さまざまな歴史像～	初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。
第16回	試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

■ 履修上の注意

メディア等で幕末維新期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%

期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70%

ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。試験はレポートになる場合がある。

日本国憲法

(12007)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 美表2年

授業形態 : 講義 学期 : 前期 必・選 : 必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|----|
| ・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。 | ① |
| ・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。 | ①② |
| ・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。 | ② |

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	概説 (立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。)	近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにもどのように生きているのかを確認する。
第2回	皇制と平和主義 (国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。)	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する (歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。)
第3回	選挙制度 (多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。)	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第4回	国会 (国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。)	国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第5回	内閣 (議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。)	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第6回	裁判所 (警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。)	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第7回	地方自治 (地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。)	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第8回	人権とは (1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。)	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。
第9回	人権の適用範囲 (私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。)	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
第10回	幸福追求権と法の下での平等 (幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。)	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
第11回	内心の自由 (思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。)	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する
第12回	表現の自由 (集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由

	検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。)	権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。)	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。)	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。)	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。)

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

法学概説

(12008)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表1年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

この講義は、1年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳しく知ることは困難です。ただ、そうした中であっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では各回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら解説していきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|----|
| ・法学一般の考え方が身についている。 | ① |
| ・社会問題を法学という視点から考えることができる。 | ①② |
| ・さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。 | ② |

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	オリエンテーション	
第2回	みんなの法とわたしの法?	公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。
第3回	どうして約束は守らないといけないの?	自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。
第4回	電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの?	附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。
第5回	どうして事故を起こしたら責任を負わされるの?	過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。
第6回	子どものしつけと虐待はどこが違うの?	「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。
第7回	校長先生の決定には従わないといけないの?	日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。
第8回	マンガやアニメを規制してもいいの?	青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。
第9回	どうして悪いことをした人に権利があるの?	被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。
第10回	ギャンブルってやっちゃいけないの?	賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。
第11回	仕事ができないとクビにされるの?	解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。
第12回	手で掴めないものにも権利があるの?	著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。
第13回	損害保険と生命保険のちがって何?	わずかな保険料(掛け金)を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく。
第14回	自動車保険のしくみ	自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。
第15回	株式会社って何?	株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となるところを把握する。

■ 履修上の注意

私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているかを、日頃から気を付けてみておいてください。欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

哲学Ⅰ

(12009)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表1年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

徳田 幸雄

■ 授業の概要

人間は何のために生きるのか?死んだらどうなるのか?無になってしまうのか、それともあの世で生き続けるのか?人間にとって幸福とは何なのか?愛とは何か?善とは何か悪とは何か?これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち(ソクラテス・プラトン・アリストテレス)がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえつつ概説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・死生観についての基本的な知識を身につける

①②⑥

・人生観についての考察を深める

①⑥

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス

要しない

第2回 古代ギリシャの時代背景―アテネとスパルター

チェックテスト①を見直す

第3回 ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より

チェックテスト②を見直す

第4回 ソクラテス②『クリトン』より

チェックテスト③を見直す

第5回 ソクラテス③『パイドン』より

チェックテスト④を見直す

第6回 プラトン① プラトンの生涯

チェックテスト⑤を見直す

第7回 プラトン② イデア論

チェックテスト⑥を見直す

第8回 プラトン③ 想起説

チェックテスト⑦を見直す

第9回 プラトン④ 愛と美について

チェックテスト⑧を見直す

第10回 プラトン⑤ 徳と善について

チェックテスト⑨を見直す

第11回 アリストテレス① アリストテレスの生涯

チェックテスト⑩を見直す

第12回 アリストテレス② 三原理と四原因説

チェックテスト⑪を見直す

第13回 アリストテレス③ 自然観、神観

チェックテスト⑫を見直す

第14回 アリストテレス④ 霊魂観、倫理観

チェックテスト⑬を見直す

第15回 15. まとめ

チェックテスト①～⑬を見直す

■ 履修上の注意

公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト(50%) チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。

学期末の試験(50%)

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

哲学Ⅱ

(12010)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

徳田 幸雄

■ 授業の概要

「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを概説した上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（脳死や中絶など）について、その基本的な議論を解説し、さらに深い考察を促してゆく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・幅広い人間観を身につける。	①②⑧
・諸宗教の基本的な知識を身につける。	①②⑧
・生命倫理の問題に関する知識を身につける。	①②⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	要しない
第2回 ユダヤ教の人間観	チェックテスト①を見直す
第3回 キリスト教の人間観① 原罪とは？	チェックテスト②を見直す
第4回 キリスト教の人間観② キリスト教史	チェックテスト③を見直す
第5回 イスラームの人間観① 六信より	チェックテスト④を見直す
第6回 イスラームの人間観② 五行より	チェックテスト⑤を見直す
第7回 インドの諸宗教における人間観	チェックテスト⑥を見直す
第8回 仏教の人間観① 四諦より	チェックテスト⑦を見直す
第9回 仏教の人間観② 日本仏教より	チェックテスト⑧を見直す
第10回 神道における人間観	チェックテスト⑨を見直す
第11回 近代人と死—エリアーデ宗教学より—	チェックテスト⑩を見直す
第12回 臓器移植と脳死について	チェックテスト⑪を見直す
第13回 優生思想について	チェックテスト⑫を見直す
第14回 人工妊娠中絶について	チェックテスト⑬を見直す
第15回 総括	チェックテスト①～⑬を見直す
第16回 試験	要しない

■ 履修上の注意

公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（50％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。

学期末の試験（50％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

心理学 I

(12011)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表2年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究のプロセス、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であること
を説明できるようになる。 | ①② |
| ・行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。 | ①② |
| ・記憶のメカニズムについて感覚的記憶、短期記憶、長期記憶の関係を理解し、説明できるようになる。 | ①② |

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	ガイダンス (教授内容と教育目標) ー見る、聞くとはどういうことかー	シラバスを熟読すること
第2回	条件操作的な実験の重要性についてー「利口な馬ハンス」の話などー	資料を熟読し、要点をまとめること
第3回	心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し、要点をまとめること
第4回	説得における「一面 (片面) 提示」と「二面 (両面) 提示」の効果	実験の結果を理解し、考察ついてまとめること
第5回	「心理学を勉強すれば人の心がわかるようになる」という考え方について	「人の心などわかるはずがない」という文章を読む
第6回	現代の心理学の背景① 行動主義心理学 (ワトソンの理論)	レスポナント条件づけについて調べること
第7回	現代の心理学の背景② 行動主義心理学 (スキナーの理論)	オペラント条件づけについて調べること
第8回	現代の心理学の背景③ 社会的学習理論 (バンデュラの理論)	「観察学習」について調べること
第9回	現代の心理学の背景④ 精神分析学 (フロイトの理論)	無意識や抑圧について調べること
第10回	精神分析学における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し、専門用語を理解すること
第11回	自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し、練習問題に取り組むこと
第12回	まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと
第13回	記憶の実験ー系列位置曲線と系列位置効果ー	実験結果の考察を考え、レポートすること
第14回	記憶のしくみー感覚的記憶・短期記憶・長期記憶ー	ノートを見直し、専門用語を理解すること
第15回	エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し、感想をまとめること
第16回	試験	試験対策の学習をすること

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%、試験80%。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては、次の授業内でフィードバックを行う予定である。

授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前に資料 (プリント) を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

心理学Ⅱ

(12012)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表2年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

「性格はどのようにして測定されるか」、「性格は変えることができるか」というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査 (心理テスト) の種類とそれぞれの長所・短所について講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法については実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・質問紙法, 作業検査法, 投影法それぞれの長所と短所を理解する	①②
・認知療法の「7つのコラム法」が気分 (感情) の改善に効果があるのはなぜか, 説明できるようになる	①②
・交流分析における「エゴグラム」を作成し, その意味について理解し, 自己の性格をどのように改善していけばよいか分析できるようになる	①②

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス (教授内容と教育目標)	シラバスを熟読すること
第2回 質問紙法の性格検査 (YG性格検査) の測定方法	YG性格検査の測定方法を調べる
第3回 質問紙法の性格検査 (YG性格検査) の問題点	YG性格検査の問題点を理解すること
第4回 作業検査法 (内田クレペリン精神検査) の特色と問題点	内田クレペリン検査の測定方法を調べる
第5回 投影法の種類	投影法の種類と特徴を調べる
第6回 他者の性格を推論するときに注意すべきことー認知のゆがみなどー	資料とノートを復習し, 専門用語を理解すること
第7回 性格とは何かービッグファイブと年齢による変化ー	資料をよく読み, 要点をレポートすること
第8回 認知療法の基本的な考え方 (人間観)	思考と感情と行動の関係について理解すること
第9回 認知療法の「7つのコラム」の作成方法について	「7つのコラム」の要点をまとめる
第10回 「私の7つのコラム」の作成	「7つのコラム」を実際に作成し, 感想をまとめる
第11回 交流分析における基本的な考え方 (人間観)ー5つの自我状態ー	5つの自我状態について調べる
第12回 交流分析におけるエゴグラムの作成	自分のエゴグラムについて分析してみる
第13回 自分と他者に対する構え (人生に対する構え)	自分のエゴグラムの結果について分析を深める
第14回 交流分析における基本的な考え方 (人間観)ーストロークとはー	自分はどのようにしてストロークを得ているか分析すること
第15回 全体のまとめ	重要な用語を使って全体を論述できるようにすること
第16回 試験	試験対策の学習をすること

■ 履修上の注意

毎回, ミニットペーパーに感想やわかったこと, わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%, 試験80%。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては, 次回の授業内でフィードバックを行う予定である。

■ 教科書

授業前に資料 (プリント) を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜, 紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

生活文化論

(12013)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

今 林 直 樹

■ 授業の概要

「生活文化」について、言語・衣食住・祭祀儀礼・芸能等に焦点をあて、主として文献資料を用いながらその概念や意義を説明するとともに、具体的な生活文化の現われの事例を紹介しながら理解させる。また、生活文化の形成につながる歴史的背景や社会的背景についてもあわせて理解させる。生活文化の具体的な事例として沖縄を取り上げる。沖縄には現代でも伝統的な生活文化が強く息づいている。また、沖縄の生活文化との比較から東北地方の生活文化を考えさせる。

また、課題（授業時提出）をとおして授業の感想などを述べさせる。課題については、次の授業で解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・沖縄の生活文化について理解できる。	①②
・生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。	①②
・今後の生活文化の課題について考察できるようになる。	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 生活文化とは何か・沖縄概説	生活文化と沖縄を調べる
第2回 沖縄の言葉(1) 生活言語としての「うちなあぐち」	沖縄の言葉の概要を整理する
第3回 沖縄の言葉(2) 「うちなあぐち」は言語か方言か	沖縄の言葉の社会的意味を整理する
第4回 沖縄の言葉(3) 「うちなあぐち」の保存と継承	沖縄の言葉の現在と将来を整理する
第5回 沖縄の「衣」(1) 紅型	紅型について調べる
第6回 沖縄の「衣」(2) ミンサー織	ミンサー織について調べる
第7回 沖縄の「食」(1) 沖縄そば	沖縄そばについて調べる
第8回 沖縄の「食」(2) チャンプルー	チャンプルーについて調べる
第9回 沖縄の「住」(1) 赤瓦の家	沖縄の住景観について調べる
第10回 沖縄の「住」(2) 風水	沖縄の住思想について調べる
第11回 沖縄の芸能(1) 古典芸能	琉球古典芸能について調べる
第12回 沖縄の芸能(2) 八重山芸能	八重山芸能について調べる
第13回 沖縄の祭(1) 信仰との関係―御嶽・ニライカナイ―	沖縄の信仰について調べる
第14回 沖縄の祭(2) 豊年祭	沖縄の豊年祭について調べる
第15回 沖縄の祭(3) 種取祭	沖縄の種取祭について調べる
第16回 期末試験	

■ 履修上の注意

必要のない私語は慎むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末考査80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。課題等については翌週の授業の際にコメントする。

■ 教科書

授業前に資料を配布する

■ 参考書

[沖縄の歴史・政治・社会] [今林直樹] [大学教育出版] [2, 200円]

■ 備考

質問等については授業終了後に受け付ける。

英会話 I

(12014)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 美表 1 年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

上之原 博 子

■ 授業の概要

中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指します。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・ 基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。 | ①④ |
| ・ 自分自身に関する事柄について説明できる。 | ⑥ |
| ・ グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。 | ⑥⑦ |

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス。挨拶と自己紹介。Unit1自分の事を英語で話す。	自己紹介文を考えてくる。
第2回 自分の日常生活を友人に話す。	Unit1の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第3回 自分の好きなことを話す。	Unit2の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第4回 様々な場所について話す。	Unit3の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第5回 道案内をする。	Unit4の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第6回 買い物をする。	Unit5の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第7回 1～6の復習。	Unit6の復習プリント提出。
第8回 身の回りに起きたことを話す。	Personal presentationの原稿を提出。
第9回 家族や友人について話す。	Unit8の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第10回好きなことについて話す。	Unit9の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第11回 バケーションの過ごし方について話す。	Unit10の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第12回 人生について話す。	Unit11の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第13回 自分の希望や目標について話す。	Unit12の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第14回 7～13の復習。	自分の希望や目標について話せるように準備する。
第15回 これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。	これまで習った事を踏まえ、英語で自己紹介文を書き提出する。

■ 履修上の注意

授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。
授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。

■ 成績評価方法・基準

授業態度 (ペアワーク、グループワーク積極的に参加する) 30%、毎回の課題提出30%、学期末の試験 (英語の会話文の発表) 40%で評価します。

■ 教科書

書名 : [Breakthrough Plus 1 (Level 1) Student Book] 著書 : [Miles Craven] 出版社 : [Macmillan Language House c] [3, 212円 (税込)]

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問等については、授業終了時に受付けます。

仏語Ⅰ

(12015)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

村 山 茂

■ 授業の概要

発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけでなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。

①②⑥⑧

・フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。

①②⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業方針。アルファベ。

アルファベの復習が必要。

第2回 アルファベ復習。発音の規則1。

P78の復習が必要。

第3回 発音の規則2。

P79の復習が必要。

第4回 発音の規則小テスト。フランスについて。数字1。

事前に小テスト準備、数字の復習が必要。

第5回 数字2。簡単なあいさつの表現。

P5の復習が必要。

第6回 パリに着いた!1. 解説と会話文。

P8の復習が必要。

第7回 パリに着いた!2. 文法。

P9の復習が必要。

第8回 パリに着いた!3. 練習問題。

P10～P11の予習、復習が必要。

第9回 ホテルの予約は1. 解説と会話文。

P14の復習が必要。

第10回 ホテルの予約は2. 文法。

P15の復習が必要。

第11回 ホテルの予約は3. 練習問題。

P16～P17の予習、復習が必要。

第12回 アロー、アロー1. 解説と会話文。

P20の復習が必要。

第13回 アロー、アロー2. 文法。

P21の復習が必要。

第14回 アロー、アロー3. 練習問題。

P22～P23の予習、復習が必要。

第15回 まとめの講義

事後に最終試験のための準備が必要。

第16回 試験

■ 履修上の注意

私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。

■ 成績評価方法・基準

最終回に行う確認のための筆記試験（70～80％）に20～30％の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削して後日返却する。

■ 教科書

〔新はじめてのバリー映像付き〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2, 500円〕

■ 参考書

特にないが、必要に応じてプリントを配布する。

■ 備考

教科書が大幅に改訂されたので、中古で購入しないこと。

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

仏語Ⅱ

(12016)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

村 山 茂

■ 授業の概要

初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけではなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。仏語Ⅰを引き継ぐ形で進めてゆく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|------|
| ・ 仏語Ⅰを引き継ぎ、初級フランス語の基礎を固め、より一層の理解と表現が可能になる | ①②⑥⑧ |
| ・ 引き続きフランスの文化に触れることで、国際的視野が広がる。 | ①②⑥⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テラスでお茶を1. 解説と会話文。	P. 26の復習が必要。
第2回	テラスでお茶を2. 文法。	P. 27の復習が必要。
第3回	テラスでお茶を3. 練習問題。	P. 28～P. 29の予習、復習が必要。
第4回	メトロに乗って1. 解説と会話文。	P. 32の復習が必要。
第5回	メトロに乗って2. 文法。	P. 33の復習が必要。
第6回	メトロに乗って3. 練習問題。	P. 34～P. 35の予習、復習が必要。
第7回	名所を巡れば1. 解説と会話文。	P. 38の復習が必要。
第8回	名所を巡れば2. 文法。	P. 39の復習が必要。
第9回	名所を巡れば3. 練習問題。	P. 40～P. 41の予習、復習が必要。
第10回	DVDによる学習	事後に疑問点を整理しておくこと。
第11回	街歩きで買い物を1. 解説と会話文。	P. 44の復習が必要。
第12回	街歩きで買い物を2. 文法。	P. 45の復習が必要。
第13回	街歩きで買い物を3. 練習問題。	P. 46～P. 47の予習、復習が必要。
第14回	まとめの講義1。	事後に最終試験のための準備が必要。
第15回	まとめの講義2。（補足を含む）	事後に最終試験のための準備が必要。
第16回	試験	

■ 履修上の注意

初心を忘れず、根気良く継続すること。

■ 成績評価方法・基準

最終回に行なう確認のための筆記試験（70～80％）に20～30％の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は後日返却可能。

■ 教科書

〔新はじめてのバリー映像付き〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2, 500円〕

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

中国語

(12017)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

清水 浩一郎

■ 授業の概要

この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を身につけることにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・正確な中国語の発音が身につく	①
・中国語で簡単な会話ができるようになる	①
・中国の文化や習慣についての知識が身につく	②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：中国や中国語の基礎知識	教科書を購入して目を通す。
第2回	発音編1回目：声調と単母音・複合母音の発音練習 教科書1・2・4・6・13頁 音声ファイルA2・4・5・12・18	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第3回	発音編2回目：子音（声母）の発音練習 教科書1・2・4・6・8・10頁 音声ファイルA3・6・10・11・13・17・19・23・25・30・31	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第4回	発音編3回目：要注意な発音と声調変化の練習 教科書1・3・5・7・8・9・11・12頁 音声ファイルA2・7～9・14～16・20～22・26～29・34～37	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第5回	発音編4回目：発音のおさらい 教科書14～17頁 音声ファイルA38・39	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第6回	第一課：数を含んだいくつかの表現 発声練習・練習問題 教科書18～23頁 音声ファイルA40～51	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第7回	第二課：いろいろなあいさつ① 発声練習 教科書24～26頁 音声ファイルA53～59・61	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第8回	第二課：いろいろなあいさつ② 発声練習・練習問題 教科書26～28頁 音声ファイルA60・62～64	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第9回	第三課：“お目にかかれてとても嬉しいです” 発声練習・練習問題 教科書29～32頁／音声ファイルA65～70	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第10回	第四課：“あなたは中国語を勉強中ですか” 発声練習・練習問題 教科書33～36頁／音声ファイルA71～76	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第11回	第五課：“何人家族ですか？” 発音練習・練習問題 教科書37～40頁 音声ファイルA77～85	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第12回	第六課：“どのお茶を飲みますか？” 発音練習・練習問題 教科書41～44頁 音声ファイルA86～91	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第13回	第七課：“一緒に行ってもいい？” 発声練習・練習問題 教科書45～48頁 音声ファイルA92～97	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第14回	第八課：“田中さんは来た？” 発声練習・練習問題 教科書49～52頁	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。

音声ファイルA98～B5		事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第15回	発声・文法のまとめ／発音のテスト	学習した部分を全体的に復習する。
第16回	文法のテスト	テストの準備をする。

■ 履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。

■ 成績評価方法・基準

平常点30%（授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します）

発音テスト20% 文法テスト50%

■ 教科書

〔週1回1年間で学ぶ中国語の基礎〕〔上野恵司 著〕〔白帝社〕〔2, 200円+税〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付けます。

日本語基礎

(12018)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

菅 原 秀

■ 授業の概要

大学では試験だけでなくレポートなどを提出する機会が多くなる。自己の考えを日本語で的確な表現を身につけさせる。

高等学校までに国語の授業などを通じて身につけてきた能力を再確認しながら、大学で学ぶ上で必要な日本語の基礎的な運用方法について幅広く講義する。語（言葉）、語句、文節、文、文章と、誤りやすい表現に注意しながら、誤りのない、コミュニケーションの上でも効果的で正しい表現について検討しながら解説する。また自分の考えを誤解されないように的確に伝えるための方法を、文章の構成を中心に解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・日本語の特徴を理解し正しく運用するための基礎知識を得る。	①
・将来社会人として役立つ教養と知識を身につける。	①②
・自己の考えを構築して表現できる能力を身につける。	①②
・自己の理解状況を把握し継続的に学習する能力を身につける。	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 講義内容の説明 ワークシート資料の配布 表現練習1「言葉でないものを言葉にしてみよう」	次回のワークシートを予習
第2回 表現練習2「言葉でないものを説明してみよう」 謝りやすい語句① 同音・同訓	ワークシート1を復習
第3回 表現練習3「日本語を正しく発音してみよう」 謝りやすい語句② 類義語・慣用表現	ワークシート2およびその他資料を復習
第4回 敬語の概説と演習	ワークシート3を復習
第5回 仮名遣い・送り仮名・句読点・区切り符号の使い方 文体の相違	ワークシート4を復習および配布資料の予習
第6回 あいまいな文章表現や文の乱れをなくす 文を適切に区切る	ワークシート5を復習
第7回 表現を工夫 比喩表現、接続語句と指示語 悪文を修正する	ワークシート6を復習および配布資料を予習
第8回 主題をまとめる 組み立てを考える 段落を分けて書く	ワークシート7およびその他資料を復習
第9回 要約文の書き方	次回提出の課題「要約」を仕上げる
第10回 自分の意見を構築する 自分の意見を文章にする	次回提出の課題「意見の構築」を仕上げる
第11回 意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 討論 意見のまとめ	配付資料の予習
第12回 説明文の書き方 意見文・小論文の書き方	ワークシート8と9を予習
第13回 意見文を書く 主張と理由	次回提出の意見文課題を仕上げる
第14回 小論文を書く① テーマ別	次回提出の小論文①「テーマ別」課題を仕上げる
第15回 小論文を書く② 資料分析	次回提出の小論文②「文章と資料」を仕上げる
第16回 期末試験	試験後模範解答をもとに復習

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシート（プリント）を整理保管して試験に備えること。

指示された課題は指定期日までに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（40％）、課題やレポート（30％）、授業内での理解度確認ペーパーの内容や受講姿勢（30％）を目安として総合的に判断する。

試験は終了後に模範解答を配布し自己の理解度の確認する。課題やレポートは講義内で自己の達成度を指標に基づき確認後に提出となる。理解度確認ペーパーは次回講義で解説しフィードバックする。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書

講義内で適宜指示する。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談は、講義開始前及び終了後に受け付ける。

国語表現法

(12019)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

菅 原 秀

■ 授業の概要

大学でのレポートなどを書くためにはもちろん、さらに実生活に必要な文書や手紙類など将来社会に出て必要な日本語運用の知識やその方法について、より実践的な形で講義する。

文章の内容を正確に把握し、資料などを的確に分析し、その特徴を理解するための基本的な方法について解説する。テーマについてや、文章の内容を正確に把握するための方法や、グラフや表などの統計資料を的確に分析し、その特徴や傾向などを把握する方法を解説する。根拠のある考えの構築方法や、自己の考えを文章化する際の注意点や効果的な方法を解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----|
| ・将来社会人として役立つ教養と知識を身につける。 | ② |
| ・実社会で必要な日本語コミュニケーション能力を身につける。 | ①② |
| ・自己の考えを構築して表現できる能力を身につける。 | ① |
| ・自己の理解状況を把握し継続的に学習する能力を身につける。 | ①② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 講義内容の説明 ワークシートと資料の説明 表現練習「抽象的なものを言葉で説明してみよう」	次回のワークシート1を予習
第2回 レポートの書き方 わかりやすい報告	ワークシート2およびその他資料を復習
第3回 調査内容を報告する 批評を通じてより良い方法を考える	次回提出の課題を仕上げる
第4回 実用的な手紙の書き方① はがきと封書 依頼状 招待状 詫び状 礼状	ワークシート3を復習 次回提出の課題を仕上げる
第5回 実用的な手紙文の書き方② 実用的な敬語表現	ワークシート4を復習
第6回 プレゼンテーションの方法 日常的テーマ	ワークシート5およびその他資料を復習
第7回 プレゼンテーションの方法 社会的テーマ	ワークシート6の復習と資料の作成
第8回 プレゼンテーションの実践	ワークシート7およびその他資料を復習
第9回 意見文から小論文へ	参考資料を利用した復習と予習
第10回 小論文の書き方① 問題提起のための疑問文	ワークシート8を復習
第11回 小論文の書き方② 主張を支える根拠と具体例	ワークシート9およびその他資料を復習
第12回 小論文を書く① テーマ設定型	次回提出の課題1「テーマ型」を仕上げる
第13回 小論文を書く② 文章読解型	次回提出の課題2「文章読解型」を仕上げる
第14回 小論文を書く③ 資料分析型	次回提出の課題3「資料分析型」を仕上げる
第15回 小論文を書く 総合演習	次回提出の課題4「総合」を仕上げる
第16回 期末試験	模範解答で成果を確認し今後に活用する

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシート（プリント）を保管整理して学習すること。

指示された課題は指定期日までに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（40％）、課題やレポート（30％）、授業内での理解度確認ペーパーの内容や受講姿勢（30％）を目安として総合的に判断する。

試験は終了後に模範解答を配布し自己の理解度の確認する。課題やレポートは講義内で自己の達成度を指標に基づき確認後に提出となる。理解度確認ペーパーは次回講義で解説しフィードバックする。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書

講義内で適宜指示する。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談は、講義開始前及び終了後に受け付ける。

情報基礎学

(12020)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表2年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

データの集計・加工、グラフ作成、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ Word、Excel、PowerPointを使って体裁が整った文書を作成できる。
- ・ 情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。

①

①

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス	学習する内容を確認する。
第2回 Google Workspaceの使い方 (1)	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第3回 Google Workspaceの使い方 (2)	ドライブの基本的な使い方とWindowsのファイルシステムとの違いを理解する。
第4回 Wordによる文書作成 (ビジネス文書作成、表の作成)	ビジネス文書の様式、表の操作を理解する。
第5回 Wordによる文書作成 (図形の扱い)	図の挿入、編集方法を理解する。
第6回 Wordによる文書作成 (レポート作成に向けて)	図表番号、文献の管理、ページ数挿入、目次作成について理解する。
第7回 Wordによる文書作成 (練習問題)	Wordによる文書作成についての学習内容を確認し、反復する。
第8回 Excelによる表計算 (計算式、関数)	計算式の表現方法を理解する。
第9回 Excelによる表計算 (データの加工、グラフの作成)	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第10回 Excelによる表計算 (データベース、差し込み印刷)	データベースの操作とWordとの連携について理解する。
第11回 Excelによる表計算 (練習問題)	Excelによる表計算についての学習内容を確認し、反復する。
第12回 PowerPointによるプレゼンテーション (シンプルなスライドの作成)	プレゼンテーションのデザインやレイアウトについて理解する。
第13回 PowerPointによるプレゼンテーション (アニメーションの利用)	画面切り替え効果やアニメーションについて理解する。
第14回 PowerPointによるプレゼンテーション (練習問題)	PowerPointによるプレゼンテーション作成についての学習内容を確認し、反復する。
第15回 プログラミング (アニメーション、タートルグラフィックス)	アルゴリズムとScratchでのプログラミングについて理解する。
第16回 まとめと実技試験	学習内容を振り返りと試験

■ 履修上の注意

資料、課題等はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・毎回の授業で提出するファイル40%、実技試験60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

資料は配布 (Google Classroomに掲示)

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報基礎学

(12032)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表1年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

データの集計・加工、グラフ作成、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ Word、Excel、PowerPointを使って体裁が整った文書を作成できる。
- ・ 情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。

①
①

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス	学習する内容を確認する。
第2回 Google Workspaceの使い方 (1)	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第3回 Google Workspaceの使い方 (2)	ドライブの基本的な使い方とWindowsのファイルシステムとの違いを理解する。
第4回 Wordによる文書作成 (ビジネス文書作成、表の作成)	ビジネス文書の様式、表の操作を理解する。
第5回 Wordによる文書作成 (図形の扱い)	図の挿入、編集方法を理解する。
第6回 Wordによる文書作成 (レポート作成に向けて)	図表番号、文献の管理、ページ数挿入、目次作成について理解する。
第7回 Wordによる文書作成 (練習問題)	Wordによる文書作成についての学習内容を確認し、反復する。
第8回 Excelによる表計算 (計算式、関数)	計算式の表現方法を理解する。
第9回 Excelによる表計算 (データの加工、グラフの作成)	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第10回 Excelによる表計算 (データベース、差し込み印刷)	データベースの操作とWordとの連携について理解する。
第11回 Excelによる表計算 (練習問題)	Excelによる表計算についての学習内容を確認し、反復する。
第12回 PowerPointによるプレゼンテーション (シンプルなスライドの作成)	プレゼンテーションのデザインやレイアウトについて理解する。
第13回 PowerPointによるプレゼンテーション (アニメーションの利用)	画面切り替え効果やアニメーションについて理解する。
第14回 PowerPointによるプレゼンテーション (練習問題)	PowerPointによるプレゼンテーション作成についての学習内容を確認し、反復する。
第15回 プログラミング (アニメーション、タートルグラフィックス)	アルゴリズムとScratchでのプログラミングについて理解する。
第16回 まとめと実技試験	学習内容を振り返りと試験

■ 履修上の注意

資料、課題等はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・毎回の授業で提出するファイル40%、実技試験60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

資料は配布 (Google Classroomに掲示)

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スポーツ

(12021)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

池田 信文 酒井 正彦

■ 授業の概要

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。	①
・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。	②④
・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。	⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（個人票作成等）	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第2回	バスケットボール1（池田） 歴史・ルール・パス	2回目の予習・復習、及び技術の向上
第3回	バスケットボール2（池田） パス・ドリブル・シュート	3回目の予習・復習、及び技術の向上
第4回	バスケットボール3（池田） パス・ドリブル・シュート	4回目の予習・復習、及び技術の向上
第5回	バスケットボール4（池田） パス・シュート・ゲーム	5回目の予習・復習、及び技術の向上
第6回	バスケットボール5（池田） ゲーム	6回目の予習、及び技術の向上
第7回	フットサル&ソフトボール1（池田） 選択	7回目の予習・復習、及び技術の向上
第8回	フットサル&ソフトボール2（池田） 選択	8回目の予習・復習、及び技術の向上
第9回	フットサル&ソフトボール3（池田） 選択	9回目の予習、及び技術の向上
第10回	バレーボール1（池田） 歴史・ルール・パス	10回目の予習・復習、及び技術の向上
第11回	バレーボール2（池田） パス・サーブ・スパイク	11回目の予習・復習、及び技術の向上
第12回	バレーボール3（池田） パス・サーブ・ゲーム	12回目の予習・復習、及び技術の向上
第13回	バレーボール4（池田） パス・ゲーム	13回目の予習・復習、及び技術の向上
第14回	バレーボール5（池田） ゲーム	14回目の予習、及び技術の向上
第15回	まとめ及びレポート作成	本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回	ターゲットバードゴルフ1（酒井） ルール・スイング・打ち方	16回目の予習・復習、及び技術の向上
第17回	ターゲットバードゴルフ2（酒井） 打ち方・ホールを狙う	17回目の予習・復習、及び技術の向上
第18回	ターゲットバードゴルフ3（酒井） 打ち方・ホールを狙う	18回目の予習・復習、及び技術の向上
第19回	ターゲットバードゴルフ4（酒井） コース作り・ゲーム	19回目の予習・復習、及び技術の向上
第20回	ターゲットバードゴルフ5（酒井）	20回目の予習、及び技術の向上

	コース作り・ゲーム	
第21回	バドミントン1（酒井） 歴史・ルール・シャトル・ラケットに慣れる	21回目の予習・復習、及び技術の向上
第22回	バドミントン2（酒井） サーブ・ストローク練習	22回目の予習・復習、及び技術の向上
第23回	バドミントン3（酒井） ストローク練習・組み合わせ練習	23回目の予習・復習、及び技術の向上
第24回	バドミントン4（酒井） 組み合わせ練習・ルール・ゲーム	24回目の予習・復習、及び技術の向上
第25回	バドミントン5（酒井） ゲーム	25回目の予習、及び技術の向上
第26回	ミニテニス&卓球&インディアカ&バドミントン1（酒井） 選択	26回目の予習・復習、及び技術の向上
第27回	ミニテニス&卓球&インディアカ&バドミントン2（酒井） 選択	27回目の予習・復習、及び技術の向上
第28回	ミニテニス&卓球&インディアカ&バドミントン3（酒井） 選択	28回目の予習、及び技術の向上
第29回	まとめ及びレポート作成 1	本授業に関するまとめ、レポート作成
第30回	まとめ及びレポート作成 2	本授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意

- ・毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
- ・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
- ・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
- ・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
- ・質問等については、授業終了時に受付けます。

武道

(12022)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年・美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

現代武道の1つで世界36カ国に普及し世界統一組織である少林寺拳法を、講義と実技で教授します。単に身体が丈夫になるだけではなく、心と体を調和させながら、他人と競い合う強さではなく、自己と向きあい何事にも負けることのない本当の強さ（自己確立）を体得します。呼吸法や、座禅を行うことにより心身の調整法を学び、どのように相手が攻撃してきても、力の大小、性別に関わらず自分や大切な人を守ることできる少林寺拳法の護身の技術と心を、少林寺拳法七段で全国指導員の担当教員が伝授します。財団法人少林寺拳法連盟に全員所属して、前期で6級（緑帯）取得を目標に教授します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・少林寺拳法の基礎的技術を体得する	①②⑥
・自己確立について理解することができる	①②⑥
・他と協働しながら楽しく修練できる	③⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	少林寺拳法について、ガイダンス、技術体験	シラバスを読む。鍛錬法修得
第2回	基本、講義、座禅、構え、運歩法、突き、蹴り基本	正中線鍛錬法実践
第3回	基本、講義、座禅 受身、各種構え、攻撃法、防御法	丹田鍛錬法実践
第4回	基本、講義、座禅、各種受身、上受け、内受け	体幹鍛錬法相撲四股
第5回	基本、講義、座禅、上段、中段直突き、蹴り上げ	体幹鍛錬法相撲の四股
第6回	基本、講義、座禅、柔法（小手抜き、守法）	体幹鍛錬法相撲の四股
第7回	基本、講義、座禅、柔法（腕十字固め）	体幹鍛錬法相撲の四股
第8回	基本、講義、座禅、柔法（寄り抜き）	体幹鍛錬法相撲の四股
第9回	基本、講義、座禅、剛法（流水蹴り）	体幹鍛錬法相撲の四股
第10回	基本、講義、座禅、単独演武天地拳第一	体幹鍛錬法相撲の四股
第11回	基本、座禅、単独演武竜王拳第一	体幹鍛錬法相撲の四股
第12回	基本、座禅、剛法（内受け突き）	体幹鍛錬法相撲の四股 昇級レポート作成準備
第13回	基本、座禅、剛法（内受け突き）	体幹鍛錬法相撲の四股 昇級レポート作成準備
第14回	基本、座禅、柔法（逆小手）	体幹鍛錬法相撲の四股 昇級レポート作成準備
第15回	6級昇級試験準備	昇級レポート提出

■ 履修上の注意

自他の安全に留意し、授業時間内にできない部分を積極的に自習すること。教員が指導します。

■ 成績評価方法・基準

実技評価40%、授業態度（集中して修練しているか20%、学んだことが礼儀等態度に現われているか20%）昇級レポート20%（評価して返却します）

■ 教科書

少林寺拳法級拳士副読本、科目表（財団法人少林寺拳法連盟）

■ 参考書

はじめよう少林寺拳法（ベースボールマガジン社）

■ 備考

1回目から修練します。運動のできる服装で来てください。講義はメモします。筆記用具持参。水分補給、マスク着用。修練前後の清掃は毎回おこないます。各自雑巾を持参してください。授業外での質問はオフィスアワーで受け付けます。

スタディスキルズ

(12023)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科: 美表1年

授業形態: 演習 学期: 前期 必・選: 必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

鈴木 専 鶴 巻 史 子 教職員

■ 授業の概要

大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識について指導する授業である。本学の歴史や教育内容、大学での学びについての基礎知識、情報処理教育センター・図書館等の設備仕様の活用法、履修方法等について指導を行う。また学修ポートフォリオの作成により各自学習目標を設定する。入学前に取り組んだe-learningの復習を実施すると共に、基礎学力向上のための課題を設定し、さらなる理解の向上を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・大学生活に必要な基礎的知識・学習能力を身につける

①

・自主的に課題を解決する能力を身につける。

①

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 本学の歴史・教学の指針 (三上美術学部長)

オリエンテーションで実施 (予定)。本学の歴史・教学の指針より、本学の教育形態を理解し、今後の学習に活かすことを意識する。

第2回 プレイメントテスト①国語・英語 (立花)

国語・英語の基礎学力を確認・復習する。

第3回 プレイメントテスト②数学 (立花)

数学の基礎学力を確認・復習する。

第4回 大学で学ぶということ (学長)

大学での学びに必要な点を確認する。

第5回 美術学部での学びについて (三上学部長)

美術学部での学習内容を確認する。

第6回 学修ポートフォリオの作成 (1年次担任)

講義を通じて卒業までの学習の流れを理解し、1年次での学習計画を確認する。

第7回 レポート提出方法・メールのマナーについて (落合)

レポート提出方法・メールのマナーについて理解する。

第8回 知的財産権・著作権について (研究倫理委員)

知的財産権・著作権について理解する。

第9回 図書館の活用 (村山)

施設の利用について理解する。

第10回 情報処理教育センターの活用 (松尾)

施設の利用について理解する。

第11回 学修ポートフォリオ 中間評価 (1年次担任)

これまでの学修状況を振り返り、学修目標の達成度合いを確認・改善点を考える。

第12回 美術に関するポートフォリオの作成について (伊勢)

ポートフォリオの作成について理解する。

第13回 基礎学力向上①国語 (落合)

国語において読解能力を身につけ、学習した内容を今後のレポート作成などで活用する。

第14回 基礎学力向上②e-learning (瀬戸)

入学前学習で行ったe-learningの進捗状況を確認・復習する。

第15回 まとめ (1年次担任)

授業を振り返り、今後の学修に必要な点を理解する。

■ 履修上の注意

授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録を取ることを。

毎回担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。

■ 成績評価方法・基準

提出課題 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。

提出物については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

入学前学習 (e-learningの教材) (他、授業時にプリントを配布する) 適宜指示します。

■ 参考書

授業内で各教員が指示します。

■ 備考

質問などについては、各授業終了時または各教員オフィスアワーにて受け付けます。（曜日時間は掲示等で確認）

ライフデザイン

(12024)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 美表1年

授業形態 : 演習 学期 : 後期 必・選 : 必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

佐々木 晃

■ 授業の概要

自分の今後の将来設計を描くにあたって、新しい生活様式、アフターコロナの働き方改革も踏まえて確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、見直すべき点をノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける	①②⑥⑧
・学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける	①②⑥⑧
・学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる	①②⑥⑧

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明	より良い生活のために何が必要か考える
第2回 自分史作成 ～自己を知る～	自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ
第3回 自己分析・自己理解・自己管理	各種の分析を用いて人間性を科学する
第4回 学生生活のデザイン	生活を見直しより豊かな生活を見通す
第5回 時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う
第6回 社会人に求められるもの	社会に必要な行動・思考・協働を学ぶ
第7回 社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ
第8回 業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める
第9回 課題発見能力・協調性・提案力	現状に満足せず次を考える学びを深める
第10回 ビジョン構築力	自分や組織の本来の使命を理解する
第11回 ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ
第12回 ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する
第13回 ライフデザインの作成	表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う
第14回 ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う
第15回 キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる

■ 履修上の注意

本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点30% (平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する) レポート70%

(必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)

・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

教科書 [シンブルリスト] [ドミニック・ローホー] [講談社] [630円]

■ 参考書

なし

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。

・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。

キャリア開発Ⅰ

(12025)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

瀬戸典彦 鈴木 専

■ 授業の概要

キャリア開発Ⅰでは、外部講師による講義と様々な現場を知ることを通して個々のキャリアプランを考え、実現するための力を身につける。美術の専門分野で活躍している講師（本学卒業生他）複数名を予定し、これまでの経験をベースに、実体験をもとにした現場のリアルな話を聞き、ディスカッションやワークショップを行い、キャリア形成における具体的な目標を設定する。自身の望むキャリアを実現するために必要な事を理解し、社会へ向けての準備ができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・キャリア形成における目標設定ができる

②③

・キャリア形成において必要な事を理解し、準備できる

②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス

掲示板を確認し準備する

第2回 外部講師による講義（美術系①）

掲示板を確認し準備する

第3回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（美術系①）

ミニットペーパー提出

第4回 外部講師による講義（工芸系①）

掲示板を確認し準備する

第5回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（工芸系①）

ミニットペーパー提出

第6回 外部講師による講義（デザイン系①）

掲示板を確認し準備する

第7回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（デザイン系①）

ミニットペーパー提出

第8回 外部講師による講義（メディア系①）

掲示板を確認し準備する

第9回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（メディア系①）

ミニットペーパー提出

第10回 外部講師による講義（美術系②）

掲示板を確認し準備する

第11回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（美術系②）

ミニットペーパー提出

第12回 外部講師による講義（工芸系②）

掲示板を確認し準備する

第13回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（工芸系②）

ミニットペーパー提出

第14回 外部講師による講義（デザイン系②）

掲示板を確認し準備する

第15回 外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション（デザイン系②）

ミニットペーパー提出

■ 履修上の注意

事前に、掲示板で準備物等を提示するので、確認して準備を行うこと。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点50%、ミニットペーパー、レポート等の提出物の内容50%で評価する。

■ 教科書

資料を配布する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。外部講師の都合により授業計画の順番が前後する事がある。開講日と内容の詳細は掲示板上で提示する。

キャリア開発Ⅱ

(12031)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

瀬戸典彦 鈴木 専

■ 授業の概要

キャリア開発Ⅱでは、地方公共団体及びその附属機関等の公的機関、美術に関連する各種工芸工房、デザイン事務所、画材販売等の多様な職種に関する事前調査を課す。職業調査後、履修者が希望する企業・団体等においてインターンシップを実践できるよう指導する。社会人としてのマナー、仕事の進め方、グループ内のコミュニケーションの能力等のスキル向上を支援する。本実習をととして、地域社会の一員としての自覚を培い、自立的・主体的な判断に基づく、倫理観・生涯学習能力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける

①②⑤

・主体的に課題を解決する能力を身につける

②⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	シラバスの理解
第2回 職業調査（一般）	一般企業に関する調査とまとめ
第3回 職業調査（公共団体）	公共団体に関する調査
第4回 職業調査（美術関連・デザイン）	美術関連（主にデザイン業界）に関する調査
第5回 職業調査（美術関連・工芸）	美術関連（主に工芸業界）に関する調査
第6回 職業調査 レポート記入（一般企業）	一般企業に関するレポート/資料準備・提出課題の完成
第7回 職業調査レポート記入（美術関係）	美術関連業種に関するレポート/資料準備・提出課題の完成
第8回 職業調査レポート記入（美術関連・デザイン）	主にデザイン関連業種に関するレポート/資料準備・提出課題の完成
第9回 職業調査レポート記入（美術関連・工芸）	主に工芸関連業種に関するレポート資料/準備・提出課題の完成
第10回 社会人としてのマナーについて	マナーについての調査・提出課題の完成
第11回 インターンシップ・エントリーシート記入（下書き）	エントリーシート下書き準備
第12回 インターンシップ・エントリーシート記入（清書）	エントリーシート清書準備
第13回 実習報告書作成（下書き）	報告書（下書き）の完成
第14回 実習報告書作成（清書）	報告書（清書）の完成
第15回 実習報告（まとめ・発表）	実習報告準備

■ 履修上の注意

インターンシップの実践を必要条件とする。

Googleクラスルームに掲載される指示を常に確認し、毎回異なる授業の形態と内容を事前に把握する。

■ 成績評価方法・基準

実習態度：80%、提出課題：20%

提出課題については、フィードバックを行う。

■ 教科書

資料を配布する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

質問等は、授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける。

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

キャリア開発Ⅲ

(12026)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

行 貞 公 博

■ 授業の概要

商業セルアニメーションの知識と必要な技能およびスキルを理解し、身につけられるよう教授する。映像が誕生した背景と古典作品から、映像表現の本質的な特性と魅力を説明し、現在の映像メディアや日本の商業アニメーションの制作プロセスを学ぶ。演習では、商業セルアニメーションの特性とワークフローを理解した上で、業界で求められる技能とそのレベルを理解させる。キャリア形成を見据えた、デジタル作画に取り組み、実践的なスキルを身に付けられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・商業セルアニメの基礎的な知識を身につける。
- ・商業セルアニメに必要な技能を理解する。
- ・キャリア形成を見据えた基礎スキルのレベルを理解する。

①
②③
⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 映像の誕生／本質的な特性／メディアの種類	調査
第2回 商業セルアニメーションのワークフロー／各部紹介	各部の仕事を意識しての作品鑑賞
第3回 カット制作の現在について	調査
第4回 デジタル作画における基礎知識	自習で実践
第5回 課題の演習（商業アニメでの評価基準を前提として）	商業アニメの品質について調査
第6回 講評（一部作品を選択し、動画検査を行い添削）	他者作品から学びを得る
第7回 セルアニメーション業界で求められる技能とそのレベル	まとめ（講評から展開）
第8回 質疑応答	振り返りと課題抽出

■ 履修上の注意

履修条件

- 1, アニメ・ゲームⅢを履修していること。
 - 2, Photoshopまたは、CLIP STUDIO PAINTの操作ができること。
 - 3, Photoshopでは、基本操作を理解し、ペンタブレットで絵を描いた経験があること。CLIP STUDIO PAINTではアニメーション機能を使った制作経験があること。
- わからない用語があった場合は、都度質問する。機材の都合により定員を設ける場合がある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（50%）、授業態度、取り組みの姿勢、課題発表（50%）で評価する。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

（集中講義）質問等については、授業終了時に受け付ける。

キャリア開発Ⅳ

(12027)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

森 岡 淳

■ 授業の概要

本講義では、ゲーム業界を中心としたデジタルエンターテインメントの流れを知り、課題を通して、プロとして制作するためのノウハウを身につける。事前準備として「自身の好きなキャラクター」を準備し、「なぜ好きなのか?」「キャラクターが他のキャラクターより良いと感じる部分」を把握し、客観的な見方を身につける。その上で課題に沿った作画を実行し、感覚的な見方と作画実践を行う。知識・模写・課題による作画・ふりかえりというプロセスを繰り返し、俯瞰して見る力と、自主的に課題を見つける能力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・デジタルエンターテインメント業界を理解する
- ・キャラクターの理解と、視る力を養う
- ・課題を理解し発想する能力を身につける

②

③

④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概要説明

作画キャラクター準備（人物/動物に限る）
※ドット絵などは禁止

第2回 各自持ち寄ったキャラクターの確認（各人説明）

キャラクターを選択した理由を説明

第3回 デジタルエンタメ業界の歴史/キャラクターデザインの歴史

コメントシートに記載

第4回 課題1：キャラクター | ラフ作成

ワークシートに作画

第5回 課題1：キャラクター | 作画/発表

ワークシートに作画

第6回 課題2：背景デザイン | ラフ作成

ワークシートに作画

第7回 課題2：背景デザイン | ブラッシュアップ

ワークシートに作画

第8回 課題2：背景デザイン | 発表（講評会）

ワークシートに作画

■ 履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。

作画用に、鉛筆、シャープペンシルを持参（必須）

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題制作とプレゼンテーション50%、課題作品については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

ワークシートを配布する

■ 参考書

プリントを配布する

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

キャリアサポートⅠ

(12028)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

瀬戸典彦 教職員

■ 授業の概要

少子高齢化の進展や新型コロナウイルス感染等により社会経済が大きく変化しており、それに加え就職活動の早期化が進行している。このような状況下で不安な気持ちに揺れる学生の心に寄り添いながら内定が得られるよう業界・企業比較研究法、自己分析、エントリーシートの書き方、SPI対策などの知識とスキルの修得のほか、ビジネスマナー、YouTubeなどを活用したWEBマーケティング、労働法などの社会で役立つ基本が修得できるように指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・幅広い視野で自らの進路を選択決定する力を身に付ける
- ・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける
- ・就職試験を突破する力を身に付ける

①

①

⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 就活準備スタートアップセミナー
（授業ガイダンス・就職活動の流れ等）

これからやるべきことを理解すること

第2回 女性経営者が語る「人生の楽しみ方セミナー」

変化の時代をプラスに転じる生き方を理解すること

第3回 就活準備期の「何でも相談セミナー」

就職活動準備期における不安や悩みに応える

第4回 業界・企業基礎研究セミナー

業界と企業に関する知識を広げることの重要性を理解すること

第5回 業界・企業比較研究セミナー

選択肢の幅を広げる業界・企業比較研究法を理解すること

第6回 インターンシップセミナー

インターンシップの目的を理解すること

第7回 採用する側の事情を知るセミナー

採用する側の課題と求める人物像を理解すること

第8回 自己分析セミナー

採用する側の求める人物像と自己の強みを結びつけられるようにすること

第9回 インターンシップ用エントリーシート書き方セミナー

インターンシップ用のエントリーシートの書き方を理解すること

第10回 ～現役ユーチューバーから学ぶ～
WEBマーケティングセミナー

YouTubeなどを活用したWEBマーケティングの基本を学び、WEB選考試験に活用できるようにすること

第11回 SPI基礎セミナー

SPI試験の出題形式を知り、克服するための方法を考えること

第12回 SPI非言語対策セミナー①（割合、損益算）
※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更

配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること

第13回 SPI非言語対策セミナー②（速さ、確率）
※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更

配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること

第14回 SPI非言語対策セミナー③（仕事算、比率）
※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更

配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること

第15回 SPI非言語対策セミナー③（仕事算、比率）
※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更

配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること

第16回 SPI模擬試験

弱点を把握しその克服に努めること

第17回 小論文対策セミナー①
（論文、小論文、作文の違いとは）

論文、小論文、作文との違いを理解すること

第18回 小論文対策セミナー②
（実際に小論文を書いてみる）

簡潔で分かり易い文章の書き方を理解すること

第19回 SPI模擬試験振り返りセミナー
（模試結果の振り返りと復習）

確実に正解できる問題を増やすこと

第20回 就活準備中間振り返りセミナー
（現時点の就職環境の理解と自己PRのブラッシュアップ）

現時点における就職環境を理解し、本番の選考に備え自己PRのブラッシュアップを行うこと

第21回 就活本番用エントリーシート対策セミナー①

宿題のエントリーシートを書く際の注意点を理解し、自力で書く努力をすること

第22回	就活本番用エントリーシート対策セミナー② (授業終了後宿題を提出すること)	自力でエントリーシートを書くことの難しさを理解し、就職活動本番に向けて準備を怠らないこと
第23回	面接試験対策セミナー①	宿題のエントリーシートの総評と面接試験における注意点を理解すること
第24回	面接試験対策セミナー② (ロールプレイ)	ロールプレイを体験することで、相手に分かり易く伝えることの難しさを理解し、就職活動本番に向けて準備を怠らないこと
第25回	人事採用担当者セミナー (企業の業務範囲、仕事の種類、求める人物像)	企業の人事採用担当者から話を聴き、企業をイメージだけで判断出来ないことを理解すること
第26回	就活直前期の「何でも相談セミナー」	就職活動直前期における不安や悩みに応える
第27回	～就活は第一印象で決まる～ ビジネスマナーセミナー	相手に好印象を与えるビジネスマナーの基本を理解すること
第28回	労働法基礎セミナー (労働法の基礎と求人票の見方並びに就活ハラスメント)	働く上で必要な労働法の基礎と求人票の見方を理解すること、並びに就活ハラスメントの実態と対処法を理解すること
第29回	就活準備振り返りセミナー (就職活動の流れの再確認と就職環境)	就職活動の流れの再確認と就職環境を理解し、就職活動本番に備えること
第30回	内定者報告会	就職内定者のリアルな体験を聴き、自分の就職活動に活かすこと

■ 履修上の注意

夏期インターンシップが実質就職活動のスタートであることを理解すること
 エントリーシートとポートフォリオの出来が就職活動の結果に大きな影響を与えることを理解すること
 学んだことを繰り返し復習し身に付けること。また、ミニットペーパーを活用して文章力向上に努めること
 良好な授業環境の実現とコロナウイルス対策のため全員指定された座席に着席すること
 課外で行うセミナーにも積極的に参加して実力向上に努めること

■ 成績評価方法・基準

宿題のエントリーシートに対する取り組み姿勢（40％）ミニットペーパーによる授業の理解度（40％）積極的な質問や真剣目で受講しているか（20％）
 ※他授業の内職を禁止する

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図 東洋経済新報社 1, 300円 会社四季報 東洋経済新報社 2, 091円
 就職四季報総合版 東洋経済新報社 1, 900円 就職四季報女子版 東洋経済新報社 1, 900円 ※税抜価格

■ 備考

オフィスアワー

原則として、前期は毎週木曜日、後期は毎週水曜日の各午後3時から午後6時以外の時間に質問を受ける

キャリアサポートⅡ

(12030)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

瀬戸典彦 教職員

■ 授業の概要

学生が就職活動をする上で、一人ひとりが抱える課題解決の糸口が掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。具体的には、第1回目の授業の中でアンケート調査を行い、一人ひとりが感じている就職活動に関する問題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、集計したアンケート調査結果を講師陣と共有し、学生一人ひとりの課題解決に資する授業展開に努め、各自の希望する進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・現在の就職環境をよく理解すること	①
・一人ひとりが抱える課題解決に努めること	③
・会社説明会に積極的に参加し進路選択に活用すること	⑤⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 就職活動復習セミナー （授業終了後アンケートを提出）	就職活動の流れを再確認するとともに、現在の就職環境を理解し企業の採用選考に臨むこと
第2回 エントリーシート復習セミナー① （一人ひとりのエントリーシートの課題に定める）	各自が抱えるエントリーシートに関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第3回 エントリーシート復習セミナー② （模擬エントリーシートを書いてみる）	各自が抱えるエントリーシートに関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第4回 面接試験復習セミナー① （一人ひとりの面接の課題に定める）	各自が抱える面接に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第5回 面接試験復習セミナー② （模擬面接ロールプレイ）	各自が抱える面接に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第6回 小論文復習セミナー① （一人ひとりの小論文の課題に定める）	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第7回 小論文復習セミナー② （実際に小論文を書いてみる）	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第8回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第9回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第10回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第11回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第12回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第13回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第14回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第15回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること

■ 履修上の注意

学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路実現に向かって努力すること

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーによる授業の理解度（50％）積極的な質問や真剣な目で受講しているか（50％）※他授業の内職を禁止する

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図 東洋経済新報社 1, 300円 会社四季報 東洋経済新報社 2, 091円

就職四季報総合版 東洋経済新報社 1, 900円 就職四季報女子版 東洋経済新報社 1, 900円 ※税抜価格

■ 備考

オフィスアワー

原則として、毎週木曜日午後 3 時～午後 6 時以外の時間に質問を受け付ける

美術表現学科専攻科目

絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。）

(12101)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整 鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「絵画とは何か」を理解するために、絵画及び映像メディアの制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。さらに、持続的に制作に集中する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好する心を育む。実際の制作では、静物・石膏像を対象としたデッサン、静物を対象とした着色を教授する。ここでは対象物を客観的に写生させることを念頭に、伝統的な絵画技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。映像メディアの制作では、デジタル技術による絵画表現に関わる映像の制作及び現代的な表現技術について指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・a. 絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。	①
・b. 絵画を自分自身の問題意識と結びつけることができる。	④
・c. 持続的に集中して学習する態度を身に付ける。	①
・d. 絵画表現が美術制作全般に通じることを理解できる。	②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入	（科目・成績評価・画材等の説明）	課題に使用する画材の準備
第2回 制作Ⅰ 静物デッサン（構図・全体的な把握）		課題の継続制作
第3回 //	（部分的な描きこみ）	//
第4回 //	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第5回 制作Ⅱ 石膏デッサン（構図・全体的な把握）		課題の継続制作
第6回 //	（部分的な描きこみ）	//
第7回 //	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第8回 制作Ⅲ 静物着色（構図・全体的な把握）		課題の継続制作
第9回 //	（部分的な描きこみ）	//
第10回 //	（部分的な描きこみ）	//
第11回 //	（全体を踏まえた仕上げ）	//
第12回 //	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する材料の準備
第13回 制作Ⅳ 映像メディア（映像表現の説明）		課題の継続制作（映像）
第14回 //	（材料収集・加工・修正）	//
第15回 //	（編集）（講評会）	//

■ 履修上の注意

- ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・到達目標a…60%（課題）、b…15%（課題・講評会）、c…15%（授業態度）、d…10%（講評会）
- ・各課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集・映像等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

絵画基礎Ⅱ

(12102)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「絵画とは何か」を追求するために、絵画の制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。絵画基礎Ⅰの受講を踏まえ、より専門的に美術表現としての絵画の有効性を理解させる。また、個人の技術上の課題を明確にした上で、持続的に制作する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好し美術活動に取り組む姿勢を育む。石膏像・静物・人体を対象としたデッサン及び着色を教授する。ここでは対象物を丹念に観察し客観的且つ正確に写生させることを念頭に、伝統的な表現技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・a. 絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。	①
・b. 絵画を自分自身が生活する社会と結びつけて考えることができる。	④
・c. 持続的に学習する態度を身に付ける。	①
・d. 絵画の表現が美術全般に通じることを理解できる。	②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入	（科目・成績評価・画材等の説明）	課題に使用する画材の準備
第2回 制作Ⅰ石膏デッサン（構図・全体的な把握）		課題の継続制作
第3回 //	（部分的な描きこみ）	//
第4回 //	（部分的な描きこみ）	//
第5回 //	（部分的な描きこみ）	次回課題に使用する画材の準備
第6回 制作Ⅱ静物着色（構図・全体的な把握）		課題の継続制作
第7回 //	（部分的な描きこみ）	//
第8回 //	（部分的な描きこみ）	//
第9回 //	（全体を踏まえた仕上げ）	//
第10回 //	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第11回 制作Ⅲ人体デッサン・着色（構図・全体的な把握）		課題の継続制作
第12回 //	（部分的な描きこみ）	//
第13回 //	（部分的な描きこみ）	//
第14回 //	（全体を踏まえた仕上げ）	//
第15回 //	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	

■ 履修上の注意

- ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・到達目標a…60%（課題）、b…15%（課題・講評会）、c…15%（授業態度）、d…10%（講評会）
- ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

彫刻基礎Ⅰ

(12103)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

彫刻とは何かを学ぶ導入部分である。教員の研究や先輩の作品、様々な美術作品を紹介し興味を喚起し制作に意欲的に取り組むための基礎的態度を身に付けさせる。彫刻の基礎的知識、造形要素である、量感、塊、動勢、空間、表面を石彫により教授する。

デッサンを重視し彫刻の構造を理解し造形要素を意識させる。デッサンから彫刻作業まで、造形力と基礎的スキルを身に付けさせる。生動感のある「手」の彫刻を制作できるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・彫刻の基礎的造形力を身につける	①
・生動感のある作品を制作することができる	②
・作業を他と協働して行うことができる	⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業内容、注意事項、評価方法説明、参考作品紹介	高村光太郎の著作を読む、レポート作成
第2回 彫刻作品美術鑑賞ツアー	彫刻レポート作成
第3回 「手」の構造的理解、粘土練り、制作	レポート完成
第4回 「手」のマケット完成、講評	課題デッサン
第5回 制作（面と動勢）	課題デッサン
第6回 制作（生動感）	課題デッサン
第7回 制作（量感）	課題デッサン
第8回 制作（塊り）	課題デッサン
第9回 制作（量と塊り）	課題デッサン
第10回 制作（動勢）	課題デッサン
第11回 制作（動勢と空間）	課題デッサン
第12回 制作（生動感表現）	課題デッサン
第13回 制作（密度）	課題デッサン
第14回 制作（表面）	課題デッサン
第15回 講評会	課題デッサン

■ 履修上の注意

作業の安全に留意して怪我をしないようにしてください。毎回、デッサンの課題を出します。観察により手を動かす基礎訓練ですので、時間をかけて真剣に描きましょう。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40％、授業態度（集中して制作しているか20％、学んだことを制作に活かそうとしているか20％）提出レポート20％（評価して返却します）ルーブリックに基づき評価します。

■ 教科書

プリント、資料を配布します。

■ 参考書

彫刻を作る 美術出版社

■ 備考

質問は、オフィスアワーで受け付けます。

彫刻基礎Ⅱ

(12104)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

ハイジア像を模刻し石膏に型取る作業を行う。彫刻の基礎的造形要素を塑像により学び、石膏による型取りを行う。この技術は応用が効く技術であり、工芸やデザイン、版画等にも使うことができる、彫刻の基礎的技法である。この授業では、石膏の作り方から具体的な技法まで指導教授します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・石膏取りの技法を身に着けることができる
- ・塑造により彫刻の造形要素を体得する
- ・友人と協力して作業から清掃まで行うことができる

①
②
⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業概要説明	シラバス、資料を読む
第2回 ハイジア模刻	課題を理解する（ギリシャ彫刻について）
第3回 ハイジア模刻（量と塊り）	課題デッサン（高村光太郎彫刻10カ条について）
第4回 ハイジア模刻（動勢）	課題デッサン（動勢）
第5回 ハイジア模刻（細部）	課題デッサン（細部）
第6回 ハイジア模刻（密度）	課題デッサン（密度）
第7回 ハイジア模刻（講評会）	課題レポート
第8回 石膏取り（説明、切金打ち込み、ふりかけ）	作業内容理解（石膏取り意味）
第9回 石膏取り（型作り）	作業内容理解（型とは）
第10回 石膏取り（型外し）	作業内容理解（割り出しの注意事項）
第11回 石膏取り（張り込み）	作業内容理解（様々な修正法）
第12回 石膏取り（型合わせ）	作業内容理解（型合わせの意味）
第13回 石膏取り（割り出し）	作業内容理解
第14回 石膏取り（修正）	作業内容理解（レポートの書き方イラスト画像）
第15回 石膏取り制作レポート完成	作業内容理解（確認）

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポート、石膏取りのレポートを作成、提出します。作業の安全に留意して怪我をしないようにしてください。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）提出レポート20%（評価して返却します）ルーブリックに基づき評価します。

■ 教科書

授業内で資料を配布します。

■ 参考書

彫刻を作る（美術出版社）

■ 備考

質問等はオフィスアワーで受け付けます

工芸基礎Ⅰ（プロダクト制作を含む。）

(12105)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子 佐々木 輝 子 山 口 綾 子 長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

工芸とは、ものづくりとは何かを歴史や文化、現代の工芸などの多種多様な視点から工芸に関する理解を深める。この授業は、染色・陶芸・漆芸・ガラスアートの4分野を学ぶ。各分野の素材、材料、道具を含めた基礎知識を修得する。また、作業工程を理解した上で各技法、装飾を活かし、用途や目的、機能性を含めた制作を通して工芸の可能性について探求していく。各分野進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・工芸に関する基礎知識・学習能力を身につけることができる。

①

・工芸分野における基本的な体系を理解することができる。

②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 基礎工芸Ⅰ・Ⅱについて（立花・佐々木）	授業の記録まとめ
第2回	〔陶芸〕①（立花）作業工程・釉薬・粘土について	陶芸に関する資料収集まとめ
第3回	〔陶芸〕②（立花）やきものの歴史	授業の記録まとめ
第4回	〔陶芸〕③（立花） 堤焼工房 見学（A班） 〔染織〕①（佐々木） 染織関係ギャラリー 見学（B班）	視察記録のまとめ
第5回	〔陶芸〕④（立花） 堤焼工房 見学（B班） 〔染織〕②（佐々木） 染織関係ギャラリー 見学（A班）	視察記録のまとめ
第6回	〔染織〕③（佐々木） 染織の基礎知識について	染織に関する資料収集まとめ
第7回	〔染織〕④（佐々木） 色糸効果 平織りの組織図と 色糸配列について	授業の記録まとめ
第8回	〔陶芸・染織〕⑤（立花・佐々木） 仙台市博物館・仙台市内工芸ギャラリー等 見学	視察記録のまとめ
第9回	〔漆芸〕①（長谷部）漆についての説明	漆についてプリント配布
第10回	〔漆芸〕②（長谷部） ギャラリー、デパート等の漆器売り場見学	漆器の素材、塗りについて記録できるようにしておく。
第11回	〔漆芸〕③（長谷部） 現在の漆器産地について 各産地の技術技法について	見学の記録をまとめる。
第12回	〔ガラスアート〕①（山口）ガラス工芸についての基礎知識	ガラスアートに関する資料収集まとめ
第13回	〔ガラスアート〕②（山口）バーナーワークについて	配布プリント参照
第14回	〔ガラスアート〕③（山口）トンボ玉制作体験	配布プリント参照
第15回	講評会（立花・佐々木）	授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・授業ごと内容が異なるため、積極的に受講し記録を取る。
- ・担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。
- ・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

授業の中で各担当教員が指示する。

■ 参考書

授業の中で各担当教員が指示する。

■ 備考

- ・各担当都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

工芸基礎Ⅱ

(12106)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

工芸基礎Ⅱでは、制作や鑑賞を通して現代の“やきもの”の文化、生活の関わりについて理解を深めるよう、工芸基礎Ⅰで学んだ基礎的知識であるやきものの歴史、陶土と磁土の違いについて復習する。また、土練りの特徴、手びねりにおける3つの基礎的な成形方法を経て、乾燥から本焼きまでの作業工程を習得できるよう指導する。同時に各技法により使用する道具、機械、窯（種類）の特徴について教授した上で、完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションができるよう、主体的に制作に取り組む力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・やきものに関する基礎知識を身につけることができる。

①

・やきものに関する文化、生活での関わりについて理解を深めることができる。

②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 製陶法（歴史、陶土・磁土、釉薬、作業工程等）の復習	配布プリントを熟読すること（特に作業工程）
第2回 土練り（荒練り、菊練り）、紐づくり練習	参考書、配布プリント参照、復習
第3回 【手びねり成形】①つまみ出し成形による飯碗制作	つまみ出し成形の特徴を復習
第4回 ②つまみ出し成形による飯碗仕上げ	仕上げ作業の復習
第5回 ③紐づくり成形によるマグカップ制作（切立・各自デザインの2種）	紐づくり成形の特徴を復習（切立とは）
第6回 ④紐づくり成形によるマグカップ仕上げ（切立）	仕上げ作業の復習
第7回 ⑤紐づくり成形によるマグカップ仕上げ（各自デザイン）	〃
第8回 【タタラ（板）成形】①板皿制作 粘土をスライスする	タタラ（板）成形の特徴を復習
第9回 ②板皿制作 形のデザイン（石膏による押し型成形含）	押し型成形について予習
第10回 ③陶箱制作 顔料の練込み・粘土をスライスする	練り込みについて予習
第11回 ④陶箱制作 カット・組み立て、仕上げ	仕上げ作業の復習
第12回 釉掛け（飯碗・マグカップ） ＊釉薬の掛け分け	釉掛け作業の復習
第13回 釉掛け（板皿） ＊下絵付けによる装飾	下絵付けについて予習
第14回 釉掛け（陶箱） → 窯詰め（本焼き）	釉掛け作業の復習
第15回 窯出し 講評	まとめ

■ 履修上の注意

・工芸基礎科目であるため、欠席・遅刻の無いよう授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50％（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50％
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔基礎の陶芸1：器のつくりかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2, 420円〕

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

工芸基礎Ⅱ

(12107)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

染織技法の基礎となる「染め」「織り」について実習を行う。織計画に基づく組織図の記入方法及び浸染による糸染めについて指導を行い、糸効果では平織の糸配列によるパターンの可能性に関する研究を行う。染め実習では染色器具・染料・助剤等の役割、織り実習では三原組織と織機の構造を理解し、染織分野における基礎的な工程を把握する。織設計では図案に基づき素材を選択、浸染実習による糸染めを行う。卓上機を用いた制作工程を通して、織機の構造を理解しながら、設計したデザイン案に沿って織り作品を制作できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・染織実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。

①②

・織物の基礎である平織の技術を身につける。

①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 染織の基礎知識について	染色に関する資料収集・制作ノート作成
第2回 織り実習：糸効果 平織りの組織図と糸配列について	織物に関する資料調査・制作ノートのまとめ
第3回 織り実習：織計画 デザイン	図案に関する研究調査・制作ノートのまとめ
第4回 織り実習：糸量の計算	素材に関する研究・制作ノートのまとめ
第5回 浸染実習：糸の紵分け	浸染実習準備・制作ノートのまとめ
第6回 浸染実習：精練	浸染実習準備・制作ノートのまとめ
第7回 浸染実習：浸染 1色目	染色実習準備・制作ノートのまとめ
第8回 浸染実習：浸染 2色目	染色実習準備・制作ノートのまとめ
第9回 浸染実習：糸巻き 色見本帳制作	見本帳作成準備・制作ノートのまとめ
第10回 織り実習：整経	織機に関する調査・制作ノートのまとめ
第11回 織り実習：機上げ（卓上機）	織実習準備・制作ノートのまとめ
第12回 織り実習：織り作業①（下部）	織実習準備・制作ノートのまとめ
第13回 織り実習：織り作業②（上部）	織実習準備・制作ノートのまとめ
第14回 織り実習：仕上げ	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回 講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

実習費として実費（3,000円程度）を徴収する。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

工芸基礎Ⅱ

(12108)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

ガラス工芸技法のひとつである“バーナーワーク”の授業を行う。直接炎を扱い、熱く溶けたガラスを扱うため、器具や素材を十分理解し、安全に配慮した制作ができるように指導する。前半は、ガラスの種類・性質の違いなどを実践的に学び、ガラスについての理解を深める。後半は、軟質ガラスとエアバーナーを用い、トンボ玉の制作を行う。制作の入門編として初歩的な文様を中心に、基礎技法を身につけ、作品を完成させる。ガラス制作に携わってきた経験から、ガラス素材の魅力を感じる授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・安全なバーナーの取り扱いができるようになる。	①
・ガラスと炎の特性を知ることができる。	①
・基礎を理解し反復練習により技術を身につけられるようになる。	①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（授業概要説明）／座学（ガラスの種類について）	配布プリントを熟読すること。
第2回 バーナー器具の取り扱い（安全講習）	配布プリントを参照、復習すること。
第3回 ガラスの素材について① 軟質ガラス（佐竹）	配布プリントを参照、復習すること。
第4回 ガラスの素材について② 硬質ガラス（モレッティ）	配布プリントを参照、復習すること。
第5回 ガラスの素材について③ 硬質ガラス（耐熱ガラス）	配布プリントを参照、復習すること。
第6回 トンボ玉を作る① ガラスを溶かす（単色玉） ・回転だけで玉をつくる ・離型剤の付け方	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第7回 トンボ玉を作る② ガラスの巻取り（マープル玉） ・回転だけで玉をつくる ・芯棒の外し方 ・トンボ玉の穴の掃除	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第8回 トンボ玉を作る③ ガラスを巻付ける（線文様） ・コテを使って玉をつくる ・ガス缶の処理	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第9回 基本技法：線文様① 縄文様（ガラスの細引き）	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第10回 基本技法：線文様② 線流し文様（棒つなぎ）	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第11回 基本技法：点打ち① 水玉文様	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第12回 基本技法：点打ち② 同心円文様	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第13回 基本技法：点打ち③ 花文様	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第14回 自由制作「線文様、点打ち文様のトンボ玉を作る」	参考書やガラス関連の資料に目を通す。
第15回 講評会	授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・直接炎を扱い、素材のガラスが熱くなります。
火傷の危険があるので、安全のため、服装や髪形（結ぶ）など講師の指示に従うこと。
- ・ガラス棒の保管に留意すること（混ぜない／種類の把握）。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業中の態度、制作への姿勢（50％） ・講評会作品提出と出席、作品完成度（50％）
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

- ・授業で使用するガラス棒は、自己負担になります。ガイダンスで購入方法を案内します。
- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。

- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

工芸基礎Ⅱ

(12245)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆工芸は専門性が強いいため、その歴史から最先端の科学で解明されているその魅力を理解してもらえようにします。木を生かした基本塗りである摺漆技法を通し漆の特性、可能性について指導します。椀木地、合板プレート、形が自由に作れる皮革(漆皮〔しっぴ〕)にて漆素地の基礎を修得できるようにします。また色漆を用い文様、サイン等加飾への理解度を高めようにし、漆の多様性、表現法とともに刷毛、へら、筆の用具の扱い方も指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・漆器の素材(木製、皮革)の違いを理解し固めの作業ができる。	①③
・漆を理解し、作品を完成できる。	①②③
・漆の特性を活かし、色漆で表現できる。	①③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 漆について授業の説明	漆塗りのプリント配布
第2回 材料配布、木地調整、木地固め(木地固めの漆をつくる)	プリントを基に素材と木固め漆について理解しておく。
第3回 目止め、漆目止め(錆漆をつくる)	錆漆について理解しておく。
第4回 目止め研ぎ	錆漆の乾燥を見極め、下地処理ができていないこと。
第5回 木製素材：生漆 摺り1回目 研ぎ（生漆を扱うことが出来る）	素地の空研ぎ後、次の工程に進めるようにしておく。
第6回 木製木地：生漆 摺り2回目 研ぎ（色漆練習用手板について）	生漆をムラがなく塗るよう漆の粘度を調整しておく。
第7回 木製木地：生漆 摺り3回目 研ぎ（線描きの置目について）	塗り面が平滑であるか確認しておく。
第8回 ・木製木地：生漆 摺り4回目 研ぎ ・漆皮(しっぴ)：生漆塗り 表面	漆皮(しっぴ)について理解しておく。
第9回 ・木製木地：生漆 摺り5回目 研ぎ ・漆皮(しっぴ)：生漆塗り 裏面	漆絵のデザイン、サインを考察しておく。
第10回 ・木製木地：生漆 摺り6回目 仕上げ ・漆皮(しっぴ)：黒漆 表面	手板にて漆絵の漆の厚みを確かめておく。
第11回 ・手板(木製)：色漆塗り 1色目 ・漆皮(しっぴ)黒漆 裏面	漆絵の書割(かきり)、線描きの練習をしておく。
第12回 手板(木製)：色漆塗り 2色目	漆の厚みについて理解し、薄く均一に描く練習をしておく。
第13回 手板(木製)：色漆塗り 3色目	足りない色漆の仕上げをしておく。
第14回 手板(木製)：仕上げ磨き	仕上げ磨きができるようにしておく。
第15回 講評会	作品の扱いについてまとめておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。工芸基礎Ⅰ(漆芸)を履修していること。

■ 成績評価方法・基準

授業態度：(40%)⇒ 積極性、普段の態度、理解度等

作品提出：(60%)⇒ 完成度、デザイン、センス、用具の扱い、講評会課題提出でフィードバック

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし2〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕

〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・基本教材費：11,000円(税込)〔木製椀 1個, 合板プレート 1枚、〕皮革、漆、筆、ヘラ〕
- ・質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。）

(12109)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫 落 合 里 麻 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

デザインの基本的な知識やスキルを身につけることを目的とし、平面と立体、映像メディア表現に分けて課題制作に取り組ませる。平面では、抽象的な図形による画面構成に取り組ませ、制作意図に沿った表現ができるように指導する。立体では、平面状の紙から立体が生成する仕組みを通して、素材の特性による効果と造形表現の美しさ、可能性を見出せるよう指導する。直線・曲線による折り、ポップアップ、多面体を基にした立体作品を制作させる。映像メディア表現では映像作品を鑑賞し、メディアの特徴を課題（レポート・制作等）をとおして理解させる。

平面（三上／6回）、立体（落合／7回）、映像メディア表現（伊勢／2回）によるオムニバス授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・デザインの基本的な知識・技術を身につけることができる。	①
・素材の特性を造形表現として活かすことができる。	①
・幾何形体についての基本的な内容を理解できる。	②
・映像メディアの基本的内容を理解できる。	②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	次回課題の準備として情報を集める。
第2回	〈平面課題1〉レタリング イラスト 名刺をつくる	フォントについて調べる。
第3回	〃 名刺をつくる／講評	修正を加え再提出する。
第4回	〈平面課題2〉平面構成「点による構成」／課題説明	プリントを完成させ提出する。
第5回	〃 〃／制作	彩色の道具について各自、確認しておく。
第6回	〃 〃／講評	修正を加え再提出する。
第7回	〈立体課題1〉平面から立体を生成する1／課題説明・練習	道具を揃える。練習課題、試作を進める。
第8回	〃 〃／制作	折りを練習し、課題を進める。
第9回	〃 〃／制作・講評	課題を完成させる。
第10回	〈立体課題2〉平面から立体を生成する2／課題説明・練習	解説内容を復習し、練習課題を進める。
第11回	〃 〃／制作・講評	課題を完成させる。
第12回	〈立体課題3〉多面体／正多面体についての講義・練習	講義内容を復習する。各自で紙を購入する。
第13回	〃 〃／制作・講評	課題を完成させ、ポイント等をまとめる。
第14回	〈映像メディア表現課題〉／課題説明 講義・演習1	演習課題1を完成させる。
第15回	〃 〃／講義・演習2 まとめ	演習課題2を完成させる。
		授業を振り返り、ポイント等を整理する。

■ 履修上の注意

履修上の注意

絵具は不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。

はさみ、カッター、定規、接着剤等は各自で用意すること。立体の初回授業で指示をする。

■ 成績評価方法・基準

平面課題・映像メディア表現課題

提出課題40％授業態度20％、講評での発表の内容40％で評価する。

立体課題

提出課題70％授業態度30％で評価する。

講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。 必要に応じて授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、紹介する。

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

(12110)

三 上 秀 夫 落 合 里 麻

平面（三上／7回）、立体（落合／8回）によるオムニバス授業である。

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

メディア芸術基礎Ⅰ

(12111)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

メディア芸術基礎Ⅰでは、15回の授業を通してコンピューターを使用するための知識と情報リテラシーを学ぶ。情報を活用しながら、グラフィックソフト（Illustrator、Photoshop）による演習を行う。作品制作に必要なグラフィックソフトの基本的な操作と表現を身につけられるよう指導する。ICT（Information and Communication Technology）を活用しながら、デザイン・メディア表現への理解を促すと共に、多様なデジタル技法を知り、視野を広げられるよう教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・情報リテラシーを身につける	①
・Illustratorの基本的な操作と表現技法を身につける	①②
・Photoshopの基本的な操作と表現技法を身につける	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	鈴木・鶴巻	CP操作および情報リテラシーについて調査
第2回	課題1：情報表現（Illustrator基礎）／課題2：イメージ構成（グループワーク）「スケッチ」	鈴木・鶴巻	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第3回	課題1：情報表現（Illustrator基礎）／課題2：イメージ構成（グループワーク）「撮影、制作」	鈴木・鶴巻	制作準備・制作まとめ
第4回	課題3：実写による動画表現（グループワーク）／課題2：イメージ構成（Photoshop基礎）「加工、編集」	鈴木・鶴巻	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第5回	課題3：実写による動画表現（グループワーク）／課題2：イメージ構成（Photoshop基礎）「構成」	鈴木・鶴巻	制作準備・制作まとめ
第6回	課題2：イメージ構成（グループワーク）／課題1：情報表現（Illustrator基礎）「スケッチ」	鈴木・鶴巻	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第7回	課題2：イメージ構成（グループワーク）／課題1：情報表現（Illustrator基礎）「撮影、制作」	鈴木・鶴巻	制作準備・制作まとめ
第8回	課題2：イメージ構成（Photoshop基礎）／課題3：実写による動画表現（グループワーク）「加工、編集」	鈴木・鶴巻	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第9回	課題2：イメージ構成（Photoshop基礎）／課題3：実写による動画表現（グループワーク）「構成」	鈴木・鶴巻	制作準備・制作まとめ
第10回	課題提出、課題発表準備	鈴木・鶴巻	課題提出準備・発表準備
第11回	メディア芸術事例① 作品鑑賞	鈴木・鶴巻	メディア芸術作品の調査・ディスカッション準備

巻		
第12回	メディア芸術事例① ディスカッション、発表	発表準備・発表まとめ
鈴木・鶴		
巻		
第13回	メディア芸術事例② 作品鑑賞	メディア芸術作品の調査・ディスカッション準備
鈴木・鶴		
巻		
第14回	メディア芸術事例② ディスカッション、発表	発表準備・発表まとめ
鈴木・鶴		
巻		
第15回	課題発表、講評	発表準備・課題全体のまとめ
鈴木・鶴		
巻		

■ 履修上の注意

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

必要に応じて教材・材料費（500円程度）を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（40%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

ワークシートを配布する。

■ 参考書

これからはじめるIllustratorの本（技術評論社）、これからはじめるPhotoshopの本（技術評論社）、アニメーションの本
 - 動く絵を描く基礎知識と作画の実際（合同出版）、ノンデザイナーズ・デザインブック（マイナビ出版）

■ 備考

機器台数に限りがあるため2グループ制（A・B）で行う場合があります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

メディア芸術基礎Ⅱ

(12112)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

メディア芸術基礎Ⅱでは、コンピューターを使用するための応用的な知識と技能を学ぶ。グラフィックソフトを用いた演習を通して、今後の作品制作に必要なソフトの応用的な操作と表現技法を身につけられるよう指導する。課題発表、プレゼンテーションを通して他者に作品の制作意図を伝えられるよう指導する。メディア芸術の事例を紹介しながら、デザイン・メディア表現への理解を促すと共に、多様なデジタル技法を知り、視野を広げられるよう教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ・Illustratorの応用的な操作と表現技法を身につける | ③④ |
| ・Photoshopの応用的な操作と表現技法を身につける | ③④ |
| ・発表、プレゼンテーションを通して他者に作品の制作意図を伝えられる | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	鈴木・鶴巻	CP操作およびリテラシーについて調査
第2回	課題1：情報表現演習／課題2：アニメーション基礎「構想、スケッチ」	鈴木・鶴巻	ソフトについての調査・制作準備
第3回	課題1：情報表現演習／課題2：アニメーション基礎「下描き」	鈴木・鶴巻	制作技法の調査・制作プロセスの構築
第4回	課題1：情報表現演習／課題2：アニメーション基礎「制作」	鈴木・鶴巻	制作準備・制作プロセスのまとめ
第5回	課題3：アイデア発想演習／課題2：アニメーション基礎「動画化」	鈴木・鶴巻	制作まとめ
第6回	課題2：アニメーション基礎／課題1：情報表現演習「構想、スケッチ」	鈴木・鶴巻	ソフトについての調査・制作準備
第7回	課題2：アニメーション基礎／課題1：情報表現演習「下描き」	鈴木・鶴巻	制作技法の調査・制作プロセスの構築
第8回	課題2：アニメーション基礎／課題1：情報表現演習「制作」	鈴木・鶴巻	制作準備・制作プロセスのまとめ
第9回	課題2：アニメーション基礎／課題3：アイデア発想演習「動画化」	鈴木・鶴巻	制作まとめ
第10回	課題提出、課題発表準備	鈴木・鶴巻	課題提出準備・発表準備
第11回	メディア芸術事例 作品鑑賞①	鈴木・鶴巻	メディア芸術の調査・ディスカッション準備
第12回	作品鑑賞① ディスカッション、発表	鈴木・鶴巻	発表準備・発表まとめ
第13回	メディア芸術事例 作品鑑賞②		メディア芸術作品の調査・ディスカッション準備

鈴木・鶴巻		
第14回	作品鑑賞② ディスカッション、発表	発表準備・発表まとめ
	鈴木・鶴巻	
巻		
第15回	課題発表、講評	発表準備・課題全体のまとめ
	鈴木・鶴巻	
巻		

■ 履修上の注意

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

必要に応じて教材・材料費（500円程度）を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（40%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

ワークシートを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

これからはじめるIllustratorの本（技術評論社）、これからはじめるPhotoshopの本（技術評論社）、アニメーションの本
 - 動く絵を描く基礎知識と作画の実際（合同出版）、ノンデザイナーズ・デザインブック（マイナビ出版）

■ 備考

機器台数に限りがあるため2グループ制（A・B）で行う場合があります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

洋画Ⅰ

(12113)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整

■ 授業の概要

授業概要

洋画の基礎となるテーマ及び技術を学び、主体的に美術活動に取り組む姿勢や態度を身に付けさせる。絵画基礎での経験を踏まえて、写生を原則として、明暗・色彩・立体感・空間等の洋画表現の諸要素への理解を促す。実制作に当たっては、制作に対する基本的な姿勢や態度を養うと共に、洋画に伝統的に使用されてきた画材料の使用法等技術面での指導を行う。課題は大きくⅠ～Ⅲまで設定し、Ⅰ、Ⅱは全員が同一のモチーフを着彩によって描画、Ⅲは各自設定したモチーフ（風景を含む）を、自ら立案した計画に沿って制作させ、基本的な制作過程を意識させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|-----|
| ・ a. 洋画表現について基本的な知識を身に付け、生活の中での意識を理解する。 | ①②③ |
| ・ b. 洋画の専門的な表現方法・技術を修得し、社会で有用となるスキル身に付ける。 | ③⑤ |
| ・ c. 制作のプロセスを理解し、問題意識を持って主体的・持続的に制作する態度を獲得する。 | ⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・ 授業の導入(科目・成績評価・画材等の説明)	課題に使用する画材の準備
第2回	・ 制作Ⅰ 静物着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第3回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第4回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第5回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・ 制作Ⅱ 人物着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第7回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第8回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第9回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第10回	・ 制作Ⅲ 自由制作(制作意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作意図・エスキース・構図・下地)
第11回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第12回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第13回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第14回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)	〃 (全体を踏まえた仕上げ)
第15回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	

■ 履修上の注意

- ・ 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・ 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 到達目標a…10%(講評会)、b…65%(課題)、c…25%(授業態度、課題)
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 特に指定しない。

■ 参考書

- ・ 随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

洋画Ⅱ

(12114)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整

■ 授業の概要

洋画で扱うテーマ及び技術を学び、主体的に美術活動に取り組む姿勢や態度を養い、洋画表現と自分自身を含む実社会との関係性を自覚させる。洋画Ⅰで経験した洋画表現の諸要素への理解を踏まえ、個々人の創造力の基礎を育む。課題は大きくⅠ～Ⅲまで設定し、Ⅰでは写生、Ⅱでは構想、Ⅲではそれらを統合した表現を指導する。テーマにあった画材料を選択、自ら立案した計画に沿って制作させることで、各自に合った基本的な制作過程及び表現を意識させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|----|
| ・ a. 洋画表現について専門的な知識を身に付け、社会の中での意義を理解する。 | ②③ |
| ・ b. 自己の課題に基づいた洋画の専門的な表現方法・技術を修得し、社会の中で有用となるスキルを身に付ける。 | ③⑤ |
| ・ c. 制作のプロセスや描画材の特性を十分に理解し、問題意識を持って主体的に制作する態度を獲得する。 | ⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・ 導入(科目・成績評価・画材等の説明)	課題に使用する画材の準備
第2回	・ 制作Ⅰ 人物デッサンor着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第3回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第4回	・ 〃 (部分的な把握)	〃 (部分的な把握)
第5回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ) (講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・ 制作Ⅱ 文章題 (エスキース・構図・下地)	課題の継続制作 (エスキース・構図・下地)
第7回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第8回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第9回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ) (講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第10回	・ 制作Ⅲ 自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)
第11回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第12回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第13回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第14回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)	〃 (全体を踏まえた仕上げ)
第15回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ) (講評会)	

■ 履修上の注意

- ・ 制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・ 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 到達目標a…10% (講評会)、b…65% (課題)、c…25% (授業態度、課題)
- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 特に指定しない。

■ 参考書

- ・ 随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

洋画Ⅲ

(12115)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (60 + 30)

対象学科: 美表3年

授業形態: 実技 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整

■ 授業の概要

主体的に洋画表現を深めるために必要となる専門的技術及び美的創造力を身に付けさせる。写生表現の他に、個人の内面的なテーマによる着彩等を課す。洋画における絵画空間を意識した上で、洋画Ⅰ・Ⅱで修得した技術を深化させた主題及びコンセプトの具現化を目指して指導する。また、テーマの明確化・醸成をはかるためにドローイングを複数制作させる。さらに、社会と自己の洋画表現との関係性について説明を求め、表現行為の意義を考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・洋画表現の理論を理解し、専門的な表現方法・技術を身に付ける。 | ③ |
| ・社会との関わりにおいて、美術表現の有効性を理解し、これに係る自己の課題を発見することができる。 | ③⑤⑨ |
| ・自己表現の精度、説得力を意識し、生涯にわたって美術活動を行う力・態度を身に付ける。 | ⑦⑨ |

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	・ 導入(科目・成績評価・画材等の説明)、制作Ⅰ ドローイング(課題の説明)	課題に使用する画材の準備
第2回	・ 制作Ⅰ ドローイング(1、2)	課題の継続制作ドローイング(1、2)
第3回	・ // ドローイング(3、4)	// ドローイング(3、4)
第4回	・ // ドローイング(5、6)	// ドローイング(5、6)
第5回	・ // (講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・ 制作Ⅱ 自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)
第7回	・ // (全体的な把握)	// (全体的な把握)
第8回	・ // (部分的な描きこみ)	// (部分的な描きこみ)
第9回	・ // (部分的な描きこみ)	// (部分的な描きこみ)
第10回	・ // (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第11回	・ 制作Ⅲ 自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)
第12回	・ // (全体的な把握)	// (全体的な把握)
第13回	・ // (部分的な描きこみ)	// (部分的な描きこみ)
第14回	・ // (部分的な描きこみ)	// (部分的な描きこみ)
第15回	・ // (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

洋画Ⅳ

(12116)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整

■ 授業の概要

洋画Ⅲの学修を踏まえ、主体的に洋画表現を深め、個人の課題を十分意識した制作を指導する。従って3課題のすべてを自由制作とし、使用する画材料なども任意とする。そして、これまで学んできた専門的技術及び表現材料を活用した、個人の内面的なテーマ及びコンセプトの表現を実現させる。また、洋画表現の構成要素（作品の造形性、制作行為、発表活動、自己及び社会に及ぼす影響等）への包括的な理解を促がし、表現行為の意義を理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・洋画表現の意義を社会・文化等との関係において理解することができる。 ③
- ・主体的・専門的な表現方法・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。 ⑨
- ・持続的に美術活動(制作)を行うことで、社会の課題解決につながる多様な視点とスキルを獲得することができる。 ⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・ 授業の導入（科目・成績評価・画材等の説明）	課題に使用する画材の準備
第2回	・ 制作Ⅰ自由制作(制作意図・エスキース)	課題の継続制作(制作意図・エスキース)
第3回	・ " (全体的な把握)	" (全体的な把握)
第4回	・ " (部分的な描きこみ)	" (部分的な描きこみ)
第5回	・ " (全体を踏まえた仕上げ) (講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・ 制作Ⅱ自由制作(制作意図・エスキース)	課題の継続制作(制作意図・エスキース)
第7回	・ " (全体的な把握)	" (全体的な把握)
第8回	・ " (部分的な描きこみ)	" (部分的な描きこみ)
第9回	・ " (部分的な描きこみ)	" (部分的な描きこみ)
第10回	・ " (全体を踏まえた仕上げ) (講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第11回	・ 制作Ⅲ自由制作(制作意図・エスキース)	課題の継続制作(制作意図・エスキース)
第12回	・ " (部分的な描きこみ全体的な把握)	" (部分的な描きこみ全体的な把握)
第13回	・ " (部分的な描きこみ)	" (部分的な描きこみ)
第14回	・ " (全体を踏まえた仕上げ)	" (全体を踏まえた仕上げ)
第15回	・ " (全体を踏まえた仕上げ) (講評会)	

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

日本画Ⅰ

(12117)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

安 住 英 之

■ 授業の概要

日本画の初歩的な知識・技法の修得を目的とさせる。日本画制作のトータルプロセスをひと通り体験して学びながら、その成果を1点の作品（10号サイズ以上）に仕上げ課題を提出させる。デッサン（写生・素描）からエスキース（作品の構想や構図などを練る下図）へと進み、最終的にタブロー（本画）完成に至るまで、プロセスごとに具体的な技術指導を行い、履修者の進度に応じて概論的な知識の伝授も随時行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・素描力、描写力の向上ができる。	②③
・日本画特有の構図の研究により構図力を身に付けることができる。	①③⑤
・日本画画材の基礎知識、基礎技法を修得できる。	①②③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入 科目の説明	東洋、日本の絵画の鑑賞。
第2回 構想	モチーフやテーマの模索。
第3回 デッサン	出来るだけ対象を観察し描写をする。
第4回 デッサンからエスキース（小下図）作成	観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。
第5回 大下図の制作 開始	デッサンを常に見返しておくこと。
第6回 大下図の制作 仕上げ 水張り	仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。
第7回 タブロー（本画）制作 トレース 骨描き	骨描きのため線の引き方を練習する。
第8回 タブロー（本画）制作 墨にて陰影を施す	墨のぼかしの練習をする。
第9回 タブロー（本画）制作 墨での陰影仕上げ	墨の陰影の適確さと美しさの確認。
第10回 タブロー（本画）制作 下塗り、下地作り	備品の技法書等で下地について下調べをしておく。
第11回 タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での大まかな描き込み	備品の技法書等で水干と岩絵具の具について下調べをしておく。
第12回 タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での各部分の描き込み	出来るだけ制作を進める。膠の管理。
第13回 タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での細部の描き込み	出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。
第14回 タブロー（本画）制作 仕上げ	描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。
第15回 講評	難しかった点、努力した点を言葉でまとめておく。

■ 履修上の注意

丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

■ 成績評価方法・基準

課題作70％（完成度50％ 意図・発想20％）

授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）

講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

日本画Ⅱ

(12118)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

安 住 英 之

■ 授業の概要

日本画の基礎的な知識・技法の習得を目的とさせる。1単位（総授業時間＋自習時間）を「制作1／制作2」と2期に大別し、制作1では、主にマチエール研究（墨・岩絵具・箔・胡粉・和紙などの伝統画材だけでなく、他分野の画材とのミクストメディア的な研究を含む）を行わせる。制作2では、制作1の研究で学んだ表現技術を活用して日本画制作を実習し、その成果を1点の作品（10号サイズ以上）に仕上げ、課題を提出させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------------|----|
| ・箔押しや盛り上げ等のマチエール技法の習得ができる。 | ③⑤ |
| ・アクリル絵具や版技法等、他の画材や技法との併用の体験できる。 | ③⑤ |
| ・ドーサ引き（滲み止め）により、支持体への意識を高めることができる。 | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入 科目の説明	日本画Ⅰでの経験をふまえ日本画Ⅱで目指す抱負を言葉にしてまとめておく。
第2回 制作1：テストプレート ドーサ引き	ドーサが施されているかいないかでどう描写が違ってくるのか、過去作品で確認する。
第3回 制作1：テストプレート 盛り上げ	自分の思うところまで盛り上げておく。
第4回 制作1：テストプレート 重ね塗り・たらし込み アクリルとの併用	思いついたことは実行しておく。
第5回 制作1：テストプレート 箔押し・絵具を焼く	箔が施された作品を鑑賞しておく。
第6回 制作2：デッサン・資料研究 テーマの探求	モチーフやテーマを事前に考えておく。
第7回 制作2：デッサン・資料研究 テーマの探究	モチーフやテーマについて調べておく。
第8回 制作2：エスキース（小下図）制作開始	観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。
第9回 制作2：エスキース（小下図）仕上げとトレース	念紙作りを済ませておく。
第10回 制作2：タブロー（本画）制作 墨での下描き、もしくは下地作り開始	備品の技法書等で下地について下調べをしておく。
第11回 制作2：タブロー（本画）制作 墨での下描き、もしくは下地作り仕上げ	備品の技法書等で水干と岩絵具について下調べをしておく。
第12回 制作2：タブロー（本画）制作 水干及び岩絵具での制作開始	出来るだけ制作を進める。膠の管理。
第13回 制作2：タブロー（本画）制作 水干及び岩絵具での制作描き込み	出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。
第14回 制作2：タブロー（本画）制作 水干及び岩絵具での制作仕上げ	描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。
第15回 講評	難しかった点、努力した点をまとめておく。

■ 履修上の注意

日本画Ⅰを修得していること。

丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）

授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）

講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

日本画Ⅲ

(12119)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

安 住 英 之

■ 授業の概要

日本画の基礎的な知識・技法を踏まえた上で、より高度な美術表現を目指す授業。作品のテーマを意識し、その制作意図を鑑賞者への確に伝えるための思考法や技術を指導する。画材（墨・岩絵具など）や支持体（和紙など）の選定段階から個々のテーマに即して吟味させるなど、材料特性への意識を高め、その特性を効果的に活かした制作を行うことによって、表現の幅を広げさせる。その成果を20号以上の作品に仕上げ課題を提出させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------------|------|
| ・自己や社会と向き合い、制作のテーマを見いだすことができる。 | ③⑤⑦⑧ |
| ・テーマの表現に必要な知識・技法を習得し、使いこなすことができる。 | ③⑤⑨ |
| ・より良い表現を目指し、技法を工夫・開発する力をつけることができる。 | ⑤⑦⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入 科目の説明	日本画Ⅱでの経験をふまえ日本画Ⅲで目指す抱負を言葉にしてまとめておく。
第2回 構想	モチーフやテーマの模索。
第3回 デッサン	出来るだけ対象を観察し描写をする。
第4回 デッサンからエスキース（小下図）作成	観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。
第5回 大下図の制作 開始	デッサンを常に見返しておくこと。
第6回 大下図の制作 仕上げ 水張り	仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。
第7回 タブロー（本画）制作 トレース 骨描き	骨描きのため線の引き方を練習する。
第8回 タブロー（本画）制作 墨にて陰影を施す	墨のぼかしの練習をする。
第9回 タブロー（本画）制作 墨での陰影仕上げ	墨の陰影の適確さと美しさの確認。
第10回 タブロー（本画）制作 下塗り、下地作り	備品の技法書等で下地について下調べをしておく。
第11回 タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵の具での大まかな描き込み	備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。
第12回 タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵の具での各部分の描き込み	出来るだけ制作を進める。膠の管理。
第13回 タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵の具での細部の描き込み	出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。
第14回 タブロー（本画）制作 仕上げ	描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。
第15回 講評	難しかった点、努力した点をまとめておく。

■ 履修上の注意

日本画Ⅱを修得していること。

丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）

授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）

講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

日本画Ⅳ

(12120)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

安 住 英 之

■ 授業の概要

展示・発表の段階までを視野に入れた企画立案、および作品制作の実習を行わせる。個々のテーマを効果的に伝えるための展示空間を想定し、空間演出の観点によって作品点数やサイズ、配置方法などを計画した上で制作を行わせる。複数作品の組み合わせ、または20号サイズ以上の作品1点の制作を課題とさせる。日本の生活・文化・建築などと深く関わりながら進化を遂げた様式美としての日本画を念頭に置き「現代の表現としてその技法をどう活かすか」という視点を養わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「現代における日本画」の意味を考察できる。
- ・自己のスタイルを模索できる。
- ・展示空間を意識する感覚を養うことができる。

③

③

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入 科目の説明

東洋、日本の絵画の鑑賞。

第2回 構想

モチーフやテーマの模索。

第3回 展示図面作成

出来るだけ対象を観察し描写をする。

第4回 エスキース（小下図）制作開始

観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。

第5回 エスキース（小下図）制作仕上げ

デッサンを常に見返しておくこと。

第6回 意図と計画の説明 水張り

仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。

第7回 トレース

骨描きのため線の引き方を練習する。

第8回 タブロー（本画）骨描き

墨のぼかしの練習をする。

第9回 タブロー（本画）墨による陰影描き込み

墨の陰影の適確さと美しさの確認。

第10回 タブロー（本画）墨による陰影仕上げ

備品の技法書等で下地について下調べをしておく。

第11回 タブロー（本画）下地作り・下塗り

備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。

第12回 タブロー（本画）水干及び岩絵の具による制作開始

出来るだけ制作を進める。膠の管理。

第13回 タブロー（本画）水干及び岩絵の具による描き込み

出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。

第14回 タブロー（本画）水干及び岩絵の具による仕上げ

描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。

第15回 講評

難しかった点、努力した点をまとめておく。

■ 履修上の注意

日本画Ⅲを修得していること。

丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）

授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）

講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

版画Ⅰ

(12121)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「板目木版（木版画）」、「シルクスクリーン（孔版）」2種類の基礎的な版画技法を習得することを目的に、道具・機器の使用法とその効果について指導する。版画表現の構造を理解し、多様な表現方法を体験することで今後の創作活動における技術と思考展開の幅が広がるように指導する。版画は文字や画像の複製を目的に発展し、昨今ではDTPなどに取って代わる部分も多いが、版種ごとの特性を活かした芸術表現の可能性についても考察を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・木版、孔版の基礎的な技法と工程を理解し身につける。	②
・孔版、木版の表現の多様な表現を理解し身につける。	③
・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。	⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	制作記録ファイルの作成
第2回 木版画の構造と印刷工程、作品鑑賞	制作工程の確認／制作記録ファイル更新
第3回 ドローイングと製版①	ドローイング／制作記録ファイル更新
第4回 ドローイングと製版②	ドローイング・製版／制作記録ファイル更新
第5回 印刷①試摺り	試摺り後の修正検討①／制作記録ファイル更新
第6回 印刷②版の修正、試摺り	試摺り後の修正検討②／制作記録ファイル更新
第7回 印刷③本摺り	本摺り後の展開と課題をまとめる／制作記録ファイル更新
第8回 コロキウム「木版画について」	制作記録ファイルの提出
第9回 シルクスクリーンの構造と印刷工程、作品鑑賞	制作工程の確認／制作記録ファイル更新
第10回 ドローイングと製版①	ドローイング／制作記録ファイル更新
第11回 ドローイングと製版②	ドローイング・製版／制作記録ファイル更新
第12回 印刷①試摺り	試摺り後の修正検討①／制作記録ファイル更新
第13回 印刷②版の修正	試摺り後の修正検討②／制作記録ファイル更新
第14回 印刷③本摺り	本摺り後の展開と課題をまとめる／制作記録ファイル更新
第15回 コロキウム「シルクスクリーンについて」	制作記録ファイルの提出

■ 履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。積極的に課題に取り組むよう心がける。

場合により材料費の自己負担がある。

■ 成績評価方法・基準

課題制作50%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50% 作品課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

版画Ⅱ

(12122)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「銅版画（凹版）」、「リトグラフ（平版）」2種類の基礎的な版画技法を習得することを目的に、道具・機器の使用法とその効果について指導する。版画表現の構造を理解し、その多様な効果を体験することで今後の創作活動における技術と思考展開の幅が広がるように指導する。版画は文字や画像の複製を目的に発展し、昨今ではDTPなどに取って代わる部分も多いが、版種ごとの特性を活かした芸術表現の可能性についても考察を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・凹版、平版の基礎的な技法と工程を理解し身につける。	②
・凹版、平版の表現の多様な表現を理解し身につける。	③
・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。	⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	制作記録ファイルの作成
第2回 銅版画の構造と印刷工程、作品鑑賞	制作工程の確認／制作記録ファイル更新
第3回 ドローイングと製版①	ドローイング／制作記録ファイル更新
第4回 ドローイングと製版②	ドローイング・製版／制作記録ファイル更新
第5回 印刷①試摺り	試摺り後の修正検討①／制作記録ファイル更新
第6回 印刷②版の修正、試摺り	試摺り後の修正検討②／制作記録ファイル更新
第7回 印刷③本刷り	本摺り後の展開と課題をまとめる／制作記録ファイル更新
第8回 コロキウム「銅版画について」	制作記録ファイルの提出
第9回 リトグラフの構造と印刷工程、作品鑑賞	制作工程の確認／制作記録ファイル更新
第10回 ドローイングと製版①	ドローイング／制作記録ファイル更新
第11回 ドローイングと製版②	ドローイング・製版／制作記録ファイル更新
第12回 印刷①試摺り	試摺り後の修正検討①／制作記録ファイル更新
第13回 印刷②版の修正、試摺り	試摺り後の修正検討②／制作記録ファイル更新
第14回 印刷③本刷り	本摺り後の展開と課題をまとめる／制作記録ファイル更新
第15回 コロキウム「リトグラフについて」	制作記録ファイルの提出

■ 履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。積極的に課題に取り組むよう心がける。

場合により材料費の自己負担がある。

■ 成績評価方法・基準

課題制作50%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50% 作品課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

版画Ⅲ

(12123)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

大 堀 恵 子

■ 授業の概要

版画Ⅰ、Ⅱで経験した版種の基礎的な制作工程を踏まえて、「版」による多様な表現を試みる。「版」の重要な基本的性質のひとつである複数性を利用し、受講生全員による版画集を制作することを目標とし協働して物事に取り組む力を養う実学学習を实践する。版画は、直接筆や鉛筆を使って描いていく絵画と違い、版という間接的な素材と製版工程、印刷工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果がある。これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残り、制作の充実がはかれるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる。	③
・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する。	⑤
・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。	⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンスー授業内容の説明	記録するための制作ノートを用意する。
第2回 制作Ⅰ テーマ・エスキース	2回作業内容をまとめ次回提出。
第3回 制作Ⅰ 版制作・製版	3回作業内容をまとめ次回提出。
第4回 制作Ⅰ 試刷り	4回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第5回 制作Ⅰ 本刷り	5回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第6回 制作Ⅱ 版制作・製版	6回作業内容をまとめ次回提出。
第7回 制作Ⅱ 試刷り	7回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第8回 制作Ⅱ 本刷り	8回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第9回 制作Ⅲ 版制作・製版	9回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第10回 制作Ⅲ 試刷り	10回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第11回 制作Ⅲ 本刷り	11回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第12回 版画集制作・表紙のデザイン検討・印刷	12回作業内容をまとめ次回提出。
第13回 版画集制作・中表紙のデザイン検討・印刷	13回作業内容をまとめ次回提出。
第14回 版画集にまとめる	14回作業内容をまとめ次回提出。
第15回 講評会	講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出する。

■ 履修上の注意

制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

課題と作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。提出されたレポートは、後日添削し返却する。

1 課題作品（50％） 2 制作ノート（30％） 3 受講態度（積極的に参加している 20％）

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

画集等を紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

版画Ⅳ

(12124)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

大 堀 恵 子

■ 授業の概要

版画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した版の技法を基に、各自の制作方法が実技を通して確立することを目標とする。版画は、版という間接的な素材と製版工程、印刷工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果がある。これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残し、学内外への展示を通して自己の作品を客観視できる能力と、より専門分野についての深い理解力と、作品制作においての創造的思考力を総合的に活用し、制作の充実がはかれるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる。
- ・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する。
- ・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。

③

③

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	記録するための制作ノートを用意する。
第2回 学内外用作品制作－テーマ・エスキース	2回作業内容をまとめ次回提出。
第3回 版制作	3回作業内容をまとめ次回提出。
第4回 製版	4回作業内容をまとめ次回提出。
第5回 試刷り	5回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第6回 本刷り	6回作業内容と課題をまとめ次回提出。
第7回 プレゼンテーション	7回作業内容をまとめ次回提出。
第8回 学内外用作品制作－テーマ・エスキース	8回作業内容をまとめ次回提出。
第9回 版制作	9回作業内容をまとめ次回提出。
第10回 製版	10回作業内容をまとめ次回提出。
第11回 試刷り	11回作業内容と課題をまとめ次回提出
第12回 本刷り	12回作業内容と課題をまとめ次回提出
第13回 本刷り－支持体検討	13回作業内容と課題をまとめ次回提出
第14回 プレゼンテーション	14回作業内容をまとめ次回提出。
第15回 講評会	講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出する。

■ 履修上の注意

制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

課題と作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。提出されたレポートは、後日添削し返却する。

1 課題作品（50％）2 制作ノート（30％）3 受講態度（積極的に参加している 20％）

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

画集等を紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

壁画Ⅰ

(12125)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森 敏 美

■ 授業の概要

絵画のルーツ（美術・工芸・デザインの源）としての壁画を見直し、様々な壁画の技法を学ばせる。ここでは建築アートとしての壁画のうち、モザイクの技法を修得させる。モザイクの技法も様々あるが、実際の建築物或いは造形物に取り付けることを想定し、その取り付ける場所の環境、状況を把握する論理的思考力、創造的实践力と表現力を身につけ、美術を通して地域社会に貢献できる（生活と美の融合を実践し得る数少ない美術のジャンルの一つ）ものとして壁画を学ばせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・モザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができる。 | ①③ |
| ・建築アートがどのようなものか知ることが出来る。 | ①③ |
| ・地域社会と協働でプロジェクトを行う術を学べる。 | ⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：画集で作品紹介。材料、用具等の説明。	予め関連画集等を、図書館等で調べる
第2回 協働で行う実践例を紹介し、具体例を通し計画を立てる。	出来たら設置されている施設を見学
第3回 下絵制作：模写をする為、画集から選考し下絵を作る。	図書館等で適当な画集を調べる
第4回 材料研究：模写の材料を選択し、材料の加工に入る。	材料や下絵の準備を計画
第5回 制作：パネル制作・材料加工準備。	時間内に間に合うように段取りする
第6回 パネル周辺からモザイクをはり出す。	モザイク片の大きさに注意して貼る
第7回 モチーフの中心部を手がける。	モザイクの流れを見直す
第8回 モチーフを仕上げて行く。	時間をかけて丁寧に
第9回 モチーフと周辺のバランスを見て行く。	ピースの大きさを揃える
第10回 周辺部分とモチーフ絵柄の部分に合わせて行く。	モザイクの流れを見てゆく
第11回 次第に完成に近づける。	足りない時間は、授業の合間に
第12回 細部を仕上げて行く。	丁寧に仕上げ修正も行う
第13回 全体のバランスを見て仕上げる。	時間外も有効に活用
第14回 作品完成、片付け、材料整理。	不備な点は修正する
第15回 講評会（作品に関するフィードバック）	各自、制作に関しての意見を述べる

■ 履修上の注意

時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し完成させる。

■ 成績評価方法・基準

課題制作90％、平常点10％（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）

課題に関しては、毎回講評会を通じて学生と相互の作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

図書館、壁画工房所蔵のモザイク関係の図書

■ 備考

オフィスアワーの有効活用を積極的に勧める。

壁画Ⅱ

(12126)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森 敏 美

■ 授業の概要

絵画のルーツとしての壁画を見直し、美術・工芸・デザインに関連させる様々な壁画の技法を学ばせる。ここでは建築アートとしての壁画のうち、ステンドグラスの技法を修得させる。

光の壁画としてステンドグラスは壁画の中に位置付けられるが、ここでは基本的なステンドグラスの技法を修得し、表現力と創造力の育成を図らせる。建築空間に美的感性を見出し、空間演出を实践し得る美術表現分野における高度な専門知識を身に付け、文化・自然・社会に関連付けて壁画を学ばせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・モザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができる。	①②③
・建築アートがどのようなものか知ることが出来る。	①②③
・地域社会と協働でプロジェクトを行う術を学べる。	⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：図書館の画集や工房の資料を利用し説明	予め関連画集等を、図書館等で調べる
第2回 下絵制作：模写をする為、画集等を見てコピーしトレースする。 実際に取り付けられた実践例を示し参考にする。	学内に設置されたステンドを予め見ておく
第3回 制作：型紙制作とガラスのカット練習	怪我に注意し練習を繰り返す
第4回 ガラスカット練習（型紙を使う）	正確に作れるように留意する
第5回 絵付け（ラインをひく）練習	筆捌きの練習を繰り返す
第6回 ぼかし絵付け 練習	きれいにぼかせる様にする
第7回 本制作用作品カット・ガラス組み	失敗したものは作り直す
第8回 本番絵付け（ライン入れ） 釜入れ	デザインによって何回か行う
第9回 本番ぼかし絵付け 釜入れ	ラインに沿うように絵付け
第10回 シルバーステイン作業 釜入れ	必要の無い人はしません
第11回 ガラス調整	大きさを正確に
第12回 コバーテープ巻き	中心を外さないように正確に巻く
第13回 ハンダ付け	火傷をしないように練習
第14回 仕上げ	表面がきれいになる様に仕上げる
第15回 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをする

■ 履修上の注意

時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し制作を行なう。

■ 成績評価方法・基準

課題制作90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）

課題に関しては、毎回講評会を通じて学生と相互の作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

図書館、壁画工房内のステンド関係の図書

■ 備考

オフィスアワーを有効に利用すること（授業終了後）

壁画Ⅲ

(12127)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森 敏 美

■ 授業の概要

壁画Ⅰ・Ⅱで学んだ技法を活かし、実際の家屋や建築物に設置することを想定し、その取り付ける場所の環境、状況を把握する論理的思考力と創造力の育成、表現力を身につけ、家屋や地域の施設等に壁画の設置を想定し、エスキースやマケットを制作させる。場合によっては地域や対象設置場所をリサーチし様々な問題点に対処し、柔軟に解決する事ができるコミュニケーション能力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・壁画Ⅰ，Ⅱで学んだ各技法の応用力を高められる。	①③
・空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。	①③
・地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。	⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：個々で行う技法を選択し申告する	メモを取る
第2回 制作：エスキース・マケット・材料研究等	図書館等を利用し資料収集
第3回 実際に設置する場合と、応用制作の諸問題を検討する	必要と有れば設置希望現場を見ておく
第4回 本制作（パネル製作等）	予め使う材料等調べておく
第5回 材料準備	材料を精査する
第6回 作業1 制作に入る	制作にあたってメモ、ノートを作る
第7回 作業2 制作過程を確認	わからない所は聞くこと
第8回 作業3 全体像を把握する	計画を見直すことも
第9回 作業4 全体像の作りこみ	中間チェックに向けた準備
第10回 作業5 各部位の作りこみ 中間チェック	足りない時間は各自補う
第11回 作業6 各部位の確認	丁寧に直す
第12回 作業7 詳細の作りこみに入る	必要があれば時間外も制作する
第13回 作業8 詳細のバランス確認	引き続き、時間外も有効に活用する
第14回 作業9 仕上げ、完成	講評会に向けたチェック
第15回 作業10 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをとる

■ 履修上の注意

時間に遅れないこと。授業で補えないときは空き時間を利用し制作を行う。

■ 成績評価方法・基準

課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）

課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

図書館、壁画工房内の壁画関連の図書

■ 備考

オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）

壁画Ⅳ

(12128)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森 敏 美

■ 授業の概要

建築アートとしての壁画（モザイク・ステンドグラス・フレスコ）の技法を活かし、実際の建築物或いは造形物に設置することを想定し、その設置する場所の環境、状況を把握する論理的思考力と創造力の育成、表現力を身につけ、家屋や地域の施設に様々な壁画の設置を想定し制作させる。場合によっては設置場所をリサーチし様々な問題点を見出し柔軟に対応することで、解決する事ができるコミュニケーション能力を身につけさせる。また、壁画技法を応用した表現作品も検討させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 壁画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ各技法の応用力が高められる。	①③
・ 空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。	①③
・ 地域との様々なコミュニケーション能力が高められる。	⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：個々で行う技法、趣旨を選択し申告する	メモを取る
第2回 制作：エスキース・マケット・材料研究等	図書館等を利用し資料収集
第3回 実際に設置する場合と、応用制作の諸問題を検討する	必要と有れば設置希望現場を見ておく
第4回 本制作（パネル製作等）	予め使う材料等調べておく
第5回 材料準備	材料を精査する
第6回 作業1 制作に入る	制作にあたってメモ、ノートを作る
第7回 作業2 制作過程を確認	わからない所は聞くこと
第8回 作業3 全体像を把握する	計画を見直すことも
第9回 作業4 全体像の作りこみ	中間チェックに向けた準備
第10回 作業5 各部位の作りこみ 中間チェック	足りない時間は各自補う
第11回 作業6 各部位の確認	丁寧に直す
第12回 作業7 詳細の作りこみに入る	必要が有れば時間外も制作する
第13回 作業8 詳細のバランス確認	引き続き、時間外も有効に活用する
第14回 作業9 仕上げ、完成	講評会に向けたチェック
第15回 作業10 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをとる

■ 履修上の注意

時間に遅れないこと。授業で補えないときは空き時間を利用し制作を行う。

■ 成績評価方法・基準

課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）

課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

図書館、壁画工房内のステンドグラス関連の図書

■ 備考

オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）

彫刻Ⅰ

(12129)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

彫刻作品とは何かを学ぶ。宮城県美術館の彫刻作品研究や様々な美術作品を紹介し興味を喚起し制作に主体的に取り組むための態度を身に付けさせる。彫刻の造形要素である、量感、塊、動勢、空間、表面を塑造により教授する。

デッサンを重視し紙のうえで造形要素を意識させてから友人をモデルにして心棒作りから制作、石膏取りまでを教授する。立体の意識を身に付けるために自作教材の面取りの像も参考にさせながら制作し、造形力とスキルを身に付けさせる。生動感のある彫刻作品を制作できるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・彫刻的造形力を身につける	①③
・生動感のある作品を制作することができる	③⑤
・作業を他と協働して行うことができる	⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容、注意事項、評価方法説明、参考作品紹介	シラバスを読む
第2回	宮城県美術館、佐藤忠良記念館の彫刻作品研究	彫刻についての資料研究
第3回	友人をモデルにする彫刻について	自習プリントを読む
第4回	制作 心棒作り、粘土練	自習プリントを読む
第5回	制作 荒付け、生動感と量の構成	自習プリントを読む
第6回	制作 荒付け 面を意識して	自習プリントを読み面について考察
第7回	制作 面の構成と塊、	自習プリントを読む
第8回	制作 面と細部	自習プリントを読み面。細部を考察について考察
第9回	制作 面と空間	自習プリントを読み空間について考察
第10回	石膏取り 説明、型作り	石膏取りプリントを読む
第11回	石膏取り 型作り 粘土抜き	石膏取りプリントを読む
第12回	石膏取り 型張り込み 型あわせ	石膏取りプリントを読む
第13回	石膏取り 割り出し	石膏取りプリントを読む
第14回	石膏取り 修正	石膏取りプリントを読む
第15回	講評会 生動感が表現されているか	石膏取りレポート提出

■ 履修上の注意

美術館の見学レポート、石膏取りのレポートを作成、提出します。作業の安全に留意して怪我をしないようにしてください。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）提出レポート20%（評価して返却します）ルーブリックに基づき評価します。

■ 教科書

プリント、資料を配布します。

■ 参考書

プリント、資料を配布します。「彫刻を作る」 美術出版社

■ 備考

質問は、オフィスアワーで受け付けます。

彫刻Ⅱ

(12130)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

彫刻に制作において重要な、制作テーマを動物と人間との関係において石彫の実技を通して教授する。花崗岩を使用して動物彫刻を制作する。八木山動物園で実際の動物を観察しその生動感を表現する。彫刻の造形要素である、量感、動勢、空間、表面を教授する。マケットを制作し、石を彫る身体を使い方から石材研磨法まで、造形力の養成を行い電動工具、エア工具、重量物運搬法等彫刻の専門家の基礎的スキルを教授することにより、今後の文化創造活動に取り組む意欲と態度を指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・彫造の造形技術を身につける	①
・美術的文化創造活動への意欲を持つことができる	④⑦
・制作を他と協働して安全に行うことができる	①⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業内容、注意事項、評価方法説明、テーマについて	シラバスを読む。課題提出
第2回 八木山動物園で動物研究	動物研究、課題提出
第3回 マケット制作、講評、花崗岩について	動物の骨格研究
第4回 石割作業、電動工具使用法、重量物運搬法	課題提出
第5回 荒彫、電動工具使用法、梃子使用法	制作継続
第6回 荒彫り（稜線をつなぐ面、動勢、全体と部分）	制作継続
第7回 荒彫り（稜線をつなぐ面、動勢、全体と部分）	制作継続
第8回 制作（塊と量感）	制作継続
第9回 制作（動勢表現法）	制作継続
第10回 制作（全体と部分、空間）	制作継続
第11回 制作（細部、密度）	制作継続
第12回 制作（密度表現、）	制作継続
第13回 制作（空間表現、）	制作継続
第14回 制作（場と彫刻、）	制作継続
第15回 . 講評会	まとめ

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出は別途指示します。作業中は自分だけでなく、他の人も怪我をしないように十分に安全に配慮してください。石彫の場合作業が遅れると作品ができません、欠席しないように充分体調を管理してください。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）提出レポート20%（評価して返却します）ルーブリックに基づき評価します。

■ 教科書

授業前に資料配布

■ 参考書

彫刻をつくる（美術出版社）、授業内で紹介

■ 備考

作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。

彫刻Ⅲ

(12131)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

全身、半身の人体像の制作を行う。学内の彫刻「校庭一のぞみ」や台原森林公園、定禅寺、等設置の彫刻作家の作品等を紹介しそれを写生させ、実物の彫刻的生動感や空間性に対して興味を喚起し、彫刻的造形活動に積極的に取り組む態度を指導する。人体彫刻の基礎的造形要素である、立つということ、偏立、量感、塊、動勢、空間、表面について塑像を題材として教授する。彫刻的デッサン、構想、構造に基づく心棒制作から造形的塑造法、人体塑像の石膏取りから修正までの作業を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・人体彫刻の基礎的造形要素を把握し表現できる
- ・人体の抽象性と生動感について理解できる
- ・石膏作業に習熟し、他と協働して行うことができる

①③

⑦⑨

⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容、注意事項、評価方法説明	シラバスを読む
第2回	台原森林公園等の野外彫刻研究、デッサン	プリントを読み自習してくる
第3回	人体のデッサン（モデル使用）、人体の構造、説明と実技	プリントを読み自習してくる、粘土練り
第4回	心棒作り、心の意味、デッサンを基にして、荒付け	彫刻制作プリント、荒付け
第5回	制作実技	制作実技 自主制作 1
第6回	制作実技 人体観察 立つ	制作実技 自主制作 2
第7回	制作実技 人体観察 生動感	制作実技 自主制作 3
第8回	制作実技 人体観察 量感	制作実技 自主制作 4
第9回	制作実技 人体観察 動勢	制作実技 自主制作 5
第10回	制作実技 人体観察 細部	制作実技 自主制作 6
第11回	制作実技 人体観察 表面	制作実技 自主制作 7
第12回	制作実技 人体観察 密度	制作実技 自主制作 8
第13回	石膏取り 1	石膏取り
第14回	石膏取り 2	石膏取り
第15回	石膏取り 3 講評	石膏取り

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出課題があります。時間外に必ず自主制作しなければ完成しません。彫刻室で作品と対峙して作品性を深めてください。彫刻室で自主制作する時間が取れない人は、履修は無理でしょう。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）提出レポート20%（評価してフィードバックします）ルーブリックに基づき評価します。

■ 教科書

彫刻についてのレポートを配布します

■ 参考書

彫塑 日貿出版社

■ 備考

最初の授業から作業しますので、作業着で来てください。質問等はオフィスアワーで対応します。

彫刻Ⅳ

(12132)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

石材、木材 等を素材として取り上げ、造形思考を進化させる。主として抽象表現を取り上げて自己のイメージを独創的に作品として表現させる。教員の活動や様々なアートによる環境造形活動を紹介し興味を喚起し、場所との関連による造形活動に主体的に取り組むための基本的態度を身に付けさせる。環境彫刻の要素である、場と空間を意識させる。野外アート展、各種公募展に出品させることにより、自己の作品のオリジナリティを確認し、場や空間、環境とどのように自己の作品を調和させてゆくのか研究させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・様々な素材による基礎的造形力を身につける
- ・場と空間を意識し生動感を表現することができる
- ・制作活動を他と協働して行うことができる

④⑦

⑧⑨

⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業内容、注意事項、評価方法説明、

シラバスを読む。課題提出

第2回 場と空間 説明と実技 テーマ設定

アートプロジェクト作品集、課題提出

第3回 素材選択作業、テーマとの関連

アイデアスケッチ制作

第4回 制作1 素材研究 テーマ深化

アイデアスケッチ完成

第5回 制作2 荒作り

制作継続1 自主制作

第6回 制作3

制作継続2 自主制作

第7回 制作4

制作継続3 自主制作

第8回 制作5

制作継続4 自主制作

第9回 制作6

制作継続5 自主制作

第10回 制作7

制作継続6 自主制作

第11回 制作8

制作継続7 自主制作

第12回 制作9

制作継続8 自主制作

第13回 制作10

制作継続9 自主制作

第14回 制作11

制作継続10 自主制作

第15回 野外アート展、公募展. 設置

制作継続 自主制作

■ 履修上の注意

基本的に、彫刻で卒業制作をする人が対象です。自主制作が必ず必要です。授業時間だけでは、不十分です。彫刻室で自主制作できない人は履修できません。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）提出レポート20%（評価して返却します）

■ 教科書

授業前に資料配布

■ 参考書

授業内で紹介

■ 備考

常に教員と連絡を取りながら、安全に作業します。授業外の質問はいつでも対応します。

人形 I

(12133)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (60 + 30)

対象学科 : 美表 2 年

授業形態 : 実技 学期 : 前期 必・選 : 選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

福 田 一 実

■ 授業の概要

創作人形作家として会得した技術などをもとに身近な人形、玩具などの存在について考えさせ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作できるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージを膨らませて実寸代でデッサンをさせ、設計図を作り、オリジナルのキャラクターを考えながら制作させる。関節は首、肩、股間のみとし、サイズは頭部8cmの3.5頭身もしくは4頭身のデフォルメの人形を制作させる。原則として人形 I ではドールアイを使用せず描き目にし、その表現について研究させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。	③⑦
・球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。	①⑤
・オリジナルな人形を完成させることができる。	⑤⑦

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回 芯を削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回 粘土を練り芯材に3~5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第5回 ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第6回 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ (手、胴、腕)
第7回 足、脚の造形。	やすりがけ (足、脚)
第8回 乾燥させ、すべてを磨く。	やすりがけ (全体)
第9回 関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。	やすりがけ (頭部)
第10回 球を磨き、各関節に固定する。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第11回 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、肩、脚に固定する。	全体のバランス確認。
第12回 仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする。
第13回 塗装する。着色、メイク。	メイクのイメージ、資料集め
第14回 髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第15回 組み立て完成させる。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50% (出席率、忘れ物の有無、創作意欲など) 講評会でフィードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

ルーブリックと評価については第一回目の授業で説明します。

質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

人形Ⅱ

(12134)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

福 田 一 実

■ 授業の概要

創作人形作家として会得した技術などをもとに人形の表現について考えさせ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作できるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形を通して自己の潜在意識を表現できるようにする。人形Ⅱでは頭部8cmの5頭身の人形を制作し、関節は首、肩、股間、手首、足首とする。個々の進行状況により腕、脚のカットやドールアイの使用を習得させ、人形の表現について研究させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。	③⑦
・球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。	⑤
・オリジナルな人形を完成させる。	⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回 芯を削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第5回 ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第6回 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ（手、胴、腕）
第7回 足、脚の造形。	やすりがけ（足、脚）
第8回 乾燥させ、すべてを磨く。	やすりがけ（全体）
第9回 関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。	やすりがけ（頭部）
第10回 球を磨き、各関節に固定する。（頭を開き、瞳を入れる）	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第11回 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	全体のバランス確認。
第12回 仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする
第13回 塗装する。着色、メイク。	メイクのイメージ、資料集め
第14回 髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第15回 組み立て完成させる。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50％、授業態度50％（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講習会でフィードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

ルーブリックと評価については第一回目の授業で説明します。

質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

人形Ⅲ

(12135)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

福 田 一 実

■ 授業の概要

創作人形作家として会得した技術などをもとに人形と人間について考え、より「リアル」な人形について思考させ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作させる。人体の造形についても追求し作品としての完成度をあげるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人と人形について考えながら人形を制作できるようにする。人形Ⅲでは頭部8cmの6頭身の人形を制作させる。関節は腕、脚のカットやドールアイを使用し、全関節人形を完成させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。
- ・球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。
- ・オリジナルな人形を完成できる。

③⑥⑦

③⑤

⑤⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回	下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回	芯を削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回	粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第5回	ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第6回	手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ（手、胴、腕）
第7回	足、脚の造形。	やすりがけ（足、脚）
第8回	乾燥させ、すべてを磨く。間接部を切断。	やすりがけ（全体）
第9回	芯材を抜き、頭部に瞳を入れ、頭部に耳を造形する。球を作る。	やすりがけ（頭部）
第10回	球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第11回	球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	全体のバランス確認。
第12回	仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする。
第13回	塗装する。着色、メイク。	メイクのイメージ、資料集め
第14回	髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第15回	組み立て完成させる。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50％、授業態度50％（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講演会でフィードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。

質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

人形Ⅳ

(12136)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

福田 一 実

■ 授業の概要

創作人形作家とし会得した技術などをもとに「人形」とのかかわりについて探求させ、人形Ⅰ～Ⅲで習得した技術をもとに、オリジナルの創作人形を制作させる。また、人体の造形についても追及させ、設計図を作り、人形のキャラクター、人形の在り方について考えながら、自分の表現が出来るように指導する。サイズは50cm以上を1体か50cm以内の自由なサイズ2体のいずれかの創作人形を完成させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・人形の造形について研究しながら学ことができる。	③
・球体関節人形を制作するための技法を理解することができる。	③
・オリジナルな人形を完成させる。	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。	解剖学の本などを参考にし、体の研究をする。
第3回 芯を削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第5回 ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第6回 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ（手、胴、腕）
第7回 足、脚の造形。	やすりがけ（足、脚）
第8回 乾燥させ、すべてを磨く。間接部を切断。	やすりがけ（全体）
第9回 芯材を抜き、頭部に瞳を入れ、頭部に耳を造形する。球を作る。	やすりがけ（頭部）
第10回 球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第11回 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	全体のバランス確認。
第12回 仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする
第13回 塗装する。着色、メイク。	メイクのイメージ、資料集め
第14回 髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第15回 組み立て完成させる。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50％、授業態度50％（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講評会でフィードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔出版社名〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕

〔人形論〕〔金森修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。質問等については授業終了時にオフィスアワーで受けます。

陶芸Ⅰ

(12137)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程などを含めた基礎的スキルを更に深める。石膏型による型おこし成形に取組み、より完成度の高い「製品」を意識した機能性且つ美的デザインに仕上げさせる。石膏の特徴や保存について、また、原型づくりの注意点を説明する。各自施す装飾技法により進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで発想の展開力を追求させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|---|
| ・石膏型による型おこし制作において基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。 | ① |
| ・「型」を使用した制作についての意味を理解することができる | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	型おこし(押し型)成形とは	石膏について	型おこし(押し型)成形について予習
第2回	デザイン	①原型づくり		ワークシートの記入 原型づくりの工夫・装飾技法について
第3回	②原型づくり	仕上げ（荒削り）		原型のチェック
第4回	③原型づくり	仕上げ（細部）		石膏取りについて予習
第5回	石膏型づくり	（凹型）		石膏を流し込む壁づくり カリ石鹼について予習
第6回	石膏型づくり	（凸型）	カリ石鹼の理解	石膏を流し込む壁づくり 彫刻刀を各自準備する
第7回	石膏型仕上げ	①型おこし		完成した石膏型の修正
第8回	②型おこし後、随時バリ取り	仕上げ		各自の計画表の見直し、修正
第9回	③型おこし後、随時バリ取り	仕上げ（個数確認）		バリ取りの注意点の確認
第10回	バリ取り	仕上げ（細部）		バリ取りの注意点の確認
第11回	①仕上げ	各自装飾（化粧掛けなど）		化粧掛け等の準備・復習
第12回	②仕上げ	各自装飾（下絵付けなど）		下絵付け等の準備・復習
第13回	①各自装飾	釉掛け（透明釉）		ワークシート内容の再確認
第14回	②各自装飾	釉掛け（ワラ白）		ワークシート内容の再確認
第15回	窯出し	プレゼンテーション	講評	まとめプリントの記入 他学生の作品の感想・自己作品の評価

■ 履修上の注意

- ・工芸基礎Ⅱ（陶芸）を履修していること。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50％（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50％
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

陶芸Ⅱ

(12138)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程を含めた基礎的スキルを更に深める。電動ろくろ制作では、ろくろ挽きの基礎知識、技術を身につけるよう教授する。組み物制作では、同じ形・大きさに揃える観察力を高め、計画的に制作を進めるよう指導する。学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら、自他作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・組み物制作において基礎知識、専門技術を身につけることができる。	①③
・電動ろくろ制作において基礎知識、技術を身につけることができる。	①
・粘土、作品の保存管理において主体的に問題解決し、作業計画を立てることができるようになる。	②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 製陶法の復習 トンボ、化粧泥による加飾の説明	トンボ、化粧掛けについて予習
第2回	【A】電動ろくろ成形：菊練り練習 【B】手びねり成形：組み物デザイン どちらか選択のこと	【A】5kg菊練り→巻き上げ→締め理解、練習 【B】デザイン案の収集 ワークシートの記入
第3回	【A】練習1 菊練り、土殺し 【B】トンボの制作	【A】土殺しの理解・練習 【B】型・トンボの制作、割り掛けサイズの理解
第4回	【A】練習2 土殺し 【B】①-1制作	【A】土殺しの練習 【B】各自使用する粘土の準備・制作
第5回	【A】練習3 バイ挽き 【B】①-2制作、仕上げ、加飾	【A】土殺し→バイ挽きまでの理解・練習 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第6回	【A】①-1水挽きまで 【B】①-3制作、仕上げ、加飾	【A】バイ挽き→コテの使用 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第7回	【A】①-2仕上げ、加飾 【B】②-1制作、仕上げ、加飾	【A】カンナの研ぎ方についての理解・使用方法 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第8回	【A】②-1水挽きまで 【B】②-2制作、仕上げ、加飾	各自の計画表の見直し、修正 【A】水挽きまでの反復練習・様々な湿台の理解 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第9回	【A】②-2仕上げ、加飾 【B】②-3制作、仕上げ、加飾	【A】湿台を使用して削り仕上げ・加飾 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第10回	【A】③-1水挽きまで 【B】①②仕上げ、加飾	【A】水挽きまでの反復練習 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第11回	【A】③-2仕上げ、加飾 【B】①②仕上げ、加飾	【A】湿台を使用して削り仕上げ・加飾 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第12回	【A】④-1水挽きまで 【B】釉掛け（透明釉）	【A】水挽きまでの反復練習 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第13回	【A】④-2仕上げ、加飾 【B】釉掛け（ワラ白釉）	【A】湿台を使用して削り仕上げ・加飾 【B】釉掛け作業
第14回	【AB共通】釉掛け：透明釉	釉掛け作業・窯詰め作業
第15回	【AB共通】窯出し 講評	まとめプリントの記入 他学生の作品の感想・自己作品の評価

■ 履修上の注意

- ・工芸基礎Ⅱ（陶芸）・陶芸Ⅰを履修していること。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔基礎の陶芸2:器の飾りかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2, 420円〕

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時締め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

陶芸Ⅲ

(12139)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

陶芸Ⅰで修得した石膏型の技術を応用した「鑄込み成形」による制作に取り組む授業である。機能的且つ美的デザインであり、鑄込みに適した原型作りを指導する。石膏の扱い方の復習、泥漿づくりから攪拌機の操作、泥漿の保存法を教授する。学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら効率良く制作ができるよう指導し、成形から焼成までの全体的な流れの中で問題を発見、解決する能力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで、発想の展開力を追求させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・鑄込み成形、泥漿について基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。	③
・「型」を使用した制作についての意味を理解できる。	④
・制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる	⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 石膏の扱い方復習 泥漿鑄込みとは	泥漿鑄込みについて予習
第2回 デザイン ①原型作り	デザイン案の収集・ワークシートの記入
第3回 ②原型作り	原型のチェック
第4回 ①石膏型作り（1面）	石膏を流し込む壁作り 彫刻刀を各自準備する
第5回 ②石膏型作り（2面）	石膏を流し込む壁作り カリ石鹼の準備
第6回 ③石膏型作り（3面）	石膏を流し込む壁作り 石膏型の仕上げ・乾燥
第7回 ①泥漿作り（攪拌機、珪酸ソーダの扱い方）	攪拌機・珪酸ソーダの扱い方について予習
第8回 ②泥漿作り（泥漿の保存法）	泥漿の状態を毎回チェックすること
第9回 ①鑄込み 型外し バリ取り	各自の計画表の見直し、修正
第10回 ②鑄込み 型外し バリ取り仕上げ	泥漿の残量をチェックし、補充が必要であれば泥漿作りを行う
第11回 ③鑄込み 型外し バリ取り仕上げ(ヤスリがけ)	仕上げ
第12回 ④鑄込み 仕上げ(ヤスリがけ)	仕上げ・個数確認
第13回 ①加飾 釉掛け（掛け分けも可）	釉薬の準備
第14回 ②加飾、釉掛け（掛け分けも可）	釉掛け作業・窯詰め作業
第15回 窯出し 講評	まとめプリントの記入 他学生の作品の感想・自己作品の評価

■ 履修上の注意

- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

陶芸Ⅳ

(12140)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

前半の課題として、ろくろ成形において更に高度な技術を修得するため、大物水挽きを反復練習し、様々な表現ができるよう指導する。後半の課題として、様々な素材による制作方法（ろくろ制作、オブジェ）、装飾を試み、卒業研究へとつなげていく授業である。大物課題の窯詰め方法を教授し、卒業研究時には各自が窯詰め作業をスムーズに行えるよう判断力を身につけ、これまでに習得した陶芸の知識を活かしながら研究計画を立てられるよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------------|---|
| ・ろくろ制作において高度な技術の修得、知識理解を深めることができる。 | ③ |
| ・大物制作においての表現、想像力を身につけ、意欲的に取組むことができる。 | ④ |
| ・制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる | ⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 菊練り練習（3～5kg）	様々な大物ろくろ挽きについて予習
第2回	電動ろくろ成形（亀板使用）大物土殺し練習	道具（ダンゴ、亀板）について予習
第3回	各自粘土の種類を選択 大物土殺し練習	様々な土殺しの理解・復習
第4回	大物土殺し練習 ダンゴの使用	ダンゴの様々な使い方の理解
第5回	①-1 中鉢・大鉢 練習、制作	様々な器の形の名称を予習
第6回	①-2 中鉢・大鉢 削り仕上げ	大鉢の削り方についての理解
第7回	②-1 大皿・ドラ鉢 練習、制作	大皿の水挽きの注意点の理解・復習
第8回	②-2 大皿・ドラ鉢 削り、仕上げ	大皿の削り方についての理解
第9回	③-1 筒花生・壺 練習、制作	張らし伸ばしの理解・練習
第10回	③-2 筒花生・壺 削り、仕上げ 卒業研究内容の検討	様々な素材、装飾技法など資料収集
第11回	①各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 (テストピース作り)	各自材料の注文 釉薬の原料についての理解
第12回	②各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 (釉薬の調合)	釉薬の調合の理解
第13回	③各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 (焼成実験)	各自釉薬の調合・焼成実験を進める
第14回	④各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 (焼成後の検証)	各自釉薬の調合・焼成実験を進める
第15回	窯出し 講評 卒業研究内容の検討等	卒業研究申告書内容の確認とまとめ

■ 履修上の注意

- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50％（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50％
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

漆芸Ⅰ

(12141)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆芸職人としての経験を活かし、漆塗りの主な技法として仙台木地呂塗りを中心に塗りの技法を指導します。

木目を生かした木地呂塗り・色漆(木地呂漆+顔料で作る)による不透塗りを精製漆を用い刷毛塗り、研ぎ、磨きの技法ができ、多彩な色漆による変り塗りと研ぎの技法を用い、下層の色漆と上層の色漆が断層となって紋様となる意匠塗り、仕掛塗りが理解できるように指導します。

①木地呂塗り、②朱塗り、③黒呂色塗り、④変り塗り？意匠塗り（例えば根来塗り）？仕掛塗り（例えば津軽塗り）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・素地の調整と固めの仕組みを理解でき、下地工程ができる。
- ・漆の粘度の調整ができ、漆を塗ることができる。
- ・研ぎ磨きの工程が理解でき仕上げることができる。

①②③
①②③
①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の説明 漆塗りの道具について 木地呂塗り 不透明塗り	プリント配布
第2回	素材の違いによる木地調整と木地固め	漆塗りの工程を復習しておく。
第3回	・木地呂塗：砥の粉錆付け 表面 ・不透明塗り：寒冷紗張り 表面	錆漆、糊漆について理解しておく。
第4回	・木地呂塗：砥の粉錆付け 裏面 ・不透明塗り：寒冷紗張り 裏面	漆が乾燥しているか確認しておく。
第5回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆(生漆+木地呂漆)ヘラしごき① ・不透明塗り：空研ぎ 地の粉錆付け①表面	呂瀬漆(ロゼウリ)、地の粉錆について理解しておく。
第6回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆(生漆+木地呂漆)ヘラしごき② ・不透明塗り：空研ぎ ⇒ 地の粉錆付け①裏面	呂瀬漆、地の粉錆に乾燥しているか確認しておく。
第7回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆(生漆+木地呂漆)ヘラしごき③ ・不透明塗り：空研ぎ ⇒ 砥の粉錆付け②表面	砥の粉錆について理解しておく。
第8回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆(生漆+木地呂漆)ヘラしごき④ ・不透明塗り：空研ぎ ⇒ 砥の粉錆付け②裏面	錆面が平滑であるか確認しておく。
第9回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆(生漆+木地呂漆)ヘラしごき⑤ ・不透明塗り：表裏水研ぎ	木地呂漆、不透漆について理解しておく。
第10回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆中塗り 表面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆中塗り 表面	ムラなく平滑に塗りができたか確認しておく。
第11回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆中塗り 裏面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆中塗り 裏面	漆が乾燥し、水研ぎの作業に入れるようにしておく。
第12回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆上塗り 表面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆上塗り 表面	ムラなく平滑に塗りができたか確認しておく。
第13回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆上塗り 裏面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆上塗り 裏面	足りない上摺り漆を重ねておく。
第14回	木地呂塗/不透明塗とも上塗り研ぎ ⇒ 胴摺り	研ぎ、胴摺りについて理解しておく。
第15回	仕上 講評会	仕上げ磨きについて理解しておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。工芸基礎Ⅰ、Ⅱ(漆芸)を履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・作品進度（60％）：完成度、デザイン、個性の表現（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし2〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕

〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・基本教材費：16, 500(税込)〔木製:樺プレート・シナ合板プレート 各1枚、寒冷紗、漆刷毛〕漆は別途各自購入
- ・質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

漆芸Ⅱ

(12142)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

多種多様な作品をより良く仕上げるために漆を用いた文様などの装飾を施す加飾法について指導します。蒔絵筆、粉筒（竹製で蒔絵粉の粗さに適した布を竹先に貼ったもの）等の加飾道具の使用法も指導します。

各種の顔料を使用し色漆を作る事ができ、さらに漆絵、平蒔絵、研ぎ出し蒔絵、高蒔絵、卵殻、螺鈿、箔絵、金粉蒔きなど加飾の各種技法を用いて漆の表現方法を向上させ漆器作品を完成できるように指導します。

各種加飾技法に用いる道具（木ヘラ、竹製粉筒）をできる限り制作できるように指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・卵殻等で文様を作成することができる。	①②③
・色漆等で筆を用い文様を作成することができる。	①②③
・一連の作業を理解し作品を製作できる。	①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 卵殻・螺鈿・箔絵・平蒔絵・高蒔絵について	プリント配布（手板作り等）
第2回 卵殻、螺鈿の下処理	卵殻、螺鈿を用意し、卵殻は下処理できるよう乾燥させておく
第3回 卵殻、螺鈿の和紙貼り	手板を作成しておく。
第4回 卵殻、螺鈿手板：卵殻、螺鈿を漆貼る。	卵殻、螺鈿漆貼り用に呂瀨漆をつくっておく。
第5回 ・黒呂色塗り手板：漆塗り ・蒔絵作業手板：平蒔絵、研ぎ出し蒔絵	・黒呂色漆をつくっておく。 ・平蒔絵、研ぎ出し蒔絵の文様構図の考察
第6回 ・黒呂色塗り手板：黒呂色研ぎ ・蒔絵作業手板：平蒔絵、金蒔絵、箔絵	・研ぎができるよう乾燥させておく。 ・平蒔絵、金蒔絵、箔絵の文様構図の図案化
第7回 ・黒呂色塗り手板：胴摺り ・高蒔絵手板：金粉定着	・高蒔絵の文様構図の考察
第8回 ・黒呂色塗り手板：磨き ・高蒔絵手板：磨き	・高蒔絵の文様構図の図案化
第9回 各手板の仕上げ	作品への置目（枠）をできるようにしておく。
第10回 作品への図案転写 ①	色漆を塗れるようにしておく。
第11回 作品の図案に色漆を塗る ②	仕上げ等の作業ができるようにしておく。
第12回 作品：胴摺り ③	作品の完成度の確認。
第13回 作品：磨き ④	まとめの作業ができるよう準備。
第14回 総仕上げ	まとめの完成
第15回 まとめ・講評会	講評会への資料の準備

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅰを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・作品進捗（60％）：完成度、デザイン、個性の表現（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

- 〔日本の漆工 其の一 材料と用具〕〔（一財）日本漆工協会〕〔2, 200円（税込）〕
 〔やさしく身につく漆のはなし2〕〔（一財）日本漆工協会〕〔2, 200円（税込）〕
 〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円（税込）〕

■ 備考

- ・漆（副材）は各自購入

- ・ 質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

漆芸Ⅲ

(12143)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

乾漆の制作はあくまでも自由で楽しい発想を重視し、乾漆の基礎、先々高度な造形に向かうための習作として、漆の持っている特性、可能性を追求し、表現力、意匠力を養いながら作品を制作できるよう指導します。

乾漆とは仏像制作等に用いられている技法で、木では造形しにくい形状を制作する手段です。

①粘土型の脱活乾漆(ダツツカシツ)、②石膏型の乾漆で乾漆制作を2点以上とし、寒冷紗、麻布での強皮で自由な形、大きさの素地作りを工夫しながら進めます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 乾漆制作の工程を理解できる。	①②③⑦
・ 乾漆素材の布(寒冷紗、麻布)を漆で貼ることができる。	①②③⑦
・ 作品として乾漆作品を制作できる。	①②③⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 乾漆について 粘土型、石膏型	プリント配布
第2回 ・粘土原型作り ・石膏型作り	作品のスケッチ、図面
第3回 ※以下粘土型・石膏型共通作業 原型の調整	石膏型を乾燥させ、次の作業に進みやすくしておく。
第4回 原型の表面調整と離型剤塗り	離型剤の糊を調整しておく。
第5回 寒冷紗貼り 縦	寒冷紗の糊を取り、布の大きさを裁断しておく。
第6回 目止め錆引き	目止め錆を作っておく。
第7回 寒冷紗貼り 横	空研ぎし、漆が乾燥しているか確認。
第8回 目止め錆引き	空研ぎし、目止め錆をつくっておく。
第9回 麻布貼り	麻布糊を取り、布の大きさを裁断しておく。
第10回 目止め錆引き	空研ぎし、目止め錆をつくっておく。
第11回 寒冷紗貼り 縦	糊漆を作っておく。
第12回 目止め錆引き	錆漆を作っておく。
第13回 寒冷紗貼り 横	糊漆を作っておく。
第14回 目止め錆引き	錆漆を作っておく。
第15回 縁の始末 講評会	全体の漆の乾燥を確認しておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅰ、Ⅱを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・ 作品提出（60％）：完成度、デザイン、個性の表現（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし3〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕
〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

漆芸Ⅳ

(12144)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

前期で制作した乾漆素地を完成させ、今まで学んできた多彩な色漆による変り塗りと研ぎの技法を用い、下層の色漆と上層の色漆が断層となって紋様となる意匠塗り、仕掛塗りが理解できるように指導します。

朱塗り、黒呂色塗り、変り塗り？意匠塗り（例えば根来塗り）？仕掛塗り（例えば津軽塗り）

漆加飾の漆絵、平蒔絵、研ぎ出し蒔絵、高蒔絵、卵殻、螺鈿、箔絵、金粉蒔きなど加飾の各種技法を用い乾漆作品を完成できるように指導します。

作品として多様な表現方法があることを理解し、漆器作りの楽しさ面白さを感じられるよう指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・乾漆型、脱活乾漆型を作り、作品を仕上げるができる。
- ・形に合った色調、加飾で作品が製作できる。
- ・乾漆漆器として作品を仕上げるができる。

①③⑦
①③⑦
①③⑦⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 脱乾 縁の調整 固め 捨て塗り	脱乾し塗りの工程に進めるようにしておく。
第2回 黒中① 内	空研ぎし塗り作業に進めるようにしておく。
第3回 黒中① 外	空研ぎし塗り作業に進めるようにしておく。
第4回 水研ぎ、黒中② 内	水研ぎし外面全体が平滑であるか確認しておく。
第5回 水研ぎ、黒中② 外	水研ぎし内面全体が平滑であるか確認しておく。
第6回 水研ぎ、黒中③ 内	作品図柄、色調加飾の考察
第7回 水研ぎ、黒中③ 外	作品図柄、色調加飾の完成
第8回 絵付け彩色等(漆絵、蒔絵、卵殻等)	細部の調整をしておく。絵付け工程に入れるようにしておく。
第9回 絵付け彩色等(漆絵、蒔絵、卵殻等)	色漆等の粘度、色調を確認しておく。絵付け漆の乾燥を確認しておく。
第10回 絵付け彩色等(漆絵、蒔絵、卵殻等)	全体の色調加飾の度合の確認。
第11回 仕上げ工程	仕上げの工程に入れるようにしておく。
第12回 仕上げ工程	上摺りの不足している部位に述べ摺りをしておく。
第13回 磨き工程	磨きの工程に入れるようにしておく。
第14回 磨き工程	磨きの完成度を高めておく。
第15回 作品完成 講評会	まとめの準備 プレゼンの準備

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・作品進捗（60％）：デザイン、センス、個性の表現、完成度（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし3〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕

〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

染織Ⅰ

(12145)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

絞り染め、蠟けつ染に関する技術の取得、伝統的な染色技法を用いた作品制作を行う。絞り染めでは、技法の調査・研究を行い、手ぬぐいを制作する。デザインの考案、技法の検討、染色等の工程を通し、染色技法の基礎的知識を教授する。ろうけつ染では、ソーピングワックスを使用した風呂敷制作を行い、防染素材、道具の使用方法について指導する。絞り、蠟の素材による表現効果の違いを理解し、素材研究について深く考察できる力を養う。作品制作を通し、染織に関する専門知識を身に付けることができる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・染め実習を学習する上で必要な知識を身につける。

①

・絞り染め・蠟けつ染の技術を身につける。

②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業概要 染色用具・染料・助剤について	染色に関する資料収集・制作ノート作成
第2回	絞り染め：精錬 下図作成	下図に関する研究・精錬作業の記録まとめ
第3回	絞り染め：青花で下図を写す 青花に沿って縫う	下図に関する研究・実習記録のまとめ
第4回	絞り染め：絞り	絞り技法の調査・制作ノートのまとめ
第5回	絞り染め：染料の計算 浸染	絞り技法の調査・浸染のまとめ
第6回	絞り染め：括りほどこき	絞り技法の調査・実習記録のまとめ
第7回	絞り染め：仕上げ	絞り技法の調査・実習記録のまとめ（仕上げ）
第8回	蠟けつ染め：精錬 下図作成	蠟けつ染に関する資料収集・制作ノート作成
第9回	蠟けつ染め：下図原寸拡大	図案作成・制作ノートのまとめ
第10回	蠟けつ染め：下図転写 蠟伏せ（表）	蠟けつ染に関する資料収集・制作ノート作成
第11回	蠟けつ染め：蠟伏せ（裏）	制作に関する材料準備・制作ノートのまとめ
第12回	蠟けつ染め：染料の計算 染色作業	染料計算等の準備・制作記録のまとめ
第13回	蠟けつ染め：脱蠟 ソーピング 乾燥	染料計算等の準備・制作ノート整理
第14回	蠟けつ染め：仕上げ	制作ノートのまとめ
第15回	講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

実習費として実費（3000円程度）を徴収します。

工芸基礎Ⅱ（染織）を履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

染織Ⅱ

(12146)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

高機実習前の実習として、卓上機を使用した織実習を実施する。織機の構造、制作工程を理解し、組織図等の織計画を設計する。織設計を基に制作を行い、織物制作に関する一連の工程を理解できるよう教授する。ノッティングの技法を用い、タピストリー又は敷物を制作させる。必要に応じて、糸の精練・天然染料を用いた染色実習等も実施する。織物の使用目的に応じた素材選択の研究を行い、染織に関する専門的な知識と高機制作に備えた基礎的スキルを修得できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・織り実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。

①②

・織の工程・卓上機の構造及び使用手順を身につける。

①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業概要 織機の構造・用具について	染織に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	ノッティング 図案資料収集	ノッティングに関する研究・制作ノートのまとめ
第3回	下図作成① エスキース	エスキースに関する研究・制作ノートのまとめ
第4回	下図作成② 完成	下図に関する研究・制作ノートのまとめ
第5回	下図作成③ 原寸拡大	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第6回	素材の検討・発注	素材に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第7回	糸準備	糸準備・制作工程ノートのまとめ
第8回	整経	整経に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第9回	箆通し	箆通しに関する制作記録のまとめ
第10回	綜統通し	綜統通しに関する制作記録のまとめ
第11回	織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作記録のまとめ
第12回	織り②（中部）	織り②（中部）に関する制作記録のまとめ
第13回	織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作記録のまとめ
第14回	糸の始末	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回	講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

教材費として実費（2000円程度）を徴収します。教材費の他、作品に使用する糸は各自購入すること。

織に関する基礎知識が必要なため、工芸基礎Ⅱ（染織）を履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

染織Ⅲ

(12147)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

染織Ⅰ、Ⅱの実習を踏まえ、高機を使用した格子タペストリーの織物制作を行う。各自の計画に基づき、糸の浸染実習を実施し、デザイン性を高めた作品制作ができるよう指導する。織機の構造、タイアップ方法、糸量の計算等について理解し、使用目的に応じた素材選択ができるよう教授する。多様な織機の種類、構造について理解を深め、自身に適した技法を探り、各自の設定するテーマに沿って作品展開できる創造的実践力を養うことができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・織り実習を学習する上で必要な知識を身につける。

①

・織の工程・高機の構造及び使用手順を身につける。

①③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 授業概要	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回 織機の構造について 織物計画	織機の構造について 資料収集・制作ノートのまとめ
第3回 下図に関する調査 下図作成	下図に関する調査・制作ノートのまとめ
第4回 下図作成	下図作成・制作ノートのまとめ
第5回 原寸拡大	素材研究・制作ノートのまとめ
第6回 素材の選定 糸量の計算	糸の扱いについて 制作ノートのまとめ
第7回 糸巻き 整経	素材研究・制作ノートのまとめ
第8回 整経	材料準備・制作ノートのまとめ
第9回 箆通し	箆通しに関する制作記録のまとめ
第10回 綜統通し	綜統通しに関する制作記録のまとめ
第11回 織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作記録のまとめ
第12回 織り②（中央部）	織り②（中央部）に関する制作記録のまとめ
第13回 織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作記録のまとめ
第14回 端糸の始末 仕上げ	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回 講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

作品に使用する糸は各自購入すること。

糸染め・織りの基礎知識を要するため、染織Ⅰ、染織Ⅱを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

染織Ⅳ

(12148)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

染織Ⅰ～Ⅲの染織実習から習得した技法を選択し、綿密に作業計画を立て、イメージを具現化して制作を行う。4年次の卒業研究を踏まえ、技法・材料研究を行い、制作過程に必要なプロセスを確認し、論理的展開力を身に付けられるよう指導する。授業形態はアクティブラーニングを導入し、提案・検討を重ね、活発な意見交換を通じて協働して学ぶ態度を養い、社会に即応できる能力の向上を図る。ポートフォリオの作成・発表を行い、各自のテーマ、デザイン性を深めると共に、表現に必要な課題を発見・解決できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・制作過程に必要なプロセスを理解し、技術を身につける。

①③

・染色及び織に関する専門的な知識・技術を身につける。

①③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 授業概要	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回 研究内容の設定	研究内容に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回 参考資料収集① 技法について	技法に関する研究・制作ノートのまとめ
第4回 参考資料収集② 素材について	素材に関する研究・制作ノートのまとめ
第5回 下図作成	下図作成・制作ノートのまとめ
第6回 下図原寸拡大	下図原寸拡大に関する制作ノートのまとめ
第7回 染料・素材の決定	染料・素材の決定に関する制作ノートのまとめ
第8回 整経	整経準備・制作ノートのまとめ
第9回 箆通し	箆通し準備・制作ノートのまとめ
第10回 綜統通し	綜統通し準備・制作ノートのまとめ
第11回 織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作ノートのまとめ
第12回 織り②（中央部）	織り②（中央部）に関する制作ノートのまとめ
第13回 織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作ノートのまとめ
第14回 端糸の始末 仕上げ	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回 講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

作品に使用する材料は、各自購入すること。

染織Ⅰ、染織Ⅱ、染織Ⅲを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

ガラスアートⅠ

(12149)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

ガラス工芸の“バーナーワーク”という分野から“トンボ玉”制作を指導する。軟質ガラスの佐竹ガラスとエアバーナーを使用する。工芸基礎で修得した基礎知識と基礎技術を元に、基本技法から中級技法の修得を目指す。ホットワークで重要な「予熱」「徐冷」「歪み（ひずみ）」についての理解を深める。より素材のコントロールと道具の適切な扱い方を学び、玉の成形と模様の定着を目指し、作品の完成度を高める。ガラス制作に携わってきた経験から、ガラス素材の魅力を感じる授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・安全なバーナーの取り扱いができるようになる。	①
・ガラスと炎の特性を知ることができる。	①
・基礎を理解し反復練習により技術を身につけられるようになる。	①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業概要説明／各種諸注意／座学など）	配布プリントを熟読すること。
第2回	基本技法の復習 1点打ち技法／2線文様	デモの注意事項や用語などをまとめる。
第3回	基本技法3 ひっかき技法①（リーフ）	第3回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第4回	基本技法3 ひっかき技法②（ハート）	第4回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第5回	基本技法3 ひっかき技法③（ジグザク文様）	第5回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第6回	基本技法3 ひっかき技法④（ゴールドバンド模様）	第6回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第7回	基本技法4 スキ掛け技法①（水中水玉）	第7回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第8回	基本技法4 スキ掛け技法②（水中花）	第8回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第9回	基本技法4 スキ掛け技法③（ウロコ玉）	第9回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第10回	基本技法4 スキ掛け技法④（泡玉）	自由制作のために、デザイン案を収集する。
第11回	基本技法複合 ひっかき＋スキ掛け（羽文様玉＋薄掛け）	事前に収集した中からデザイン画を作成する。
第12回	自由制作「ひっかき技法・スキ掛け技法のトンボ玉制作」 ①デザイン決定／試作	第12回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第13回	自由制作 ②練習	第13回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第14回	自由制作 ③完成	第14回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第15回	自由制作 ④仕上げ／講評	授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・受講対象：工芸基礎Ⅱ（ガラスアート）単位取得者。未経験者の受講不可。
- ・直接炎を扱い、素材のガラスが熱くなります。
火傷の危険があるので、安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。
- ・ガラス棒の保管に留意すること（混ぜない／種類の把握）。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組／理解度（50％）
- ・講評会出席／作品提出／課題達成／作品完成度（50％）
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

- ・材料費（消耗品用）の自己負担があります。

- ・材料費の他、授業で使用するガラス棒は、自己負担になります。ガイドンスで購入方法を案内します。
- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

ガラスアートⅡ

(12150)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

ガラス工芸の“バーナーワーク”という分野から“トンボ玉”制作を指導する。基本技法の中でも上位の技術を必要とするレースやパーツ（ムリーニ）を制作し、密度の高い表現が可能になる。また、初級・中級の基本技法も組み入れ、トンボ玉の模様の多様性、デザインの幅が広がるよう指導する。ひとつの作品完成にあたり、制作時間が長くなるため、集中力と計画性を身につけ、作品の完成を目指す。ガラス制作に携わってきた経験から、ガラス素材の魅力を感じる授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ガラスと炎の関係性を身につけ、ガラスの溶解をコントロールできる。
- ・基礎を理解し反復練習により技術を身につけられるようになる。
- ・模様の多様性を理解し表現できるようになる。

①

①

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業概要説明／各種諸注意／座学など）	配布プリントを熟読すること。
第2回	基本技法の復習 糸巻玉（細引き応用＋スキ掛け）	第2回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第3回	基本技法5 レース ①レース棒を引く（クロスタイプ）	第3回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第4回	基本技法5 レース ②レース棒を巻く（レース玉①）	第4回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第5回	基本技法5 レース ③レース棒を引く（リボンタイプ）	第5回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第6回	基本技法5 レース ④レース棒を巻く（レース玉②）	第6回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第7回	基本技法6 パーツ ①渦巻文様玉（レース棒を利用）	第7回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第8回	基本技法6 パーツ ②小菊文様のパーツをつくる	第8回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第9回	基本技法6 パーツ ③小菊玉をつくる	第9回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第10回	基本技法6 パーツ ④アサガオのパーツをつくる	自由制作のために、デザイン案を収集する。
第11回	基本技法6 パーツ ⑤アサガオ玉をつくる	事前に収集した中からデザイン画を作成する。
第12回	自由制作 ①デザイン決定	第12回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第13回	自由制作 ②試作・練習（テストピース作成）	第13回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第14回	自由制作 ③完成	第14回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第15回	自由制作 ④仕上げ／講評	授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・受講対象：工芸基礎Ⅱ（ガラスアート）／ガラスアートⅠの単位取得者。未経験者の受講不可。
- ・安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。
- ・ガラス棒の保管に留意すること（混ぜない／種類の把握）。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題達成（30％）
- ・作品の完成度（30％）
- ・制作への取組（40％）
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

- ・材料費（消耗品用）の自己負担があります。
- ・材料費の他、授業で使用するガラス棒は、自己負担になります。ガイダンスで購入方法を案内します。

- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

グラスアートⅢ

(12151)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

グラス工芸の“バーナーワーク”という分野からトンボ玉を中心にガラスの制作を指導する。主に、軟質ガラス（佐竹ガラス）とエアバーナーを使用する。基本技法を元に、文様・技法の応用と難易度を上げた技法を紹介しつつ、作品の質を高められるように指導する。ガラス以外の素材の合わせ方も学び、配色・図案（デザイン）を考察し、各自技法の研鑽と活用を促す。ひとつの作品完成にあたり、制作時間が長くなるため、集中力と計画性を身につけ、作品の完成を目指す。ガラス制作に携わってきた経験から、ガラス素材の魅力を感じる授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ガラスと炎の関係性を理解し、ガラスの溶解をコントロールできる。
- ・素材の扱い方の工夫により、技法の習熟度を高めることができる。
- ・広い視野でデザインを考えられるものづくりができるようになる。

①
②
③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	授業内容の説明／課題の説明	配布プリントを熟読すること。
第2回	異素材の加飾①	バブルパウダー（泡玉）	第2回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第3回	異素材の加飾②	ラスターパウダー（ラスター玉）	第3回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第4回	異素材の加飾③	金練り（ゴールドバンド）	第4回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第5回	リボンレース	工程① リボンのレース棒作る	第5回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第6回	リボンレース	工程② ひだ玉	第6回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第7回	パーツ	星のパーツ玉	第7回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第8回	組パーツ	工程① 花びらパーツをつくる	第8回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第9回	組パーツ	工程② 花パーツ玉をつくる	自由制作のために、デザイン案を収集する。
第10回	立体パーツ	きのこ入りペンダントトップ	事前に収集した中からデザイン画を作成する。
第11回	自由制作	①デザイン決定（試作）	第11回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第12回	自由制作	②練習（試作）	第12回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第13回	自由制作	③練習（ディスプレイを考える）	第13回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第14回	自由制作	④完成（プレゼンテーションを考える）	第14回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第15回	自由制作	⑤仕上げ／講評	授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・受講対象：工芸基礎Ⅱ（グラスアート）、グラスアートⅠまたはグラスアートⅡの単位取得者。
未経験者の受講不可。
- ・習熟度に応じて応用技法も追加する。
- ・ガラス棒の保管に留意すること（混ぜない／種類の把握）。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題達成（30％）
- ・作品の完成度（30％）
- ・制作への取組（40％）
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

- ・材料費（消耗品用）の自己負担があります。
- ・材料費の他、授業で使用するガラス棒は、自己負担になります。ガイダンスで購入方法を案内します。
- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

ガラスアートⅣ

(12152)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

ガラス工芸の“バーナーワーク”という分野から、【A】軟質ガラス（佐竹ガラス）とエアバーナーの制作と、【B】硬質ガラス（耐熱ガラス）と酸素バーナーの制作のいずれかを造形に適した選択による制作を行う。修得した基礎技法・技術を元に、文様・造形技法を応用し、自由な発想で創造する力を身につけさせる。

造形の考察を通し、作品の在り方についても掘り下げ、造形表現が可能になるよう指導する。ガラス制作に携わってきた経験から、ガラスならではの魅力を第3者を意識し、伝えられる制作を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・素材の性質を理解し、意図した造形ができるようになる。
- ・広い視野でデザインを考えられるものづくりができるようになる。
- ・自主性をもって計画的、創造的な制作ができるようになる。

①
③
⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	授業内容の説明／課題の説明	配布プリントを熟読すること。	
第2回	【A】軟質	レースの活用①	【B】硬質 造形練習①	第2回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第3回	【A】軟質	レースの活用②	【B】硬質 造形練習②	第3回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第4回	【A】軟質	レースの活用③	【B】硬質 テーマ造形①	第4回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第5回	【A】軟質	ラップパーツ①	【B】硬質 テーマ造形②	第5回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第6回	【A】軟質	ラップパーツ②	【B】硬質 テーマ造形③	第6回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第7回	【A】軟質	ラップパーツ③	【B】硬質 テーマ造形④	第7回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第8回	【A】軟質	立体パーツ①	【B】硬質 自由造形①	第8回の制作手順をまとめ、技法の考察を行う。
第9回	【A】軟質	リクエストデモ①	【B】硬質 自由造形②	自由制作のために、デザイン案を収集する。
第10回	【A】軟質	リクエストデモ②	【B】硬質 自由造形③	事前に収集した中からデザイン画を作成する。
第11回	自由制作課題①	デザインを決定・試作		第11回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第12回	自由制作課題②	練習		第12回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第13回	自由制作課題③	完成		第13回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第14回	自由制作課題④	仕上		第14回の制作内容をまとめ、技法の考察を随時行う。
第15回	作品展示／講評			授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・使用するガラスで【A軟質ガラス】【B硬質ガラス】のコースを選択する。
- ・受講対象：【A軟質ガラス】工芸基礎Ⅱ、ガラスアートⅠのいずれか基礎授業単位取得者。
ガラスアートⅡ、Ⅲのいずれか応用授業単位取得者。
【B硬質ガラス】工芸基礎Ⅱ（必修）。酸素バーナーで作品をつくれる者。
- ・授業未経験者の受講不可。
- ・習熟度に応じて応用技法も追加する。
- ・ガラス棒の管理に留意すること。混ぜない／種類の把握を徹底すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題達成（30％）
- ・作品の完成度（30％）
- ・制作への取組（40％）
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 備考

- ・使用するガラス棒は、自己負担になります。
【A軟質ガラス】ガイドンスで購入方法を案内します。
【B硬質ガラス】必要に応じ材料費として、2,000～3,000円の自己負担です。
- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

視覚デザインⅠ

(12153)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

この授業は、デザインにおける表現力とイメージの伝達力を身につけることを目的とする。「描写力」「構成力」「色彩感覚」を養うことで、制作の意図が他者に伝わる表現ができるよう指導する。マスコットキャラクターのデザインでは、チームによるPBL授業とし、グループ討論を行い、描写ソフト、スライドソフト、視聴覚器機を使ったプレゼンテーションに取り組ませる。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見を重視する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・基本的なデザインスキルを身につける。	②
・調べたことを図やイラストにまとめる力を身につける。	③
・地域との関連からデザインを考える方法を身につける。	④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	次回の課題について情報を集める。
第2回	キャラクターデザイン 調べた情報の発表 テーマ設定	テーマに沿って情報を集め調べる
第3回	キャラクターデザイン 情報収集	各自の役割に沿って調べる。
第4回	キャラクターデザイン 色彩計画 プロモーション計画	完成させ提出する。
第5回	キャラクターデザイン 発表 次の課題の説明	水張りに必要な用具を準備する。
第6回	イラスト 「自分を表現する1」 アイディアスケッチ コピー 下書き 水張りパネルの説明と制作	作品制作
第7回	イラスト 「自分を表現する1」 彩色	透明水彩、不透明水彩について調べる。
第8回	イラスト 「自分を表現する1」 講評 次の課題の説明	次の課題の準備、取材を進める。
第9回	イラスト 「自分を表現する2」 アイディアスケッチ	B3ケント紙水張りを事前にする。
第10回	イラスト 「自分を表現する2」 彩色	制作を進める。
第11回	イラスト 「自分を表現する2」 講評 次の課題の説明	制作を進め、完成させる。
第12回	イラスト 「新聞広告1」 アイディアスケッチ 制作	B3ケント紙水張りを事前にする。
第13回	イラスト 「新聞広告1」 講評 次課題の説明 準備 取材	完成させ提出する。
第14回	イラスト 「新聞広告2」 アイディアスケッチ 制作	B3ケント紙水張りを事前にする。
第15回	イラスト 「新聞広告2」 講評 次課題の説明 準備 取材	完成させ提出する。

■ 履修上の注意

B3パネル、ケント紙水張りを事前にしておくこと。絵具は不透明絵具を使用する。他、材料について授業で指示する。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、講評時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅡ

(12154)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

この授業は、グラフィックデザインにおける表現力とイメージの伝達力を身につけることを目的とする。イラストでよりよい説明・伝達が行えるための課題を設定し、各自の特徴や個性を盛り込んだ表現を目指す。表現は手描き、グラフィックソフト等を用い、プレゼンテーションは、紙芝居形式から視聴覚器機を使ったものまで幅を持たせた指導を行う。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見を重視する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 基本的なデザインスキルを身につける。	②
・ 情報を図やイラストにまとめる力を身につける。	③
・ 思考力、創造力、表現力を身につける。	⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	次回の課題について情報を集める。
第2回	絵本制作 テーマ設定	テーマに沿って情報を集め調べる。
第3回	絵本制作 情報収集	各自のテーマに沿って調べる。
第4回	絵本制作 計画、スケジュール確認	完成させ提出する。
第5回	絵本制作 素材、材料の確認 アイディアスケッチ 下描き	必要な用具を準備する。
第6回	絵本制作 ストーリー確認	制作を進める。
第7回	絵本制作 中間発表（進捗状況確認）	途中経過をまとめる。
第8回	絵本制作 中間発表での意見や感想を制作に生かす。	制作を進める。
第9回	絵本制作 完成	制作を完成させる。
第10回	絵本制作 発表 次課題の説明 準備物の確認	発表での反応を整理し、まとめる。
第11回	ポートフォリオ制作 課題説明 作例紹介	制作を進め、完成させる。
第12回	ポートフォリオ制作 資料確認	材料等必要なものを事前に準備する。
第13回	ポートフォリオ制作 資料の加工 整理	予定を見直し制作を進める。
第14回	ポートフォリオ制作 ファイリング 製本	制作を進め完成させる。
第15回	ポートフォリオ制作 提出 講評	完成させ提出する。

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、講評時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅢ

(12155)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

幾何学的な図形やパターンを用いた構成について「歴史」「表現方法」「制作方法」について実技をとおして体験させる授業である。作例や表現方法、制作方法について示し、その構造や仕組みについて掘り下げる。構成における比率や数、配色における数量的な割合に注目した指導をする。また、材料や道具の具体的な使い方についても指導する。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見を重視する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。

⑤⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	次回の課題について情報を集める。
第2回	テーマ「抽象」 制作1 課題説明 機材、用具、材料の説明	テーマに沿って情報を集め調べる。
第3回	テーマ「抽象」 制作2 アイディアの検討 ラフスケッチ 計画 下描き	各自のテーマに沿って調べる。
第4回	テーマ「抽象」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認	必要な用具を準備する。
第5回	テーマ「抽象」 制作4 作業 進行具合の確認	予定を見直し制作を進める。
第6回	テーマ「抽象」 制作5 細部の修正	制作を進める。
第7回	テーマ「抽象」 制作6 仕上げ 完成	制作を完成させ、まとめる。
第8回	講評・まとめ	加筆、修正を行う。
第9回	テーマ「イラスト」 制作1 課題説明 用具、材料の説明	課題について情報を集める。
第10回	テーマ「イラスト」 制作2 アイディア ラフスケッチ 計画 下描き	テーマに沿って情報を集め調べる。
第11回	テーマ「イラスト」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認	材料等必要なものを事前に準備する。
第12回	テーマ「イラスト」 制作4 作業 進行具合の確認	制作を進める。
第13回	テーマ「イラスト」 制作5 細部の修正	予定を見直し制作を進める。
第14回	テーマ「イラスト」 制作6 細部の確認 完成	制作を進め完成させる。
第15回	講評・まとめ	完成させ提出する。

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、講評時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅣ

(12156)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

デザインによる卒業制作を意識した素材研究・技法研究を行う授業である。個別指導を中心に、各自テーマを設定し取材・調査を通してデザイン制作を行う。中間発表や最終プレゼンテーションはグループで行う。これまで獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につくよう指導する。具体的には「イメージの視覚化」「プレゼンテーション」の能力を身につけ、自分のイメージを形にし、発表することができるように指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる

⑧

・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 課題1「各自テーマを設定」テーマ設定

調査、資料収集を行う。

第2回 「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究

調査、資料収集を行う。

第3回 完成予想（図やマケット） 制作 材料準備

材料の購入を済ませておく。

第4回 制作 基本構造 制作 中間構造

作品制作

第5回 制作 細部・表面 制作 仕上げ

作品制作

第6回 制作 設置計画

発表の手順等、準備をする。

第7回 発表 手直し 講評・まとめ

発表後の手直しをする。

第8回 課題2「各自テーマを設定」課題説明 「各自テーマを設定」
テーマ設定

調査、資料収集を行う。

第9回 「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究

調査、資料収集を行う。

第10回 完成予想（図やマケット） 制作 材料準備

材料の購入を済ませておく。

第11回 制作 基本構造 制作 中間構造

作品制作

第12回 制作 細部・表面 制作 仕上げ

作品制作

第13回 制作 設置計画 制作 設置

作品制作

第14回 発表 手直し

発表の手順等、準備をする。

第15回 講評・全体のまとめ

発表後の手直しをする。

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

情報デザインⅠ

(12157)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報デザインとは、モノ・コト・ヒトの関係性に“かたち”を与える方法論であり、複雑な情報や仕組みを整理し、わかりやすく伝えるための手法である。情報デザインⅠでは、グラフィックソフト（Illustrator、Photoshop）を用いた「情報の可視化（Information Visualization）」演習に取り組み、情報をグラフィカルに表現し、他者にわかりやすく情報を伝えるための技法・技能を修得する。情報デザインの基礎的な考え方を理解し、表現力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・情報デザインの基礎的な考え方を理解する
- ・グラフィックソフトを用いて、情報の可視化ができる
- ・情報をわかりやすく伝える表現ができる

②

③

⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	ソフトについての調査・制作準備
第2回 情報デザイン概論（基礎）	制作準備・制作プロセスまとめ
第3回 課題1：情報の可視化基礎演習	制作技法の調査・課題のまとめ
第4回 課題2：情報の可視化①、情報収集	情報の収集・制作プロセスまとめ
第5回 課題2：情報整理、テーマ設定	情報の整理・制作プロセスまとめ
第6回 課題2：アイデアスケッチ、ヴィジュアル化、制作	デザインの調査・制作プロセスまとめ
第7回 課題2：中間プレゼンテーション	中間プレゼン準備・ブラッシュアップ
第8回 課題2：修正、ブラッシュアップ、完成	ブラッシュアップ・制作プロセスまとめ
第9回 課題2：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼン準備・課題のまとめ
第10回 課題3：情報の可視化②、情報収集	制作準備・制作プロセスまとめ
第11回 課題3：情報整理、テーマ設定	情報の整理・制作プロセスまとめ
第12回 課題3：アイデアスケッチ、ヴィジュアル化、制作	デザインの調査・制作プロセスまとめ
第13回 課題3：中間プレゼンテーション	中間プレゼン準備・ブラッシュアップ
第14回 課題3：修正、ブラッシュアップ、完成	ブラッシュアップ・制作プロセスまとめ
第15回 課題3：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼン準備・課題のまとめ

■ 履修上の注意

メディア芸術基礎Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

教材・材料費（500円程度）を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（40%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

「デザインはストーリーテリング」エレン・ラブトン著（BNN新社）、インフォグラフィックスー情報をデザインする視点と表現（誠文堂新光社）

■ 備考

機器台数に限りがあるため定員を定める場合があります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報デザインⅡ

(12158)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報デザインとは、モノ・コト・ヒトの関係性に“かたち”を与える方法論であり、複雑な情報や仕組みを整理し、わかりやすく伝えるための手法である。情報デザインⅡでは、グラフィックソフトとアニメーションソフト（Animate）を用いた「プロジェクションマッピング」演習に取り組み、特殊な視覚効果を生み出す動画表現の技法・技能を修得する。動画表現の基礎的な考え方を理解し、表現の幅を広げられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・動画表現の基礎的な考え方を理解し表現できる
- ・アニメーションソフトを用いて、情報の可視化ができる
- ・情報を正確にわかりやすく伝える表現ができる

③

④

⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	ソフトについての調査・制作準備
第2回 プロジェクションマッピング概要	PM作品の調査・PM表現まとめ
第3回 Animateの基本操作と原理	制作準備・制作プロセスまとめ
第4回 課題1：Animate基礎演習	制作技法の調査・課題のまとめ
第5回 課題2：プロジェクションマッピング演習① 情報収集	情報の収集・制作プロセスまとめ
第6回 課題2：情報整理・分類、テーマ設定	情報の整理・制作プロセスまとめ
第7回 課題2：アイデアスケッチ、デザイン検討、制作	デザインの調査・制作プロセスまとめ
第8回 課題2：ブラッシュアップ、完成	ブラッシュアップ・制作プロセスまとめ
第9回 課題2：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼン準備・課題のまとめ
第10回 課題3：プロジェクションマッピング演習② 情報収集	情報の収集・制作プロセスまとめ
第11回 課題3：情報整理・分類、テーマ設定	情報の整理・制作プロセスまとめ
第12回 課題3：アイデアスケッチ、デザイン検討、制作	デザインの調査・制作プロセスまとめ
第13回 課題3：中間プレゼンテーション	中間プレゼン準備・ブラッシュアップ
第14回 課題3：修正、完成	ブラッシュアップ・制作プロセスまとめ
第15回 課題3：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼン準備・課題のまとめ

■ 履修上の注意

情報デザインⅠを履修し、修得していること。

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（40%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

「デザインはストーリーテリング」エレン・ラブトン著（BNN新社）

■ 備考

機器台数に限りがあるため定員を定める場合がある。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

情報デザインⅢ

(12159)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報と関わる人びとの活動や経験を可視化し、その原理を見つけ、ユーザーが価値を感じる出来事や経験をデザインすることは、情報デザインにおいて重要な課題である。情報デザインⅢでは、自身の身の回りの課題を見つけ、解決方法を提案する。グラフィックソフトを用いて「UI (User Interface) デザイン」演習に取り組む。デザイン価値を創出するための考え方や技法を修得しながら、情報デザインの実践力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・情報デザインの専門的な考え方を理解し表現できる
- ・ソフトを用いて、UI設計およびデザインができる
- ・デザイン価値を創出することができる

⑤

⑥

⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	UIデザインについての調査・制作準備
第2回 UIデザインの事例から考える	UIデザイン事例調査・制作準備
第3回 課題1：UIデザイン基礎演習	制作技法の調査・課題のまとめ
第4回 課題2：UIデザイン演習① 情報収集	情報の収集・制作プロセスまとめ
第5回 課題2：情報整理・分類、テーマ設定、アイデアスケッチ	情報の整理・制作プロセスまとめ
第6回 課題2：デザイン検討、中間プレゼンテーション	中間プレゼン準備・ブラッシュアップ
第7回 課題2：制作	制作プロセスまとめ・修正まとめ
第8回 課題2：修正、ブラッシュアップ、完成	修正まとめ・プレゼン準備
第9回 課題2：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼン準備・課題のまとめ
第10回 課題3：UIデザイン演習② 情報収集	制作技法の調査・課題のまとめ
第11回 課題3：情報整理・分類、テーマ設定、アイデアスケッチ	情報の収集・情報のまとめ
第12回 課題3：デザイン検討、中間プレゼンテーション	制作準備・制作プロセスまとめ
第13回 課題3：制作	中間プレゼン準備・ブラッシュアップ
第14回 課題3：修正、ブラッシュアップ、完成	制作プロセスまとめ・修正まとめ
第15回 課題3：プレゼンテーション、講評、提出	修正まとめ・プレゼン準備

■ 履修上の注意

情報デザインⅡを履修し、修得していること。

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（70%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（30%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

「デザインの知恵 - 情報デザインから社会のかたちづくりへ」須永剛司著（フィルムアート社）

■ 備考

機器台数に限りがあるため定員を定める場合があります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報デザインⅣ

(12160)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報と関わる人びとの活動や経験を可視化し、その原理を見つけ、ユーザーが価値を感じる出来事や経験をデザインすることは、情報デザインにおいて重要な課題である。情報デザインⅣでは、グラフィックソフトとアニメーションソフトを用いた「動的表現による情報の可視化（movie infographics）」演習に取り組み、情報を正確に、わかりやすく伝えるための技法・技能を修得する。情報デザインの専門的な考え方を理解し、表現できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・情報デザインの実践的な考え方を理解し表現できる
- ・アニメーションソフトを用いて、情報の可視化ができる
- ・情報を正確にわかりやすく伝える表現ができる

⑤

⑤

⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	ソフトについての調査・制作準備
第2回 情報デザイン概論（実践）	制作準備・制作プロセスまとめ
第3回 課題1：動画表現による情報の可視化基礎演習	制作技法の調査・課題のまとめ
第4回 課題1：動的表現による情報の可視化① 情報収集	情報の収集・情報のまとめ
第5回 課題1：情報整理・分類、テーマ設定	情報の整理・制作プロセスまとめ
第6回 課題1：アイデアスケッチ、ヴィジュアル化	制作準備・制作プロセスまとめ
第7回 課題1：デザイン検討、制作	デザインの調査・制作プロセスまとめ
第8回 課題1：修正、ブラッシュアップ、完成	制作技法の調査・制作プロセスまとめ
第9回 課題2：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼン準備・課題のまとめ
第10回 課題2：動的表現による情報の可視化② 情報収集	情報の収集・制作プロセスまとめ
第11回 課題2：情報整理・分類、テーマ設定	情報の整理・制作プロセスまとめ
第12回 課題2：アイデアスケッチ、ヴィジュアル化	デザインの調査・制作プロセスまとめ
第13回 課題2：デザイン検討、制作	情報の整理・制作プロセスまとめ
第14回 課題2：修正、ブラッシュアップ、完成	制作技法の調査・制作プロセスまとめ
第15回 課題2：プレゼンテーション、講評、リフレクション、提出	プレゼン準備・課題のまとめ

■ 履修上の注意

情報デザインⅢを履修し、修得していること。

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（70%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（30%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

「デザインの知恵 - 情報デザインから社会のかたちづくりへ」須永剛司著（フィルムアート社）

■ 備考

機器台数に限りがあるため定員を定める場合があります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

プロダクトデザインⅠ

(12161)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

プロダクトデザインの基礎となる知識・技法を学び、基礎的な表現力と発想力を身につけさせる。様々な分野における工業製品の事例（文房具、生活雑貨、家電、家具、インテリア等）を参考にしながら、デザインへの理解を促すとともに、その概念を把握できるよう指導する。〈課題1～2〉ではスケッチと三面図の作図によって、物の構造を把握し、アイデアを外在化させるために必要な技術習得させる。〈課題3〉ではアクリル板を使ってモビールを制作する。素材の種類と加工方法について学び、イメージを形状化できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・物の形状を短時間で的確に描くことができる。	①
・工業製品のデザインと構造を理解し、相手に伝えることができる。	③
・素材の種類と加工方法について理解できる。	③
・素材の特性を造形表現として活用できる。	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、プロダクトデザインの事例について	プロダクトデザインの事例について調べる
第2回	〈課題1〉内容説明、工業製品を短時間でスケッチする	描きたい工業製品を選び、準備する
第3回	〃 プレゼンボード制作、プレゼンテーション、講評	スケッチを練習する
第4回	〈課題2〉内容説明、工業製品を観察し、特徴をまとめる	比較する工業製品を決定し、準備する
第5回	〃 工業製品を計測し、三面図を作図する	デザインの比較を進める
第6回	〃 デザインを比較し、内容をまとめる	製図の参考図書を使って製図法を勉強する
第7回	〃 プレゼンボード制作	プレゼンボードのレイアウトを検討する
第8回	〃 プレゼンテーション、講評	プレゼンボードを完成させる
第9回	〈課題3〉内容説明、アイデアスケッチ、模型を制作する	模型を完成させ、デザインを確定する
第10回	〃 材料の種類、全体の構造を検討する	材料を選び、購入する
第11回	〃 制作（アクリル板を糸鋸で切り取る）	切り取り作業を完了させる
第12回	〃 制作（サンダーで形を整える）	形を整え、各部材の重さとバランスを確認する
第13回	〃 制作（アクリル板の縁を研磨する）	研磨剤を使って磨き上げる
第14回	〃 制作（ワイヤーに取り付ける）	バランスを微調整し、完成度を上げる
第15回	〃 プレゼンテーション、講評	他学生のプレゼンから学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・材料、道具類、比較に使用する工業製品を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履修すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・デザイン基礎Ⅱを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ボーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕
 〔プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識〕〔JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会〕〔ワークスコーポレーション〕〔2, 400＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

プロダクトデザインⅡ

(12162)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

家具の基本的な知識や人体との関係性、製作・製造に適した素材や構造、生産技術、生産工程について、授業担当者の実務経験を基に教授する。課題では、合板を使った組み立て・分解可能な椅子の模型制作を行う。身の周りの椅子や机、名作椅子の観察を通して、用途、機能、素材等を総合的に判断してデザインできるよう指導する。また、人体の寸法、動作、重量とのバランス感覚を身につけさせる。さらに使う人の視点で課題に向き合い、「外観のデザインの良さ」と「使いやすさ」の両方を満たすことの意味について考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・工業製品の用途、機能、素材等に関して課題を見つけることができる	④
・工業製品や他者の作品を使う人の視点で考察できる	④
・合板の加工方法や塗装方法を身につけることができる	③
・人体の寸法、動作、重量を考慮したデザインができる	④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、課題内容説明、椅子の調査、アイディアスケッチ	家具と人体寸法の関係を調べる
第2回 使う人、空間、場面を設定し、実寸でデザインを考える	設定を基にデザインを考える
第3回 縮尺3分の1模型のデザイン、構造を検討する	材料を購入する
第4回 縮尺3分の1模型の制作（部材の墨付け、切り取り）	制作の計画を立てる
第5回 縮尺3分の1模型の制作（溝加工、穴あけ加工等）	加工を進める
第6回 縮尺3分の1模型の制作（細部の仕上げ）	細部を調整し、完成度を上げる
第7回 縮尺3分の1模型の制作（仕上げ）、色見本制作	模型を完成させる
第8回 中間プレゼンテーション、意見交換、講評	他学生のプレゼンから学んだ内容をまとめる
第9回 縮尺2分の1模型のデザイン、構造を検討する	デザインを再検討し、確定する
第10回 縮尺2分の1模型の制作図と部材図を描く	制作図と部材図を完成させる
第11回 縮尺2分の1模型の制作（部材の墨付け、切り取り）	全ての部材の墨付けをする
第12回 縮尺2分の1模型の制作（溝加工、穴あけ加工等）	加工を進める
第13回 縮尺2分の1模型の制作（細部の仕上げ）	細部を調整し、完成度を上げる
第14回 縮尺2分の1模型の制作（仕上げ）	模型を完成させる
第15回 プレゼンテーション、意見交換、講評	他学生のプレゼンから学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・材料や道具類を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履修すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・プロダクトデザインⅠを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ボーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕

〔プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識〕〔JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会〕〔ワークスコーポレーション〕〔2, 400円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

プロダクトデザインⅢ

(12163)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

社会とプロダクトデザインの関わりについてリサーチし、アイデアを形にする。課題では「あかりのデザイン」をテーマとする。生活の中の「あかり」に関する問題と解決策を話し合い、快適な暮らしへと導くための製品の外観、構造、機能について考えさせる。材料を加工によって特性の理解に繋げ、材質と加工方法の関係について教授する。プレゼンテーションや意見交換を通して、デザインを他者に伝え、発信できる力を身につけさせる。生産現場の見学によって、生産工程や機械について理解させ、現場の課題について考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・社会とプロダクトデザインの関わりにおける問題点や改善点を複数見つけ出すことができる	③
・問題の解決策と快適な使い心地の双方について検討できる	④
・使う立場と作る立場の両方の視点で材料を選択できる	④
・自らのデザインを他者に的確に伝えることができる	④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、課題内容説明、テーマから発想する	様々な視点でテーマについて考える
第2回 アイディアスケッチ、デザインを検討する	デザインを複数描き出す
第3回 紙で模型を制作する	模型を完成させる
第4回 デザインを決定する	細かい部分の納まりを検討する
第5回 材料を選定し、構造、加工方法を検討する	制作の計画を立てる
第6回 材料を選定し、構造、加工方法を検討する	加工方法を確定し、材料を購入する
第7回 制作図を描く	制作図を完成させる
第8回 部材図を描く	部材図を完成させる
第9回 制作（材料に転写し、部材を作る）	大まかな切り取りを済ませる
第10回 制作（部材を作る）	加工の手順を確認する
第11回 制作（部材を作る）	加工の手順を確認する
第12回 制作（部材の組み立て、微調整）	微調整を行う
第13回 制作（塗装、仕上げ）	塗装後に細部を調整し、完成度を上げる
第14回 プレゼンボードを制作する	プレゼンボードを完成させ、印刷する
第15回 プレゼンテーション、意見交換、講評	プレゼンと意見交換から学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・材料や道具類を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履修すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。 ・生産現場の見学を行う（日時は授業中に指示する）。
- ・プロダクトデザインⅠ・Ⅱを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ボーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕
 〔プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識〕〔JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会〕〔ワークスコーポレーション〕〔2, 400円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

プロダクトデザインⅣ

(12164)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

プロダクトデザインのプロセスに則り、発想力・企画力・表現力・プレゼンテーション力などの実践的な能力を身につけさせる。本授業では、課題作品制作とCADの2つを行う。課題作品制作では、学生自身でテーマを設定し、暮らしを快適にするための製品デザインを考察させる。CADでは、授業担当者の実務経験を基に指導する。多くの製品は図面を基に作られ、CADは設計、作図に欠かせないツールである。形状や構造をCAD図面で的確に伝える能力を身につけさせ、デザイン、設計、製造分野等の就職に活かせるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・様々な立場の人や空間、場面等を意識し、精度の高いデザインができる	④
・形、機能、制作意図を的確に伝えることができる	④
・CADの操作方法を習得し、家具の図面を描くことができる	④
・産業におけるCADの役割や有効な使い方を理解し、実践できる	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、CADの概要と歴史	ノートパソコンにCADをインストールする
第2回 CADの基本操作（図形を描く）	様々な図形を描いて練習する
第3回 CADの操作（移動、複写、回転、寸法記入等）	各種機能の使い方を覚える
第4回 CADの操作（縮尺と用紙の設定方法）	設定を確認し、図面を印刷する
第5回 CADの操作（モデル空間とペーパー空間）	空間の使い分けについて復習する
第6回 課題作品制作 内容説明、意見交換、テーマを設定する	テーマとそれに伴う問題点を考える
第7回 リサーチ、アイデアスケッチ	リサーチの結果をまとめる
第8回 デザイン、構造を検討する	デザインを複数描き出す
第9回 紙で模型を制作する	模型を完成させる
第10回 デザインを決定する	細かい部分の納まりを検討する
第11回 材料を選定し、構造、加工方法を検討する	加工方法を確定し、材料を購入する
第12回 制作（部材を作る）	加工の手順を確認する
第13回 制作（部材の組み立て、塗装、仕上げ）	細部を調整し、完成度を上げる
第14回 PowerPointを使ってプレゼン用のデータを作成する	データを完成させ、プレゼンを練習する
第15回 プレゼンテーション、意見交換、講評	プレゼンと意見交換から学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・材料や道具類を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履修すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・プロダクトデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ボーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕
 〔プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識〕〔JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会〕〔ワークスコーポレーション〕〔2, 400円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

マンガ・イラスト I

(12165)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿野明子 安孫子三和

■ 授業の概要

前半では…マンガ家歴25年の経験をふまえ、実践形式でアナログのマンガ・イラストに必要な基礎技術と表現方法を指導する。つけペンを使って集中線を描く、スクリーントーンの削り、マンガに必要なデッサンクロッキーとデフォルメの仕方を学ばせる。（安孫子三和／7.5回）

後半では…マンガ・イラストレーションとそれを取り巻く様々なコンテンツと社会のかかわりについて教授する。マンガの発生から現在に至る歴史の解説を代表的な作品を示し教授する。マンガ・イラストレーションの定義づけを様々な観点から、或いは事例を示し理解させる。マンガと著作権の関係をとり上げコンプライアンスの重要性を認識させる。4コママンガ作成で制作の基礎を学ぶ。（鹿野明子／7.5回）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・マンガ・イラストの基礎的な技術習得と表現を身につける	①
・学習した内容を深めて発展した表現を身につける	②
・マンガの定義と歴史を知ることができる	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス キャラクタートレーニング（作画） （安孫子・鹿野）	授業説明 ・自分のマンガのキャラクターを鉛筆で描く ・必要画材の通達
第2回	ペントーン 効果（作画）① （安孫子）	課題用紙配布（アナログ制作） ・集中線ベタフラの描き方を学ぶ ・スクリーントーンの削りを学ぶ
第3回	ペントーン 効果（作画）② （安孫子）	・背景を描く（3種）
第4回	ペントーン 効果（作画）③ （安孫子）	仕上げ のち 完成提出
第5回	鉛筆クロッキー① 人物バランス （安孫子）	用紙配布・資料配布・人体のバランスを例を見ながら自分風に描く（鉛筆画）
第6回	鉛筆クロッキー② 中高老年 （安孫子）	クロッキーブック、鉛筆持参 中公老年の画像を各自セレクトして描く（6種）
第7回	鉛筆クロッキー③動物 （安孫子）	クロッキーブック、鉛筆持参 動物の画像を各自セレクトして描く（6種）
第8回	鉛筆クロッキー①②③をもとにデフォルメ作画 （安孫子）	マンガ原稿用紙にデフォルメしたイラストマンガを描く・ペン入れのち完成提出
第9回	マンガの定義／マンガを構成する要素 （鹿野）	道具を用意する
第10回	マンガ史① 4コママンガI （鹿野）	現在のマンガの土台となった作品を読んでもみる
第11回	マンガ史② 4コママンガII （鹿野）	作品の元になる事象を書き出しておく
第12回	プロとアマチュア 4コママンガIII （鹿野）	オチにとらわれすぎずにネームを作成する
第13回	マンガとタブー 4コママンガIV （鹿野）	作品の面白さを生かす画面の構成に留意する
第14回	著作権とマンガ 4コママンガV （鹿野）	丁寧に作業を進めておく
第15回	キャラクターについて 4コママンガVI （鹿野）	講評

■ 履修上の注意

制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 授業態度20%（準備物・集中度・進行速度）

■ 教科書

必要に応じて、そのつど資料を配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

質問等は授業内か授業終了後に受け付けます。

マンガ・イラストⅡ

(12166)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿 野 明 子 安孫子 三 和

■ 授業の概要

前半では…マンガ家歴25年の経験を踏まえ、童謡、童話、詩、小説からイメージをもらい、ショートマンガやイラストストーリーに仕上げて、省略や誇張の技術を学び、人にも伝わりやすい表現方法を身につける。（安孫子三和／7.5回）

後半では…フランスやアメリカ等の海外マンガの現状を伝え、日本のマンガと対比させる。また雑誌等の広告を想定した小作品、クロスメディア展開されるコンテンツのキャラクターデザインの制作を課し、情報伝達手段としてのマンガ・イラストレーションの技法と魅力を教授する。（鹿野明子／7.5回）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・マンガ・イラストの要点をまとめ、わかりやすく人に伝える力を身につける

③

・マンガ・イラストを用いてわかりやすく情報を伝える技術を習得できる

⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業説明

・童謡童話詩小説元ネタのセレクトとあらすじ制作
（安孫子・鹿野）

童謡童話詩小説からショートマンガやイラストストーリーにする元を選び200時程度、起承転結にまとめる

第2回 詩小説 ショートストーリー制作①ネーム1（安孫子）

2ページから4ページの作品制作
ネームを作る

第3回 詩小説 ショートストーリー制作②ネーム2（安孫子）

ネームチェック

第4回 詩小説 ショートストーリー制作③ネームなおし（安孫子）

直しまとめる チェック

第5回 詩小説 ショートストーリー制作④下絵1（安孫子）

原稿用紙に下絵（デジタルも可）
効果や背景も入れる

第6回 詩小説 ショートストーリー制作⑤下絵2（安孫子）

下絵完成 チェック

第7回 詩小説 ショートストーリー制作⑥ペン入れ1（安孫子）

ペン入れ（デジタルも可）

第8回 詩小説 ショートストーリー制作⑦ペン入れ2

仕上げ 完成提出（安孫子）

仕上げトーンまでして完成作品を提出する 回覧
しコメントする

第9回 マンガのジャンル

レポートマンガ・イラストエッセイI

（鹿野）

広告の一環として作られたマンガを多数読み、制作の留意点を考えておく

第10回 マンガと文学

レポートマンガ・イラストエッセイII

（鹿野）

24年組の作品を読んでもみる
画面の華やかさに考慮しネームを進める

第11回 外国から見た日本のマンガ

レポートマンガ・イラストエッセイIII

（鹿野）

国外のマンガを読んでもみる

第12回 レポートマンガ・イラストエッセイIV

（鹿野）

完成度を高める

第13回 キャラクターデザインI

（鹿野）

マンガ・小説・アニメーション・ゲームで同時に
展開されるコンテンツのキャラクターについて調査しておく

第14回 キャラクターデザインII

（鹿野）

丁寧に作業を進める

第15回 キャラクターデザインIII 講評会

（鹿野）

完成度を高める

■ 履修上の注意

マンガ・イラストIの受講を必修とする。履修できなかった者は要相談。制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 授業態度20%（準備物・集中度・進行速度）

■ 教科書

必要に応じて、そのつど資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

質問等は授業内か授業終了後に受け付けます。

マンガ・イラストⅢ

(12167)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿 野 明 子 安 孫 子 三 和

■ 授業の概要

前半では…読者に与える感情効果を的確に高めるための指導を行う。マンガを構成する重要な要素「画力」「ストーリー」「ロジック」のスキルアップをねらった課題を課す。画力を上げるためのデッサンやイラスト力の基礎の大切さを理解させる。ストーリーを作成するための方法を指導する。マンガにおけるロジックの実例を示し説明する。もしくは、クライアントの要求に応えることができるスキルを身につけるためのイラストレーション制作を課す。（鹿野明子／7.5回）

後半では…必要な資料を探し、加工し、作品作りに生かしていく手法を教授する。よりリアリティのある制作方法を身に付けられるようマンガ家歴25年の経験をふまえて指導する。（安孫子三和／7.5回）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・主題が伝わる技術と表現を考察施行し身につける
- ・マンガ・イラストの資料集めの大事さとリアリティを身に付ける

③
③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 技法研究1 人体と表情 制作I 構想／題材選定（鹿野・安孫子）	人体の構造を調べできる限り覚える 興味のある題材を調査し資料を収集する
第2回	技法研究2 パースペクティブ 制作II シナリオ／イメージスケッチ（鹿野）	透視図法を用いる風景を数多くスケッチする 何度も読み直す。特にセリフを、短くてもたくさん のことが分かりやすく伝わるようによく練る
第3回	技法研究3 質感とオブジェクト 制作III シナリオのチェックと修正／表紙と挿絵のラフ（鹿野）	描画ツールの特性を理解し生かすために、できるだけ多くの事物を描く
第4回	制作IV ネーム／表紙と挿絵のラフ修正（鹿野）	ネームをかききる。修正・改善をする
第5回	制作V ネーム 演出（ロジックの導入）／下描き（鹿野）	修正・改善をする
第6回	制作VI ネーム／下描き（鹿野）	同上
第7回	制作VII ネーム／ペン入れ（鹿野）	同上
第8回	制作VIII ネーム ネームの完成／ペン入れ（鹿野）	マンガIVでスムーズに制作に入れるよう準備する
第9回	民族衣装を描く① 下絵（安孫子）	資料写真を探し、世界の民族衣装を描く（キャラ2名）
第10回	民族衣装を描く② ペン入れ（安孫子）	質感、光の当たり方も工夫してペンを入れる
第11回	民族衣装を描く③ 仕上げ 提出（安孫子）	スクリーントーンなども使い完成提出
第12回	カラー作画① ラフ提出（安孫子）	キャラ2名以上、背景、小物も入れる・画材は自由（デジタル可）
第13回	カラー作画② ペン入れ・塗り（安孫子）	制作・チェックあり
第14回	カラー作画③ 完成提出（安孫子）	デジタル画はプリントアウトして提出 回覧しコメントする
第15回	オリジナル8ページ作品のあらすじ／ネタ決め（安孫子）	イメージを固めて、後期すぐネームに入る準備をしておく

■ 履修上の注意

マンガ・イラストIおよびIIの受講を必修とする。履修できなかった者は要相談。制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 授業態度20%（準備物・集中度・進行速度）

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

質問等は授業内か授業終了後に受け付けます。

マンガ・イラストⅣ

(12168)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿 野 明 子 安孫子 三 和

■ 授業の概要

マンガ・イラストⅣでは、マンガ・イラストレーションをととして専門的・汎用的な知識、技術を修得する。（オムニバス方式／全15回）

前半では…マンガ・イラストⅢ前半で完成させたネームをもとにマンガを完成させる。マンガの幅広い技術とよりよい表現を習得するため、例を挙げて示し自ら考え実践できるよう指導する。もしくは、架空のソーシャルゲームを想定した課題によって、指示書に従った完成度の高い作品を作成できるよう技術的な指導をする。

（鹿野明子／7.5回）

後半では…ショートストーリーのマンガやイラストでのストーリー作りを体験させ、技術向上と表現方法の上達をより深く高く身に付けさせる。（安孫子三和／7.5回）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・マンガ・イラスト作品を制作することで他者を楽しませ、社会と関わることができる

③

・マンガ・イラスト作品のオリジナリティを確立し推敲技術を身につける

③⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 制作Ⅰ 下描き／課題選定・構想（鹿野・安孫子）	マンガ・イラストレーションⅢ前半で完成させたネームをもとに下描きをする／こちらが提示した指示書のなかから課題を選定する
第2回	制作Ⅱ 下描き／ラフとその修正①、資料収集（鹿野）	同上
第3回	制作Ⅲ ペン入れ／ラフとその修正②（鹿野）	丁寧な作業を心がける
第4回	制作Ⅳ ペン入れ／下描き（鹿野）	丁寧な作業を心がける
第5回	制作Ⅴ ペン入れ／主線（鹿野）	丁寧な作業を心がける
第6回	制作Ⅵ ペン入れ／彩色（鹿野）	丁寧な作業を心がける
第7回	制作Ⅶ 仕上げ／修正（鹿野）	必要があれば差し替えをする
第8回	制作Ⅷ 仕上げ 講評／仕上げ 講評（鹿野）	作品を客観的にとらえ、これからの制作にどう生かしていくのかを考える
第9回	オリジナル8ページ作品制作①ネーム（安孫子）	8ページのネーム・チェック
第10回	オリジナル8ページ作品制作②ネーム直し（安孫子）	ネーム直し完成チェック
第11回	オリジナル8ページ作品制作③下絵（2）（安孫子）	原稿用紙に下絵 デジタルも可
第12回	オリジナル8ページ作品制作④ペン入れ（安孫子）	人物のほか背景、小物もかき入れること
第13回	オリジナル8ページ作品制作⑤ペン入れ（2）（安孫子）	同上
第14回	オリジナル8ページ作品制作⑥仕上げ（安孫子）	集中線やトーン効果を入れて仕上げ作業
第15回	オリジナル8ページ作品制作⑦完成提出・コメント会（安孫子）	デジタル作品はプリントアウトして提出 回覧しコメント会を行う

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅢの受講を必修とする。履修できなかった者は要相談。制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40％（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40％（画力・丁寧さ・仕上げ）

授業態度20％（準備物・集中度・進行速度）

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

質問等は授業内か授業終了後に受け付けます。

アニメ・ゲームⅠ

(12169)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 伊勢 周 平

■ 授業の概要

アニメ・ゲームⅠのアニメの授業では、メディア芸術基礎の演習で用いたグラフィックソフトに加え、映像制作や編集ソフト等を活用し、短編アニメまたは映像作品を制作する。ゲームの授業では、3DCG制作ソフト(Blender)を用いての演習と作品制作を行う。アニメ・ゲームいずれの授業も、テーマ・表現力・技術的な事柄について様々な気づきと展開を促し、次段階へ繋がる指導を行う。ガイダンス：1回、アニメ：7回、ゲーム：7回の計15回のオムニバス形式授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 基本的な知識・学習能力を身につける。	①
・ 作品を自分自身の問題意識と結びつけることが出来る。	①
・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。	①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンスとアニメ課題（短編作品の構想）	説明と準備。制作ノートの用意。
第2回	2. アニメ① 制作（構想＋スケッチ＋絵コンテ等）	方向性と大まかな流れを決める。
第3回	3. アニメ② 制作（描画・編集ソフトなどの説明）	コンテを元にタイムライン作成。
第4回	4. アニメ③ 制作（タイムライン等確認・動画）	詳細を決める。
第5回	5. アニメ④ 制作（描画）	カット割りや時間について確認。
第6回	6. アニメ⑤ 制作（制作意図と改善箇所等の確認）	個々で見直す。
第7回	7. アニメ⑥ 制作（動画の確認、改良）	当初の構想との照らし合わせ。
第8回	8. アニメ⑦ 講評	各自コメントを発表。
第9回	9. ゲーム① 制作（Blenderの説明とセットアップ）	基本的な操作を確認。
第10回	10. ゲーム② 制作（構想＋スケッチ）	作品の方向性を決める。
第11回	11. ゲーム③ 制作（モデリング基礎）	試作を重ねる。
第12回	12. ゲーム④ 制作（モデリング応用）	試作、改良を重ねる。
第13回	13. ゲーム⑤ 制作（制作意図と改善箇所等の確認）	途中段階の作品を客観的に補足。
第14回	14. ゲーム⑥ 制作（制作物の確認、改良）	最初の構想からどう展開したかの確認。
第15回	15. ゲーム⑦ 講評	各自コメントを発表。

■ 履修上の注意

※アニメとゲームの授業日程や準備等について、変更のある場合は随時指示する。

※講評会では自分の作品についてコメントを発表する。

※制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

不測の事態に備えて、バックアップは各々でできる限り取ること。

■ 成績評価方法・基準

・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。

・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

・ 『入門Blender 2.9 〜ゼロから始める3D制作〜』 著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 参考書

・ 参考となる書籍・映像作品・ゲーム作品等については、DMR設置のモニタ等で随時紹介する予定。

■ 備考

・ 場合により、課題や日程等を変更する場合があります。

・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）で受け付けます。

アニメ・ゲームⅡ

(12170)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 伊勢 周 平

■ 授業の概要

アニメ・ゲームⅡは、前期Ⅰで各々が制作した作品から更なる発展と深化を目指す。アニメーションの授業では、それぞれの作品世界についていかに構築し、より説得力のある場面を創造するにはどうすべきか？に主眼を置いて指導を行う。ゲームの授業では、前期Ⅰから引きつづきブレンダーを用いての制作・演習を行い、3DCGでの空間構築、視点の設定、出力について教授する。ガイダンス：1回、アニメ授業：7回（担当・鈴木）、ゲーム授業：7回（担当・伊勢）の合計15回のオムニバス形式授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 基本的な知識・学習能力を身につけること。
- ・ 作品を自分自身の問題意識と結びつけることが出来る
- ・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。

①
①
①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス	説明と準備。制作ノートの手配。
第2回	2. アニメ① 制作（構想＋スケッチ＋コンテ等）	制作の方向性、内容をおおよそ決定。
第3回	3. アニメ② 制作（設定を決める。実験的要素も含む）。	制作ノートを確認しながら制作。
第4回	4. アニメ③ 制作（絵コンテを元にタイムライン化、確認）	制作する場面の優先順位を決める。
第5回	5. アニメ④ 制作	カット、時間配分を再度確認。
第6回	6. アニメ⑤ 制作（随時改良）	全体的な時間の流れを意識する。
第7回	7. アニメ⑥ 制作（まとめ）	制作ノートを再度確認。
第8回	8. アニメ⑦ 講評	作品について感想や意見を交わす。
第9回	9. ゲーム① 制作（3DCGモデルを動かす）	制作ノートの作成、構想を練る。
第10回	10. ゲーム② 制作（環境空間とカメラ）	出来る限り最初の発想を尊重する。
第11回	11. ゲーム③ 制作（試作を重ねる）	制作時間の客観的な把握も必要となる。
第12回	12. ゲーム④ 制作（注力すべき箇所の選択）	ある程度、制作の優先順位を決める。
第13回	13. ゲーム⑤ 制作	まとめに向けて密度精度を高める。
第14回	14. ゲーム⑥ 制作・まとめ（出力）	イメージを伝える最適の瞬間を選ぶ。
第15回	15. ゲーム⑦ 講評	作品について感想や意見を交わす。

■ 履修上の注意

※アニメとゲームの日程や順序等に変更のある場合や、特に準備が必要な場合は随時指示する。

※講評会では作品についてプレゼンテーションを行う。

※制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

不測の事態に備えて、バックアップは各々出来るだけ小まめにとること。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 特に指示しない。

■ 参考書

- ・ 『入門Blender 2.9 〜ゼロから始める3D制作〜』 著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 備考

- ・ 場合により、課題を若干変更することがあります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付けます。

アニメ・ゲームⅢ

(12171)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

アニメ・ゲームⅢのアニメの授業では、Ⅱで制作した各々の作品の更なる発展と深化を目指す。場合により制作の協力と連携を实践させる。ゲームの授業では、3DCG制作ソフト(Blender)を用いての演習を行い、モデリングの基礎と応用、動画制作について指導する。いずれの授業も、様々な気づきと今後への展開を促し、次段階へ繋がる指導を行う。ガイダンス：1回、アニメ：7回（担当・鈴木）、ゲーム：7回（担当・伊勢）の計15回のオムニバス形式授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 基本的な知識・学習能力を身につけること。	①
・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。	①
・ 作品を自身の問題意識・社会・世界と結びつけ考える。	①③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンスとアニメ課題（作品の構想）	説明と準備。制作ノートの用意。
第2回	2. アニメ① 制作（構想＋スケッチ＋絵コンテ等）	制作の方向性、内容を決定。
第3回	3. アニメ② 制作（タイムライン等確認・動画）	制作ノートを確認しながら試作。
第4回	4. アニメ③ 制作	分担して制作。
第5回	5. アニメ④ 制作	カット割りや時間を考慮する。
第6回	6. アニメ⑤ 制作（意図と改善箇所等の確認）	折々で修正、変更柔軟に対応すること。
第7回	7. アニメ⑥ 制作（動画の確認、改良）	制作ノートと照らし合わせ。
第8回	8. アニメ⑦ 講評	それぞれ感想と意見の交換。
第9回	9. ゲーム① 制作（Blenderの説明とセットアップ）	基本的な操作を確認。
第10回	10. ゲーム② 制作（構想＋スケッチ）	作品の方向性を決める。
第11回	11. ゲーム③ 制作（モデリング基礎）	試作を重ねる。
第12回	12. ゲーム④ 制作（モデリング応用）	試作、改良を重ねる。
第13回	13. ゲーム⑤ 制作（制作意図と改善箇所等の確認）	途中段階の作品を客観的に補足。
第14回	14. ゲーム⑥ 制作（制作物の確認、改良）	最初の構想からどう展開したかを確認。
第15回	15. ゲーム⑦ 講評	各自コメントを発表。

■ 履修上の注意

※ガイダンス1、アニメ7、ゲーム7の授業日数となる。

※アニメとゲームの授業日程の変更、および準備等については、随時指示する。

※講評会では作品についてプレゼンテーションを行う。

※制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

不測の事態に備えて、バックアップは各々でできる限り取ること。

■ 成績評価方法・基準

・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。

・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

・ 教科書：『入門Blender 2.9 〜ゼロから始める3D制作〜』著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 参考書

・ 参考となる書籍、アニメーション作品、映像作品、ゲーム作品等を随時紹介する。

■ 備考

・ 場合によっては、課題や日程等を変更することがあります。

・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）で受け付けます。

アニメ・ゲームⅣ

(12172)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 伊勢 周 平

■ 授業の概要

アニメ・ゲームⅣは、Ⅲからの更なる発展と深化を目指す。アニメの授業では、これまで制作してきた各々の作品世界を深めることは当然として、鑑賞者に伝え得る演出（編集、音響など）に重点を置いて指導する。ゲームの授業では、Ⅲから引きつづきブレNDERを用いての演習と制作を行い、3DCGでの空間構築、視点の設定、出力などについて教授する。ガイダンス：1回、アニメ授業：7回（担当・鈴木）、ゲーム授業：7回（担当・伊勢）の合計15回のオムニバス形式授業である。講評会では、各作品への感想や意見を交わす場とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 基本的な知識・学習能力を身につけること。	①
・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。	③
・ 作品を自身の問題意識・社会・世界と結びつけ考える。	⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス（概要説明、テーマの設定、構想）	説明と準備。制作ノートの用意。
第2回	2. アニメ① 制作（構想＋ラフスケッチ＋コンテ等）	制作の方向性、内容を決定。
第3回	3. アニメ② 制作（作品内容の検討、制作）	制作ノートを確認しながら制作。
第4回	4. アニメ③ 制作（制作、コンテをタイムライン化）	全体の流れを主に意識する。
第5回	5. アニメ④ 制作	難点箇所をこの時点で把握する。
第6回	6. アニメ⑤ 制作（作品全体の流れを意識する）	折々で修正、柔軟に対応する。
第7回	7. アニメ⑥ 制作（まとめ）	制作ノートを確認。
第8回	8. アニメ⑦ 制作 講評	テーマについて各々補足説明。
第9回	9. ゲーム① 制作（3DCGモデルを動かす）	制作ノートの作成、構想を練る。
第10回	10. ゲーム② 制作（環境空間とカメラ）	出来る限り最初の発想を尊重する。
第11回	11. ゲーム③ 制作（試作を重ねる）	制作時間の客観的な把握も必要となる。
第12回	12. ゲーム④ 制作（注力すべき箇所の選択）	ある程度、制作の優先順位をきめる。
第13回	13. ゲーム⑤ 制作	まとめに向けて精度を高める。
第14回	14. ゲーム⑥ 制作・まとめ（出力）	イメージを伝える最適の瞬間を選ぶ。
第15回	15. ゲーム⑦ 講評	作品について感想や意見を交わす。

■ 履修上の注意

履修上の注意

※アニメとゲームの授業日程に変更がある場合や、準備等特に必要な場合は、随時指示する。

※講評会では作品についてプレゼンテーションを行う。

※制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。不測の事態に備え、バックアップは各々出来るだけ小まめにとること。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 教科書：『入門Blender 2.9 ~ゼロから始める3D制作~』著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 参考書

- ・ 参考書：参考となる書籍、アニメーション作品、映像作品、ゲーム作品等を随時紹介する。

■ 備考

- ・ 場合により、課題を若干変更することがあります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）で受け付けます。

色彩学

(12173)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿 野 明 子

■ 授業の概要

デザイナーやアーティスト、造形に携わる人々に必要な色彩システムを教授する。マンセルシステムとPCCSの2つの表色系を中心に色彩調和の基本システムを教授し、アートやデザインの実践に即した実用技術を身に付ける。混色と調色の技能を習得し、おのおのの制作や考察の一要素にできるよう、色材を用いた課題を課す。また、色票を用いた課題を課すことで色の知覚的効果への理解を深め、色彩調和の技法を学び、応用力が身につくように指導する

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・色彩システムの基礎知識を身につける	①
・色材を扱う技術を身につける	①
・色彩調和を応用し造形に合った配色ができる	①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス／混色	ノートを準備する。
第2回 色の三属性と色立体、カラーシステム	語句を暗記する。
第3回 PCCSの色相環	画材を用意する。
第4回 明度と彩度	画材を用意する。
第5回 PCCSのトーン	配色カードを持ってくる。
第6回 色のなりたち 光、物体、目	用語を理解し覚える。
第7回 色の知覚的効果 対比と同化	配色カードを持ってくる。復習をする。
第8回 色の知覚的効果 色の伝達効果 他の感覚に及ぼす効果	配色カードを持ってくる。復習をする。
第9回 色の心理的効果	配色カードを持ってくる。復習をする。
第10回 色彩調和 色相、トーンを基準にした配色	配色カードを持ってくる。復習をする。
第11回 色彩調和 基本的な配色技法	配色カードを持ってくる。復習をする。
第12回 色彩調和 慣習的な配色技法	配色カードを持ってくる。復習をする。
第13回 演習課題I カラーパレットの作成	日頃よく使う色材を持ってくる。
第14回 演習課題II 色彩採集	画像を整理しておく
第15回 まとめ	
第16回 期末試験	

■ 履修上の注意

準備物を必ず持ってくる。授業時間内に課題が終わらない場合は次回講義までに完成させる。

■ 成績評価方法・基準

期末試験40％ 講義ノートと課題40％ 授業態度20％

■ 教科書

〔PCCSハーモニックカラーチャート201-L〕〔日本色彩研究所〕〔2, 310円〕

〔新配色カード199〕〔日本色彩研究所〕〔a935円もしくはb2, 420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付ける。

美術史 I

(12174)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表 1 年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

① ヴィレンドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史における「オリジナリティ」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 19世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。

①②

・ 作品間、美術家間の関係を説明できる。

①②

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 美術史における「個人」について	「つくる美術史のテキスト」による予習
第2回 古代メソポタミア文明以前の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」1~9復習
第3回 古代エジプト文明の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」10~13復習
第4回 古代ギリシャ文明化からヘレニズム時代の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」14~23復習
第5回 エトルリア美術から初期キリスト教美術	「クイズ集」、「解答・解説集」24~28復習
第6回 ビザンティン美術	「クイズ集」、「解答・解説集」29~31復習
第7回 初期中世美術	「クイズ集」、「解答・解説集」32~35復習
第8回 中間テスト	中間テストの復習
第9回 ロマネスク・ゴシックの美術	「クイズ集」、「解答・解説集」36~40復習
第10回 ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」41~47復習
第11回 盛期ルネッサンスとベネチア派	クイズ集、「解答・解説集」48~53復習
第12回 マニエリスムから北方ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」54~59復習
第13回 バロック・ロココ	「クイズ集」、「解答・解説集」60~65復習
第14回 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」66~69復習
第15回 産業革命と美術	「クイズ集」、「解答・解説集」70~74復習
第16回 試験	テキスト、参考書を用いて自己採点

■ 履修上の注意

毎回、クイズを課す。(必ず提出してから退出すること) 中間テスト、期末試験を行う。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト: 20% (フィードバックを行う) 期末テスト: 70%、クイズ提出: 10% (フィードバックを行う)

期末テストでは「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。(参照なしの解答については、満点を120点とする)

■ 教科書

「つくる美術史のテキスト」〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 参考書

「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説」〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 備考

授業14回分 (中間テストと期末テストを除く) をYouTubeで限定配信する。

オフィスアワー: 2時間/1週 (曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

美術史Ⅱ

(12175)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史における変化の背景について考察を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・日本美術史の流れについて説明できる。

①②

・東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。

①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション（縄文人が築いたもの 弥生人が築いたもの）	ワークシートによる予習
第2回	縄文時代	クイズ（解答例）1から12復習
第3回	弥生時代・古墳時代の美術	クイズ（解答例）13から24復習
第4回	仏教、仏像について	クイズ（解答例）25から30復習
第5回	飛鳥時代の美術	クイズ（解答例）31から45復習
第6回	奈良（白鳳）時代の美術	クイズ（解答例）46から52復習
第7回	奈良（天平）時代の美術1（塑像等）	クイズ（解答例）53から81復習
第8回	中間テスト	中間テスト復習
第9回	奈良（天平）時代の美術2（乾漆像等）	クイズ（解答例）82から103復習
第10回	密教美術1（仏像）	クイズ（解答例）104から116復習
第11回	密教美術2（曼荼羅）	クイズ（解答例）117から119復習
第12回	平安時代の美術（立体）	クイズ（解答例）120から132復習
第13回	平安時代の美術（平面）	クイズ（解答例）133から151復習
第14回	鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術	クイズ（解答例）152から157復習
第15回	桃山・江戸時代以降の美術	クイズ（解答例）158から162復習
第16回	試験	試験の自己採点による振り返り

■ 履修上の注意

毎回、クイズを課す。中間テスト、期末試験を行う。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト：20%（フィードバックを行う） 期末テスト：70%、クイズ提出：10%（フィードバックを行う）

期末テストでは「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。（参照なしの解答については、満点を120点とする）

■ 教科書

〔つくる美術史のテキスト 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

■ 参考書

〔つくる美術史のテキストクイズ集 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

〔つくる美術史のテキスト-解答・解説集 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

■ 備考

授業14回分（中間テストと期末テストを除く）をYouTubeで限定配信する。

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

デザイン概論

(12176)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

デザインの事例を画像や映像で紹介し簡単な課題を課す。それをとおしてデザインの基礎概念を受講者全員で確認する授業である。それをきっかけとして客観的、理論的思考力を身に付け、身の回りから人間生活、社会、自然と、様々な状況において自発的にデザインできるように指導する。また「よいデザインとは」を問題意識として掲げ倫理観と総合的な思考力を養うことで社会の問題をデザインで柔軟に対応し解決できるように指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・デザインの基本的な知識を身につける
- ・デザインの専門的な知識を身につける
- ・倫理観と総合的な思考力を身につける

②

④

⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	日常の中から「デザイン」に注目する
第2回	「デザインとは何か」 デザインの用語、ジャンルについて	デザインの専門用語を整理する
第3回	「デザインとは何か」 美術とデザインの違いについて	美術の各分野、ジャンルを確認する
第4回	「デザインとは何か」 主にデザインで用いられる材料や加工の方法について	大量生産に適した素材を調べる。気に入った製品を選び、次回紹介する
第5回	「デザインとは何か」 著名なデザイナーと、そのデザインについて	授業で紹介した製品やデザイナーについてさらに調べる
第6回	「デザインとは何か」 のまとめとモダンデザイン	まとめや感想を次回発表する
第7回	「デザインとは何か」 のまとめとユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの例を調べる
第8回	「デザインとは何か」 のまとめとグッドデザイン	過去のグッドデザインについて調べる
第9回	デザインの問題点を考える	身近な問題点に注意してみる
第10回	広告について（新聞、雑誌、テレビ他）	広告媒体を調べる
第11回	デザイン史概略 産業革命	プリントから時代の流れを整理する
第12回	デザイン史概略 19世紀の建築、工芸、工業製品	プリントから時代の流れを整理する
第13回	デザイン史概略 美術工芸運動	プリントから時代の流れを整理する
第14回	現代のデザインの仕事からモダンデザインを考える	身近な製品のデザインを自分で考える
第15回	タイプフェイスからモダンデザインを考える まとめ	モダンデザインについてレポートを作成する

■ 履修上の注意

課題（レポート、実技）の提出あり

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、授業での発表（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

なし 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

美学Ⅰ

(12177)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森 田 優 子

■ 授業の概要

美術を見て理解することは想像するよりも複雑な行為である。基礎的な知識が必要であり、過去美術作品となると美術以外に様々な知識も必須となる。そのうえ、これまで経験したことが少ないと思われる、かたちを見る訓練も不可欠である。この授業ではルネサンス美術を中心に、聖書の内容をあらわしたキリスト教美術など具体的に作品を見ながら授業を進める。この授業では美術家たちが伝統を踏まえながら試行錯誤を試み、新たな作品を生み出していった過程について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・伝統的な西洋美術について概要を知り、作品を見る際の着眼点が分かるようになる。 | ①②③ |
| ・伝統的な規範の影響や、芸術家本人の着想、また注文主との関係のなかで作品が生み出されたという文脈を理解できるようになる。 | ④⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	必要なし
第2回 芸術家とは	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第3回 聖母子について1 聖母の存在	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第4回 聖母子について2 誕生をめぐる	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第5回 キリスト伝1 キリストの生涯	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第6回 キリスト伝2 生と死	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第7回 絵を見ることは（初級編）実践	課題を行う。
第8回 絵を見ることは 講評・解説	復習:課題を再検討し、講義ノートをまとめておく。
第9回 美術のパトロン1 教会、君主、共和国	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第10回 美術のパトロン2 美術蒐集・愛好家たち	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第11回 芸術家と工房1 工房とはなにか	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第12回 芸術家と工房2 制作過程について	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第13回 版画について1 技法と基礎知識	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第14回 版画について2 創造と伝播	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第15回 まとめ	復習:講義ノートをまとめておく。

■ 履修上の注意

テキストとしてプリントを配布するが、予習よりも復習に時間をかけることを勧める（目安として週当たり復習2時間）。

■ 成績評価方法・基準

学期末レポート（50%）、確認テスト（30%）、授業に対する取組み（課題やミニレポート等）（20%）をもとに評価する。課題やミニレポートについては都度フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

プリントを配布する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美学Ⅱ

(12178)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森田 優子

■ 授業の概要

美術の価値とはなにか、その価値はどのように作られてきたのか。改めて考えると、これは美術の本質的な問いにつながっている。授業ではこの問いに歴史的にアプローチし、ルネサンス美術を中心に美術についてより深い考察へ導く。15回の授業の前半はギリシア・ローマ神話を表した美術の基本的見方について、神話を描くことや古代という時代の意味するものについて考察する。後半は美術の価値について歴史的かつ多面的な見方を教える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|-----|
| ・伝統的な西洋美術について概要を知り、作品を見る際の着眼点が分かるようになる。 | ①②③ |
| ・美術が生み出される過程や機能について知ること、各々の作品をより深く理解できるようにする。 | ④⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 美術の価値をめぐって	必要なし
第2回 ギリシア・ローマ神話と美術1 神々と変身	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第3回 ギリシア・ローマ神話と美術2 戦いをめぐって	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第4回 ギリシア・ローマ神話と美術3 悲恋のお話	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第5回 古代とルネサンス1 古代の復興とは	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第6回 古代とルネサンス2	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第7回 肖像画について1	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第8回 肖像画について2 自画像	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第9回 絵を見ることとは（中級編）実践	課題を行う。
第10回 絵を見ることとは 講評・解説	復習:課題を再検討し、講義ノートをまとめておく。
第11回 美術の価値を考える1	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第12回 美術の価値を考える2 詩と美術	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第13回 美術の価値を考える3 裸体像	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第14回 美術の価値を考える4 装飾	復習:配布資料を再読し、講義ノートをまとめておく。
第15回 まとめ	復習:講義ノートをまとめておく。

■ 履修上の注意

テキストとしてプリントを配布するが、予習よりも復習に時間をかけることを勧める（目安として週当たり復習2時間）。

■ 成績評価方法・基準

学期末レポート（50%）、確認テスト（30%）、授業にたいする取組み（課題・ミニレポート等）（20%）をもとに評価する。課題やミニレポートについては都度フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

プリントを配布する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美術鑑賞 I

(12179)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①18世紀から印象派に至る過程について理解を促す。②印象派後のエコール・ド・パリ、ダダ、シュール・リアリズム、抽象表現主義等に関するケーススタディーをととし、それらの理論的背景について論じる。③作品の理論的背景を鑑賞の対象として意識させる。④歴史上の美術家と自身との関係について考察させる。⑤自身の作品に関するステートメントの作成方法及びプレゼンテーションの実践方法を指導する。⑥それぞれの受講者に作品のプレゼンテーションを課し、それらの違いについて考察を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・18世紀後半以降のアートシーンについて、説明できる。	①
・現代美術に至る経緯と脈絡を論述できる。	①
・美術史の脈絡と自身の作品との関係について、説明できる。	①
・現代社会と自身の作品との関係について、説明できる。	⑦
・作品から他者の視点を洞察することができる。	⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：「もの」が「アート」になるメカニズムについて	「美術史I」の復習
第2回	近代美術の断面1：印象派前夜	「クイズ集」70から76
第3回	近代美術の断面2：印象派と後期印象派と新印象派	「クイズ集」77から85
第4回	小テスト	小テストのふりかえり
第5回	近代美術の断面3：表現者を描く表現について	ワークシート：ゴッホを描くということについて
第6回	近代美術の断面4：表現者がストーリーの主人公されることについて	ワークシート：没後のゴッホ
第7回	近代美術の断面5：エコール・ド・パリとその周辺の作家達について	ワークシート：エコール・ド・パリとは
第8回	近代美術の断面6：映画「モディリアーニ-真実の愛」の虚について	ワークシート：没後のモディリアーニと二人目のジャンヌの存在について
第9回	美術家の悲劇性について	ワークシート：「美術」と「悲劇」の切ろうとすれば切れる関係について
第10回	現代美術における「支持体」と「描画材」	ワークシート：支持体と描画材の拡大解釈を超えて
第11回	鑑賞行為／鑑賞教育の意味について	ワークシート：視点の共有と違いの受容について
第12回	アーティスト・ステートメントとは（事例研究）	アーティスト・ステートメント ドラフト作成
第13回	アーティスト・ステートメントの書き方	アーティスト・ステートメント 作成
第14回	アーティストとしてのプレゼンテーションについて	アーティスト・プレゼンテーション 準備
第15回	プレゼンテーション	プレゼン評価表の作成

■ 履修上の注意

クイズの解答、ワークシート等の提出を課す。

授業開始後30分までは「遅刻」とし、遅刻3回を欠席1回と見なす。30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回と見なす。

■ 成績評価方法・基準

小テスト：10%（フィードバックを行う） ワークシート：30% プレゼン：30%（フィードバックを行う） ステートメント：30%

■ 教科書

〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 参考書

〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

美術鑑賞Ⅱ

(12180)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①日本が誇る貴重な文化遺産を鑑賞する機会を提供する。②それらの文化遺産の概要、価値、意味について考察を促す。③文化財、特に国宝が集中する関西エリアの魅力について解説する。④美術鑑賞研修旅行（対象地域：関西エリア）において、想定される鑑賞対象に関する情報を提供する。⑤関西エリアの文化遺産、文化施設、文化事業に関する主体的な調査とプレゼンテーションを支援する。⑥関西鑑賞旅行を効率的に実践するための情報共有を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・日本の文化財、文化事業に関する基礎知識を身につけ、その意味について説明できる。	①
・美術鑑賞研修旅行（大阪・奈良・京都方面）における研修対象を主体的に選定し、それら研修対象に関する事前調査と発表を実践できる。	①⑥
・関西研修旅行において、自主研修／調査を実践し、その成果を論理的に説明できる。	①⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション「世界の中の日本/日本の中の世界」	関西の文化全般に関する状況調査
第2回	大阪・奈良・京都の美術と文化事業について	プレゼン準備、レジメ作成（明日香の美術）
第3回	1. 鑑賞旅行における鑑賞対象について（明日香の美術）	プレゼン準備、レジメ作成（奈良の仏像・奈良公園エリア）
第4回	2. 鑑賞旅行における鑑賞対象（奈良の仏像・奈良公園エリア）	プレゼン準備、レジメ作成（奈良の仏像・斑鳩エリア）
第5回	3. 鑑賞旅行における鑑賞対象（奈良の仏像・斑鳩エリア）	プレゼン準備、レジメ作成（奈良の仏像・その他）
第6回	4. 鑑賞旅行における鑑賞対象（奈良の仏像・その他）	プレゼン準備、レジメ作成（京都の仏像）
第7回	5. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都の仏像）	プレゼン準備、レジメ作成（京都の寺院）
第8回	6. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都の寺院）	プレゼン準備、レジメ作成（京都の庭）
第9回	7. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都の庭）	プレゼン準備、レジメ作成（奈良の美術館・博物館）
第10回	8. 鑑賞旅行における鑑賞対象（奈良の美術館・博物館）	プレゼン準備、レジメ作成（京都の美術館・博物館）
第11回	9. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都の美術館・博物館）	プレゼン準備、レジメ作成（大阪の美術館・博物館）
第12回	10. 鑑賞旅行における鑑賞対象（大阪の美術館・博物館）	プレゼン準備、レジメ作成（飛鳥時代、奈良時代、平安時代の絵画）
第13回	11. 鑑賞旅行における鑑賞対象（飛鳥時代、奈良時代、平安時代の絵画）	プレゼン準備、レジメ作成（関西の現代美術）
第14回	12. 鑑賞旅行における鑑賞対象（関西の現代美術）	旅行計画の立案
第15回	旅行計画書の作成	旅行計画書の修正

■ 履修上の注意

美術鑑賞研修旅行（9月上旬・4泊5日）への参加と研修ファイルの提出を単位取得の必須条件とする。

美術鑑賞研修旅行代金の概算：70,000円（拝観料／食費（昼食・夕食）／研修エリア内の交通費及び京都からの復路分移動経費等を除く）

往路は、仙台空港集合後、飛行機にて移動予定

■ 成績評価方法・基準

プレゼン評価用紙：20%

プレゼンテーション：60%（レジメ：30% 受講生の評価：30%／フィードバックを行う）

研修旅行ファイル：20%

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、参考資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

メディア芸術論

(12181)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

メディア芸術論では、20世紀から今日までに制作された絵画、立体、写真、映画、音楽、身体表現、プロジェクト、プロダクト、また作家自身について各テーマに沿いながら紹介し、“表現”と“メディア（媒体）”との関係について講義する。芸術と時代、社会、文化、生活、精神との関わりの中で生まれる表現活動を理解し、メディア芸術への視野を広げられるよう指導する。対象の3年次は選択コースごとに専門性が深まる重要な時期である。自身の制作活動を他者の目を借りて見つめる機会としたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・メディア芸術の基礎的な知識をみにつける	②
・メディア芸術の様々な表現を理解する	③
・メディア芸術と社会・文化を関連づけて理解する	④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	授業ファイルの作成、2. の用語確認
第2回 未来派、ダダ、シュルレアリスム	3. の用語確認
第3回 コンセプチュアル・アート	4. の用語確認
第4回 社会（政治、制度）とアート	5. の用語確認
第5回 抑圧（弱者、性、幼児、差別、場／地域）とアート1	6. の用語確認
第6回 抑圧（弱者、性、幼児、差別、場／地域）とアート2	7. の用語確認
第7回 抑圧（弱者、性、幼児、差別、場／地域）とアート3	8. の用語確認
第8回 記録とメディア・アート1	9. の用語確認
第9回 記録とメディア・アート2	10. の用語確認
第10回 記録とメディア・アート3	11. の用語確認
第11回 生活とメディア1	12. の用語確認
第12回 生活とメディア2	13. の用語確認
第13回 リレーショナル（関係性）とインタラクティブ（相互作用）	14. の用語確認
第14回 情報技術とメディア・アート	課題レポートの確認
第15回 レポート課題	課題のまとめ

■ 履修上の注意

毎回授業の導入があるので遅刻しないよう注意。積極的に課題に取り組むよう心がける。
授業の進捗により内容が変更される場合がある。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート提出50%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%
課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

テーマごとにプリントを配布する。

■ 備考

質問等については、授業終了後およびオフィスアワーに受け付ける。

地域工芸論

(12182)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

今 林 直 樹

■ 授業の概要

日本各地に残る地域工芸について講義する。具体的には、前半で「焼物」に焦点をあて、関西の焼物を中心に中部・中国・九州の代表的な焼物を紹介する。技法の解説というよりは、焼物の特徴や地域的、歴史的、文化的背景などを講義する予定である。後半は「沖縄」を取り上げ、沖縄に残る地域工芸である焼物、漆器、染物、織物、ガラス工芸について講義する。なお、各講義では授業の感想を提出させる。その解説は次の回の授業で行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------|----|
| ・地域工芸について理解できる。 | ①③ |
| ・地域工芸としての焼物に関する知識を身につける。 | ①③ |
| ・沖縄の地域工芸に関する知識を身につける。 | ①③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 地域工芸概説	地域工芸について調べる
第2回 関西の焼物（京焼）特徴	京焼の特徴について整理する
第3回 関西の焼物（京焼）歴史	京焼の特徴について整理する
第4回 関西の焼物（京焼）歴史	京焼の特徴について整理する
第5回 関西の焼物（京焼）作家	京焼の特徴について整理する
第6回 関西の焼物（京焼）作家	京焼の特徴について整理する
第7回 関西の焼物（京焼以外）	京焼以外の関西の焼物について調べる
第8回 中部の焼物	中部の焼物について調べる
第9回 中国の焼物	中国の焼物について調べる
第10回 九州の焼物	九州の焼物について調べる
第11回 沖縄の地域工芸（焼物）	沖縄の焼物について整理する
第12回 沖縄の地域工芸（漆器）	沖縄の漆器について整理する
第13回 沖縄の地域工芸（染物）	沖縄の染物について整理する
第14回 沖縄の地域工芸（織物）	沖縄の織物について整理する
第15回 沖縄の地域工芸（ガラス工芸）	沖縄のガラス工芸について整理する

■ 履修上の注意

必要のない私語は慎むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末考査80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。課題等については翌週の授業の際にコメントする。

■ 教科書

授業時に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については授業終了後に受け付ける。

論文演習Ⅰ

(12183)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

「論文演習Ⅰ」は、卒業研究の選択肢の一つとして開講される「卒業論文Ⅰ」及び「卒業論文Ⅱ」に到達する為の最初のステップに位置付けられる。

日本、外国の美術文化の歴史と現状を踏まえ、未来の文化のあるべき姿を提案する論文の執筆を想定し、その基礎としてこの授業を提供する。第三者が過去に発表した美術・文化に関するエッセー等の読解からスタートし、徐々に理解の深化を促す。また、それぞれの受講者に発表（ディスカッションを含む）を課すことによって、プレゼンテーション力、コミュニケーション力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------------|---|
| ・美術・文化について、執筆されたエッセーを読解できる。 | ⑦ |
| ・社会的視点から、読解した内容を説明できる。 | ⑦ |
| ・自身の評価基準を構築し、その基準に沿って他者のエッセーを評価できる。 | ⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション： 「エッセーのいろいろ」	ワークシート作成
第2回	事例研究（エッセー①）-読解1（テーマを中心として）	ワークシート：テーマについて
第3回	事例研究（エッセー①）-読解2（論旨を中心として）	ワークシート：論旨について
第4回	事例研究（エッセー①）-内容の整理	ワークシート：論旨をアウトラインで辿る。
第5回	事例研究（エッセー①）-内容の確認	ワークシート；アウトラインを文章で表す。
第6回	事例研究（エッセー①）-内容に関する考察	ワークシート：論旨の問題点を探す。
第7回	事例研究（エッセー①）-内容評価	ワークシート：評価基準を策定する。
第8回	事例研究（エッセー①）-内容に関する発表（質疑応答）	プレゼン評価表の記入
第9回	事例研究（エッセー②）-読解1（テーマを中心として）	ワークシート：テーマについて
第10回	事例研究（エッセー②）-読解2（論旨を中心として）	ワークシート：論旨について
第11回	事例研究（エッセー②）-内容の整理	ワークシート：論旨をアウトラインで辿る。
第12回	事例研究（エッセー②）-内容の確認	ワークシート；アウトラインを文章で表す。
第13回	事例研究（エッセー②）-内容に関する考察	ワークシート：論旨の問題点を探す。
第14回	事例研究（エッセー②）-内容評価	ワークシート：評価基準を策定する。
第15回	事例研究（エッセー②）-内容に関する発表（質疑応答）	プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題の内容：70%（フィードバックを行う） プレゼンテーション：30%（フィードバックを行う）

ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

論文演習Ⅱ

(12184)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

論文演習Ⅱは、「論文演習Ⅰ」既履修者を対象とし、卒業論文につながる科目である。日本、外国の美術文化の歴史と現状を踏まえ、未来の文化のあるべき姿を提案する卒業論文の執筆を想定し、この授業を提供する。

第三者が過去に発表した美術・文化に関する学術論文等の読解からスタートし、その内容に関する評価を課す。また、評論文の執筆をとおり、評価の客観性に関する検証を促す。さらには、受講者に発表の機会を与えることによって、プレゼンテーション力及びディスカッション力等のコミュニケーション力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・論文等を読解できる。	⑦
・社会的視点から、読解した内容を説明できる。	⑦
・自身の評価基準を構築し、その基準に沿って他者の論文等を評価できる。	⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション： 「美術界の定説のいろいろ」	ワークシート①記入
第2回	事例研究（美術界の定説について・絵画）-調査1	調査状況の報告書（画家編）
第3回	事例研究（美術界の定説について・彫刻）-調査2	調査状況の報告書（彫刻家編）
第4回	事例研究（美術界の定説について・工芸）-調査3	調査状況の報告書（工芸家編）
第5回	事例研究（美術界の定説について・その他）-調査4	調査状況の報告書（その他）
第6回	事例研究 定説に関する考察	ワークシート：挑戦すべき定説の存在について
第7回	事例研究 定説評価	ワークシート：挑戦すべき定説の見極め（評価基準の策定）
第8回	事例研究 定説に関する発表	プレゼン準備（資料作成）
第9回	事例研究 論文執筆1（定説の否定・序章）	序章執筆
第10回	事例研究 論文執筆2（定説の否定・本文／前半）	本文／前半執筆
第11回	事例研究 論文執筆3（定説の否定・本文／後半）	本文／後半執筆
第12回	事例研究 論文執筆4（定説の否定・終章）	終章執筆
第13回	事例研究 論文執筆5（定説の否定・参考文献）	参考文献作成準備・修正
第14回	事例研究 論文集読解（定説の否定）	自己評価表記入
第15回	プレゼンテーション チェックリスト記入（定説の否定）	プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題の内容：100%（フィードバックを行う）

ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

論文演習Ⅲ

(12185)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

「論文演習Ⅲ」は「論文演習Ⅰ・Ⅱ」既履修者を対象とし、卒業論文の執筆を前提として開講される演習科目である。

過去に発表された美術・文化に関する学術論文等を提供し、その構造と論旨に関する分析を促す。また、それらの分析を基に、各自のテーマ設定から仮説の構築、アウトラインの作成まで指導する。さらには、それぞれの受講者に口頭発表を課すことによって、プレゼンテーション力の必要性を認識させるだけでなく、口頭発表後の質疑応答に力点を置くことで主にディベート力等のコミュニケーション能力の育成に着手する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・美術・文化について、執筆された論文（英文を含む）を読解できる。	⑦
・読解した内容を基に、自身の論旨を構築できる。	⑦
・自身の論旨をわかりやすく説明できる。	⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 「日本語だけではない論文のいろいろ」	ワークシート記入
第2回	事例研究（和文美術文化関連論文の読解・序章）	ワークシート；テーマと論旨予想
第3回	事例研究（和文美術文化関連論文の読解・本文／前半）	ワークシート；後半の予想
第4回	事例研究（和文美術文化関連論文の読解・本文／後半）	ワークシート；終章予想
第5回	事例研究（和文美術文化関連論文の読解・終章）	ワークシート；終章から辿る論文の全容
第6回	事例研究（和文美術文化関連論文の内容に関する考察）	ワークシート；評価基準の策定
第7回	事例研究（和文美術文化関連論文の内容評価）	ワークシート；評価基準によるチェック
第8回	事例研究（和文美術文化関連論文の内容に関する発表 質疑応答）	ワークシート；プレゼン評価表の記入
第9回	事例研究（英文美術文化関連評論文の読解・序章）	ワークシート；テーマと論旨予想
第10回	事例研究（英文美術文化関連評論文の読解・本文／前半）	ワークシート；後半の予想
第11回	事例研究（英文美術文化関連評論文の読解・本文／後半）	ワークシート；終章予想
第12回	事例研究（英文美術文化関連評論文の読解・終章）	ワークシート；終章から辿る論文の全容
第13回	事例研究（英文美術文化関連評論文の内容に関する考察）	ワークシート；評価基準の策定
第14回	事例研究（英文美術文化関連評論文の内容評価）	ワークシート；評価基準によるチェック
第15回	事例研究（英文美術文化関連評論文の内容に関する発表（質疑応答）	ワークシート；プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題の内容：70%（フィードバックを行う） プレゼンテーション：30%（フィードバックを行う）

ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

論文演習Ⅳ

(12186)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

「論文演習Ⅳ」は、「論文演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」既履修者を対象とする卒論執筆の最終準備段階に位置づけられる教科である。

卒業論文のテーマ設定を想定し、先行論文に関する調査と仮説の構築を支援し、その仮説の合理性と独自性に関する考察を促す。想定される卒論の内容に関するアウトラインの作成を課し、それらに関する検証から論旨の問題と弱点等を認識させることによって、論理的展開力のさらなる向上を目指す。また、各受講者に口頭試問の機会を提供することで、コミュニケーション能力の中、主にデベート力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・論文のテーマを設定できる。	⑦
・先行論文と自身のテーマ性との関係について説明できる。	⑦
・自身の論旨を客観的に評価できる。	⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション： グリンバークの「モダニズム理論」とそれに関する論文のいろいろ	ワークシート①記入
第2回	卒論になるかもしれない論文のテーマ設定	テーマ設定 状況報告準備（資料作成）
第3回	卒論になるかもしれない論文のテーマ検証	テーマ検証 状況報告準備（資料作成）
第4回	卒論になるかもしれない論文のテーマ決定	テーマ決定 状況報告準備（資料作成）
第5回	先行論文について 調査1（和文）	調査状況報告書作成
第6回	先行論文について 調査2（英文）	調査状況報告書校正
第7回	先行論文について 発表	調査状況発表準備（資料作成）
第8回	卒論になるかもしれない論文の概要・構成の構想	概要・構成の可視化
第9回	卒論になるかもしれない論文の序章概要	序章・アウトライン化
第10回	卒論になるかもしれない論文の本文・第1章概要	本文・第1章・アウトライン化
第11回	卒論になるかもしれない論文の本文・第2章以降概要	本文・第2章以降・アウトライン化
第12回	卒論になるかもしれない論文の終章概要	終章・アウトライン化
第13回	卒論になるかもしれない論文の概要、最終確認	チェックリスト作成
第14回	プレゼンテーション準備	プレゼン資料作成
第15回	プレゼンテーション	プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

プレゼンテーション：25% 提出課題の内容：75%（フィードバックを行う）

ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

製図Ⅰ

(12187)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

製図を履修する上での、製図の道具とそれぞれの使い方により、様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき演習させ、製図の基本の様々な線・図形の作図の基本を学ばせる。

正投影図第法と三角投影図法（三面図）の原理を理解させる。立体の基本と名称を理解し三面図と展開図、断面図等の作図を演習させる。プロダクトの授業と連携し、事前に製図製作の基礎を習得させる。

実際の製品を例題として、二つの物体（おもちゃの家・バス）を正規（JIS）な製図の様式で、三面図を作図演習させる。実務レベルで講義し、作図演習させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき作図する
- ・立体の基本を理解し三面図と展開図を作図する
- ・例題をJIS様式で三面図を作図する

①⑤
①⑤
①⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 製図用具の説明と使い方	次回までに用意する製図用具を用意
第2回 線と文字、縮尺の知識	縮尺の仕方の復習
第3回 直線と角の作図、多角形の作図	配布した作図の仕方の予習
第4回 円と円弧の作図渦巻き線の作図	配布した作図の仕方の予習
第5回 分割の方法、作図	配布した作図の仕方の予習
第6回 第一角投影図(三面図)の基本と作図	配布した作図の仕方の予習
第7回 角錐の三面図、切断断面図の作図	配布した作図の仕方の予習
第8回 角錐の展開図の作図	三面図の基本の予習
第9回 花瓶の二面図、断面図の作図	三面図の基本の予習
第10回 おもちゃの家の三面図作図(各面の下描き)	切断面の作図の予習
第11回 おもちゃの家の三面図作図（各面の仕上げと寸法記入）	角錐の展開図の予習
第12回 おもちゃのバスの三面図作図(各面の下描き)	事前配布資料の予習
第13回 おもちゃのバスの三面図作図(各面の下描き)	事前配布資料の予習
第14回 ガラス器3種の二面図断面図の作図(下書き)	事前配布資料の予習
第15回 ガラス器3種の二面図断面図の作図(仕上げと寸法記入)	事前配布資料の予習

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン

三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度(遅刻・居眠り)（30%）

意欲(20%) 提出された課題は添削し評価点を記入し後日返却します。

■ 教科書

無し。授業時にプリント配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を次週まで会議室まで取りにくる事。

製図Ⅱ

(12188)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

前期で履修した内容をもとに、製品化された商品の三面図を縮尺変更し作図化する。プロダクトの授業と連携し、事前にプロダクトの製図製作を習得させる。実際製品化された製品の二面図、断面図の作図をさせる。製品自体（iPhone等）をノギス等で計測し三面図として製図させる。著名な椅子の三面図の作図カラーリング、スツールのアイデアスケッチの演習と三面図、製作図を作図させる。木製テーブルの構造・仕様等の知識を履修しながら、三面図を作図、詳細図、仕様図を製図作図させる。インテリア製図の基礎を学び、マンション、木造一戸建ての構造の基礎も学び。平面図、立面図を作図させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・製品化された商品を三面図に作図する
- ・インテリア平面図の基礎を習得し三図面を作図する
- ・インテリアの三面図を習得し、構造の基礎の知識を習得

⑤⑨

⑤⑨

⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 小筆筈の三面図(下書き)	前期の三面図の基礎を見ておく
第2回 小筆筈の三面図(仕上げ、着色)	前回渡された資料を復習する
第3回 椅子の三面図作図<リートフェルトチェア>下書き	配布された資料を予習しておく
第4回 椅子の三面図作図<リートフェルトチェア>カラーリング	カラーリングする前に作図しておく
第5回 椅子の三面図作図<リートフェルトチェア>パーツ図面	作図した三面図資料を理解しておく
第6回 丸スツール椅子の三面図、スケッチの作図	配布された資料を予習しておく
第7回 角スツール椅子の三面図、スケッチの作図	配布された資料を予習しておく
第8回 テーブルの三面図、詳細図の作図（下書き）	配布された資料を予習しておく
第9回 テーブルの三面図、詳細図の作図、カラーリング	作図が遅れている場合は補習する
第10回 マンション平面図（基準線下書き）	配布された資料を予習しておく
第11回 マンション平面図（仕上げ）	配布された資料を予習しておく
第12回 マンション立面図	作図が遅れている場合は補習する
第13回 木造住宅平面図（基準線下書き）	配布された資料を予習しておく
第14回 木造住宅平面図	配布された資料を予習しておく
第15回 木造住宅平面図(仕上げ)	作図が遅れている場合は補習する

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン

三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）、授業態度(遅刻・居眠り)（30%）、意欲(20%)

■ 教科書

授業前にプリントを配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

図学 I

(12189)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科: 美表3年

授業形態: 演習 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

透視図法の原理と種類を理解し、各点の違いを理解させる。透視図法の基礎を習得させる。透視図法の基礎である立方体を、1点2点3点透視図法でそれぞれ作図させ、それぞれの違いを理解させる。分割・増殖の仕方を理解し、課題に反映させる応用力を習得させる。また円柱・円錐の図法も合わせて作図習得させる。正確な円弧の描き方を習得させる。以上の図法を応用しコップ・ソファの製品を透視図法で表現する。2年時習得した製図課題(おもちゃの家、バス)を各点透視図法で作図習得させる。簡単な室内インテリアの透視図を1点透視図法で作図させ、カラーリングし表現する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・透視図法の原理と種類、それぞれの基礎を習得する
- ・立体の透視図法のプロセス、技術表現力を習得する
- ・室内空間の透視図法を理解しプロセス技術表現力を習得

①⑤

①⑤

①⑤

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	ガイダンス、透視図法の原理と種類	透視図法の名称を復習する
第2回	立方体を1点透視図法、2点透視図法で描く	各VP位置の違いを復習する
第3回	立方体を3点透視図法で描く(見上げ・見下げ)	3点のVP位置の違いを復習する
第4回	円と円柱を透視図法で描く	正確な円弧の描き方を予習しておく
第5回	円錐を透視図法で描く	正確な円弧の描き方を予習しておく
第6回	透視図法での増殖と分割	各増殖分割の仕方を復習しておく
第7回	コップを1点透視図法で描く	5の正確な円弧描き方を復習しておく
第8回	ソファを1点透視図法で描く	配布した資料を事前に予習しておく
第9回	ソファを2点透視図法で描く	1点透視との違いを予習しておく
第10回	リビングAを1点透視図法で描く(下書き)	配布した資料を事前に予習しておく
第11回	リビングAを1点透視図法で描く(仕上げ)	着色迄の仕上げを完了しておく
第12回	リビングAを1点透視図法で描いた図に着色する	授業中に未完了は事後完成する
第13回	おもちゃの家を等角図法で描く	1点透視との違いを予習しておく
第14回	おもちゃの家を2点透視図法で描く	授業中に未完了は事後完成する
第15回	おもちゃの家の2点透視図法を着色する	授業中に未完了は事後完成する

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン

三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり(40%)、授業態度(遅刻・居眠り)(30%)、意欲(20%) 提出された課題は添削し評価点を記入し後日返却します。

■ 教科書

授業時にプリント配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーにて受け付ける。

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

図学Ⅱ

(12190)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

前期で習得した透視図法の基礎をもとに、インテリア空間の1点・2点透視図法により作図させる。分割・増殖の応用を使用し、作図時間を短縮する技法を習得する。また作図した完成図に着色させ、表現力も習得させる。インテリア空間の2点透視図法で作図し視覚調整の知識・技術を習得させ表現力を向上させる。インテリア作家として実際に講師が関わった作品も参考で見せる。建築物の1点2点透視図法を習得し、実際の大学内建物を透視図法により作図し、着色を施し表現力を習得させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・室内を透視図法で作図しインテリア空間の表現力を習得	⑤⑨
・透視図法で作図した物に着色を施し表現力を身につける	⑤⑨
・建物の透視図法を習得する事により絵画等に影響させる	⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く（足線下書き）	授業中に未完了は次回まで完成する
第2回	ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く（実線着色）	授業中に未完了は事後完成する
第3回	ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く（下書き、足線）	授業中に未完了は次回まで完成する
第4回	ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く（視覚調整）	視覚調整の仕上がりを再確認する
第5回	和室をD点図法で描く（下書き）	授業中に未完了は次回まで完成する
第6回	和室をD点図法で描く（実線着色）	授業中に未完了は事後完成する
第7回	建物Aを1点透視図法で描く	事前に配布資料を予習しておく
第8回	建物Bを2点透視図法で描く	授業中に未完了は事後完成する
第9回	建物Cを2点透視図法で描く（下書き）	授業中に未完了は事後完成する
第10回	建物Cを2点透視図法で描く（実線）	授業中に未完了は事後完成する
第11回	建物Dを2点透視図法で描く（実線）	授業中に未完了は次回まで完成する
第12回	建物Dを2点透視図法で描く（実線）	授業中に未完了は事後完成する
第13回	大学建物を2点透視図法で描く（下書き）	授業中に未完了は事後完成する
第14回	大学建物を2点透視図法で描く（実線）	授業中に未完了は次回まで完成する
第15回	大学建物を2点透視図法で描く（拡大着色）	授業中に未完了は事後完成する

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン

三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり(40%)、授業態度(遅刻・居眠り)(30%)、意欲(20%) 提出された課題は添削し評価点を記入し後日返却します。

■ 教科書

無し。授業時にプリント配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

なし

■ 備考

資問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

インテリアデザインⅠ

(12191)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

インテリアを生活空間としてとらえ、日本の生活空間の生い立ちと西洋の生活空間との違いをとらえ、かつ比較しながら検証させる。インテリアを構成するスペースエレメント（空間部位）、フィックスエレメント（固定部位）、ファニッシングエレメント（可動部位）等、様々なインテリアエレメントの知識と生活空間の構成する目的を習得させ、今後のマーケットの必要なエレメントの解説し、日本の過去の生活文化と現代の生活空間の今後のあり方、生活者への提案の仕方の理解を深めさせる。また公的機関の依頼のインテリア小物のアイデアを提案させてみる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・日本と西洋の生活空間の生い立ちと生活文化を理解する。	①②③
・生活空間を構成するエレメントの知識を習得出来る。	①②③
・インテリアアクセサリーの提案を実践する。	①③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 インテリアデザイン概論	講義内容を資料に基づいて復習する
第2回 西洋と日本の生活空間の歴史（古代から中世）	講義内容を資料に基づいて復習する
第3回 西洋と日本の生活空間の歴史（近代から現代）	講義内容を資料に基づいて復習する
第4回 インテリア空間とスペースエレメントの種類	講義内容を資料に基づいて復習する
第5回 建築の構造・構法	講義内容を資料に基づいて復習する
第6回 インテリアの構法	講義内容を資料に基づいて復習する
第7回 インテリアエレメントの素材・仕上げ	講義内容を資料に基づいて復習する
第8回 造作と造作材	講義内容を資料に基づいて復習する
第9回 窓・建具、床材の知識	講義内容を資料に基づいて復習する
第10回 インテリアアクセサリーとカラーコーディネート	講義内容を資料に基づいて復習する
第11回 エレメントの知識のまとめ考査	1～10の講義の復習を再度しておく
第12回 課題提案説明、プランの仕方の説明	課題を理解し、方向性を決定する
第13回 課題製作（決定したプランをスケッチにする）	事前にプランを考えておく
第14回 課題製作（決定したプランを図面化し着色する）	事前に指導された内容を反映させる
第15回 課題製作講評	講評に従って修正し提出する

■ 履修上の注意

配布した資料を見ておくこと。欠席した場合は必ず資料を入手すること。

■ 成績評価方法・基準

授業11での前期講義内容の考査（50％）課題内容（30％）授業態度（20％）

考査結果をフィードバックする。

■ 教科書

無し。授業時にプリント配布。コピー代として200円集金。

■ 参考書

無し。授業時にプリント配布。

■ 備考

授業終了時に質問を受け付けます。

インテリアデザインⅡ

(12192)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

TVボードを自分でデザインさせ、製図前期で履修した内容をふまえて三面図を描き、それをもとにパネル図を描き、それぞれのパネルを制作し組み立てさせる。実際の商品をモデリングすることにより、構造や仕上がりをチェックし体験させる。又自分でデザインしたTVボードのスタイル、カラーイメージを基に、与えられた室内空間を指定したエレメントを、自分のイメージで選定し、コーディネートプランニングし、プレゼンテーションボードを作成させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・生活空間を構成するエレメントの知識を習得出来る

①③⑧⑨

・インテリアコーディネートの実践を習得する

①③⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 内装仕上げ材の歴史と種類

講義内容を資料に基づいて復習する

第2回 内装仕上げ材の知識

講義内容を資料に基づいて復習する

第3回 住宅設備

講義内容を資料に基づいて復習する

第4回 照明の基礎と知識

講義内容を資料に基づいて復習する

第5回 絨毯・カーペットの歴史と知識

講義内容を資料に基づいて復習する

第6回 ウィンドカバーリングの歴史と知識

講義内容を資料に基づいて復習する

第7回 西洋の家具の歴史

講義内容を資料に基づいて復習する

第8回 日本の家具の歴史

講義内容を資料に基づいて復習する

第9回 家具の種類と構造の知識

講義内容を資料に基づいて復習する

第10回 エレメントの知識のまとめ考査

1～9の講義の復習を再度しておく

第11回 インテリアコーディネーションの基礎

イメージに合せた素材を選択する

第12回 プランニングの為のフィックスエレメント選定

イメージに合せた素材を選択する

第13回 プランニングの為のファニッシングエレメント選定

配布した図面にレイアウト準備

第14回 プランニング平面図作成

エレメントの配置を考えておく

第15回 プランニングボード貼付け作成

コンセプトを事前に考えておく

■ 履修上の注意

プランニングボードはA3ミューズボード、両面テープ、ペーパーセメントを用意する事。

■ 成績評価方法・基準

授業10での後期講義内容の考査（50％）課題内容（30％）授業態度（20％）

考査結果をフィードバックする。

■ 教科書

無し。授業時にプリント配布。コピー代として200円集金。

■ 参考書

無し。

■ 備考

授業終了時に質問を受け付けます。

各自カッターでのカット作業等だけがをしないよう気をつけること。

写真Ⅰ

(12193)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

飯 沢 耕太郎

■ 授業の概要

写真評論家、写真史家としての活動を踏まえ、写真という表現媒体のあり方について幅広い視点で講義する。特に現代日本の写真表現に着目し、写真家たちの活動を写真集、DVD、youtubeなどを参照しつつ、多面的に紹介していきたい。具体的には、まず写真集の成立を通じて「写真とは何か」を考察し、写真コレクションや写真展などについても事例を挙げて詳述する。次に戦後日本写真史の流れを追い、あわせてデジタル化以降の近年の写真全般の動向についても触れていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・写真の表現の面白さ、魅力について理解を深める。

①②③

・写真家たちの表現の姿勢について学ぶ。

⑤

・写真家たちの活動のあり方を自身の今後の活動に活かす。

⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 写真とは何か（1）写真集の成立「自然の鉛筆」

写真史の本などで予備知識を得る。

第2回 写真とは何か（2）現代の写真集 Steidl社の活動

同上

第3回 写真とは何か（3）現代の写真家たち、S・ライター、W・ティルマンス

同上

第4回 現代日本写真の展開（1）『PROVOKE』の写真家たち

森山大道、中平卓馬らの活動について調べる。

第5回 現代写真の展開（2）「私写真」について

荒木経惟、深瀬昌久、牛腸茂雄らの活動について調べる。

第6回 現代写真の展開（3）写真と現代美術

杉本博司、森村泰昌らの活動について調べる。

第7回 現代写真の展開（4）震災後の写真

志賀理江子、畠山直哉らの活動について調べる。

第8回 まとめとレポート作成

図書館等で写真集を閲覧する。

■ 履修上の注意

最新の情報をフォローしたいので、授業内容は変更することがある。

■ 成績評価方法・基準

レポートを評価する（80%）。授業の取り組みへの姿勢、遅刻、早退等を考慮（20%）。基本的には全講義に出席することを前提とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

『キーワードで読む現代日本写真』飯沢耕太郎、フィルムアート社、3800円 『写真集の本』飯沢耕太郎、打林俊、中村義郎、カンゼン、2420円

■ 備考

（集中講義）質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

写真Ⅱ

(12194)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

飯 沢 耕太郎

■ 授業の概要

主に自分で撮影・プリントした写真作品をポートフォリオに仕上げ、その作成のプロセスを実際に経験する。最終的に、ブック、ファイル等にまとめたポートフォリオを提出し、それを全員で鑑賞しながら講評を加える。そのことで、写真作品をどのようにプレゼンテーションしていくのかを、実践的に学ぶことができる。ポートフォリオとは何かというオリエンテーションを踏まえ、それぞれのやり方で作業を進めていただく。また、ポートフォリオ作成の参考として、現代写真家のポートフォリオ、写真集などを鑑賞する時間も設けたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・写真表現の基礎を身につける

①②③

・写真の編集、装丁などのプロセスを経験する

④⑤⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 現代写真家のポートフォリオ、写真集などを鑑賞

ポートフォリオのための写真を用意する。事前に写真集などを鑑賞して予備知識を得る。

第2回 ポートフォリオを作成

ポートフォリオ制作のための台紙、ファイル等を用意する。必要ならば、ノリ、ハサミ、カッターなども揃えておく。

第3回 同上

同上

第4回 同上

同上

第5回 同上

同上

第6回 同上

同上

第7回 同上

同上

第8回 まとめと講評

ポートフォリオを仕上げる。

■ 履修上の注意

あらかじめ、ポートフォリオ作成のための材料を準備する。集中授業のため、遅刻、欠席は基本的に認めない。

■ 成績評価方法・基準

提出されたポートフォリオを評価する（80％）。授業への取り組みの姿勢（20％）。ポートフォリオは、添削して返却する。

■ 教科書

なし

■ 参考書

『写真集の本』飯沢耕太郎、打林俊、中村善郎、カンゼン、2420円

■ 備考

（集中講義）質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美術特別講義Ⅰ

(12195)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

ニューヨーク、ロンドン、パリ、ロサンゼルス、北京、香港、シカゴ、シンガポール、上海に並ぶ世界都市『東京』の、文化、芸術、美術の現在に触れる機会を提供する。東京圏内の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設での自主研修(1泊2日)を想定し、研修対象に関する調査と研修計画の立案を課す。研修期間中は、ミーティング(プレゼンテーション、質疑応答、情報共有を含む)を指揮し、随時、研修計画の見直しと修正を促す。研修後、各自の異なる調査と研修・鑑賞体験に基づく、レポートの作成と提出を求める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・美術分野における学習方法を会得し、主体的に学ぶことができる。
- ・基礎的知識とコミュニケーション能力を身につけ、鑑賞体験を適切に説明することができる。

①

②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	第1回	ガイダンス（授業概要説明）	レポート（授業内容について理解できたこと、できなかったこと）
第2回	第2回	事前調査（東京圏の絵画）	レポート（東京圏の絵画）
第3回	第3回	事前調査（東京圏の彫刻）	レポート（東京圏の彫刻）
第4回	第4回	事前調査（東京圏の工芸）	レポート（東京圏の工芸）
第5回	第5回	事前調査（東京圏のデザイン）	レポート（東京圏のデザイン）
第6回	第6回	事前調査（東京圏の建築）	レポート（東京圏の建築）
第7回	第7回	事前調査（東京圏の現代美術）	レポート（東京圏の現代美術）
第8回	第8回	事前調査（東京圏の美術館）	レポート（東京圏の美術館）
第9回	第9回	事前調査（東京圏の博物館）	レポート（東京圏の博物館）
第10回	第10回	事前調査（東京圏のギャラリー）	レポート（東京圏のギャラリー）
第11回	第11回	事前調査（東京圏の文化施設）	レポート（東京圏の文化施設）
第12回	第12回	研修計画立案	研修計画書作成
第13回	第13回	実地研修（初日）	プレゼンテーション（初日の鑑賞体験について）
第14回	第14回	実地研修（二日目）	研修報告書作成（アウトライン）
第15回	第15回	まとめ	研修報告書作成・提出

■ 履修上の注意

- ・美術特別講義Ⅰ研修旅行への参加と研修ファイルの提出を、単位取得の必須条件とする。
- ・講義の開講日時等については、Googleクラスルームにて連絡する。

■ 成績評価方法・基準

- ・実習態度（50％）、課題（50％）。
- ・提出されたレポートについては、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・資料を配布する。

■ 参考書

- ・適宜指示する。

■ 備考

< 集中講義 >

- ・オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、掲示にて連絡する）
- ・コロナウィルス感染症拡大等の影響により、当該シラバスに沿った授業の実践が困難となった場合には、シラバスを変更する。

美術特別講義 I

(12196)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子 落 合 里 麻

■ 授業の概要

2022年度は新型コロナウイルス感染症の観点から開講しません。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考

コロナウイルス感染の状況により、内容変更があり得ることがあります。

美術特別講義Ⅰ

(12197)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

瀬戸典彦 伊勢周平

■ 授業の概要

ニューヨーク、ロンドン、パリ、ロサンゼルス、北京、香港、シカゴ、シンガポール、上海に並ぶ世界都市、東京の文化、芸術、美術の現在に触れる機会を提供する。東京圏内の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設での自主研修（1泊2日）を想定し、研修対象に関する調査と研修計画の立案を課す。研修期間中は、ミーティング（プレゼンテーション、質疑応答、情報共有を含む）を指揮し、随時、研修計画の見直しと修正を促す。研修後、各自の異なる調査と研修・鑑賞体験に基づく、レポートの作成と提出を求める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|---|
| ・美術分野における学習方法を会得し、主体的に学ぶことができる。 | ① |
| ・基礎的知識とコミュニケーション能力を身につけ、鑑賞体験を適切に説明することができる。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（授業概要説明）	レポート（授業内容について理解できたこと、できなかったこと）
第2回 事前調査（東京圏の絵画）	レポート（東京圏の絵画）
第3回 事前調査（東京圏の彫刻）	レポート（東京圏の彫刻）
第4回 事前調査（東京圏の工芸）	レポート（東京圏の工芸）
第5回 事前調査（東京圏のデザイン）	レポート（東京圏のデザイン）
第6回 事前調査（東京圏の建築）	レポート（東京圏の建築）
第7回 事前調査（東京の現代美術）	レポート（東京の現代美術）
第8回 事前調査（東京圏の美術館）	レポート（東京圏の美術館）
第9回 事前調査（東京圏の博物館）	レポート（東京圏の博物館）
第10回 事前調査（東京圏のギャラリー）	レポート（東京圏のギャラリー）
第11回 事前調査（東京圏の文化施設）	レポート（東京圏の文化施設）
第12回 研修計画立案	研修計画書作成
第13回 実地研修（初日）	プレゼンテーション（初日の鑑賞体験について）
第14回 実地研修（二日目）	研修報告書作成（アウトライン）
第15回 まとめ	研修報告書作成・提出

■ 履修上の注意

美術特別講義Ⅰ研修旅行への参加と研修ファイルの提出を単位取得の必須条件とする。

講義の開講日時等については、Googleクラスルームにて連絡する。

■ 成績評価方法・基準

実習態度（50％）、課題（50％）

提出されたレポートについては、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

（集中講義）

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、掲示にて連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の実践が困難となった場合には、シラバスを変更する。

美術特別講義Ⅱ

(12198)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

伊 藤 恵 夫

■ 授業の概要

造形表現に必要なとなる人体の構造についての基礎的知識を解説する。

人体に関する知識を十分理解できるようにするとともに、実際に造形表現された作品についてその表現法などを美術解剖学的な立場から紹介する。扱う内容は、頭部の骨格、頭部の筋、体幹の骨格、頸部と体幹の筋、体肢の骨格と筋、プロポーション等である。

また、人体のみならず可動人形、動物および植物、天象（水や炎など）の表現についても美術解剖学的な視点から解説し、折紙等を用いて生物のバランスについても解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・人体の構造について理解を深め、造形作品の制作に応用できる。	①④
・人体について、観察・理解・効果・表現を実践することができる。	③④⑦
・造形表現されたカッコイイ嘘について美術解剖学的に分析できる。	③⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 美術解剖学概論、プロポーション	好きなキャラ等のプロポーションを測っておく
第2回 頭部の骨と筋	頭の骨と筋の図、イラストを収集しておく
第3回 人体の構造と可動人形	人体と可動人形の違いを考えておく
第4回 体幹の骨と筋、乳房	体幹の骨と筋の図を収集しておく
第5回 日本の伝統工芸：折紙、生物のバランス	折紙の作例の図を収集しておく
第6回 体肢の骨と筋	体肢の骨と筋の図を収集しておく
第7回 コントラポスト、ジョジョ立ち	コントラポストの作例を探しておく
第8回 天象美術解剖学、講評	風や炎などを造形表現した作例を探しておく

■ 履修上の注意

教室内では携帯電話・スマートフォンの電源は切る。飲食厳禁。2日間の集中講義のため、10分以上の遅刻は欠席とする。

■ 成績評価方法・基準

- ① 授業中に課す提出物またはノート（評価割合30%）、レポート試験（評価割合70%）。
- ② 授業中に課した提出物については、次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

「資料」として授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

〔ホネ事典〕〔スティーブ・パーカー〕〔あすなろ書房〕〔2500円＋税〕

■ 備考

（集中講義）

質問等については、授業中および授業終了時に受け付ける。

美術特別講義Ⅲ

(12199)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

横 川 耕 二

■ 授業の概要

現在、コンピューターを使った情報通信技術（ICTまたはIT）による世界的な社会の変化が急激に起こっている。このような社会に生きるためにはICTを主体的に利用して自ら問題を発見して解決し、新たな価値をつくりだすことが望まれる。美術特別講義Ⅲでは、小学校でも使われている教育向けプログラミング環境「Scratch」を使ってミニゲームを作ることを通してコンピューターによるインタラクティブな表現方法について学び、コンピュータープログラムの基礎を身につけられるよう、プログラミング教育に関する著書を持つ講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・コンピュータープログラムの基礎を理解することができる	①
・インタラク션을考えスケッチすることができる	②
・インタラクティブな表現を身につけることができる	③④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 美術特別講義Ⅲ：2年次開講	インタラクシヨンのフィールド調査
第2回 課題1：プログラミング基礎【環境の利用】	プログラミング環境の設定
第3回 【音/画像の操作】	音/画像の実践利用
第4回 【数値計算/論理演算】	数値計算/論理演算の実践利用
第5回 【インターフェース】	ユーザーインターフェースの実践利用
第6回 課題2：プログラミング応用【ゲーム素案】	ゲームの考案
第7回 【設計/実装】	プログラム設計/プログラミング
第8回 【プレゼンテーション】	プレゼン準備

■ 履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）40%、課題制作とプレゼン60%で評価する。課題作品については、授業中にフィードバックする。

ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

おとなも学びたいプログラミングScratch入門（エムディエヌコーポレーション）

■ 備考

（集中講義）

質問等は授業終了時に受け付ける。

美術特別講義Ⅲ

(12200)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

森 岡 淳

■ 授業の概要

美術特別講義Ⅲでは、アニメと地域連動の企画や共同運営している文房具など、自身で活動してきた地域活性化の企画から実行までのプロセスを紹介する。今後増えていくと予想される多様性のある働き方について、クリエイティブな発想と地域の協働作業によって起きる変化の実例や、日本各地で展開されている地域活性化案件について学び、理解を深める。また、企画書の作成や共同企画書のブレストと発表を行い、地域の課題を解決する力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・企画を立案し、発表することができる
- ・課題を解決する能力とコミュニケーション力を身につける
- ・地域課題と自身のスキルを合致させる発想ができる

④

⑤

⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概要説明/実例紹介（地域連動アニメーション/文房具店による地域活性）	事前：自分の住む市や町で行われている活性化施策を調べておく
第2回 国内事例紹介（熊本・島根・青森、他）	コメントペーパーに記載
第3回 個人課題1：地域活性に関する課題	コメントペーパーに記載
第4回 発表：個人課題の発表	コメントペーパーに記載
第5回 共同課題1：複数人による課題	コメントペーパーに記載
第6回 チーム編成及び、役割振り分け	コメントペーパーに記載
第7回 企画書作成	コメントペーパーに記載
第8回 発表：共同課題の発表	事後：個人発表データ&グループ内の担当役割、の提出（データ提出）

■ 履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題（企画）制作、個人企画、グループ企画とプレゼン50%で評価する。

課題作品については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

ワークシート及び、コメントペーパーの配布

■ 参考書

プリント配布

■ 備考

（集中講義）質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美術特別講義Ⅳ

(12203)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

小野寺 良 枝

■ 授業の概要

臨床美術の沿革、臨床美術の実際の効果、臨床美術アートプログラムの仕組みやアートを媒体としたコミュニケーションなど、臨床美術に関する基礎的な知識を学ぶことができる。また、臨床美術の基本画材であるオイルパステルを使用して、臨床美術のアートプログラムを体験し、創造の楽しさを味わうことができる。美術が本来持っている創造力を発揮し臨床美術を用いて様々な地域の課題を克服し、社会の変化に対応しながら、文化を主体的に創造してゆける態度を養えるよう指導をする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------------|---|
| ・臨床美術の基礎的知識や学習態度を身につけることができる。 | ① |
| ・臨床美術の専門知識とその技能体系を社会と関連付けて理解することができる。 | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の概要と流れ、課題の設定とその展開について	情報を集め、調査をする。
第2回	課題1 課題説明 調査内容を発表	修正を加え再提出する。
第3回	検討・制作、発表・提出	プリント・課題を完成させ提出する。
第4回	フィードバック、プレゼンテーション、まとめ	調査・プレゼンの準備をする。 授業を振り返り、ポイント等を整理する。
第5回	課題2 課題説明 調査内容を発表	修正を加え再提出する。
第6回	検討・制作、発表・提出	プリント・課題を完成させ提出する。
第7回	フィードバック、検討・制作、プレゼンテーション	内容を復習し、課題を完成させる。 プレゼンの準備をする。
第8回	プレゼンテーション 今後の展開とまとめ	授業を振り返り、ポイント等を整理する。

■ 履修上の注意

実施時期・講義内容の詳細について掲示で知らせる。各自内容を確認し履修登録を行うこと。また、必要な材料等の準備物についても掲示にて知らせる。必ず提出すること。

■ 成績評価方法・基準

授業態度、取り組みの姿勢など50%、課題とプレゼンテーションの内容50%で評価する。
課題については、授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業時に資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

（集中講義）

質問については、授業時、授業終了後に受け付ける。

美術特別講義Ⅳ

(12204)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (15 + 15)

対象学科 : 美表 2 年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 一 郎

■ 授業の概要

●美術特別講義Ⅳは、「素描の心得」講義と簡単な実習授業です。今回は、集中講義期間後期です。

？ 《歴代名畫記》を繙き、謝赫の「畫の六法」、すなわち「氣韻生動、骨法用筆、応物象形、随類賦彩、經營位置、伝模移写」を取り上げ、西洋画と関連づけ、「素描の心得」を考察する。 ？ アリストテレスの「見ることの重層構造」と、ヤン・ファン・エイクの「描くことの重層構造」の対応関係を考察する。 ？ 一点、二点透視図法による、各人の視高と視距離による空間設定をし、床面を作図する。 ？ その床面に、ある立体物を置き、二点透視図法を用い、鉛筆で水彩紙に描く。 ？ その立体物の輪郭線を、墨汁と面相筆で輪郭線素描をする。さらに暗部に陰影を付け、肉付け（モデリング）を行い、量感を描出する。その際、立体物に生じる「陰」だけでなく、床面に投影される「影」をも描き込む。 ？ 地透層（インプリマトゥーラ Imprimatura）という中間調子で画面全体を刷毛塗りする。 ？ その後、テンペラ絵具で「白色浮出」を行い、明部からの肉付け（モデリング）を行う。 ？ ③→⑨が組み合わせり「素描」が形づくられる。この「素描」を下敷きに、彩色をほどこす。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「論画六法」を通して、「絵画とはなにか」の基礎知識を理解する。
- ・「見る」を「描く」行為に置換する為の絵画材料とは何かを理解する。
- ・地透層（インプリマトゥーラ Imprimatura）を行う理由を理解する。
- ・テンペラ絵具と油絵具との違いとはなにかを理解する。
- ・比例(Proportion)+遠近法(Perspective) = 構図(Composition)
- ・一点透視図法および二点透視図法による「線遠近法」を理解する。

①②③④
①②③④
①②③④
①②③④
①②③④
①②③④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	「畫の六法」の「一に氣韻生動、二に骨法用筆」の考察。	「氣」使った熟語を、ノートに描いてみる。
第2回	「三に曰く応物象形、四に曰く随類賦彩」の考察。	「応物象形」「随類賦彩」に、返点を付ける。
第3回	「五に曰く經營位置、六に曰く伝模移写」の考察。	「經營位置」「伝模移写」を調べる。
第4回	アリストテレスの[見る構造]とファン・エイクの[描く構造]。	「ものが見える」ための前提条件。
第5回	厚紙①：立体物の展開図を、切り抜き、それを組立てる。	この立体物を、頭の中にイメージする。
第6回	厚紙②：床面を設定し、市松模様の文様を作成する。	文様の最小単位を設定し、全体を考えてみる。
第7回	アルシュ紙①-1：透視面を設定、一点透視図法で描く。	鑑賞者と画面の視心を一致させる展示方法。
第8回	アルシュ紙①-2：⑦で設定した床面に立体物を線描する。	線描が規範だが、明暗の陰影も描き入れる。
第9回	アルシュ紙①-3：地透層（インプリマトゥーラ）を設定する。	水彩絵具を均一に塗るにはどうしたらよい。
第10回	テンペラ媒剤（メディウム）を製法する。	絵具の種類は、媒剤の違いによる。
第11回	アルシュ紙②-1：⑨の原寸大素描を別の②に転写する。	同量の揮発性で希釈した油絵具を塗布。
第12回	アルシュ紙②-2：下素描を墨描き。褐色で陰影付け。	墨汁は、5倍から10倍ほど、水で希釈する。
第13回	アルシュ紙②-3：画全体に地透層を塗り中間調子を設定。	暖色の下素描には、寒色の地透層を塗布する。
第14回	アルシュ紙②-4：白色浮出して量感を明部から形づくる。	チューブ記載：透明、半透明、被覆絵具。
第15回	批評会：学生が自分の制作物を前にして、批評する。	他の学生の作品をもよく観察し、発言する。

■ 履修上の注意

授業開始以前に、日程と準備物を掲示するので、確認してください。

■学生の準備物：筆記用具、ノート、水彩道具一式、鋏、カッター、定規（30cm前後）

■大学の準備物：「アルシュ(300g/m² 18cm×26cm) 水彩紙各自2枚、方眼厚紙1枚、墨汁、コピー用紙(A4, A3)、大型定規。

■ 成績評価方法・基準

授業態度、プレゼンテーションを含む平常点50%、アルシュ紙に描いた描画作品（2枚）による提出物50%で評価する。

■ 教科書

適宜、授業内容のプリント（パワーポイント+参考資料を含む）を配布。教科書本は以下の通り。●『絵画制作入門』佐藤一郎+東京藝術大学油画技法材料研究室編、2021年第6刷 東京藝術大学出版局 ●『トンプソン教授のテンペラ画の実技』佐藤一郎監訳、2005年初版、第3刷 三好企画

■ 参考書

参考書として使用できる書籍。●『マックス・デルナー：絵画技術体系』佐藤一郎訳、美術出版社 ●『クルト・ヴェール
テ：絵画技術全書』佐藤一郎訳、美術出版社 ●『絵画技術入門』佐藤一郎著、美術出版社

■ 備考

「美術特別講義Ⅳ」は、12月後半の集中講義期間の二日間午前午後を通して行う。質問は、適宜受け付ける。

美術特別講義Ⅳ

(12252)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

行 貞 公 博

■ 授業の概要

商業セルアニメーションにおける基礎知識と必要な技能およびスキルを理解し、身につけられるよう教授する。映像が誕生した背景と古典作品から、映像表現の本質的な特性と魅力を説明し、現在の映像メディアや日本の商業アニメーションの制作プロセスを学ぶ。演習では、商業セルアニメーションの特性とワークフローを理解した上で、カット制作についてのデジタル作画に取り組み、絵を動かすことの面白さを体験しながら、基礎的なスキルを身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------------|----|
| ・商業セルアニメの基礎的な知識を身につける。 | ① |
| ・商業セルアニメに必要な技能を理解することができる。 | ②③ |
| ・必要なスキルを、本授業以外の授業と関連づけて理解することができる。 | ④ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 映像の誕生／本質的な特性／メディアの種類	調査
第2回 商業セルアニメーションのワークフロー／各部紹介	各部の仕事を意識しての作品鑑賞
第3回 カット制作の現在について	調査
第4回 デジタル作画における基礎知識	自習で実践
第5回 課題の演習（絵を動かすことの、自由な面白さ）	表現に自由を感じるカットの調査
第6回 講評（一部作品を選択し、動画検査を行い添削）	他者作品から学びを得る
第7回 セルアニメーション業界で求められる技能とそのレベル	まとめ（講評から展開）
第8回 質疑応答	疑問点を深掘りする

■ 履修上の注意

履修条件

- 1, アニメ・ゲームⅠ、アニメ・ゲームⅡを履修していること。
- 2, Photoshopまたは、CLIP STUDIO PAINTの操作ができること。
- 3, Photoshopでは、基本操作を理解し、ペンタブレットで絵を描いた経験があること。CLIP STUDIO PAINTではアニメーション機能を使った制作経験があること。

わからない用語があった場合は、都度質問する。機材の都合により定員を設ける場合がある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（50%）、授業態度、取り組みの姿勢、課題発表（50%）で評価する。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

（集中講義）質問等については、授業終了時に受け付ける。

美術特別講義Ⅴ

(12205)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 浦 誠

■ 授業の概要

美術特別講義Ⅴでは映画や広告などの映像を中心に、情報の映像化と表現技法について指導する。芸術と歴史、社会、文化、生活との関わりの中で生まれるメディア表現を理解し、メディア芸術への視野を広げられるよう指導する。広告の中で映像がどのように使われているか、映像のルーツや今後のあり方を含め、今日までの様々な映像作品を見つつ作品をテーマごとに紹介しながら、実務経験に基づいた撮影技法、職種なども交えた“映像と広告”との関係を浮き彫りにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・映像の基礎的な知識を身につける	①
・映像の様々な表現を理解することができる	②
・映像と社会・文化を関連づけて理解することができる	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	現代における映像についての説明
第2回 映像のルーツ	映画文化の始まり
第3回 現代における映像と広告の関係	映像広告の手法や種類のまとめ
第4回 映像鑑賞(TVCM / WEB CM)	TVCM / WEBCMのまとめ
第5回 映像における職種	仕事の種類や就職先について
第6回 映像の対価	映像制作に関わる金額相場感について
第7回 映像についてのまとめ	レポート作成
第8回 講評	課題のまとめ

■ 履修上の注意

課題レポートの提出あり。

■ 成績評価方法・基準

提出課題70%(必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)、出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢など)30%で評価する。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

(集中講義) 授業計画の順番等を変更することがある。質問等は授業終了時に受け付ける。

美術特別講義Ⅵ

(12206)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

中 村 真

■ 授業の概要

「日常生活の中で活かせる漆芸」を、ワークショップと講義の双方を合わせ理解する。

ワークショップは、陶器修繕の漆芸活用例「金継ぎ」基礎技法の「漆接着工程」と、木製食器に多く施される原始的漆塗り技法の「摺漆」を体験実習する。

講義はワークショップ実施の合間に随時おこなう。太古から日本列島に根付いてきた漆の歴史・社会的背景・未来展望を俯瞰し、解説する。

事前準備として、各自が①身近な人に漆から連想することを複数聞き取り調査してくること。②割れた陶器を用意し、その器にまつわるエピソードも準備してくること。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・漆とその取り扱い方を理解することができる。

③

・主体的に身近な課題を解決する能力を身につけることができる。

①②⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス・漆文化について。（先入観の漆）

漆の認識把握。

第2回 ウルシノキについて。（分布、歴史、活用）

ウルシノキの理解。

第3回 漆素材について。（漆の特性、取り扱い方、かぶれ対応方法）

漆素材の理解。

第4回 漆実習。「漆接着工程」①素地調整と固め。「摺漆」①木地調整と固め。

講義内容の確認。

第5回 漆実習。「漆接着工程」②麦漆配合塗布と接着。「摺漆」②摺漆塗装。

講義内容の確認。

第6回 漆実習。「漆接着工程」③修正と固定。「摺漆」③摺漆塗装。

講義内容の確認。

第7回 金継ぎについて。（歴史、展開、展望）

金継ぎの理解。

第8回 プレゼンテーション・まとめ。（生活と漆）

講義ふりかえり。

■ 履修上の注意

①漆かぶれは個人差のある生体反応につき、完全防御出来ない事情を理解した学生のみ受講可能とする。そのうえで、最低限の漆かぶれ予防に塗装ヤッケなどの長袖作業着着用を必須とする。

②随時重要な説明があるので遅刻欠席をしないように注意。

③割れた陶磁器（小破片がなくても可）と、その組み上がり想定よりゆとりあるサイズのタッパーを各自で準備する。

④その他材料一式は頒布する。費用は共通消耗品代と合わせ、後日掲示する。（3000円～4000円の見込み）

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）40%、課題制作とプレゼン60%で評価する。課題作品については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

「資料」としてプリント配布する。

■ 参考書

[ゼロからの金継ぎ入門] [伊良原満美・中村真共著] [誠文堂新光社] [2000円＋税]

■ 備考

（集中講義）

・質問等については、授業中および終了時に受け付ける。

美術教諭試験対策講座Ⅰ

(12207)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 晃

■ 授業の概要

公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅱの基礎となる内容である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する
- ・学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする
- ・確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける

⑨

⑤

⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	筆記試験対策1. 教職教養	過去問題に取組み躰いた所を調べておく
第2回	〃 2. 教育法規Ⅰ	教育にかかわる法規の体系を理解する
第3回	〃 3. 教育法規Ⅱ	教員採用試験に關係する法規の内容理解
第4回	〃 4. 面接	質問に正対する回答のあり方を調べる
第5回	〃 5. 集団討議	課題を受けてまとめていくことの理解
第6回	教員採用試験実技について	実技試験の目的と留意点を調べて提出
第7回	実技試験対策1 画材	画材の違いによる表現できる工夫の調査
第8回	〃 2 主題	主題の具現化を図る上での工夫を調べる
第9回	〃 3 時間配分	完成に至る望ましい時間配分のあり方
第10回	小論文対策1 今日の課題に正対する教師の役割の自覚	教員採用試験論文の書き方の留意点調査
第11回	〃 2 専門職としての意識の育成と発展	教員志望者に求められるものの理解
第12回	学習指導案作成演習1	学習指導案の目的と作成の留意点調べ
第13回	〃 2	授業のイメージづくりと各種指導案調べ
第14回	総合演習1 近年の動向を踏まえた課題	基本的問題の確実な把握と新傾向の対策
第15回	〃 2 まとめのレポート	採用試験対策講座關係プリント読み返し

■ 履修上の注意

受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）
- ・レポート70%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
- ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔96円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時（オフィスアワー）に受け付けます。

美術教諭試験対策講座Ⅱ

(12208)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 晃

■ 授業の概要

公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅰをさらに発展継承させた内容となる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する	⑨
・学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする	⑤
・確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける	⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	筆記試験対策1. 教職教養	過去問題に取組み躰いた所を調べておく
第2回	〃 2. 教育法規Ⅰ	教育にかかわる法規の体系を理解する
第3回	〃 3. 教育法規Ⅱ	教員採用試験に關係する法規の内容理解
第4回	〃 4. 面接	質問に正対する回答のあり方を調べる
第5回	〃 5. 集団討議	課題を受けてまとめていくことの理解
第6回	教員採用試験実技について	実技試験の目的と留意点を調べて提出
第7回	実技試験対策1 画材	画材の違いによる表現できる工夫の調査
第8回	〃 2 主題	主題の具現化を図る上での工夫を調べる
第9回	〃 3 時間配分	完成に至る望ましい時間配分のあり方
第10回	小論文対策1 今日の課題に正対する教師の役割の自覚	教員採用試験論文の書き方の留意点調査
第11回	〃 2 専門職としての意識の育成と発展	教員志望者に求められるものの理解
第12回	学習指導案作成演習1	学習指導案の目的と作成の留意点調べ
第13回	〃 2	授業のイメージづくりと各種指導案調べ
第14回	総合演習1 近年の動向を踏まえた課題	基本的問題の確実な把握と新傾向の対策
第15回	〃 2 まとめのレポート	採用試験対策講座関係プリント読み返し

■ 履修上の注意

受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点30％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）
- ・レポート70％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
- ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔96円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

地域創生演習Ⅰ

(12209)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

普段の生活や大学での学びを基に、自らが暮らす地域を主体的に創るために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。地域創生演習Ⅰでは、宮城県の伝統工芸品である「仙台簞笥」と今日の生活から着想されるアイデアを形にする。「感じる・考える・まとめる・伝える」という表現活動の基本的な能力を身につけられるように、課題設定と解決方法について教授する。またその過程で大学での学びに必要な知識や方法について触れる機会とし、主体的に取材や調査研究する手立てを指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「地域創生」の意義について理解できるようになる。
- ・自分の意見を持ち、他者とのコミュニケーションが出来るようになる。

②

⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、グループの編成	制作ファイルの準備（事後）
第2回	仙台簞笥を知る①（資料調査）	仙台簞笥の調査（事前）
第3回	仙台簞笥を知る②（見学と実地調査、グループワーク）	調査内容のまとめ（事後）
第4回	仙台簞笥を知る③（追加調査、グループワーク）	他に気になる事を調べる（事前）
第5回	仙台簞笥を知る④（追加調査、グループワーク）	関連する情報を集める（事後）
第6回	グループ発表の準備	関連する情報を集める（事前）
第7回	グループ発表、ディスカッション	発表のまとめ（事後）
第8回	解決策のアイデアをつくる①（アイデアスケッチなど）	アイデアを考察する（事前）
第9回	解決策のアイデアをつくる②（理想像検討）	理想像検討（事後）
第10回	解決策のアイデアをつくる③（アイデア検討）	理想像検討（事前）
第11回	解決策のアイデアをつくる④（追加調査検討）	追加調査（事後）
第12回	アイデアを形にする①（発表内容をまとめる）	追加調査（事前）
第13回	アイデアを形にする②（発表資料をつくる）	発表資料準備（事後）
第14回	解決策を発表する	発表資料準備（事前）
第15回	授業全体の振り返り、ディスカッション	授業まとめ

■ 履修上の注意

授業（主にグループワーク）と自習（事前事後学習）がセットになっている。材料費（500円程度）を徴収する。

■ 成績評価方法・基準

グループワークへの貢献と発表50%、最終振り返り50%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

事前に資料を配布する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。

内容に関しては取り組みの状況により前後する場合がある。

地域創生演習Ⅱ

(12210)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

普段の生活や大学での学びを基に、自らが暮らす地域を主体的に創っていくために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。「地域創生演習Ⅱ」では、「地域創生演習Ⅰ」で生まれた課題からテーマを「場とオブジェクト」に拡張し、地域社会（場所）に自身の表現（オブジェクト）をどのようなアプローチで発信し還元できるのかを検討しながら、今後の制作活動のビジョンが持てるように指導する。自らが立てた課題に対して主体的に取材や調査研究をすることで課題に対する理解が深められるように、多くの表現活動の事例を紹介しながら指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|---|
| ・「地域創生」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。 | ⑤ |
| ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようにする。 | ⑥ |
| ・表現のアウトプットについて学び、実践するビジョンを持つ。 | ⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンスとグループの再編成	テーマについての調査
第2回	テーマの共有	テーマについての調査
第3回	「場とオブジェクト」の事例紹介	事例についてのまとめ（事後）
第4回	ディスカッション：「地域と表現活動」の課題	テーマに関する仮説を検討する
第5回	理想像と課題を考える	テーマに関する仮説を検討する
第6回	テーマを調べる①（ヒアリング内容検討）	ヒアリング内容を検討する（事後）
第7回	テーマを調べる②（関係者へのヒアリング）	ヒアリング内容をまとめる（事後）
第8回	調べたことをまとめる	ヒアリング内容から考察する（事後）
第9回	解決策のアイデアをつくる①（アイデア検討）	グループでの追加調査
第10回	解決策のアイデアをつくる②（中間発表）	グループでの追加調査
第11回	解決策のアイデアをつくる③（アイデアの強化）	グループでの追加調査
第12回	展示案と発表の準備①（理想とする場のリサーチと考察）	グループでの発表資料準備（事後）
第13回	展示案と発表の準備②（オブジェクト案の調整）	グループでの発表資料準備
第14回	展示案と発表の準備③（プレゼンテーションの準備）	グループでの発表資料準備（事前）
第15回	コロキウム：資料展示と発表	授業のまとめ

■ 履修上の注意

自習時間については授業中に編成したグループでの活動方針によるが、自主的な制作活動についても自習の対象とする。

■ 成績評価方法・基準

グループワークへの貢献と発表50%、最終振り返り50%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

事前に資料を配布する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。

内容に関しては取り組みの状況により前後する場合がある。

地域創生演習Ⅲ

(12211)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

どんな土地にも地域資源は存在する。それは土地でとれる自然素材や環境、文化など多岐にわたる。そして美術は、地域資源を生かして新たな土地の魅力をつくり出し、賑わいの創出につなげる力を持っている。この演習では、大学の敷地内や講師自身がまちづくりに参画している仙台市若林区の荒浜地区を例として取り上げながら、地域資源の多様性について教える。また、地域資源を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・地域資源を見つけることのできる力が身につく
- ・地域資源を生かして美術作品をつくる力が身につく

①⑤

③④⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	関連資料・文献などを見ておく（事後）
第2回	各自が得意とする美術の作品を鑑賞し合う	自身の美術の作例の発表準備（事前）
第3回	大学の敷地のなかの地域資源の調査	学内を下見しておく（事前）
第4回	大学の敷地のなかの地域資源の分析	3の調査結果を確認しておく（事前）
第5回	地域資源を生かしたデザイン①（アイデアスケッチ）	体験する手法について調べておく（事前）
第6回	地域資源を生かしたデザイン②（ニーズを調べる）	②の結果を基に①の改善案を検討（事後）
第7回	地域資源を生かしたデザイン③（アイデアのブラッシュアップ・講評会）	①②で考えた作品について説明できるようにしておく（事前）
第8回	地域資源を生かしたインスタレーション①（アイデアスケッチ）	体験する手法について調べておく（事前）
第9回	地域資源を生かしたインスタレーション②（展示場所の検討）	①で考えた作品をどこに展示するか考えておく（事前）
第10回	地域資源を生かしたインスタレーション③（アイデアのブラッシュアップ・講評会）	①②で考えた作品について説明できるようにしておく（事前）
第11回	フィールドワーク①（荒浜を歩く）	ワークシートの作成（事後）
第12回	フィールドワーク②（地元の人に荒浜の魅力を聞く）	ワークシートの作成（事後）
第13回	フィールドワーク③（「荒浜灯籠流し」の灯籠をつくる）	ワークシートの作成（事後）
第14回	フィールドワーク④（講評会）	ワークシートの作成（事後）
第15回	まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅴと合同で実施する。
- ・フィールドワークで荒浜地区に行く際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題50%。課題はフィードバックを行う。

■ 教科書

そのつど資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業時に受け付ける。授業の進行状況等によって授業計画の順番が前後することがある。

地域創生演習Ⅳ

(12212)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

「地域創生演習Ⅲ」で学んだ土地の魅力をつくり出す美術を実現するためには、そこで用いる地域資源の特徴をつかむ必要がある。この演習では、五感を駆使して地域資源の特徴を深くつかむ方法を教える。また、このような地域資源の特徴を生かして土地の魅力をつくり出す美術の好事例であるアース・ワークの多様な手法を、実践を交えながら教える。さらに仙台市若林区の荒浜地区におもむいて、地域の賑わいの創出に取り組む個人・団体の活動に資するような美術の実践も体験し、学びを深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------|-----|
| ・美術で土地の魅力を生かす上で必要な力が身につく | ①⑤ |
| ・美術で地域の賑わいを創出する上で必要な力が身につく | ③④⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	関連資料・文献などを見ておく（事後）
第2回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる①（視覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第3回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる②（触覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第4回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる③（聴覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第5回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる④（嗅覚・味覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第6回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す①（作品鑑賞）	体験する手法について調べておく（事前）
第7回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す②（季節を生かす）	体験する手法について調べておく（事前）
第8回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す③（気候を生かす）	体験する手法について調べておく（事前）
第9回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す④（大地を生かす）	体験する手法について調べておく（事前）
第10回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す⑤（他者とつくる）	体験する手法について調べておく（事前）
第11回 フィールドワーク①（荒浜を知る）	ワークシートの作成（事後）
第12回 フィールドワーク②（荒浜の美術の選考事例を鑑賞する）	ワークシートの作成（事後）
第13回 フィールドワーク③（荒浜の地域資源を調べる）	ワークシートの作成（事後）
第14回 フィールドワーク④（荒浜でアース・ワークを制作する）	ワークシートの作成（事後）
第15回 まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅵと合同で実施する。
- ・フィールドワークで荒浜地区に行く際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題50%。課題はフィードバックを行う。

■ 教科書

そのつど資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業時に受け付ける。授業の進行状況等によって授業計画の順番が前後することがある。

地域創生演習Ⅴ

(12213)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

どんな土地にも地域資源は存在する。それは土地でとれる自然素材や環境、文化など多岐にわたる。そして美術は、地域資源を生かして新たな土地の魅力をつくり出し、賑わいの創出につなげる力を持っている。この演習では、大学の敷地内や講師自身がまちづくりに参画している仙台市若林区の荒浜地区を例として取り上げながら、地域資源の多様性について教える。また、地域資源を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・地域資源を見つけることのできる力が身につく
- ・地域資源を生かして美術作品をつくる力が身につく

①⑤
③④⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	関連資料・文献などを見ておく（事後）
第2回	各自が得意とする美術の作品を鑑賞し合う	自身の美術の作例の発表準備（事前）
第3回	大学の敷地のなかの地域資源の調査	学内を下見しておく（事前）
第4回	大学の敷地のなかの地域資源の分析	3の調査結果を確認しておく（事前）
第5回	地域資源を生かしたデザイン①（アイデアスケッチ）	体験する手法について調べておく（事前）
第6回	地域資源を生かしたデザイン②（ニーズを調べる）	②の結果を基に①の改善案を検討（事後）
第7回	地域資源を生かしたデザイン③（アイデアのブラッシュアップ・講評会）	①②で考えた作品について説明できるようにしておく（事前）
第8回	地域資源を生かしたインスタレーション①（アイデアスケッチ）	体験する手法について調べておく（事前）
第9回	地域資源を生かしたインスタレーション②（展示場所の検討）	①で考えた作品をどこに展示するか考えておく（事前）
第10回	地域資源を生かしたインスタレーション③（アイデアのブラッシュアップ・講評会）	①②で考えた作品について説明できるようにしておく（事前）
第11回	フィールドワーク①（荒浜を歩く）	ワークシートの作成（事後）
第12回	フィールドワーク②（地元の人に荒浜の魅力を聞く）	ワークシートの作成（事後）
第13回	フィールドワーク③（「荒浜灯籠流し」の灯籠をつくる）	ワークシートの作成（事後）
第14回	フィールドワーク④（講評会）	ワークシートの作成（事後）
第15回	まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅲと合同で実施する。
- ・フィールドワークで荒浜地区に行く際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題50%。課題はフィードバックを行う。

■ 教科書

そのつど資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業時に受け付ける。授業の進行状況等によって授業計画の順番が前後することがある。

地域創生演習Ⅵ

(12214)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

「地域創生演習Ⅴ」で学んだ土地の魅力をつくり出す美術を実現するためには、そこで用いる地域資源の特徴をつかむ必要がある。この演習では、五感を駆使して地域資源の特徴を深くつかむ方法を教える。また、このような地域資源の特徴を生かして土地の魅力をつくり出す美術の好事例であるアース・ワークの多様な手法を、実践を交えながら教える。さらに仙台市若林区の荒浜地区におもむいて、地域の賑わいの創出に取り組む個人・団体の活動に資するような美術の実践も体験し、学びを深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------|-----|
| ・美術で土地の魅力を生かす上で必要な力が身につく | ①⑤ |
| ・美術で地域の賑わいを創出する上で必要な力が身につく | ③④⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	関連資料・文献などを見ておく（事後）
第2回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる①（視覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第3回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる②（触覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第4回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる③（聴覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第5回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる④（嗅覚・味覚）	体験する手法について調べておく（事前）
第6回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す①（作品鑑賞）	体験する手法について調べておく（事前）
第7回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す②（季節を生かす）	体験する手法について調べておく（事前）
第8回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す③（気候を生かす）	体験する手法について調べておく（事前）
第9回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す④（大地を生かす）	体験する手法について調べておく（事前）
第10回 アース・ワークで土地の魅力をつくり出す⑤（他者とつくる）	体験する手法について調べておく（事前）
第11回 フィールドワーク①（荒浜を知る）	ワークシートの作成（事後）
第12回 フィールドワーク②（荒浜の美術の選考事例を鑑賞する）	ワークシートの作成（事後）
第13回 フィールドワーク③（荒浜の地域資源を調べる）	ワークシートの作成（事後）
第14回 フィールドワーク④（荒浜でアース・ワークを制作する）	ワークシートの作成（事後）
第15回 まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅳと合同で実施する。
- ・フィールドワークで荒浜地区に行く際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題50%。課題はフィードバックを行う。

■ 教科書

そのつど資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業時に受け付ける。授業の進行状況等によって授業計画の順番が前後することがある。

卒業研究Ⅰ

(12215)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 6 (180 + 30)

対象学科 : 美表4年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した卒業制作(洋画)の予備的な制作を指導する。洋画Ⅲ及び技法研究(洋画)の履修を踏まえ、個人の課題に沿って主体的に制作を進めさせ、特に課題発見から構想、制作までのプロセスや計画性を重要視する。従って、都度制作上の問題点を明確に整理するために、「制作ノート」の作成を課す。また、制作にはある程度の完成度が要求されるが、卒業研究Ⅱに繋がることを意識させ、美術表現の意義についても十分に理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分に理解することができる。 ③⑧
- ・主体的に専門的な表現方・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。 ③⑨
- ・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。 ③

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	1～3. 授業の説明	過去課題等のまとめ
第2回	4～6. 過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等	関係資料等のまとめ
第3回	7～9. ドローイング制作(テーマ設定)	課題の継続制作(ドローイング)
第4回	10～12. " (表現技術の確認)	" (画材の選択)
第5回	13～15. 制作Ⅰ(エスキース制作等)	課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅰ)
第6回	16～18. " (描画)	" (全体・部分描写)
第7回	19～21. " (描画／仕上げ／講評会)	" (仕上げ)
第8回	22～24. 制作Ⅱ(エスキース制作等)	課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅱ)
第9回	25～27. " (描画)	" (全体描写)
第10回	28～30. " (描画)	" (部分描写)
第11回	31～33. " (描画／仕上げ／講評会)	" (仕上げ)
第12回	34～36. 制作Ⅲ(エスキース制作等)	課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅲ)
第13回	37～39. " (描画)	" (全体描写)
第14回	40～42. " (描画)	" (部分描写)
第15回	43～45. " (描画／仕上げ／講評会)	" (仕上げ)

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究 I

(12216)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 6 (180 + 30)

対象学科 : 美表 4 年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

3年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を磨かせる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、をマケットにより試行し研究する。アイデアスケッチやデッサンを重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開する中で、創造力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さをどのように引き出せば良いか試行し、研究させる。アイデアから制作までの作業を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・実材彫刻による造形を発想し展開できる	③⑨
・設置場所に対して意識し彫刻を構想できる	③⑤⑦⑧⑨
・作業を他と協働して行うことができる	⑧⑨

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	1～3回. 授業内容、卒制の動機付け、評価方法説明、	シラバスを読む。課題提出
第2回	4回、意識の確立、地域と自己作品の関係性、制作ノート	各作家作品集研究、課題提出
第3回	5～8回、テーマ研究 (現在までの卒業制作、彫刻)	各作品集研究、デッサン (制作ノート)
第4回	9～12回テーマ研究 (他の卒業研究)	各作品集研究、デッサン (制作ノート)
第5回	13～15回. テーマ設定 (自己作品の振り返り)	彫刻論、造形論研究、彫刻展研究
第6回	16～18回テーマ設定 (空間研究、場)	彫刻作品研究、アートプロジェクト研究
第7回	19回テーマ確認 デッサン、構想	制作継続、制作ノート作成
第8回	20～22回素材研究 粘土	制作継続、制作ノート作成
第9回	23～25回素材研究 FRP	制作継続、制作ノート作成
第10回	26～28回素材研究 テラコッタ	制作継続、制作ノート作成
第11回	29～33回素材研究 石材	制作継続、制作ノート作成
第12回	34～38回素材研究 木材	制作継続、制作ノート作成
第13回	39～41回素材研究 鉄材	制作継続、制作ノート作成
第14回	42～44回素材研究 その他	制作継続、制作ノート作成
第15回	45回 講評、中間審査	制作のまとめと今後の展開作成

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分だけでなく他の人の安全にも留意して制作すること。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度 (集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%) 制作ノート (提出レポート含む) 20% (評価して返却します) 提出レポートはコメント後フィードバックします。

■ 教科書

授業前に資料配布

■ 参考書

授業前に資料配布

■ 備考

4年間の制作のまとめとして充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。

卒業研究 I

(12218)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用することで卒業研究に向けた、新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、今までの経験以上の作品の大きさ、材料の質、取り組み時間等を考慮して制作を計画し、その準備や試作を行う。展示発表という外部に向けた発信を意識した卒業研究の指導を行う。

そのための一連の流れ、情報収集、日程や計画の設定、材料の購入、加工、展示方法等を確認しながら、制作について個別に指導を行う。また実際の展覧会会場（卒業制作展）での作品設置、展示を想定して進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる

⑧

・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1～3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）

材料の購入をする

第2回 4～6. テーマ設定（調査方法、情報収集）検討 作業

作品制作（準備）

第3回 7～9. 完成予想（図やマケット）制作 材料準備

作品制作（材料、道具の検討）

第4回 10～12. 完成予想 制作 基本構造 中間構造 細部・表面

作品制作（全体と部分の確認）

第5回 13～15. 完成予想 制作 仕上げ 設置方法 サイズ確認 発表

発表の手順等、準備をする

第6回 16～18. 完成予想から実際の作業、制作 テーマ設定 調査

発表後の手直しをする

第7回 19～21. テーマ設定 情報収集

作品制作（全体制作）

第8回 22～24. テーマ発表 制作

材料の購入をする

第9回 25～27. 制作 進行・日程（発表） 制作ノート確認

作品制作（構造の確認）

第10回 28～30. 制作 技法研究（技法確認）

材料の購入をする

第11回 31～33. 制作 材料準備（材料確認）

作品制作（色彩の確認）

第12回 34～36. 制作 材料準備（色彩計画）

作品制作（全体制作）

第13回 37～39. 制作 基本構造（計画）

作品制作（仕上げ）

第14回 40～42. 発表 手直し

発表の手順等、準備をする

第15回 43～45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究 I 提出

発表後の手直しをする

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

卒業研究Ⅰ

(12246)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

卒業制作Ⅰ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目・専門科目・応用科目の集大成として、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を立案し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって自己管理能力を養う。現代社会におけるデザインの役割について考え、問題点を見つけ、自ら解決策を導き出し、デザインを構築する力を身につける。中間審査会に向けて、情報を正確にわかりやすく伝えるための表現やプレゼンテーションができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・デザインの役割について考察し、表現できる

⑥⑧

・問題点を見つけ、解決策を導き出し、デザインを構築できる

⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	研究に関する調査、制作プロセスまとめ
第2回	2～5回：研究テーマ設定	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第3回	6～10回：研究テーマに関する調査	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第4回	11～15回：研究計画の作成	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第5回	16～20回：デザインスケッチ制作	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第6回	21～25回：モックアップ制作	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第7回	26～30回：デザイン検討	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第8回	31～39回：本制作	制作技法の調査、制作プロセスまとめ
第9回	40～42回：プレゼンテーション準備	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第10回	43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第11回	45回：中間審査会	制作プロセスをデータにまとめる
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

情報デザインⅢ・Ⅳを履修していること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（20%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(12247)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した卒業制作（アニメーション、映像など）の予備的な制作を指導する。アニメ・ゲームⅠ～Ⅳの履修や個々の制作経験を踏まえ、それぞれの課題に沿った主体的な制作を進めさせ、主題の決定から構想の展開、制作過程、計画性を重要視する。従って、制作上生じるさまざまな問題や克服すべき事柄を整理し明確にするための「制作ノート」作成を課す。また、制作にはある程度の完成度が要求されるが、卒業研究Ⅱに繋がることを意識させ、表現の意義についても十分に理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・これまでの総ての学修を統合し、アニメーションや映像表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。 | ③⑧ |
| ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。 | ③⑨ |
| ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。 | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明。	過去課題等のまとめ。作品の構想。
第2回	4～6. 過去学修と個々作品についての振り返り。資料収集、計画立案、構想など	関係資料等のまとめと方向性の探索。
第3回	7～9. 制作（作品の構想スケッチやドローイングの制作→テーマ設定）	制作を継続、構想を詰める。
第4回	10～12. 制作（表現技法の確認、スケッチ、ドローイング、絵コンテなど）	制作を継続、具体的な時間配分を考慮する。
第5回	13～15. 制作（絵コンテ、具体的なイメージを制作）	継続制作・制作ノート作成
第6回	16～18. 制作（主に絵コンテなどを基に画面とタイムラインの構成）	絵コンテなど、全体のイメージをより具体的にすすめる。
第7回	19～21. 制作（中間講評）	方向性、狙いの確認。タイムライン上でコンテを動かす。
第8回	22～24. 制作（中間講評をもとに、改善・修正点などを把握）	継続制作・制作ノート作成
第9回	25～27. 制作（作画）	計画の確認、継続制作・制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（作画）	継続制作・制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（作画／仕上げ／講評会）	継続制作・制作ノート作成。
第12回	34～36. 制作（改良箇所を確認）	大まかな編集、継続制作・制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（作画）	編集、場合により映像の書き出し。
第14回	40～42. 制作（作画）	編集、場合により映像の書き出し。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題（90％）と授業態度（10％：制作に取り組む姿勢も評価する）。
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる映像作品、音楽作品、書籍や画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究 I

(12221)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

大 堀 恵 子

■ 授業の概要

日本又は、諸外国の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べる。美術館、図書館を効果的に活用し日本の版画の伝統と文化に対する美術文化の理解を深め思考力、創造的実践力を高めることを目標とする。これまでに版画Ⅰ～Ⅳで獲得した知識、技能、を総合的に活用し、作品のコンセプト、技法、支持体についての試作を重ね制作ノートに記録し、制作の充実が図れる能力を修得する。卒業制作をととして、社会の一員としての責任を果たす生涯学習力が身につけられるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------|----|
| ・版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。 | ③ |
| ・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する | ⑨ |
| ・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	ガイダンス	記録するための制作ノートを用意する。
第2回	2～5回	テーマ設定・年間計画表作成 (事前ポートフォリオを参考)	各作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第3回	6～10回	制作・技法研究試作	技法の試作内容をまとめ次回提出。
第4回	11～15回	制作・支持体研究試作	支持体の試作内容をまとめ次回提出。
第5回	16～23回	制作・原寸大イメージへ展開	イメージの内容をまとめ次回提出。
第6回	24～34回	制作・版表現へ展開・描写	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第7回	35～40回	制作・版表現へ展開・印刷	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第8回	41～44回	制作ノートのまとめ (計画表、コンセプト、大きさ、版種、技法、支持体)	制作ノートのまとめを行ない、プレゼンテーションの準備をする。
第9回	45回	中間審査	
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

■ 履修上の注意

制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。

1. 提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%） 2. 制作ノート又はポートフォリオ（20%）

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

画集等を紹介する。

■ 備考

版画

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(12222)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

各自で設定した染織技法の研究テーマを基に材料研究・試作等を行う。制作意図を明確にし、綿密な計画をたて、4年間の集大成として完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・染織に関する高度な専門知識を身につける。 | ③⑧⑨ |
| ・綿密な染織計画を立て、制作を通して自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。 | ③⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 課題説明	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回 2回～3回：研究内容の設定	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回 4回～10回：参考資料収集	参考資料収集・制作ノートのまとめ
第4回 11回～12回：年間計画	年間計画案の作成・制作ノートのまとめ
第5回 13回～18回：エスキース	エスキース案作成・制作ノートのまとめ
第6回 19回～22回：下図作成	下図案の作成・制作ノートのまとめ
第7回 23回～28回：下図 原寸拡大	下図制作・制作ノートのまとめ
第8回 29回～30回：材料実験① 素材の検討	制作準備・制作ノートのまとめ
第9回 31回～32回：材料実験② 染料の検討	制作準備・制作ノートのまとめ
第10回 33回～34回：染料・素材の決定	材料の準備・制作ノートのまとめ
第11回 35回～38回：材料準備	制作準備・制作ノートのまとめ
第12回 39回～42回：試作制作	制作準備・制作ノートのまとめ
第13回 43～44回：中間審査準備 記録整理	制作準備・制作ノートのまとめ
第14回 45回：作品提出	作品提出準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
作品に使用する材料は、各自購入すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(12223)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

これまでに修得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、様々な素材において技法研究を充分に行った上で、作品のテーマ設定をし、綿密な計画性を持って中間提出までの制作に取り組めるよう指導する。研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉めディスカッションを重ねる。また、焼成は各自が責任を持つて行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行い、プレゼンテーションまでを想定した本制作に入らせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|---|
| ・卒業研究において自己管理能力を高めることができる。 | ⑨ |
| ・卒業研究における独創的、創造的思考力を高めることができる。 | ⑨ |
| ・これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。 | ⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～2回：ガイダンス、年間計画の打ち合わせ、計画表作成	卒業研究内容の確認
第2回	3回～4回：テーマ、デザイン、プレゼン等の打合せ 5回～9回：資料収集	制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。
第3回	10回～14回：テストピース生地制作、制作ノート確認①計画表のチェック	各自テストピース用粘土を注文
第4回	15回～19回：釉薬原料の調合 釉掛け焼成	釉薬の調合についての復習 釉薬原料の在庫確認
第5回	20回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成、制作ノート確認②計画表の修正	釉薬原料の注文
第6回	21回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成	焼成準備
第7回	25回～26回：釉薬が出来次第、実際の器に釉掛けを行う	テストピースのまとめ
第8回	27回～28回：釉薬原料の微調整、制作ノート確認③原料確認	焼成実験を含め、他学生と協力して行うよう、焼成日程を組む。
第9回	29回～30回：完成した釉薬の調合	ポットミルの使用方法についての理解
第10回	31回～34回：マケット制作	各自マケット制作を進める
第11回	35回：マケット制作 焼成、制作ノート確認④マケットチェック	マケット焼成結果を行う
第12回	36回～39回：マケット制作 焼成	マケット焼成結果後の再調整を行う
第13回	40回：本制作 制作ノート確認⑤焼成結果	本制作の準備・確認
第14回	41回～44回：本制作	本制作を進める
第15回	45回：中間審査打合せ、制作ノート確認⑥最終確認	中間提出の準備、最終確認を行う

■ 履修上の注意

- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30%
- ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 024円〕
 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 344円〕
 〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3, 024円〕

■ 備考

- ・ 作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

卒業研究 I

(12224)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

落合 里麻

■ 授業の概要

4年間の集大成に相応しい作品を制作することを目標とする。社会や身の周りの問題解決のためのデザイン、もしくは暮らしを快適にするためのデザインについてリサーチを行い、研究テーマを各自で設定させる。研究テーマを基に作品の外観のデザインとコンセプトを決定し、具体的な計画を立てる。マケットを複数制作し、細部の形状も含めてデザインを検討する。機能性や耐久性について検討し、各自の技量を踏まえた上で使用する材料や加工方法を定める。実寸大で制作図と部材図を描き、形状と構造をより明確にしてから本制作に臨む。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・問題を見つけ出し、解決に繋がるデザインを考案できる
- ・デザインを形にする方法を自ら考え、計画的に進めることができる

⑤

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	ガイダンス、年間計画を立てる	リサーチを始める
第2回	2～3回	リサーチを行い、研究テーマを検討する	リサーチの結果をまとめ、研究テーマを決める
第3回	4～6回	コンセプトと外観のデザインを検討する	コンセプトを複数考える
第4回	7～9回	マケットを制作する	マケットを複数制作する
第5回	10～11回	マケットを元に機能性を検討する	マケットを比較する
第6回	12～14回	外観のデザインと機能性のバランスを検討する	優先順位や関係性を書き出して比較する
第7回	15～17回	材料の特徴を調べ、検討する	材料のサンプルを用意する
第8回	18～21回	テクスチャーの実験を行い、検討する	テクスチャーのサンプルを作る
第9回	22～24回	細部のデザインを検討する	細部のデザインを決定する
第10回	25～28回	制作図を描く	参考書で製図法を確認し、制作図を進める
第11回	29～31回	部材図を描く	部材図を完成させる
第12回	32～33回	制作（材料に墨付け、転写し、部材を作る）	全ての部材に墨付け、転写する
第13回	34～41回	制作（部材を作る）	部材を完成させる
第14回	42～44回	制作（部材を組み立てる）	部材の接合部を調整する
第15回	45回	中間審査の準備	プレゼン内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・材料や道具類を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履すること。
- ・プロダクトデザイン I ～IVを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

課題80%、授業態度20%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

随時紹介する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(12248)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

学生が卒業作品をどのように捉えているか聞き取り、漆芸卒業作品の集大成を見捉え、乾漆素地は作品の基本となるもので重要であり十分考察させ制作の指導をします。作品スケッチをもとに作品に合った素材選び、模型を制作し考察し、再考察し図案を作成、原型を制作させます。作品に合わせ一体型、合体型を見極め、制作過程を見守りながら適宜アドバイスし乾漆素地が完成するように指導します。自在な形状の制作を楽しみながら広汎な創意をもって造形の幅を広げ創作の喜びを深めてもらう目的として作品制作を行います。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・粘土にて正確に原型を起こすことができる。	③⑧⑨
・用途、形状による適切な原型素地が選択できる。	③⑧⑨
・石膏にて適切な原型を作成できる。	③⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～2回：ガイダンス、作品コンセプトの考察、計画表作成	制作ノート作成
第2回	3回～4回：テーマ、デザイン、プレゼン等の打合せ	制作ノート確認、計画表の見直し修正を行っておく。
第3回	5回～6回：資料収集、デザインの考察	研究に生かせるようにまとめておく。
第4回	7回～9回：デザインを完成させ、大きさ・色調・柄等の細部調整	デザイン案のまとめ、作業記録をつける。
第5回	10回～13回：材料と技法の考察 制作ノート確認①	必要であれば模型の制作。
第6回	14回～16回：原型の制作 制作ノート確認②	原型が制作できるようにしておく。
第7回	17回～19回：全体のバランス等を確認。	手板にて色調等の考察をしておく。
第8回	20回～21回：手板により漆等の色調等の確認。 制作ノート確認③	手板にて漆の乾燥等を確認しておく。
第9回	22回～27回：寒冷紗をバイアスに貼り、布目を止める。	布目を止めておく。
第10回	28回～29回：麻布を貼り、厚みをつける。	厚みをつけておく。
第11回	30回～34回：寒冷紗をバイアスに貼り、強度を増す。	寒冷紗、麻布の乾燥を確認しておく。
第12回	35回～41回：固め塗りを数回塗り高温乾燥器入れる。 制作ノート確認 ④	高温乾燥の確認しておく。
第13回	42回～43回：高温乾燥。	作業記録（乾燥工程）をつける。
第14回	44回：制作過程の確認。	中間審査に向けて制作記録をまとめる。
第15回	45回：中間審査。打合せ 制作ノート確認 ⑤	制作ノートの書込みをしておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（30％）：適切な技法を選択できる。出欠状況。制作意欲
- ・作品完成（70％）：作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現（中間審査でフィードバックする。）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし1～4〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕

〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(12227)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

これまでに修得したバーナーワークの技術・技法を用い、更なる創意工夫による完成度の高い作品になるよう指導する。着実に技法の研鑽を積み上げ、表現を深められるように、制作計画・テーマ設定・写真・画像・メモ・イラストなどの資料をまとめ、制作ノート・スクラップブックを作成しながら進める。中間審査までに、作品のテストピース・モデル・展示空間まで含めた作品概要の計画を立案させる。作家の制作・展示の経験から、4年間の集大成になる作品を目指すと共に、魅せる作品の意識を持たせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------------|----|
| ・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。 | ③ |
| ・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1	ガイダンス	制作面談／卒研運用の説明	・制作ノートを準備し、制作に必要なコンテンツをまとめる。
第2回	2	年間計画の作成		・年間計画表（前期）を作成し提出
第3回	3	テーマ設定・確認		・参考資料収集・参考展示を鑑賞
第4回	4～9	技法・デザインの確認		・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第5回	10	進捗確認①	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第6回	11～19	技法練習	デザインに適した方法を確立	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第7回	20	進捗確認②	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第8回	21～29	試作制作①	技法・技術の習熟度を上げる試作	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第9回	30	進捗確認③	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第10回	31～39	試作制作②	作品＋ディスプレイの全体を考え試作	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。 ・ディスプレイの素材案を用意。
第11回	40	進捗確認④	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第12回	41～44	試作制作③	テストピース／ディスプレイのモデル制作	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第13回	45	進捗確認⑤	中間審査作品提出準備・確認	・内容のまとめ

■ 履修上の注意

対象：【軟質ガラス／エアバーナー制作】→ グラスアートⅡ、Ⅲを受講し単位取得済の者。

【硬質ガラス／酸素バーナー制作】→ グラスアートⅠ、Ⅳを受講し単位取得済の者。

※硬質ガラス制作希望者については、酸素バーナーの授業を受講した者に限ります。

※取組むテーマやサイズ／個数により、早めに制作に着手する必要があります。

関連する展示会や展示販売を参考に見て回ること。

作品と展示の関係性（展示方法・設置）についても考察すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート・各種資料）
- ・作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する）
- ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。

■ 教科書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 参考書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 備考

- ・質問、相談は、オフィスアワー（曜日・時間は初回ガイダンスにて連絡）に受付ます。

卒業研究Ⅰ

(12228)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

福田 一 実

■ 授業の概要

4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------|----|
| ・自分の世界の創作人形を完成させる。 | ⑨ |
| ・人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考える。 | ③⑧ |
| ・人形との向き合い方を深める。 | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回	2. 年間計画の打ち合わせ。計画表制作。テーマを決める。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回	3～4. 原寸大の下図を描き、型紙を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回	5～6. 芯材に下図をあててカッターなどで削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第5回	7～9. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第6回	10～12. 顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第7回	13～14. 胴の造形をする。	制作した部分のやすりがけ
第8回	15～17. ステンレスの針金で手の芯を作り、手の造形をする。	制作した部分のやすりがけ
第9回	18～19. 腕の造形をし、手とのバランスもチェックする。	制作した部分のやすりがけ
第10回	20～25. 脚を造形し、足も作る。必要であれば芯も入れる。	制作した部分のやすりがけ
第11回	26～29. 乾燥後、全てを磨き、関節を切断し、芯を抜く。	制作した部分のやすりがけ
第12回	30～33. 関節の球を作り、磨く。途中経過確認。	制作した部分のやすりがけ
第13回	34～38. 球を各関節に固定し、球に対する受けを作る。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第14回	39～44. 各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	細かなキズなどをチェックする。
第15回	45. 中間審査打ち合わせ、途中経過確認。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）課題作品提出時にフォードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

人形

解剖学の資料は必ず用意すること。

質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(12229)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿 野 明 子

■ 授業の概要

どんなマンガを描きたいか、作品テーマの設定をさせる。ディスカッションを通し、テーマやそれに伴う世界観を明確にさせる。それに関わる資料の収集、場合によっては取材をさせる。

前期卒業制作Ⅰ提出までの計画表を立てさせ、日誌を含む制作ノートを作らせる。マンガの要となるネームの指導をする。登場人物の設定を決める為、キャラクター表を作成させる。卒業制作のマンガ作成に必要な画力や構成力を付けるために小編作品を作らせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・作品完成までの計画を立てることができる

⑨

・マンガの要素をよく検討し読みやすく魅力あるネームをつくることできる。

③⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス・年間計画の確認	予め制作ノート・日誌を準備しておく
第2回	2. テーマ・プレゼンの打ち合わせ	卒制に向けて何を描きたいか考えておく
第3回	3～5. プロット作成、資料収集、取材	取材先、収集方法を考える
第4回	6～8. ネーム・キャラクター表作成・プロット確認	ノートチェック①
第5回	9. ネーム・キャラクター表チェック	ノートチェック②
第6回	10～14. ネーム修正	ノートチェック③
第7回	15. ネームチェック	ノートチェック④
第8回	16～17. プレゼン試作	ノートチェック⑤
第9回	18～20. 背景作画、	ノートチェック⑥
第10回	21. プレゼン監修	ノートチェック⑦
第11回	22～23. ネーム最終修正	ノートチェック⑧
第12回	24～40. 小編(試作)作品作成・ペン入れ	ノートチェック⑨
第13回	41～43. 仕上げ	ノートチェック⑩
第14回	44. 小編(試作)作品完成	ノートチェック⑪
第15回	45. 総評 フィードバックを行う	ノートチェック⑫

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅠ～Ⅳを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題80%（アイデア40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ）40%）授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

マンガ

授業のあとオフィスアワーを設ける。

卒業研究Ⅱ

(12230)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

北 折 整

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作(洋画)を指導する。卒業研究Ⅰ(洋画)と同様に個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現材料の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、自分自身の洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。 ③⑧
- ・主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自己実現を行うことができる。 ③⑨
- ・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。 ③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明	過去課題等のまとめ
第2回	4～6. 過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等	関係資料等のまとめ
第3回	7～9. 試作Ⅰ(エスキース制作／描画)	支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅰ)
第4回	10～12. 〃 (描画／講評会)	〃
第5回	13～15. 試作Ⅱ(エスキース制作／描画)	支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅱ)
第6回	16～18. 〃 (描画／講評会)	〃
第7回	19～21. 本制作(エスキース制作／描画：主にテーマに留意)	支持体の準備及び制作の継続(本制作)
第8回	22～24. 〃 (描画：主に形体に留意)	制作の継続(主に形体に留意)
第9回	25～27. 〃 (描画：主に色彩に留意)	〃 (主に色彩に留意)
第10回	28～30. 〃 (描画及び講評会：作業の確認及び他者意見の聴取)	〃 (主に講評会に留意)
第11回	31～33. 〃 (描画：主に空間に留意)	〃 (主に空間に留意)
第12回	34～36. 〃 (描画：主にアクセントに留意)	〃 (主にアクセントに留意)
第13回	37～39. 〃 (描画：主にマチエールに留意)	〃 (主にマチエールに留意)
第14回	40～42. 〃 (描画：主に完成度に留意)	〃 (主に完成度に留意)
第15回	43～45. 〃 (描画及びプレゼンテーション／講評会)	制作の振り返り等(レポート作成)

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12231)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐 藤 淳 一

■ 授業の概要

3年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を最高の地点まで到達させる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、を制作により試行し研究する。自己の造形力を重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開しながら、創造力さらに深化発展させる。素材の良さを十分に引き出し、研究させる。アイデアから制作完成までの作業を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・実材彫刻による造形を発想し展開できる	③⑨
・設置場所に対して意識し彫刻を構想できる	③⑤⑧⑨
・作業を他と協働して行うことができる	⑥⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3回. 授業内容、卒制の構想研究、評価方法説明、	シラバスを読む。課題提出
第2回	4回、意識の確立、地域と自己作品の関係性確認、制作ノート	アートプロジェクト研究
第3回	5～8回、テーマ確認（自己の独自性、地域、公募展研究）	各作品集研究、デッサン（制作ノート）
第4回	9～12制作研究1（素材研究）	彫場、木場見学、デッサン（制作ノート）
第5回	13～15回. 制作研究2（素材加工法研究）	造形論研究、彫刻展研究、作家取材
第6回	16～18回制作研究3（荒作り）	制作継続、制作ノート作成
第7回	19回テーマ確認（制作ノート評価）	制作継続、制作ノート作成
第8回	20～22回制作材研究 4（面と空間）	制作継続、制作ノート作成
第9回	23～25回制作研究 5（塊と量感）	制作継続、制作ノート作成
第10回	26～28回制作研究 6（動勢）	制作継続、制作ノート作成
第11回	29～33回制作研究 7（空間と量）	制作継続、制作ノート作成
第12回	34～38回制作研究 8（密度）	制作継続、制作ノート作成
第13回	39～41回制作研究 9（表面と密度）	制作継続、制作ノート作成
第14回	42～44回制作研究 10（地肌）	制作継続、制作ノート作成
第15回	45回 講評、卒業制作審査	制作のまとめと今後の展開作成

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分のみでなく他の人の安全にも留意して作業すること。制作ノートを活用しデッサンし完成のイメージを磨くこと。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）制作ノート（提出レポート含む）20%（評価してフィードバックします）

■ 教科書

授業前に資料配布

■ 参考書

授業前に資料配布

■ 備考

4年間の制作のまとめとして完成に向かい充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12233)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業研究に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を仕上げることを目的とし、今までの経験以上の作品の大きさ、材料の質、取り組み時間等を考慮した制作を計画し、作品制作を行う。

そのための一連の流れ、情報収集、日程や計画の設定、材料の購入、加工、展示方法等を確認しながら制作について個別に指導をする。また実際の展覧会会場（卒業制作展）での発表という外部に向けた発信を意識した卒業研究の指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる

⑧

・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1～3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）

調査、資料収集を行う

第2回 4～6. 制作 基本構造 構造計画

作品制作

第3回 7～9. 制作 基本構造 中間発表（進行状況、今後の予定）

材料の購入をする

第4回 10～12. 制作 中間構造 色彩計画

作品制作（準備）

第5回 13～15. 発表 手直し まとめ

作品制作（材料、道具の検討）

第6回 16～18. 制作 日程確認 全体構造 構造計画

作品制作（全体と部分の確認）

第7回 19～21. 制作 全体構造 色彩計画

発表の手順等、準備をする

第8回 22～24. 制作 全体構造 全体計画

発表後の手直しをする

第9回 25～27. 制作 日程・計画発表 制作ノート確認

作品制作（全体制作）

第10回 28～30. 制作 細部の制作

材料の購入をする

第11回 31～33. 制作 仕上げ

作品制作（構造の確認）

第12回 34～36. 制作 設置計画

作品制作（色彩の確認）

第13回 37～39. 制作 制作 手直し 完成

作品制作（全体制作）

第14回 40～42. 発表 手直し

発表の手順等、準備をする

第15回 43～45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究Ⅱ提出

発表後の手直しをする

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

卒業研究Ⅱ

(12249)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

卒業制作Ⅱ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目、専門科目、応用科目の集大成として、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を作成し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって、自己管理能力を養う。学外での作品発表や卒制作品展等の企画、運営を通してデザインの全プロセスを修得すると共に、実践的なプレゼンテーションスキルを磨き、社会に貢献できる力と文化創造力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・プレゼンを通して他者へ制作意図を伝えることができる

⑥⑧

・デザインの全プロセスを習得し、社会に貢献できる

⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1回：研究テーマの確認

研究テーマの調査、制作プロセスまとめ

第2回 2～5回：研究計画の作成

研究計画の調査、制作プロセスまとめ

第3回 6～10回：研究テーマに関する調査

研究テーマの調査、制作プロセスまとめ

第4回 11～15回：デザインスケッチ制作

デザインの調査、制作プロセスまとめ

第5回 16～20回：デザイン検討

デザインの調査、制作プロセスまとめ

第6回 21～37回：本制作

制作技法の調査、制作プロセスまとめ

第7回 38～42回：プレゼンテーション準備

プレゼン準備、制作プロセスまとめ

第8回 43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション

プレゼン準備、制作プロセスまとめ

第9回 45回：本審査会

制作プロセスをデータにまとめる

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

■ 履修上の注意

情報デザインⅢ・Ⅳを履修していること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（20%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12250)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（アニメーション、映像など）を指導する。卒業研究Ⅰと同様に、個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現方法の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・これまでの総ての学修を統合し、アニメーションや映像表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。 | ③⑧ |
| ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。 | ③⑨ |
| ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。 | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明。	過去課題等のまとめ。作品の構想。
第2回	4～6. 過去学修と個々作品についての振り返り。資料収集、計画立案、構想など	関係資料等のまとめと方向性の探索。
第3回	7～9. 制作（作品の構想スケッチやドローイングの制作→テーマ設定）	制作を継続、構想を詰める。
第4回	10～12. 制作（表現技法の確認、スケッチ、ドローイング、絵コンテなど）	制作を継続、具体的な時間配分を考慮する。
第5回	13～15. 制作（絵コンテ、具体的なイメージを制作）	継続制作・制作ノート作成
第6回	16～18. 制作（主に絵コンテなどを基に画面とタイムラインの構成）	絵コンテなど、全体のイメージをより具体的にすすめる。
第7回	19～21. 制作（中間講評）	方向性、狙いの確認。タイムライン上でコンテを動かす。
第8回	22～24. 制作（中間講評をもとに、改善・修正点などを把握）	継続制作・制作ノート作成
第9回	25～27. 制作（作画）	計画の確認、継続制作・制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（作画）	継続制作・制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（作画／仕上げ／講評会）	継続制作・制作ノート作成。
第12回	34～36. 制作（改良箇所を確認）	大まかな編集、継続制作・制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（作画）	編集、場合により映像の書き出し。
第14回	40～42. 制作（作画）	編集、場合により映像の書き出し。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題（90％）と授業態度（10％：制作に取り組む姿勢も評価する）。
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる映像作品、音楽作品、書籍や画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12236)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

大 堀 恵 子

■ 授業の概要

これまでに学んだ自然や社会を含む人間生活と美術の関係を学び、研究し、版画に関する知識技能、創造的思考力を総合的に活用する。完成度の高い卒業制作になるようにさまざまな素材や技法、いろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探究確立することを目標とする。卒業制作をとおして、地域社会の発展に貢献できる力と文化創造力を身につけ、美術、工芸、デザイン分野に関する職業や創造活動に従事出来る能力が身に付けられるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------|----|
| ・版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。 | ③ |
| ・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する | ⑨ |
| ・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	ガイダンス、後期作業の確認	記録するための制作ノートを用意する。
第2回	2～11回	本制作、部分	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第3回	12～22回	本制作、細部	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第4回	23～31回	本制作、仕上げ	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第5回	32～34回	プレゼンテーション（検討）	プレゼンの検討内容をまとめ次回提出。
第6回	35～40回	プレゼンテーション（完成）	プレゼンの完成までの内容をまとめ次回提出。
第7回	41～44回	制作ノートのまとめ（完成写真、プロセスのまとめ）	制作ノートのまとめを行ない、最終的なプレゼンを行なう。
第8回	45回	本審査	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

■ 履修上の注意

制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。

1. 提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%）
2. 制作ノート又はポートフォリオ（20%）

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

画集等を紹介する。

■ 備考

版画

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12237)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

各自で設定した染織技法の研究テーマを基に卒業研究本制作に取り組む。制作意図をより明確化し、4年間の集大成としてふさわしい完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・染織に関する高度な専門知識を身につける。 | ③⑧⑨ |
| ・綿密な染織計画を立て、制作を通して自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。 | ③⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	2回～3回：年間計画	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回	4回～39回：本制作（計画に基づいた染織作品の制作）	作品に関する収集・制作ノートのまとめ
第4回	40回～41回：仕上げ	展示備品等の準備・制作ノートのまとめ
第5回	42回～44回：プレゼンテーション準備 資料整理	プレゼン準備・制作ノートのまとめ
第6回	45回：作品提出 審査	展示準備・制作ノートの完成

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

作品に使用する材料は、各自購入すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12238)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

中間提出の結果より進捗状況を確認、計画表の再検討をし、本提出まで綿密な計画性をもって制作に取り組むよう指導する。常に研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉め、制作ノートをまとめさせる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作意欲、自主性を持って望むよう指導する。また、本制作（最終焼成）後、最終プレゼンテーションの確認も含め、集大成に相応しい卒業研究となるよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|---|
| ・卒業研究において自己管理能力を高めることができる。 | ⑨ |
| ・卒業研究における問題解決能力を高めることができる。 | ⑨ |
| ・これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。 | ⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1回～9回：本制作	中間提出後の結果を受け、制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。
第2回 10回：本制作 制作ノート確認①計画表チェック	本制作を進める 必要に応じて材料の発注
第3回 11回～19回：本制作	本制作を進める
第4回 20回：本制作 制作ノート確認②進捗状況の確認、調整	進捗状況の見直しを行う
第5回 21回～29回：本制作	本制作を進める
第6回 30回：本制作 制作ノート確認③プレゼン材料打合せ	最終作品数、プレゼンテーションサイズを再度確認し、日程調整を行う
第7回 31回～40回：本制作	本制作を進める
第8回 41回：本制作 最終焼成 窯出し	最終焼成後の作品の確認を行う
第9回 42回～44回：プレゼンテーション確認 修正	必要に応じて修正を行う プレゼンテーション準備
第10回 45回：制作ノート確認④最終プレゼンテーション確認	プレゼンテーションチェック まとめ

■ 履修上の注意

各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30%
- ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 080円〕
 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕
 〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

卒業研究Ⅱ

(12239)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

落合 里麻

■ 授業の概要

4年間の集大成に相応しい作品を制作することを目標とする。卒業研究Ⅰで定めた研究テーマを基に、研究計画に沿ってデザインを具体的な形にする。材料の性質と向き合いながら、各工程で加工方法を検討し、部材を組み上げていく。完成度の高い作品に仕上げる際に必要となる手道具、機械、計測道具等の正確な使用方法を指導する。また、制作と並行して展示構成やプレゼンボードの内容を検討する。最終審査に向けて、相手に的確に伝わるプレゼンテーションができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・問題を見つけ出し、解決に繋がるデザインを考案できる
- ・デザインを形にする方法を自ら考え、計画的に進めることができる

⑤

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	研究計画の見直し、修正する	研究計画を確認する
第2回	2～3回	各工程における加工方法と必要な時間を検討する	加工方法を調べる
第3回	4～6回	制作（材料取りの計画、材料に墨付け、転写する）	材料への墨付け、転写を完了させる
第4回	7～10回	制作（主要部の部材を作る）	細部の加工の墨付け、転写を行う
第5回	11～14回	制作（中間部の部材を作る）	細部の加工の墨付け、転写を行う
第6回	15～18回	制作（細部の部材を作る）	細部の加工の墨付け、転写を行う
第7回	19～21回	制作（部材の微調整を行う）	部材の微調整を行う
第8回	22～23回	制作（部材を組み立ての準備を行う）	組み立てに必要な治具等を作る
第9回	24～27回	制作（部材を組み立てる）	組み立てに使用する道具を揃え、調整する
第10回	28～30回	制作（細部の加工、微調整）	微調整を行う
第11回	31～33回	制作（仕上げ）	表面を仕上げた後の調整を行う
第12回	34～37回	展示構成を検討する	展示会場の模型を準備し、空間を確認する
第13回	38～42回	展示に必要な物を制作する	作品と合わせて構成を確認する
第14回	43～44回	プレゼンボードを制作する	プレゼンボードを完成させる
第15回	45回	最終審査の準備とプレゼン内容の確認を行う	準備を完了させ、プレゼンを練習する

■ 履修上の注意

- ・材料や道具類を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履すること。
- ・プロダクトデザインⅠ～Ⅳ、卒業研究Ⅰを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

課題80%、授業態度20%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

随時紹介する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12251)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆芸卒業作品制作の集大成として前期で制作した乾漆素地に今まで学んだ技法を用い、色彩、加飾を施し表現できる能力を身につけられるように制作過程を見守りながら適宜アドバイスし指導します。

色漆は自分で木地呂漆と顔料を練り合わせてつくり、それを用いたて変わり塗りの他に、箔絵・蒔絵・螺鈿・卵殻・彫漆などを手板、色見本、加飾見本を制作たし上で、乾漆素地に色や加飾を施し漆芸卒業作品としての精度を向上させ完成に導き、漆の可能性を追求できるよう指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------------|----|
| ・漆で漆塗りの基本工程(塗り、研ぎ、磨き)ができ、自由な表現ができる。 | ⑧⑨ |
| ・作品に対して効果的な加飾ができ、自己表現ができる。 | ⑧⑨ |
| ・全体的に仕上げが綿密で完成度を高めることができる。 | ⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～3回：脱乾し縁の調整を行い塗りの作業に入れるようにする。	制作のスケジュールの考察
第2回	4回～9回：錆漆、固め塗りを数回行い、黒中塗りに入れるようにする。 制作ノート確認①	漆が乾燥しているか確認しておく。
第3回	10回～15回：黒中塗りを数回行い加飾の作業に入れるようにする。	黒中塗りの制作過程の記録
第4回	16回～19回：加飾・彩色・変わり塗りの作業。 制作ノート確認②	加飾彩色の漆を調合して、手板にて発色・乾き等を確認しておく。
第5回	20回～29回：加飾・彩色・変わり塗り・蒔絵を施し作品全体のバランスを確認する。	色漆の乾燥を把握しながら、作業を進めておく。
第6回	30回～39回：仕上げ作業。摺り磨きの作業のより漆本来の艶が出るようにする。 制作ノート確認③	作品の仕上がり状況を確認しながら作業を進めておく。
第7回	40回～44回：制作ノートの書込み。プレゼンの準備	制作ノートのまとめ
第8回	45回：審査	1年間の制作記録 審査結果のまとめ

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（30%）：適切な技法を選択できる。出欠状況。制作意欲
- ・作品完成（70%）：作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現（審査会卒業作品提出でフィードバックする。）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし1～4〕〔（一財）日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕
〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12242)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

これまでに修得したバーナーワークの技術・技法を更に昇華させるために、中間審査の結果をふまえ、進捗状況を確認し、作品の「質」をさらに向上させる。必要に応じて、計画の見直しや作品の修正と改善を行い、納得のいく作品に仕上げるよう指導する。また、作品の世界観を大切に、展示も含め自分の考えを伝える力を身に付けることを目指す。作家の制作・展示の経験から、4年間の集大成になる作品を目指すと共に、一人の作家としての意識を持たせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------------|----|
| ・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。 | ③ |
| ・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1	ガイダンス	面談：中間審査の内容確認	・中間審査の講評内容をまとめておく。
第2回	2～19	本制作①	試作を元に修正や改善	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第3回	20	進捗確認①	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第4回	21～29	本制作②	完成度を高める	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第5回	30	進捗確認②	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第6回	31～39	本制作③	作品仕上げ	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第7回	40	進捗確認③	作品・制作ノートの確認	・見直し、内容のまとめ
第8回	41～44	本制作④	全体仕上げ（ディスプレイ完成）	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第9回	45	進捗確認④	本審査作品提出準備・確認	・見直し、内容のまとめ

■ 履修上の注意

対象：【軟質ガラス／エアバーナー制作】 → グラスアートⅡ、Ⅲを受講し単位取得済の者。

【硬質ガラス／酸素バーナー制作】 → グラスアートⅠ、Ⅳを受講し単位取得済の者。

※硬質ガラス制作希望者については、酸素バーナーの授業を受講した者に限ります。

関連する展示会や展示販売を参考に見て回ること。

作品と展示の関係性（展示方法・設置）についても考察すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート・各種資料）
- ・作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する）
- ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。

■ 教科書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 参考書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 備考

グラスアート

- ・質問、相談は、 オフィスアワー（曜日・時間は初回ガイダンスにて連絡）に受付ます。

卒業研究Ⅱ

(12243)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

福田 一 実

■ 授業の概要

4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・自分の世界の創作人形を完成できる。 | ⑨ |
| ・人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考えることができる。 | ③⑨ |
| ・人形との向き合い方を深めることができる。 | ③⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 仮組をし、バランスチェック。塗装が出来るようしっかりとヤスリをかける。	全体のバランス確認。
第2回	4～8. 塗装をし、磨く。	細かなキズなどをチェックする。
第3回	9～12. 塗装したものに着色する。	再度全体をチェックする。
第4回	13～14. メイクする。	メイクのイメージ、資料集め
第5回	15～18. かせを作り、髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第6回	19. 組み立てる。	イメージ通りかチェックする。
第7回	20～32. 衣装を作る。	衣装の資料集め。
第8回	33～44. 背景、展示方法。	展示方法について考察する。
第9回	45. 完成。講評。	
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）

講評会の際、フィードバックを行う

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

人形

解剖学の資料は必ず用意すること。

質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12244)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

鹿 野 明 子

■ 授業の概要

前期卒制研究Ⅰの審査結果をふまえ、本提出に向けた計画の見直しやプレゼンテーション、制作ノートの指導を行う。提出にあたり最低限の画力は必要だが、卒制〆切までの時間で個人の持つ技量と構成力、ストーリー性等の要素をバランスよく取り入れた作品になるよう指導する。また、作品の中にどれだけ作者の世界観を取り入れて、それを第三者にもわかりやすく示せるか、トータルで卒制課題としてのクオリティを醸し出せるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・丁寧で綺麗な仕上げを行い、クオリティの高い画面にできる。
- ・妥協せず完成度の高い内容に仕上げるができる。
- ・作品のよさが伝わる展示方法を実践できる。

③⑨

③⑨

③⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. 前期からの計画を見直し修正する	前期製作ノートをチェックしておく
第2回	2～4. ネームの見直しチェック：ノートチェック①	内容、構成等を吟味しておく
第3回	5～7. 構図等の見直しチェック：ノートチェック②	構図や枠取り等の作業を進めておく
第4回	8～10. ペン入れ：ノートチェック③ 枠線、ふきだし	用具のチェックも行っておく
第5回	11～13. ペン入れ：ノートチェック④ 主線-01	毎回丁寧な作業を心がける
第6回	14～15. ペン入れ：ノートチェック⑤ 主線-02	毎回丁寧な作業を心がける
第7回	16～19. ペン入れ：ノートチェック⑥ 背景-01	毎回丁寧な作業を心がける
第8回	20～21. ペン入れ：ノートチェック⑦ 背景-02	毎回丁寧な作業を心がける
第9回	22～25. ペン入れ：ノートチェック⑧ 背景-03	毎回丁寧な作業を心がける
第10回	26～28. ペン入れ：ノートチェック⑨ 効果-01	毎回丁寧な作業を心がける
第11回	29～31. ペン入れ：ノートチェック⑩ 効果-02	毎回丁寧な作業を心がける
第12回	32～34. プレゼンテーション1, 2：ノートチェック⑪ 入稿データチェック等	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第13回	35～36. プレゼンテーション3, 4：ノートチェック⑫ 額装-01	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第14回	37～39. プレゼンテーション5, 6：ノートチェック⑬ 額装-02	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第15回	41～42. プレゼンテーション7, 8 展示のシミュレーション	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第16回	43～44. プレゼンテーションの確認、修正	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第17回	45. 本提出前の確認：ノートチェック⑭	製作ノート、日誌を確認する

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅠ～Ⅳを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題提出でフィードバックを行なう。

課題80%（アイデア40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ）40%）授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

マンガ

授業の後にオフィスアワーを設ける。

教 職 に 関 す る 科 目

教育原理

(19801)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 健専2年・服専2年・美表2年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

教職に関する科目

山 沢 智 樹

■ 授業の概要

本講義ではまず教育の本質を理解するために、教育の目的や意味、家庭教育や学校教育などの基礎理念を整理する。次に、子ども観や教育観の変遷とともに教育の起源や歴史を包括的にとり上げ、日本と諸外国でどのように教育が起こり広がっていったのかを解説する。また、教育に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。最後に戦後の日本が直面してきた諸課題を歴史的に吟味し、今日の教育理念を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や子ども観を捉え直し、実践の基盤として据えられるようにしたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。
- ・教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。
- ・日本と諸外国の教育思想について理解する。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	オリエンテーション	シラバスの確認、学習内容を見通す／配布資料を読む
第2回	教育の本質と意義：教育とは何か	辞書等で「教育」について調べ、自分なりの説明をまとめる／配布資料を読む
第3回	教育の目的と目標	教育の意義とは何かを考える／配布資料を読む
第4回	教育の歴史（１）教育のはじまり	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第5回	教育の歴史（２）子どもの発見	辞書等で「子ども」について調べ、自分なりの説明をまとめる／配布資料を読む
第6回	教育の歴史（３）教育をめぐる場と内容	辞書等で「学校」について調べ、自分なりの説明をまとめる／配布資料を読む
第7回	教育思想（１）発達とは何か	辞書等で「発達」について調べ、自分なりの説明をまとめる／配布資料を読む
第8回	教育思想（２）公教育の組織と制度	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第9回	教育の歴史（４）近代以前の日本における学び	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第10回	教育の 日本における公教育制度の成立	明治維新前後の日本史について、復習しておく／配布資料を読む
第11回	教育の歴史（４）生涯にわたる多様な教育、学習の機会	学校以外での学びの機会について、身近な例について調べてくる／配布資料を読む
第12回	戦後教育改革（１）現代における教育理念	太平洋戦争敗戦後以降の日本史について、復習しておく／配布資料を読む
第13回	戦後教育改革（２）現代における教育制度	関係する国、都道府県、市区町村等の教育行政組織について調べておく／配布資料を読む
第14回	教育に関する歴史的課題と今日的課題	中間レポートを完成させる／配布資料を読む
第15回	まとめと試験	講義内容を振り返り、試験に備える／試験出題箇所を配布資料で確認する

■ 履修上の注意

授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点40%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、中間レポート30%、期末試験30%
- ・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
- ・試験については、問題のポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、レジュメ等を配布する。

■ 参考書

〔教育思想史〕〔今井康雄編〕〔有斐閣アルマ〕〔2, 200円〕

〔よくわかる教育原理〕〔汐見稔幸ほか編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2, 800円〕

〔アクティベート教育学01教育原理〕〔木村元・汐見稔幸編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2, 000円〕

〔子ども白書2021〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2, 800円〕

〔教育〕〔教育科学研究会編〕〔旬報社〕〔990円〕※月刊雑誌

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教職概論

(19802)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 健専1年・服専1年・美表1年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

教職に関する科目

大 迫 章 史

■ 授業の概要

教師という職業（教職）の意義・職務・課題について学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。

(1) 教職に対する社会的期待（教職観）がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、(2) 教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、(3) 教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする、以上を学修内容とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ (1) 教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。
- ・ (2) 教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。
- ・ (3) 教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	ガイダンス	シラバス等の熟読。
第2回	教師のしごとの実際 (VTR併用)	教師の仕事へイメージをもつ。レジュメの振り返り。
第3回	教職観の変遷: 聖職者 ⇄ 労働者 ⇄ 専門職	教師のあり方を考えておく。レジュメの振り返り。
第4回	専門職としての教師: 他の専門職との比較	専門職について考えておく。レジュメの振り返り。
第5回	公教育と教師: 公共的使命、身分保障と服務	教師の役割を考えておく。レジュメの振り返り。
第6回	教師の職能成長: 研修をめぐる諸問題	研修について調べる。レジュメの振り返り。
第7回	カリキュラム編成と教師	カリキュラムを調べる。レジュメの振り返り。
第8回	授業づくりと教師	学修指導案について調べる。レジュメの振り返り。
第9回	子どもの権利と教師	子どもの権利条約を調べる。レジュメの振り返り。
第10回	児童・生徒の懲戒 (1): 教育作用としての懲戒	懲戒を調べる。レジュメの振り返り。
第11回	児童・生徒の懲戒 (2): とくに体罰をめぐる	体罰について調べる。レジュメの振り返り。
第12回	受講者の報告 (被教育体験) とグループ討議①: いま教師に求められる力量について	自らが教育を受けてきた経験を振り返り、文章等にまとめる。
第13回	受講者の報告 (被教育体験) とグループ討議②: いま教師に求められる力量について	自らが教育を受けてきた経験を振り返り、文章等にまとめる。
第14回	「チーム学校」という考え方	組織で働くことを考える。レジュメを振り返る。
第15回	「教員文化」をめぐる諸問題	教員文化について調べる。レジュメの振り返り。
第16回	最終試験	

■ 履修上の注意

私語等は厳に慎むこと。パソコン等も使用しないので、原則机上には出さないこと。携帯電話等もカバン等にしまうこと。課題等の提出期限はその期限を厳守すること。

■ 成績評価方法・基準

毎回講義後の小テスト (30%)、10回の授業終了時に提示する小レポート (20%)、最終試験 (50%)。小テストは受験後、解答・解説を公開する。レポート・試験については講義内で講評等を行う。

■ 教科書

教科書は指定しない。講義は、担当者が配布するレジュメにもとづき進める。

■ 参考書

教職概論第5次改訂版 佐藤晴雄 学陽書房 2640円 その他の参考書は授業内で随時紹介する。

■ 備考

- (1) 資格要件に関する情報 ⇒ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。
- (2) 特別な配慮を要する学生に対する扱い ⇒ 申し出て下さい。
- (3) オフィスアワー ⇒ 質問等については、授業終了時あるいはメール、Google等で受け付けます。

教育制度論

(19803)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

宮澤 孝子

■ 授業の概要

本講義では現代の学校教育を取り巻く制度を理解するため、主に次の3つの内容を取り扱う。第一に、日本と諸外国の学校教育の制度を原理的、歴史的、構造的に解説する。第二に、学校教育制度を構成している教育関係の法規や、教育制度を実行に移す主体としての教育行政の仕組みについて講義する。その際、学校教育における課題と近年の教育政策とを関連付けながら解説する。第三に、学校と地域の連携ないし協働に対する意義を、学校安全に関する法律にも触れながら紹介する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1. 学校教育に関する制度的な基礎知識を習得する。
- ・2. 社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。
- ・3. 学校と地域の連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	教育制度を学ぶ意味について
第2回	公教育の原理・理念	公教育の意味について/復習
第3回	公教育制度の構造（1）戦前	教育勅語、義務教育について/復習
第4回	公教育制度の構造（2）戦後	教育を受ける権利について/復習
第5回	教育関係の法規①：日本国憲法と教育基本法	新旧教育基本法の比較/復習
第6回	教育関係の法規②：学校教育法と関係法令	近年の教育関係法令について/復習
第7回	教育行政の理念	教育行政の条件整備義務について/復習
第8回	教育行政の仕組み	教育行政の権限と組織について/復習
第9回	教育委員会制度	教育委員会の役割について/復習
第10回	学校を巡る状況と指導上の課題	教育評価について/復習
第11回	近年の教育政策の動向	教師の働き方改革について/復習
第12回	学校と地域の連携①：地域と親と学校	教育の自治、PTAについて/復習
第13回	学校と地域の連携②：開かれた学校づくり	各地域の取り組みについて/復習
第14回	学校安全への対応①：学校保健安全法	学校安全に関わる今日の問題について/復習
第15回	学校安全への対応②：安全教育の取り組み	学校安全に関わる具体的事例について/復習
第16回	まとめと試験	

■ 履修上の注意

- ・試験を受けるにあたっては、3/2以上の授業出席を条件とする。
- ・全ての講義回において、講義形式とグループワーク・ディスカッション形式にて授業を進める。
- ・積極的な発言、参加を期待します。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点50%（ミニットペーパー、レポート課題）、試験50%
- ・各回でのミニットペーパー、課題については、後続の授業冒頭においてフィードバックをする。

■ 教科書

- ・各授業前にレジュメ・資料を配布します。

■ 参考書

- ・『教育小六法 2021年版』〔勝野正章他 編〕〔学陽書房〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・個人での勉強（復習）方法については、初回授業にて提案します。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
- ・都合により、授業計画を変更する場合があります。

教育心理学

(19804)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

宮 前 理

■ 授業の概要

教師として児童・生徒を指導する上で必須の心理学の知見を学ぶ。パーソナリティ、知能（認知）、発達段階と遺伝要因・環境要因の関わり方に注目した発達理論、また動機付け等に関する学習理論を教授する。理解を深めるために知能検査を紹介する。学級集団の理解と学級集団づくりにおける教師の役割について、いじめ、不登校、発達障害、生徒指導と危機管理などの学級集団に関わる諸問題を教師の具体的な教育活動に関連付けながら教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1 児童生徒の発達過程の特徴と手がかりとなる理論を理解できる。
- ・ 2 動機付け等の学習理論の基礎を理解できる。
- ・ 3 学級集団づくりと学級で生じる諸問題について理解できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業の概要説明	教育心理学の意義と課題、学習内容を確認する
第2回 発達の理論	発達段階等についてまとめる
第3回 パーソナリティと適応	テキストの該当部分を熟読する
第4回 パーソナリティ形成における遺伝と環境の要因	配布資料の該当部分を熟読する
第5回 知能（認知）の発達理論	テキストの該当部分を熟読する
第6回 知能（認知）検査	テキストの該当部分を熟読する
第7回 学習の理論と動機付け	配布資料の該当部分を熟読する
第8回 学級集団と教師の役割	配布資料の該当部分を熟読する
第9回 学級集団の理解と学級集団づくり	テキストの該当部分を熟読する
第10回 学級集団の諸問題 不登校/いじめ	テキストの該当部分を熟読する
第11回 学級集団の諸問題 発達障害(1)	テキストの該当部分を熟読する
第12回 学級集団の諸問題 発達障害(2)	テキストの該当部分を熟読する
第13回 学級適応支援と特別支援教育	テキストの該当部分を熟読する
第14回 学級集団の諸問題 危機管理	テキストの該当部分を熟読する
第15回 まとめと試験準備	配布資料、テキストの該当部分を復習し試験に備える

■ 履修上の注意

第一回目に注意事項を説明します。

■ 成績評価方法・基準

試験70%、レポート課題30%で評価をします。

試験、レポート課題についてはフィードバックを行います。

■ 教科書

下記の教科書を講義の第一回目までに必ず購入しておいてください。

[心理臨床の育み] [宮前理編著] [八千代出版] [2000円＋税] ISBN 978-4-8429-1772-6C3011

■ 参考書

講義時に指示します。

■ 備考

受講人数の事情その他の理由で授業計画の順序や内容を修正する場合があります。

質問は講義時やオフィアワーで受付けます。オフィアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

特別支援教育

(19805)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

三 浦 主 博

■ 授業の概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする児童・生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、児童・生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。また、授業中の話し合いや発表等を通して、子どもの障害について理解を深めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1. 特別の支援を必要とする児童・生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
- ・2. 特別の支援を必要とする児童・生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
- ・3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：特別支援教育 （インクルーシブ教育）に関する制度の理念や仕組み	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 障害児の理解と支援①（身体障害）	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第3回 障害児の理解と支援②（知的障害）	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第4回 障害児の理解と支援③（発達障害）	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第5回 特別支援教育に関する教育課程の理解	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第6回 個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成の意義と方法	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第7回 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第8回 障害はないが特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第9回 期末試験	

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。

授業内容をしっかりとノートに取ること。また、積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況（20％）、提出課題（20％）、期末試験（60％）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2, 200円〕
〔中学校学習指導要領（2017年）〕〔高等学校学習指導要領（2019年）〕〔文部科学省〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

教育課程論

(19806)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 健専2年・服専2年・美表2年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

教職に関する科目

中 島 夏 子 山 沢 智 樹

■ 授業の概要

本講義は教育課程とその編成方法について学ぶことを目的とする。各授業では、学習指導要領の位置づけやその内容、教育課程の編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の教育課程の基礎的な知識を、関連資料の読解やグループワーク等を通して理解する。また、指導計画を立てることを通して、指導計画と教育課程の編成の仕方を習得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 学校教育において教育課程が有する意義を理解する。
- ・ 2. 教育課程編成の原理及び方法を理解する。
- ・ 3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 教育課程の社会における役割と機能 (山沢)	教育課程について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第2回 教育課程の基本構造 (山沢)	教育課程の基本構造について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第3回 学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的 (山沢)	学習指導要領の制度について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第4回 学校における教育課程と授業の指導計画 (山沢)	学校における教育課程と授業の指導案について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第5回 教育課程編成の原理 (山沢)	教育課程編成の原理について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第6回 学習指導要領の変遷 (山沢)	教育課程の歴史について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第7回 現行学習指導要領の特質 (中島)	学習指導要領の特質について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第8回 教科横断的な教育課程とカリキュラム・マネジメント (中島)	カリキュラム・マネジメントについて調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第9回 教育評価とカリキュラム評価 (中島)	教育評価とカリキュラム評価について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第10回 教育課程と学校経営 (山沢)	これまでに学んだ事を配布資料で中心に復習する。
第11回 教育課程を考えるには (山沢)	教育課程の編成方法について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第12回 教育課程、教育をめぐる今日的課題①教科学習の領域 (山沢)	配布資料を読んでくる。／レポートの準備。
第13回 教育課程、教育をめぐる今日的課題②教科外活動の領域 (山沢)	配布資料を読んでくる。／レポートの準備。
第14回 教育課程、教育をめぐる今日的課題③学校と社会 (山沢)	配布資料を読んでくる。／レポートの準備。
第15回 まとめと試験 (山沢)	これまでに学んだ事を配布資料で中心に復習する。

■ 履修上の注意

授業の進行状況によって授業計画の順番が前後することがある。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点40% (リアクションペーパーの内容、課題、参加態度)、レポート30%、期末試験30%
- ・ 各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
- ・ 試験については、問題のポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

自作資料を準備する。授業前に配布する。

■ 参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年3月告示）〕〔文科省〕〔352円〕

〔高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）〕〔文科省〕

＊学習指導要領は文部科学省のウェブサイトからダウンロードも可能

〔ワークで学ぶ教育課程論〕〔尾崎博美・井藤元編著2018年〕〔ナカニシヤ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等は、授業終了後受け付ける。

道徳教育の指導法

(19807)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

後 藤 篤

■ 授業の概要

道徳教育は学校の教育活動全体を通して進められるものであるが、その要となるのが「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）である。本授業では、道徳教育の理念・歴史に関する学習を通じて、現代における実践的課題を理解するとともに、その課題解決に向けて実践されている「道徳科」の指導法、教材研究や目標・評価のあり方について検討していく。受講者たちと、よりよい道徳教育実践を探究していくための基盤を確認していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・道徳教育の理念や歴史をふまえて、学校における道徳教育の目標と内容を理解している。
- ・児童・生徒の発達に合わせた道徳科の指導方法と指導計画について理解している。
- ・道徳科の特性に合わせた指導法と学習評価のあり方について理解している。
- ・倫理学、心理学などの知見をふまえて、道徳や道徳性について考察することができる。
- ・現代日本における道徳教育の実践的課題を見据えて、道徳科の教材研究、指導案作成ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに一本授業の目的・内容・方法について	事後：プリントに示した本時の授業の流れについて理解する。
第2回	道徳とは何か、道徳性とは何か―徳倫理学・義務論・功利主義	事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第3回	道徳教育の歴史（戦前）教育勅語と国定修身教科書	事前：配布資料（一次資料）を精読する。 事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第4回	道徳教育の歴史（戦後）教育基本法と初期社会科	事前：配布資料（一次資料）を精読する。 事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第5回	学習指導要領の改訂と道徳教育	事前：レポート課題文献（「道徳教育化そもそも物語」）を精読する。 事後：配布資料を用いて振り返りを行う。
第6回	道徳教育の現代的課題―学習指導要領(2017)「特別の教科 道徳」	事前：レポート課題を作成し、提出する。 事後：配布資料を用いて振り返りを行う。
第7回	道徳教育の方法（1）授業実践分析（読み物教材を用いた授業方法）	事前：読み物教材（「卒業文集最後の二行」（中3））を読み、授業方法を考える。 事後：授業内で扱った映像資料を振り返る。
第8回	道徳教育の方法（2）授業実践分析（社会問題を扱った授業方法）	事前：授業で対象とする（「防災道徳」授業の取り組み1、2）を読んでおく。 事後：授業内で扱った映像資料を振り返る。
第9回	道徳教育の方法（3）中断読み・モラルジレンマの授業提案	事前：教材（「ダン」をどうする？（小6））を精読し、授業を構想してみる。 事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第10回	道徳教育の指導案作成（1）道徳科の指導計画	事前：指導計画作成に関する配布資料を読む。 事後：指導案を作成する教材を選んでおく。
第11回	道徳教育の指導案作成（2）教材研究・授業設計	事前：グループ内で分担した教材研究を進める。 事後：授業内容に基づき、指導案作成を進める。
第12回	道徳教育の指導案作成（3）道徳科の特性と学習評価について	事前：ねらいに基づき、指導案作成を進める。 事後：授業内容の視点から指導案を改善する。
第13回	模擬授業・授業改善（1）ねらいと中心発問の検討	事前：指導案を完成させ、模擬授業の準備をする。 事後：授業内容（ねらいと中心発問の検討）の視点から指導案を改善する。
第14回	模擬授業・授業改善（2）発問・展開の検討	事前：指導案を完成させ、模擬授業の準備をする。 事後：授業内容（発問・展開の検討）の視点から

■ 履修上の注意

- ・授業内では、適宜ワークショップを取り入れるので、積極的な参加を期待したい。
- ・提出物及び毎時のシャトルペーパーを忘れずに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

毎時のシャトルペーパー15%、レポート課題15%、指導案作成30%、期末レポート40%、計100%（合計60%以上で合格）。指導案作成は、グループ内での模擬授業も含めて評価の対象とする。毎時のシャトルペーパーとレポートについては、後日添削して返却します。

■ 教科書

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』教育出版、2018年（156円＋税）を購入しておくこと。

授業前には、適宜スライドに加え、資料を配布する。

■ 参考書

神代健彦・藤谷秀編著『悩めるあなたの道徳教育読本』はるか書房、2019

相沢伸幸・神代健彦編『道徳教育のキン・キホン 道徳科の授業をはじめの人へ』ナカニシヤ出版、2018

波本勝年他編『史料 道徳教育を考える [4改訂版]』北樹出版、2017

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

(19808)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

須 藤 由 子

■ 授業の概要

特別活動及び総合的な学習の時間の目標、内容、教育課程における位置付けや意義、設立された歴史的背景、変遷等について、学習指導要領の解説書の読み取りを通して理解する。学習内容としては、先行の実践事例から題材の見つけ方や取り上げ方を具体的に理解する。学習方法としては、集団活動、話し合い活動の方法、テーマ学習、横断的な学習等の意味や生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について理解する。学習指導案を作成して、模擬授業等を行い、実践的指導力を身に付ける。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け、目標や内容について具体的に理解することができる。
- ・ 2. 総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に、生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え、表現できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 特別活動の目標と内容を理解する。	解説書特別活動編 P11～P19を読んでくる。
第2回 特別活動の歴史と変遷を理解する。	解説書特別活動編 P5～P10を読んでくる。
第3回 学級活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P40～P43を読んでくる。
第4回 生徒会活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P74～P75を読んでくる。
第5回 学校行事の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P92～P93を読んでくる。
第6回 部活動の意義と指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P109～P112を読んでくる。
第7回 年間指導計画の作成と内容の取扱いの配慮事項を理解する。	解説書特別活動編 P113～P124を読んでくる。
第8回 学習指導案の作成をする。	指導案を作成してくる。
第9回 総合的な学習の時間の背景と実践上の課題を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P1～P7を読んでくる。
第10回 総合的な学習の時間の目標と意義を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P9～P13を読んでくる。
第11回 総合的な学習の時間の教育課程への位置付けを理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P18～P22を読んでくる。
第12回 総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセスを理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P120～P124を読んでくる。
第13回 総合的な学習の時間と各教科・他領域との関連を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P90～P94を読んでくる。
第14回 総合的な学習の時間の単元構成の実際を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P95～P100を読んでくる。
第15回 総合的な学習の時間における指導技術を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P103～P119を読んでくる。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

20分遅刻の場合は、欠席とみなします。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 小論文（20％），期末試験（50％），講義中の議論への貢献度合い（30％）を総合して評価する。
- ・ 授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 特別活動編 256円＋税・総合的な学習の時間編 209円＋税〕

■ 参考書

〔新しい特別活動指導論〕〔高旗 正人？ 倉田 侃司〕〔ミネルヴァ書房〕

■ 備考

質問は授業中及び授業後も受け付けます。東北生活文化大学高等学校入試広報室にいます。

教育方法論

(19809)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

清水 禎 文 松 尾 広

■ 授業の概要

教育方法に関する基本的視点を確認した上で、教育方法の基礎的概念（時間と空間、教材・教具）、教育方法の諸類型、教育評価などについて学び、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法について講義する。

また学校教育においてもICT化が急速に進む今日において、教育を行う上での教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、身につけられるよう具体的な事例を踏まえて紹介する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

1. 教育方法の基礎的理論を学び、教授＝学習の意義について理解する。
2. 学習指導案作成の視点について理解する。
3. 授業を構想する力を身につける。
4. 視覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 教育方法を学ぶ意義（担当：清水）	ワークシート・ふり返しシート
第2回	教育方法の前提条件：教師（担当：清水）	プリント予習とワークシート（以下WS）による復習
第3回	教育方法の前提条件：学びの時間・空間・仲間（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第4回	教育方法の理論：教育における感覚の意義（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第5回	教育方法の理論：ルソーとペスタロッチ（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第6回	教育方法の理論：ヘルバルトとヘルバルト主義（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第7回	教育方法の理論：新教育運動の諸理論（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第8回	教育方法の理論：教育内容の現代化から最近接発達領域論（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第9回	授業づくりに向けて：学習指導案の構成要素（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第10回	授業づくりに向けて：教習指導案における「評価」の意味（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第11回	授業づくりに向けて：学習指導要領における教育評価の指針（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第12回	授業づくりに向けて：真正評価・形成的アセスメント・ルーブリック（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第13回	授業づくりに向けて：反転授業とICT活用（担当：清水）	プリント予習
第14回	教育機器の特性（担当：松尾）	プリント予習
第15回	ICT活用の事例（担当：松尾）	プリント予習
第16回	定期試験	

■ 履修上の注意

基本的に講義で使用する資料は前回に配布するので、予習時に概略を確認してくること。また、毎回配布するふり返しシートとワークシートを活用して、復習時に基本的知識の定着をはかること。

■ 成績評価方法・基準

毎回の授業で使用するふり返しシート(50%)と試験(40%)

形成的アセスメント(＝フィードバック)を活用し、主体的に学習に取り組む態度の評価(10%)

■ 教科書

授業前に資料(プリント)を配布する。

■ 参考書

[中学校学習指導要領][文部科学省][326円][高等学校学習指導要領][文部科学省][666円]

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

生徒指導の理論と方法 A（進路指導の理論及び方法を含む。）

(19810)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健康3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

福 島 朋 子 佐々木 晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導（キャリア教育含む）の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1）生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。
- ・ 2）生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。
- ・ 3）学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 生徒指導の意義と課題（福島）	生徒指導提要第1章第1節を読む
第2回	教育課程における生徒指導の位置づけ（福島）	生徒指導提要第1章第2節を読む
第3回	集団指導と個別指導の方法原理（福島）	生徒指導提要第1章第4節を読む
第4回	進路指導の意義と課題（福島）	資料（参考書第2章）を読む
第5回	キャリアカウンセリングの考え方（福島）	資料（参考書第2章）を読む
第6回	キャリア教育の視点とカリキュラムマネジメント（福島）	資料（参考書第2章）を読む
第7回	生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第8回	生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第9回	生徒指導・進路指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第4章を読む
第10回	校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第7章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する
第11回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（1） ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）	13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第12回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（2） ：不登校への対応（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第13回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（3） ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第14回	生徒指導・キャリア教育と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第8章を読む
第15回	まとめ（佐々木）	課題レポートを作成する

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

■ 成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔はじめて学ぶ生徒指導・進路指導〕〔広岡義之〕〔ミネルヴァ書房〕〔2, 376円〕
〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔298円〕

■ 参考書

〔カウンセリングを教育に生かす〕〔宮前理編著〕〔八千代出版〕〔2, 160円〕

■ 備考

1）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

2) 質問等については授業終了時に受け付けます。

教育相談

(19811)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

宮 前 理

■ 授業の概要

現在、学校現場で多くの教員が出会い苦慮している諸問題と対応のあり方について教育相談という観点から講義する。いじめ、不登校、非行、発達障害、LGBT、自殺などについて具体的な事例を取り上げながら概説し、そこから教員として理解しておかなければならない課題と教員としての対応方法を教授する。また「カウンセリング」の基本的な理論を論じ、演習を取り入れながらその具体的手法を指導する。また教育相談の進め方と組織的取り組みの重要性を論じる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1 学校現場で生じる諸問題を理解する
- 2 学校現場における教育相談の意義と理論を理解する。
- 3 教育相談の具体的手法と組織的取り組みを必要性を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義概要の説明と諸注意 教育相談の意義と学習課題	教育現場における教育相談の意義について理解する
第2回 教育相談に関わる心理学の諸理論	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第3回 児童生徒理解の方法（テスト法、観察法、面接法など）	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第4回 「不登校」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第5回 「いじめ」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第6回 「非行」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第7回 「発達障害」問題の理解	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第8回 「発達障害」問題への対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第9回 「LGBT」問題の理解	配布資料を熟読しておくこと
第10回 「LGBT」問題への対応	配布資料を熟読しておくこと
第11回 「自殺」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第12回 カウンセリングの基礎理論	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第13回 カウンセリングの基礎技法	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第14回 教育相談の進め方	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第15回 教育相談と組織的取り組みの重要性	テキストの当該部分を熟読しておくこと

■ 履修上の注意

講義の1回目に諸注意を伝えます。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題の提出30%、最終試験70%で評価します。レポート課題についてはフィードバックを行います。

■ 教科書

下記の教科書を講義の第一回目までに購入しておいてください。

[心理臨床の育み] [宮前理編著] [八千代出版] [2000円＋税] ISBN 978-4-8429-1772-6C3011

■ 参考書

講義時に指示します。

■ 備考

質問は演習時やオフィスアワーで受付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

講義内容が一部変更になる場合があります。

教職実践演習（中・高）

（ 19812 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専4年・服専4年・美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

宮 前 理 山 沢 智 樹

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、中学・高校の教科教育の教員として求められる基本的な資質・能力を育む。介護等体験、教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。教育実習時の指導案の見直しなど研究授業等を再検討した上で教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。
- ・2 生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。
- ・3 学習指導の基礎的理解・基本的方法を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 履修上の諸注意（宮前、宮澤）	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える
第2回 教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、宮澤）	既学習した教職専門科目を復習しておく
第3回 教職の意義、教員の使命、教員の職務等について（討議、検討）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	「教職概論」の講義内容を復習すること
第4回 教科指導の諸問題（討議、検討）（宮前、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第5回 教育方法の諸問題（討議、検討）（宮前、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第6回 教育実習における教科指導の諸問題（ロールプレイングを含む）（宮前、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第7回 教育実習における生徒指導の諸問題（ロールプレイングを含む）（宮前、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第8回 教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第9回 教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第10回 教育実習研究授業の学習指導案の作成（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第11回 題材を決めての学習指導案の作成（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第12回 学級経営、学級経営案について（講義）教育実習時の学級での活動状況報告（討議）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと
第13回 教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	関連資料を読んでおくこと
第14回 教育実習報告会の発表資料の作成（宮前、宮澤）	発表資料を作成し発表リハーサルを実施すること
第15回 教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

1 回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）30％、レポート課題の内容40％、実習報告会の発表30％によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

「中学校、高等学校学習指導要領及びその解説（総則編）」文部科学省

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

生徒指導の理論と方法B

(19813)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健康3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

福 島 朋 子 佐々木 晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1）生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。
- ・2）生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。
- ・3）学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション（福島）	生徒指導提要第1章第1節を読む
第2回	生徒指導の意義と課題（福島）	生徒指導提要第1章第1節を読む
第3回	教育課程における生徒指導の位置づけ（福島）	生徒指導提要第1章第2節を読む
第4回	教科・道徳・総合的学習の時間・特別活動と生徒指導（福島）	生徒指導提要第2章を読む
第5回	集団指導と個別指導の方法原理（福島）	生徒指導提要第1章第4節を読む
第6回	教育相談と生徒指導（福島）	生徒指導提要第5章第1節を読む
第7回	生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第8回	生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第9回	生徒指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第4章を読む
第10回	校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第7章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する
第11回	個別の課題を抱える児童生徒への指導① ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）	13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第12回	個別の課題を抱える児童生徒への指導② ：不登校への対応（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第13回	個別の課題を抱える児童生徒への指導③ ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第14回	生徒指導と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第8章を読む
第15回	まとめ（佐々木）	課題レポートを作成する

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

■ 成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

[はじめて学ぶ生徒指導・進路指導] [広岡義之] [ミネルヴァ書房] [2, 376円]

[生徒指導提要] [文部科学省] [298円]

■ 参考書

[カウンセリングを教育に生かす] [宮前理編著] [八千代出版] [2, 160円]

■ 備考

1）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

2）質問等については授業終了時に受け付けます。

教職実践演習（栄養教諭）

（ 19814 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健康4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

宮 前 理 山 沢 智 樹

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、学校給食をはじめとする食育に関する講義と討議から栄養教諭として求められる基本的な資質・能力を育む。栄養教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。栄養教育実習時の指導案や研究授業等を再検討した上で栄養教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。
- ・2 学校給食をはじめ食育に必要な基本的知識・技術を指導できる。
- ・3 学校という教育機関の一員として他の教職員と協力して職務を遂行できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 履修上の諸注意（宮前、宮澤）	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える
第2回 教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、宮澤）	既学習の教職専門科目を復習しておく
第3回 栄養教諭の意義、教員の使命、教員の職務等について（講義）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	「教職概論」の授業内容を復習すること
第4回 食育に関する諸問題（学校給食を中心に）について（講義）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第5回 食育に関する諸問題（食生活に関して）について（講義）（宮前、宮澤）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第6回 学校給食の歴史と実情、給食指導について（講義）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第7回 生徒指導に関する諸問題（講義、討議）（宮前、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること。
第8回 教育経験者による講義（主として教科指導、道德教育について）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第9回 教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第10回 学習指導案の作成法（講義）、それを踏まえた題材を決めての指導案の作成（演習）（宮前、宮澤）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第11回 各自の栄養教育実習における研究授業指導案の検討（宮前、宮澤）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第12回 子どもの「食」に関する諸問題（討議）（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	子どもの「食」について調べておくこと
第13回 特別支援教育、チーム学校（講義）（宮前、宮澤）	資料を読んでおくこと。
第14回 栄養教育実習報告会の発表資料を作成（宮前、宮澤）	発表資料を作成すること、発表リハーサルを実施すること
第15回 栄養教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、宮澤 及びゲストスピーカー）	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

1 回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）30%、レポート課題の内容40%、実習報告会の発表30%によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

「食に関する指導の手引き」文部科学省 東山書房 他

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

家庭科教育法Ⅰ

(19815)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：健専３年・服専３年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

佐 藤 郷 美

■ 授業の概要

学校現場における教員・教育行政・校長職等の実務経験をいかし、家庭科教育における教育目標、育成を目指す資質・能力や学習指導要領に示された家庭科教育の学習内容（A家族・家庭生活、B衣食住の生活、C消費生活・環境）について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法とともに学習指導案の作成や模擬授業を通して、指導技術の向上を図る。

テーマ ～家庭科教育の理解と指導技術の向上を目指して～

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・家庭科教育に関する学習指導要領に示された目標や内容を身に付ける。
- ・家庭科教育に関する具体的な学習指導理論を身に付ける。
- ・家庭科における具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	家庭科教育とは 家庭科で育てる資質・能力について	学習指導要領の基本方針を読む
第2回	家庭科教育の歴史とその変遷	家庭科教育の変遷について調べる
第3回	家庭科教育の意義とその展望	最近のニュース等で家庭科記事の収集
第4回	小学校における家庭科教育の内容について	小学校での学びのまとめ
第5回	中学校における家庭科教育の内容について	中学校での学びのまとめ
第6回	高等学校における家庭科教育の内容について	高校での学びのまとめ
第7回	ホームプロジェクト・家庭クラブと技能検定	教科書関連部分を読む
第8回	教科、道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程	学習指導要領、関連部分を読む
第9回	情報機器の操作と活用	学習指導要領、関連部分を読む
第10回	学習指導計画① 作成の意義、留意点、等	学習指導要領、関連部分を読む
第11回	学習指導計画② 年間指導計画案と題材指導計画案	学習指導要領、関連部分を読む
第12回	学習指導案の作成（その形式と留意点）	今までの家庭科授業の学びのまとめ
第13回	学習指導過程の作成①（導入・展開）	指導案の作成
第14回	学習指導過程の作成②（展開・終結）	指導案の作成
第15回	学習指導案過程の作成に関するまとめと試験	今までの学びの復習
第16回	家庭科教育に関する施設・設備の必要性と管理運営	学習指導要領、関連部分を読む
第17回	学習指導方法① 学習類型と指導形態	学習指導要領、関連部分を読む
第18回	学習指導方法② 実験・実習の指導と家庭科の特質	学習指導要領、関連部分を読む
第19回	家庭科教育における教材研究① 教材作成上留意点	家庭科食と衣の教材調べ
第20回	家庭科教育における教材研究② 教材づくりと授業の実際	教材づくりと発表準備
第21回	評価について 評価方法とその実際	評価について調べる
第22回	学習指導案の作成①（前段）	学習指導案の題材を決める
第23回	学習指導案の作成②（本時の指導）	学習指導案、本時の指導を構想する
第24回	学習指導案作成発表	学習指導案づくりと発表準備
第25回	模擬授業① ～主に導入	模擬授業の準備、まとめ（導入）
第26回	模擬授業② ～展開	模擬授業の準備、まとめ（展開）
第27回	模擬授業③ ～板書・学習カード	模擬授業の準備、まとめ（板書、カード）
第28回	模擬授業④ ～教材・教具	模擬授業の準備、まとめ（教材教具）
第29回	模擬授業⑤ ～まとめの工夫	模擬授業の準備、まとめ（まとめの工夫）
第30回	これまでの学習のまとめと教育実習	これまでの学びをまとめる

■ 履修上の注意

- ・出席を重視する（遅刻禁）。提出物は期限厳守で必須。

■ 成績評価方法・基準

講義と共に実践的・体験的な学びに対する真摯な取組を重視する。

講義への取組状況 40％ 試験 30％ 学習指導案及び模擬授業 30％

課題等については、授業中にフィードバックをします。

■ 教科書

家庭科教育法 改訂版 佐藤文子・川上雅子共著 高陵社書店 2,000円＋税
中学校 教科書 技術・家庭（家庭分野） 開隆堂 643円

■ 参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編 東洋館 95円
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省/編 教育図書 82円
高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）288円

■ 備考

質問等については授業終了時に受け付けます。

家庭科教育法Ⅱ

(19816)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：健専4年・服専4年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

石川 りか

■ 授業の概要

家庭科および家庭科教育を理解し、中学校「技術・家庭」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業のための実践力を修得する。そのための学習計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。あわせて現代を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導の在り方について理解を深める。

高等学校家庭科教員の経験を生かして、アクティブラーニング形式で授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で指導案を計画し、それに基づいた模擬授業を実践できる知識・技能を持って、実践することができる。	①②③④⑥⑨
・中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で教材研究、教材教具の作成を行うことができる。	①②③④⑥⑦⑧
・家庭科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れることができる。	⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：年間予定 教育実習について 模擬授業実践計画	シラバスの確認 学習指導要領をよく読んで、教育実習を行う学校（中・高）の学習指導要領をまとめる。
第2回 教育実習：教育実習事前指導 ①シラバス	中学・高校それぞれの授業の『年間計画』について調べてまとめる。
第3回 教育実習：教育実習事前指導 ②教材研究・指導案	教育実習で行う学校の（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめる。
第4回 教員採用試験にむけて・指導細案作成方法	前回の教材研究・指導案をさらに深める。
第5回 学習指導：模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）	教材研究についての資料を集めて、具体的に教材を作成し、次回提出。
第6回 情報機器の操作と活用法	情報機器についての操作と活用方法について、具体的な活用方法を調べまとめる。
第7回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）	模擬授業内容のタイムテーブルを作成
第8回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践②（まとめと板書の工夫）	模擬授業内容のポイントをまとめ、板書すべきことをまとめる。
第9回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践③（評価の工夫）	模擬授業内容の評価についてまとめる。
第10回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践④（教材教具の工夫と掲示）	模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるように準備。
第11回 教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ	模擬授業内容についてアンケート用紙を作成。
第12回 教育実習研究授業実践発表会・評価 ①	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する①
第13回 教育実習研究授業実践発表会・評価 ②	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する②
第14回 教育実習研究授業実践発表会・評価 ③	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する③
第15回 模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて	教員採用試験に向けての準備・集団面接練習 夏季休業中に取り組む『課題』の説明
第16回 学習指導計画：体験・実習・実験学習指導法	学習指導計画表の作成
第17回 実践学習指導①：実践学習の進め方（シニア体験学習）	体験学習の感想をレポートにまとめる。
第18回 模擬授業Ⅱ（消費生活）	『契約』『問題商法』について、調べてレポートにまとめる。
第19回 実験・実習学習指導の進め方①：食物分野	食物分野の実習・実験の例をレポートにまとめる。
第20回 実験・実習学習指導の進め方②：衣生活分野	衣生活分野の実習・実験の例をレポートにまとめる。
第21回 模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）	模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）

第22回	模擬授業Ⅲ（食物分野）：実験学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成
第23回	実験学習指導②（展開の工夫・山場・板書）	授業内容のタイムテーブルの工夫・補足・板書
第24回	実験学習指導③（板書・学習プリント・教材教具の工夫）	学習プリントの作成 実習教材作成・試作・レポートを作成し提出する。
第25回	実践学習指導②（被服 教材教具の工夫）	日本の食文化 『マイ箸』製作 感想レポートを提出
第26回	模擬授業Ⅳ（衣生活分野）：実験学習指導①（導入の工夫）	中学・高校それぞれの授業内容のタイムテーブルを作成
第27回	実験学習指導②（展開の工夫・山場・板書）	授業内容のタイムテーブルの工夫・補足
第28回	実験学習指導③（実習・学習プリント）	中学・高校それぞれに対応する学習プリントの作成 提出
第29回	実験学習指導④（教材教具の工夫）	実習教材作成・試作・レポート作成 提出
第30回	まとめ：模擬授業のまとめと評価・反省	模擬授業Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの感想をレポートにまとめる。

■ 履修上の注意

- ・受講は、自分が教育実習で授業を行うことを想定し、家庭科を指導できる実践的指導を身につけるためにも、家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心掛ける。
- ・家庭科の内容は多岐にわたり、日々変化している内容もあります。生きること、生活すること、社会の動きに常に敏感で好奇心を持つ。さらに家庭科で取り扱う内容について、日常生活の中で考え実践する態度や意欲が重要です。

■ 成績評価方法・基準

定期考査30％ レポート・提出物40％、模擬授業の実践30％（学習指導計画案、指導技術、態度等）
提出されたレポートは、後日添削して返却する。

■ 教科書

家庭科教育法 改訂版 佐藤文子・川上雅子共著 高陵社書店 2,000＋税
中学校 教科書 技術・家庭（家庭分野）（令和3年度版） 開隆堂 680円
高校 教科書 家庭基礎（令和4年度版）明日の生活を築く 開隆堂 535円
※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する
小学校学習指導要領解説 家庭編 東洋館 95円
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省／編 教育図書 82円
高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著） 288円
高校 教科書 家庭総合（令和4年度版）明日の生活を築く 開隆堂 733円
〔新版授業力UP 家庭科の授業〕〔伊藤葉子編著〕〔日本標準〕〔2,000円〕

■ 備考

- ・授業終了時に質問を受け付けます。
- ・レポートの提出は次回提出を原則とするが、都合により当日の提出となることもある。
- ・都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
- ・やむを得ない事由により、欠席することが事前にわかっている場合は申告すること。
- ・実験実習を行う場合、それに伴う諸経費を徴収することもある。

美術科教育法Ⅰ

(19817)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

横 山 美喜子

■ 授業の概要

中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念についての理解を図る。学習指導要領における美術科の目標と内容及び、学習指導要領に基づく年間指導計画の意味について理解を図る。授業を展開するための基礎的な指導理論や、表現及び鑑賞の幅広い活動における創造的な技能を育成する指導方法の修得を図る。中学校美術科の教科書を使った教材研究や模擬授業を行い、4年次での教育実習に向けての準備としていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・？中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念について理解する。
- ・？学習指導要領における美術科の目標と内容及び、学習指導要領に基づく年間指導計画の意義について理解する。
- ・？題材における教材としての価値を把握し、具体的授業を想定した授業計画を立てて、学習指導案の作成を行う。
- ・？授業を展開するための基礎的な指導理論に基づき、指導する上での留意点を理解し、模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し、授業改善の視点を理解する。
- ・？4年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養い、創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション、美術教育とは何か。	配布されたレジュメによく目を通し、ファイリングを始める。
第2回	学校教育の理念について 学びの3要素「何を・誰に・どうやって教えるか」	学校教育の理念、学びの3要素について、講義内容を理解・把握する。
第3回	学習指導要領について①（学習指導要領とは何か）	レジュメを熟読しておく。
第4回	学習指導要領について②（美術科の目標と内容）	レジュメを熟読しておく。
第5回	学習指導要領について③（年間指導計画の意味）	レジュメを熟読しておく。
第6回	学習指導要領について④（校種間の接続—小学校教育では）	図画工作の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第7回	美術を学ぶ生徒①（生徒の実態と美術）	レジュメを熟読しておく。
第8回	美術を学ぶ生徒②（中学校教育における美術）	レジュメを熟読しておく。
第9回	美術を指導する①（表現と鑑賞と共通事項）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第10回	美術を指導する②（教科書が意図するもの）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第11回	美術を指導する③（表現—絵と彫刻）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第12回	美術を指導する④（表現—デザインと工芸）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第13回	美術を指導する⑤（鑑賞と共通事項）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第14回	美術を指導する⑥（内容の取扱いと指導上の配慮）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第15回	美術を指導する⑦（指導と評価の一体化）	中学校美術の学習を思い出しながら、レジュメを熟読しておく。
第16回	学習指導案について①（学習指導案の様式）	レジュメを熟読しておく。
第17回	学習指導案について②（指導案の意味と内容）	レジュメを熟読しておく。
第18回	学習指導案の作成について	指導案の参考資料等に目を通し、形式や記入すべき内容について理解・把握しておく。
第19回	指導内容・題材の分析	指導内容や題材についてまとめ、次回活用。
第20回	学習指導案作成 ①	授業で使用する資料や参考作品の準備を行う。
第21回	学習指導案作成 ②	授業で使用する資料や参考作品など教材研究を進

		める。
第22回	学習指導案作成 ③	教材研究を基に指導案を作成する。
第23回	学習指導案作成 ④	指導案を完成させ、次回提出。
第24回	模擬授業実践 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第25回	模擬授業実践 ②	自己の模擬授業の準備や練習。
第26回	模擬授業発表 1 ③	模擬授業の発表や他の学生の発表を見て学ぶ。
第27回	模擬授業発表 2 ④	模擬授業の発表や他の学生の発表を見て学び、まとめる。
第28回	模擬授業の講評とまとめ	模擬授業から学んだ事を自己の授業実践に生かせる手立てを考えていく。
第29回	指導計画について	模擬授業を通して学んだ事についてまとめ、次回レポート記入。
第30回	美術科指導理論のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジュメのファイリングを確認。

■ 履修上の注意

- ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき、受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案 他）（50％）， 模擬授業（30％）， 受講態度（20％）（積極的な態度）

- ・提出されたレポート等は、後日添削して返却する。
- ・模擬授業演習は、授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 美術編〕〔平成29年告示 文部科学省〕〔115円〕

〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔平成30年告示 文部科学省〕〔495円〕

その他、授業毎に適宜、テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日本文教出版〕〔1,000円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円程度〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受付けます。

美術科教育法Ⅱ

(19818)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

横 山 美喜子

■ 授業の概要

美術科教育法Ⅰの学修をふまえ、教育実習に向けて実践力を高めることをねらいとする。指導案の作成においては、より具体的に、教材の分析や生徒の実態の把握、指導法の工夫を行い、現場に即した内容となるよう指導していく。模擬授業の展開にあたっては、グループの中で互いに授業を見合い意見を交換し合うことにより、授業の内容をより深めていけるよう指導する。美術指導における「指導と評価のあり方」や美術教育の意義やねらいについての自己の考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・？美術科における効果的指導力の向上を目指し学習指導要領についてその全体構造を理解、把握している。
- ・？生徒の発達段階における思考力や学力等の実態を考慮した授業計画を立案できる。
- ・？美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し、自己の授業設計に活用していくことができる。
- ・？美術科の指導理論の理解、把握の下に学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。
- ・？美術科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れて活用することができる。
- ・？美術教育の持つ意義と目標を理解、把握し、そこから学校現場における実践感覚を育み、自己の指導力の向上に努めることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション。年間の楽手計画を知り、見通しをもつ。	配布されたレジュメによく目を通し、ファイリングを始める。
第2回	教育実習に向けて①（実習校の概要、美術科の年間指導計画を知り、中心授業の内容について考える。）	実習校訪問時のあいさつ等の練習をしておく。
第3回	教育実習に向けて②（実習日誌の記入を確認する。）	実習校でのオリエンテーションでの記録を踏まえて記入する。
第4回	教育実習に向けて③（学習指導案の書き方を確認する。）	復習と確認を行う。
第5回	教育実習に向けて④（中心授業に関する指導案を作成する。）	授業で使う資料や参考作品などの教材研究を進める。
第6回	教育実習に向けて⑤（中心授業に関する指導案を作成する。）	授業で使う資料や参考作品などの教材研究を進める。
第7回	教育実習に向けて⑥（中心授業に関する指導案を作成する。）	授業で使う資料や参考作品などの教材研究を進める。（実習校で指導を受けて完成させる。）
第8回	年間指導計画について①（基本的な考え方を理解する。）	レジュメを熟読する。
第9回	年間指導計画について②（指導計画案の作成を進める。）	レジュメを熟読する。
第10回	年間指導計画について③（指導計画案の作成を進める。）	レジュメを熟読する。
第11回	年間指導計画について④（指導計画案を完成させる。）	完成させて提出する。
第12回	教育実習報告①（自己の報告書作成）	自己の報告書をまとめる。
第13回	教育実習報告②（自己の報告書作成）	自己の報告書をまとめる。
第14回	教員採用試験に向けて①（試験の概要と対策）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第15回	教員採用試験に向けて②（教育実習時の指導案による模擬授業①）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第16回	教員採用試験に向けて③（教育実習時の指導案による模擬授業②）	模擬授業から学んだことをまとめておく。
第17回	教育実習報告③（講評とまとめ）	教育実習の反省とまとめをし、報告書を提出できるよう準備する。
第18回	美術の授業の特色（授業づくりの基本的留意点）	レジュメを熟読しておく。
第19回	美術教育の評価と指導①（学びと評価）	レジュメを熟読しておく。
第20回	美術教育の評価と指導②（絶対評価と指導の実践）	レジュメを熟読しておく。
第21回	学習指導案の作成について	レジュメを熟読し、題材について考えておく。

第22回	題材分析と評価をふまえた指導計画	題材の分析表を完成させ次回提出。
第23回	学習指導案の作成①（新しい観点のもの：例 ICTの活用、造形遊び、共同制作など）	授業で使用する資料や参考作品の準備を始める。
第24回	学習指導案の作成②	授業で使用する資料の調達，自作参考作品の準備を進める。
第25回	学習指導案の作成③	指導案を完成させる。
第26回	模擬授業発表①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第27回	模擬授業発表②	自己の模擬授業の準備や練習。
第28回	模擬授業発表③	自己の模擬授業の準備や練習。
第29回	模擬授業発表④	自他の模擬授業から学んだことを振り返り，美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
第30回	模擬授業の講評，美術科指導理論のまとめ	配布された全レジュメのファイリングを確認。

■ 履修上の注意

- ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案，年間計画，題材分析 他）（50％）， 模擬授業 （30％），受講態度 （20％）（積極的な態度）

- ・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。
- ・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 美術編〕〔平成29年度告示 文科省〕〔115円〕
 〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔平成30年度告示 文科省〕〔495円〕
 ＊上記2点は3年次に購入のものを継続使用
 ＊その他、授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1,000円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円程度〕
 ＊3年次に購入のものを継続使用

■ 備考

質問については，授業終了時に受付けます。

工芸科教育法

(19819)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①「人間」、「教育」、「芸術」の定義について考察を促す。②教育の意味及び、教育における芸術科の役割について理解を促す。③「高等学校学習指導要領解説・芸術」に記載された「美術」と「工芸」の関係について理解を促す。④美術科と工芸科の違いと工芸科の特長について考察を促す。⑤学習指導要領解説（工芸科）に関する理解を促し、教材開発能力を育成する。⑥模擬授業の実践をとおして、学習指導案の作成力と授業実践の力を高める。⑦工芸科教育の可能性について示唆を与える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。
- ・学習指導要領解説（工芸科）に示された教科の目的や内容を理解する。
- ・基礎的な学習指導論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 工芸科教育の現状と可能性について	ワークシート、「工芸科は必要か？」による復習
第2回	人間と教育について①林竹二の教育論をとおして	ワークシート、「林竹二の何がすごいのか？」による復習・予習
第3回	人間と教育について②授業の役割 教師の役割	ワークシート、「林先生が伝えようとしたこと」による復習・予習
第4回	人間と教育について③芸術教育と工芸科の役割について	ワークシート、「林竹二が工芸の先生だったら」による復習・予習
第5回	人間と教育について④シュタイナー教育の原点をとおして（子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性について）	ワークシート、「シュタイナー教育の原点」による復習・予習
第6回	人間と教育について⑤能動的学習の意味と工芸科における応用について	ワークシート、「学びと遊びの関係について」による復習・予習
第7回	教育と表現教育・国家と経済と精神性に関する考察をとおして	ワークシート、「教育と国家のあり方について」による復習・予習
第8回	鑑賞教育の意味とあり方について	ワークシート、「工芸科教育に鑑賞は必要か？」による復習・予習
第9回	鑑賞教育と道徳教育についてピアジェの「三つの山問題」をとおして	ワークシート、「ピアジェが伝えようとしたこと」による復習・予習
第10回	工芸科における社会的視点について①バウハウスに至るまで	ワークシート、「バウハウス前夜」による復習・予習
第11回	工芸科における社会的視点について②バウハウスのコンセプト	ワークシート、「グロピウスの夢」による復習・予習
第12回	工芸科における社会的視点について③バウハウスにおける実験	ワークシート、「イッテンとシュレーマの何が面白いのか」による復習・予習
第13回	工芸科における社会的視点について④バウハウスの遺産・製品デザインに与えた影響をとおして	ワークシート、「マリアナ・ブランドの何が凄い」による復習・予習
第14回	工芸科における社会的視点について⑤バウハウスの遺産・建築デザインに与えた影響をとおして	ワークシート、「シカゴの街並みはどこから？」による復習・予習
第15回	工芸科における社会的視点について⑥バウハウスの遺産・教育に与えた影響をとおして	ワークシート、「反アカデミズムという考え」による復習・予習
第16回	学習指導要領解説（工芸科）の概要について	ワークシート「芸術科の中の工芸科の位置と役割」による復習・予習
第17回	学習指導要領解説（工芸科）における工芸Iの位置づけについて－「工芸I」（文部科学省認定教科書）の概要について	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸I』」による復習・予習
第18回	学習指導要領解説（工芸科）における工芸IIの位置づけについて－「工芸II」（文部科学省認定教科書）の概要について	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸II』」による復習・予習
第19回	学習指導要領解説（工芸科）における工芸IIIの位置づけについて	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸III』」による復習・予習

	て	芸III」による復習・予習
第20回	「工芸I」（文部科学省認定済教科書）の具体的応用について	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸I』の題材とは」による復習・予習
第21回	「工芸II」（文部科学省認定済教科書）の具体的応用について	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸II』の題材とは」による復習・予習
第22回	工芸IIIの具体的展開について学習指導要領解説（工芸科）に沿って	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸III』の題材とは」による復習・予習
第23回	学習指導要領解説（工芸科）に即した評価方法について	ワークシート、「評価、どうする？」による復習・予習
第24回	学習指導要領解説（工芸科）における「A表現」に係る学習指導案の作成	指導案作成（A表現に係る）
第25回	学習指導要領解説（工芸科）における「A 表現」に係る模擬授業の実践と振り返り	模擬授業準備（A表現に係る）
第26回	学習指導要領解説（工芸科）における「B 鑑賞」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	指導案作成（B鑑賞に係る）
第27回	学習指導要領解説（工芸科）における「B鑑賞」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	模擬授業準備（B鑑賞に係る）
第28回	学習指導要領解説（工芸科）における「共通事項」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	指導案作成（「共通事項」に係る）
第29回	学習指導要領解説（工芸科）における「共通事項」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	模擬授業準備（「共通事項」に係る）
第30回	工芸科の可能性と工芸科教育における応用について（発展的な学習内容に関する探求と授業実践の事例をととして）	ワークシート、「1年で感じたこと、学んだこと」

■ 履修上の注意

無断遅刻・欠席をしないこと

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

模擬授業は、Google Meetを介して行うこととする。

■ 成績評価方法・基準

ワークシート：60%（フィードバックを行う） 指導案：20%（フィードバックを行う） 模擬授業：20%（フィードバックを行う）

■ 教科書

〔高等学校学習指導要領解説〕（データ版：無料）

■ 参考書

〔工芸I〕〔工芸II〕〔日本文京出版株式会社〕

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

博物館に関する科目

生涯学習概論

(19901)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習の全体像を明らかにする。また、「生涯教育論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、社会教育施設の社会的位置付けを明らかにする。学習成果の活用支援・学習情報の提供・生涯各期の教育課題を通して、生涯学習の現代的な課題と今後の展望を示す。（社会教育施設実務者が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- 1. 生涯学習に関する歴史・方法・計画・課題等の基礎的知識を習得する。
- 2. 「生涯学習社会」における社会教育施設の役割を検討する思考を身につける。
- 3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：講義の進め方・生涯学習のあり方	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第2回 生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第3回 生涯学習と社会教育の歴史②（現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第4回 「生涯教育論」	生涯教育論の概要を調べる
第5回 リカレント教育	リカレント教育の概要を調べる
第6回 生涯学習と学校教育	生涯学習と学校教育の相違を調べる
第7回 生涯学習の方法と内容	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第8回 生涯学習と社会教育の計画	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第9回 学習プログラムの編成	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第10回 生涯学習関連行政の仕組み	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第11回 生涯学習と社会教育施設	博物館等の役割と機能を調べる
第12回 生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる
第13回 学習成果の活用支援	学習成果の活用の意義を調べる
第14回 学習情報提供と学習相談	学習情報の事例を調べる
第15回 講義のまとめ 「生涯学習社会」の課題	これまでの学修内容を復習する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。生涯学習に関する情報に日常的に留意すること。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

佐藤晴雄『生涯学習概論 第2次改訂版』学陽書房 2,750円

■ 参考書

必要に応じて講義中に資料を配布する

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館概論

(19902)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。さらに、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1. 博物館の目的・機能・社会的役割等に関する基礎的知識を習得する。
- ・2. 博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。
- ・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：講義の進め方・博物館の概要	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
第2回 身近な博物館（SMMA、歴ネット等）	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
第3回 博物館の定義・目的	ICOMを調べる
第4回 博物館の分類・施設・設備	博物館法を調べる
第5回 博物館の機能①（資料収集・整理保管）	博物館データベースを調べる
第6回 博物館の機能②（調査研究）	博物館研究紀要等を調べる
第7回 博物館の機能③（展示）	博物館展示情報を調べる
第8回 博物館の機能④（教育普及）	博物館教育プログラムを調べる
第9回 博物館史①（欧米の博物館）	欧米と日本の博物館情報を調べる
第10回 博物館史②（日本の博物館）	欧米と日本の博物館情報を調べる
第11回 博物館の現状	欧米と日本の博物館情報を調べる
第12回 博物館関係法令と政策	社会教育法、文化財保護法を調べる
第13回 市民と博物館	博物館ボランティアを調べる
第14回 地域社会と博物館	まちづくりと博物館を調べる
第15回 講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館経営論

(19903)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 服専3年・美表3年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

博物館に関する科目

笠原 信 男

■ 授業の概要

博物館は学校の生徒・学生だけでなく、一般の青少年や成人をも対象にした教育活動を行う、社会教育施設の一つである。博物館経営論では、博物館が社会教育施設として、そのあるべき姿を見定めながら、設立の使命や目的を実現し、どのように博物館組織を運営するか、について解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者など、様々な視点から、博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データをを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶことができる。
- ・ 2. 博物館を多角的に観覧・考察する姿勢を身に付けることができる。
- ・ 3. 社会教育施設としての博物館の地域社会への役割を学ぶことができる。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 博物館と博物館学及び博物館経営論	博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第2回 博物館の設置と使命	設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第3回 博物館経営の考え方	経営論の思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第4回 博物館の経営手法	経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第5回 博物館の運営方針	運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第6回 博物館の組織	組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第7回 博物館の中長期計画と予算	中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第8回 博物館の広報活動と来館者サービス	広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第9回 博物館の危機管理	危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回 博物館経営の実際 (1) 現地学習 (施設の構造)	訪問先の博物館の施設情報を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
第11回 博物館経営の実際 (2) 現地学習 (展示活動等)	訪問先の博物館の諸活動を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
第12回 経営論から見た博物館の展示活動	展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回 経営論から見た博物館の教育普及活動	教育普及活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回 経営論から見た博物館の資料管理、調査研究活動	資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回 経営論から見た市民参画と地域社会との連携及びまとめ	地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意

資格科目のため欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準

・受講態度(20%) (学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します) とレポート(80%) で評価します。

- ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジюмеを用いて、フィードバックします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2, 090円〕

■ 備考

- ・現地学習は訪問先の博物館の事情等の都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料論

(19904)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 服専2年・美表2年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

博物館に関する科目

菊 地 逸 夫

■ 授業の概要

本科目は学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。

授業では、文化財と博物館の関わりや博物館における資料の意義と資料の活用方法について学ぶもので、学芸員に必要な博物館資料に関する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講座を通して理解・習得する。また博物館資料に対する理解を深めるため、実物資料(浮世絵や絵画資料)から歴史を読み取る演習を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。
- ・博物館資料の整理・保存・活用や文化財について理解できる。
- ・博物館資料の基本的な取り扱いを理解できるようになる。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス 授業の概要説明	これまで見学した博物館の特徴を理解する
第2回 博物館資料とは	配布資料から資料の意義や種類を復習する
第3回 博物館資料の収集	資料収集の意義や目的についてまとめる
第4回 文化財と博物館	文化財と博物館の関係についてまとめる
第5回 文化財の種類と身近な文化財	県内の指定文化財について調べておく
第6回 埋蔵文化財について	県内の遺跡や貝塚・古墳について調べておく
第7回 博物館とコレクション資料	博物館とコレクション資料の関係をまとめる
第8回 博物館資料の管理	博物館資料の管理用法についてまとめる
第9回 資料の公開・展示	資料の展示や公開の意義についてまとめる
第10回 博物館資料の保存と修復について	資料の保存・修復についてまとめる
第11回 博物館におけるレプリカについて	レプリカの意義についてまとめる
第12回 博物館資料の取り扱いや資料の輸送	博物館資料の取り扱いについてまとめる
第13回 鏡の資料化(拓本と資料カードの作成)	拓本から資料カードを作成する(レポート)
第14回 美術資料の見方①(絵巻や絵画から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)
第15回 美術資料の見方②(浮世絵から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)

■ 履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。レポートの提出は必須。

■ 成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート50%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・授業の際に資料を配布する。
- ・感染症等の流行により、非対面授業となる場合は配布資料に対してのレポート提出という形となる。その場合は、授業の順番・内容についても変更する場合がある。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料保存論

(19905)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 服専2年・美表2年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

博物館に関する科目

及 川 規

■ 授業の概要

文化財は貴重な“国民的財産”であり、それを後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。本授業では、文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら、博物館資料を将来にわたって保存し、活用できるようにするための、温度・湿度、光、空気、生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。

それらについて、担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして、実際の資料保存活動を例示しながら、現状の課題や問題点も含めて解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・①博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。
- ・②資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。
- ・③またそれらに基づいて、実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	博物館における資料保存の意義	後:意義について自分で考えをまとめる
第2回	資料保存の歴史・体系	前:文化財保護法の概要を調べる
第3回	資料劣化の要因と対策1 a (温・湿度:基礎・影響・測定)	後:温度湿度の基本と測定法を復習する
第4回	資料劣化の要因と対策1 b (温・湿度:管理と制御)	後:温湿度の管理・制御法を復習する
第5回	資料劣化の要因と対策2 (光)	後:光の影響とその管理について復習する
第6回	資料劣化の要因と対策3 a (生物:生物被害の概要と調査)	後:加害生物例と調査法について復習する
第7回	資料劣化の要因と対策3 b (生物:生物被害の対策)	後:IPMと生物被害の対処法について復習する
第8回	資料劣化の要因と対策4 a (空気質:影響と調査)	後:汚染因子の種類と影響について復習する
第9回	資料劣化の要因と対策4 b (空気質:管理と対策)	後:空気汚染の対策について復習する
第10回	資料の輸送	後:輸送における影響とその対策を復習する
第11回	資料の防災	後:災害・防犯対策について復習する
第12回	資料の科学的調査	後:科学的調査の特性・方法について復習する
第13回	資料の保存処理	後:出土遺産の保存処理法について復習する
第14回	資料保存の総合演習	前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく
第15回	本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題	後:資料の保存と活用について各自の考えをまとめる

■ 履修上の注意

要点をまとめた資料を配布するが、ポイントだけでなく、疑問に思ったこと、さらに詳しく知りたいこと、自分のアイディア等をメモするなど、より主体的な取り組みに努めること。

■ 成績評価方法・基準

授業期間中に実施する課題[テスト・レポート](60%)、取組み状況[学習意欲、質問、ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。講義前にプリントを配布する。

■ 参考書

[博物館資料保存論] [石崎武志] [講談社] [2, 200円]

■ 備考

- ・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。
- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については授業前あるいは終了時に受け付けます。

博物館展示論

(19906)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 服専3年・美表3年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

博物館に関する科目

笠原 信 男

■ 授業の概要

展示は博物館が行う事業の中で、中核に位置づけられており、その内容は博物館の社会的な評価にも多大な影響を与える。そのため、展示には多面的な知識や多角的な技術が求められることを踏まえ、博物館展示論では、博物館の展示を制作者の視点でアプローチするのに必要な観点を提示しながら、展示を企画し、運営するのに必要な事項を各講義で説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の3つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶことができる。
- ・ 展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢を身に付けることができる。
- ・ 展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶことができる。

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 展示の理論 1ー博物館における展示の役割	展示の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第2回 展示の理論 2ー展示の歴史	展示の歴史を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第3回 展示の理論 3ー展示の諸類型、視点と運用	展示の諸類型等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第4回 展示の理論 4ー生涯学習・学校教育と展示	生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第5回 展示の理論 5ーユニバーサルミュージアムと展示	ユニバーサルミュージアムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第6回 展示の理論 6ー展示の評価	展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第7回 展示の技術 1ー展示のプロセス(企画から撤収)	展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第8回 展示の技術 2ー動線計画	展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第9回 展示の技術 3ー展示環境(リスクマネジメント等)	展示環境を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回 展示の技術 4ー照明	展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第11回 展示の技術 5ー解説システム	展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第12回 展示の技術 6ーグラフィック	展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回 展示の技術 7ー広報	展示の広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回 展示の装置 1ー展示ケース	展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回 展示の装置 2ーレプリカとジオラマ及びまとめ	レプリカ等の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意

資格科目のため欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準

・ 受講態度(20%) (学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します) とレポート(80%) で評価します。

- ・レポートは必ず提出してください。
- ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔博物館展示論〕〔黒澤 浩〕〔講談社〕〔2, 640円〕

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館情報・メディア論

(19907)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

佐 藤 泰 美

■ 授業の概要

教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を、人と人とのコミュニケーションの諸相や文明的な観点を交えて概観しつつ、博物館があつかう情報の種類や意義、それらを正しく伝え普及するためのメディアの活用方法や情報発信の手法について、博物館での具体的事例、さらにネットワーク上に流通する博物館にとどまらない多様な主体からの情報発信を参照しつつ、みずから博物館の情報発信を試みるなどの体験を交えながら学ぶ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・情報コミュニケーションの基本原理と歴史を理解する。
- ・博物館における情報メディアの活用の実際を理解する。
- ・社会に向けた多様な文化情報の発信力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 博物館における情報・メディアとはなにか	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第2回 教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの理論	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第3回 教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの歴史	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第4回 教育・コミュニケーションツールとしての博物館	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第5回 展示のなかの情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第6回 教育・普及・広報のなかの情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第7回 研究・保存その他における情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第8回 メディアテークにおける情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第9回 アーカイブの作成・運用と課題	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第10回 視覚など障がいのある利用者のためのメディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第11回 地域の文化資源を活かすミュージアム都市とメディア	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第12回 仙台宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)の取り組み	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第13回 情報リテラシーと博物館	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第14回 博物館の魅力を発信するための提案作成実習	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第15回 博物館の魅力を発信するための提案の評価	博物館の意義や魅力をいかにしてとら

■ 履修上の注意

各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

■ 成績評価方法・基準

学習意欲を含む授業態度50%、課題レポート50%

■ 教科書

講義のなかでそのつど資料を配付します。

■ 参考書

講義のなかでそのつど資料を配付します。

■ 備考

質問等については授業終了後に受け付けます。

博物館教育論

(19908)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景をもとに示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、その解決の方策に対する理解を深める。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1. 学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。
- ・2. 博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身につける。
- ・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の概要	博物館概論の学修内容を復習しておく
第2回	博物館教育の諸形態①（展示を中心とした教育プログラム）	展示関連の教育プログラムを調べる
第3回	博物館教育の諸形態②（展示以外の教育プログラム）	展示以外の教育プログラムを調べる
第4回	博物館での学び①（博物館教育と学校教育）	博物館教育と学校教育の相違を調べる
第5回	博物館での学び②（博物館利用者を理解する基礎理論）	構成主義的な博物館教育を調べる
第6回	博物館の教育活動①（教育プログラムの立案）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第7回	博物館の教育活動②（教育プログラムの実施）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第8回	博物館の教育活動③（ワークシートについて）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第9回	博物館の教育活動④（ユニバーサルデザイン）	ユニバーサルデザインの事例を調べる
第10回	ギャラリートークの事例	ギャラリートークの意義を調べる
第11回	ワークショップの事例	ワークショップの意義を調べる
第12回	美術館・文学館・歴史博物館・大学博物館の教育プログラム	大学博物館の意義を調べる
第13回	博物館教育とボランティア	ボランティアとNPOを調べる
第14回	博物館教育とさまざまな連携	学社連携・地域連携の意義を調べる
第15回	講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回	試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館教育プログラムに参加すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）

（19909）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：演習 学期：通年（前） 必・選：選択

博物館に関する科目

菊 地 逸 夫

■ 授業の概要

博物館学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身に着けることを目標とする。

具体的なテーマは、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法(修復等も含む)、梱包の方法を身に着けるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上3点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・資料の取り扱いの基礎的な技術を身に着ける。
- ・模擬的な展示を企画する力を身に着ける。
- ・博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業の概要説明	
第2回	博物館資料の取り扱いについて	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第3回	考古資料の取り扱いと梱包	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第4回	刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第5回	展示品の地震への対策(地震に対応する展示法)	県内の地震災害の歴史を調べておく
第6回	特別展示ができるまで	配布資料で特別展示ができるまでを復習する
第7回	シナリオ作成の方法、資料選択の方法	自分が関心のある展示を考えておく(事後)
第8回	展示環境、展示プランについて	展示のシナリオをまとめておく(事後)
第9回	展示のプラン作成、企画書作成	企画書をまとめる(事後)
第10回	博物館の教育普及活動の紹介	博物館の教育普及活動について調べておく
第11回	教育プログラム実践①(土偶についての説明)	土偶とは何かまとめておく
第12回	教育プログラム実践②(土偶作りの実践)	実践したプログラムをまとめる(レポート)
第13回	レプリカの製作	レプリカの活用の意義について調べておく
第14回	文化財の修復(考古資料)	授業後修復資料を完成させる。
第15回	文化財の修復(紙資料)	古文書などの修復方法について調べておく

■ 履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。企画書の提出は必須。

■ 成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート(企画書)50%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業の際に資料を配布する。資料の手配等の都合により、授業順は変更する場合がある。

質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）

（19910）

単位：

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：演習 学期：通年（後） 必・選：選択

博物館に関する科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

本授業では学内実習と見学実習を行い、各実習内容のはじめに講義を行う。学内実習では、学芸員課程で学んだ理論や知識を踏まえ、作品・資料を扱う際に必要となる知識や技術を実習形式で修得させる。博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の扱い、展示などの基本事項を教授した上で、一人一人に実践させる。見学実習では、博物館の展示室とバックヤードの見学を行い、利用者と学芸員（企画、管理する側）の双方の立場から博物館の活動を理解させる。現職の学芸員の話を聞き、博物館の現状と問題点について考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、4年次の館園実習に関する説明	便覧（学芸員資格の頁）をよく読んでおく
第2回	実習の心得、学芸員の仕事内容について（講義） 顕彰館、短大資料室の見学	希望する実習先について調べる 白手袋を準備する
第3回	額装の扱いと吊り方	展示の高さの計算方法について復習する
第4回	額装の吊り方、古美術品と箱の扱い（紐の掛け方）	紐の掛け方を復習し、覚える
第5回	古美術品と箱の扱い（陶磁器、漆器、金工品の扱い）	素材ごとの扱いの基本を復習する
第6回	外部講師による授業 表具の歴史（講義）	表具の歴史について復習する
第7回	外部講師による授業 掛軸の扱いの実践	掛軸を掛け方・しまい方を復習する
第8回	古美術品と箱の扱い（御物袋、仕覆の扱い） 着物の扱い	紐の結び方、着物の畳み方を復習する
第9回	作品・資料の調査と整理（講義）	調査時の心得について復習する
第10回	作品・資料の調査と整理 顕彰館の資料の調査（1点目）	調査の流れとPCの基本操作を復習する
第11回	作品・資料の調査と整理 顕彰館の資料の調査（1点目）	掛軸の各部の名称と種類について復習する
第12回	作品・資料の調査と整理 顕彰館の資料の調査（2点目）	日本画の画材や技法について調べる
第13回	掛軸の外箱制作（1点目）	製作の手順について復習する
第14回	掛軸の外箱製作（2点目）	箱に番号と写真を貼り、整理する
第15回	掛軸の収納（顕彰館）、実務実習生記録の清書	記録用紙の文章を修正し、写真を準備する

■ 履修上の注意

・資格取得における必修科目である。可能な限り遅刻・欠席をしないこと。
・4年次の館園実習の実習先選定と実務実習生記録の作成を行う。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。

■ 教科書

特に定めない。

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔博物館資料取扱いガイドブック〕〔日本博物館協会〕〔ぎょうせい〕〔2, 750円＋税〕

〔日本画用語事典〕〔東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室〕〔東京美術〕〔3, 500円＋税〕

他、授業内で紹介する。

■ 備考

授業計画の順番等を変更する場合がある。質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。